

港区の環境に関するアンケート調査 報告書

令和8年2月

港区

目次

1 調査の概要	1
1-1 調査の目的	1
1-2 実施概要・回収結果	1
1-3 調査項目	2
1-4 集計にあたっての留意点	2
1-5 分析の視点	3
2 区民アンケート調査の結果	5
2-1 回答者属性	5
2-2 身の回りの環境について	7
(1) 港区の日常的な暮らしの中での環境への感じ方	7
2-3 気候変動に関する取組について	16
(1) 「気候変動の影響への適応」の認知度	16
(2) 気候変動対策の取組状況	17
(3) 再生可能エネルギー電気について	23
2-4 生物多様性に関する取組について	25
(1) 「生物多様性」の認知度	25
(2) 「生物多様性」の大切さに対する考え方	27
(3) 自然環境に関する取組の取組状況	28
(4) 気になる樹木の情報	34
2-5 身近な環境や環境保全活動に関する取組について	35
(1) 身近な環境への配慮や環境保全活動に関する取組の取組状況	35
2-6 区の実践について	40
(1) 環境に関する区の実践状況への感じ方	40
(2) 区が重点的に取り組むべき施策	47
(3) 区の実践に関する事業の認知度	52
(4) 環境情報の入手方法	59
(5) 興味のある環境活動	63
(6) 自由意見	67
3 事業者アンケート調査の結果	75
3-1 回答者属性	75
3-2 事業活動における環境に関する取組等の位置づけについて	77
(1) 事業活動における環境の取組の位置づけ	77
(2) 事業活動における環境の取組の重要な課題	79
3-3 実施している環境に配慮した取組について	84
(1) 環境に配慮した取組の状況	84
3-4 脱炭素の取組について	99
(1) 温暖化防止設備機器の導入状況	99
(2) ZEB について	106
(3) 脱炭素経営の取組状況	110

3-5 生物多様性に関する取組について	114
(1) 生物多様性の保全に関する取組の状況.....	114
3-6 取組を進める上での課題について	119
(1) 環境の取組を進める上での課題	119
3-7 区の取組、区への協力、支援について	123
(1) 区が重点的に取り組むべき施策	123
(2) 期待する区の支援	124
(3) 区的环境保全事業の認知について	128
(4) 環境に関する地域貢献活動について.....	134
4 学校アンケート調査の結果【児童・生徒】	136
4-1 環境をよくするために実行していること.....	136
(1) 環境をよくするための行動の実行状況.....	136
4-2 学校で特に教えてほしい環境問題	139
(1) 特に教えてほしい環境問題	139
4-3 よい環境であるために大切だと思うこと.....	141
(1) 環境のために大切なこと.....	141
4-4 将来の港区の環境の姿について	143
4-5 自然共生・生物多様性について	150
(1) 生物多様性の保全に関する取組の状況.....	150
(2) 「生物多様性」の認知度	154
(3) 「生物多様性」の大切さに対する考え方	155
(4) 外来種について	156
(5) 生きものの調べ方について	157
5 学校アンケート調査の結果【教員】	158
5-1 環境問題・話題に対する児童・生徒の関心・認知度	158
(1) 最近の児童・生徒が特に関心を持っている環境分野.....	158
5-2 生物多様性について	159
(1) 「生物多様性」の認知度	159
(2) 「生物多様性」の大切さに対する考え方	160
(3) 外来種について	161
(4) 生物多様性教育の重要性について	162
(5) 生物多様性の教育の取組状況について	164
(6) ビオトープについて	166
5-3 環境学習を進めるうえでの課題・必要な支援	168
(1) 環境学習を進めるうえでの課題	168
(2) 必要と感じる支援策	169
(3) 気になる樹木の情報	170
6 まとめ	171
巻末資料	

1 調査の概要

1-1 調査の目的

令和8年度に満了を迎える「港区環境基本計画」の改定にあたり、区民・事業者等が実践している環境に関する取組や、取組を推進するにあたっての課題などを把握し、計画改定の基礎資料とすることを目的に実施しました。

1-2 実施概要・回収結果

調査の対象、調査方法、調査期間及び回収結果は以下のとおりです。

●区民アンケート調査

調査対象	港区に住民登録している満18歳以上の2,000名を無作為抽出
調査期間	令和7(2025)年9月15日～10月17日
調査方法	配付方法：調査票の郵送 回収方法：返信用封筒による郵送及びWEB回答 ※日本語、英語、中国語、韓国語の4ヶ国語で実施。
配布数	2,000
回収数/回収率	472(郵送：277、WEB：195)/23.6%
有効回答数/回答率	471/23.6%

●事業者アンケート調査

調査対象	港区内に所在する700事業者を無作為抽出
調査期間	令和7(2025)年9月22日～10月17日
調査方法	配付方法：調査票の郵送 回収方法：返信用封筒による郵送及びWEB回答
配布数	700 (うち宛所不明による返送数102)
回収数	130(郵送：65、WEB：65)/18.6%
有効回答数/回答率	127/18.1%

●学校アンケート調査

調査対象	港区内の公立小中学校に通学する小学校5年生、中学校2年生及び各校教員【29校】
調査期間	令和7(2025)年7月3日～7月18日
調査方法	配布方法：教育委員会を通して各校に配布 回収方法：GOOGLE FORMによるWEB回答
有効回答数	1,942 (小学生：1,481、中学生：461) ※白金小学校については2年生と5年生に実施。

1-3 調査項目

各対象の調査項目は以下のとおりです。

区民	1) 身の回りの環境について (問 1) 2) 気候変動に関する取組について (問 2~問 4) 3) 生物多様性に関する取組について (問 5~問 8) 4) 身近な環境や環境保全活動に関する取組について (問 9) 5) 区取組について (問 10~問 15) 6) 回答者属性 (問 16)
事業者	1) 事業活動における環境に関する取組等の位置づけについて (問 1~問 2) 2) 実施している環境に配慮した取組について (問 3) 3) 脱炭素の取組について (問 4~問 6) 4) 生物多様性に関する取組について (問 7) 5) 取組を進める上での課題について (問 8) 6) 区取組、区への協力、支援について (問 9~問 15) 7) 回答者属性 (問 16)
小中学生	1) 環境をよくするために実行していること (質問 1) 2) 学校で特に教えてほしい環境問題 (質問 2) 3) よい環境であるために大切だと思うこと (質問 3) 4) 将来の港区の環境の姿について (質問 4) 5) 自然共生・生物多様性について (質問 5~質問 9)
教員	1) 環境問題・話題に対する児童・生徒の関心・認知度 (問 1) 2) 生物多様性について (問 2~問 8) 3) 環境学習を進めるうえでの課題・必要な支援 (問 9~問 11)

1-4 集計にあたっての留意点

- ・ 回答結果は、小数点第 2 位を四捨五入のうえ割合を示しているため、単数回答であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。また、各選択肢の回答割合をまとめた際、それぞれの合計値を足した値と同じにならない場合があります。
- ・ 複数回答の設問の場合、全体の回答数に対する割合を示しているため、合計が 100.0%を超える場合があります。
- ・ 図表等に記載された「n」は、回答割合算出上の基数（有効回答数）を示しています。グラフは「n」をもととした百分率（%）で示します。区民・事業者・小中学生それぞれの有効回答数と同じ場合は「n」数は記載せず、異なる場合のみ「n」数を記載しています。
- ・ 各設問において、回答の記入がないもの、回答が識別できないものについては、「不明」として処理しています。
- ・ 図表中の選択肢の表記について、語句などを一部簡略化している場合があります。

1-5 分析の視点

- ・設問ごとの単純集計のほか、属性及び過年度調査との比較の点から集計を行い、現状・課題を明らかにしました。

●区民の分析の視点

設問	年齢	居住地区	前回調査
問1 港区の日常的な暮らしの中での環境への感じ方	-	●	●
問2 「気候変動の影響への適応」の認知度	●	-	-
問3 気候変動対策の取組状況	●	-	●
問4 再生可能エネルギー電気について	●	-	●
問5 「生物多様性」の認知度	●	-	●
問6 「生物多様性」の大切さに対する考え方	●	-	-
問7 自然環境に関する取組の取組状況	●	-	●
問8 気になる樹木の情報	-	-	-
問9 身近な環境への配慮や環境保全活動に関する取組の取組状況	●	-	●
問10 環境に関する区の取組状況への感じ方	●	-	●
問11 区が重点的に取り組むべき施策	●	-	-
問12 区の環境に関する事業の認知度	●	-	●
問13 環境情報の入手方法	●	-	●
問14 興味のある環境活動	●	-	●
問15 ご意見・ご要望	-	-	-

※前回調査：令和4（2022）年度に実施された「港区の環境に関する区民アンケート」（18歳以上の区民2,000人を対象）の結果（有効回答数n=606）。

●事業者の分析の視点

設問	従業員数	業種	建物所有	前回調査
問1 事業活動における環境の取組の位置づけ	●	-	-	●
問2 事業活動における環境の取組の重要な課題	●	●	-	●
問3 環境に配慮した取組の状況	-	●	-	-
問4 温暖化防止設備機器の導入状況	-	-	●	-
問5 ZEB について	-	-	-	●
問6 脱炭素経営の取組状況	●	-	-	-
問7 生物多様性の保全に関する取組の状況	●	-	-	●
問8 環境の取組を進める上での課題	●	-	-	●
問9 区が重点的に取り組むべき施策	-	-	-	-
問10 期待する区の支援	●	-	-	●
問11-1 区の環境に関する事業の認知度	-	-	-	●
問11-2 環境情報の入手方法	●	-	-	●
問12,13,14 協力、支援できる環境貢献活動分野や取組	-	-	-	-
問15 ご意見・ご要望	-	-	-	-

※前回調査：令和4（2022）年度に実施された「港区の環境に関する事業所アンケート」（大企業350件、中小企業350件）の結果（有効回答数n=179）。

※業種のクロス集計については、各業種のサンプル数が少ないため、参考値として掲載した。

●学校(小中学生)の分析の視点

設問	学年 (小中)	前回調査
問 1 環境をよくするための行動の実行状況	●	●
問 2 学校で特に教えてほしい環境問題	●	●
問 3 よい環境であるために大切だと思うこと	●	-
問 4 将来の港区の環境の姿	-	-
問 5 外遊びや自然体験の経験と今後の希望	●	●
問 6 「生物多様性」の認知度	●	●
問 7 「生物多様性」の大切さに対する考え方	●	-
問 8 外来種の認知度	●	●
問 9 生きものの調べ方について	●	-

※前回調査：令和4（2022）年度に実施された「港区の環境やいきものに関する児童・生徒アンケート」（小学5年生1,624人、中学2年生759人）の結果（有効回答数n=2,152）。

●学校(教員)の分析の視点

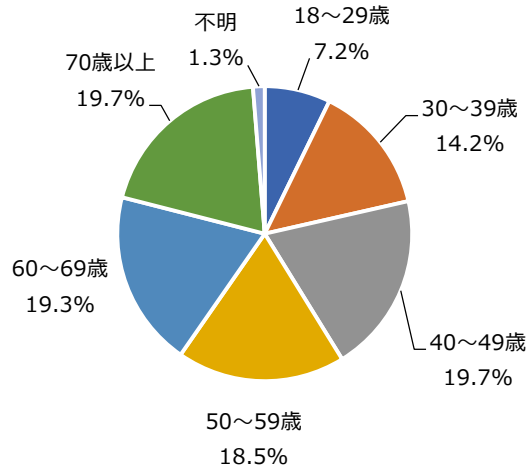
設問	前回調査
問 1 最近の児童・生徒が特に関心を持っている環境分野	●
問 2 「生物多様性」の認知度	●
問 3 「生物多様性」の大切さに対する考え方	-
問 4 外来種の認知度	●
問 5 生物多様性教育の重要性	●
問 6 生物多様性の教育の取組状況	●
問 7 ビオトープ・植栽の管理方法	●
問 8 ビオトープの有無と利用状況	●
問 9 環境学習を進める上での課題	●
問 10 環境学習を進めるうえでの必要な支援	●
問 11 気になる樹木の情報	-

※前回調査：令和4（2022）年度に実施された「港区の環境やいきものに関する学校アンケート」（区立小学校及び中学校 計29校）の結果（有効回答数n=29）。

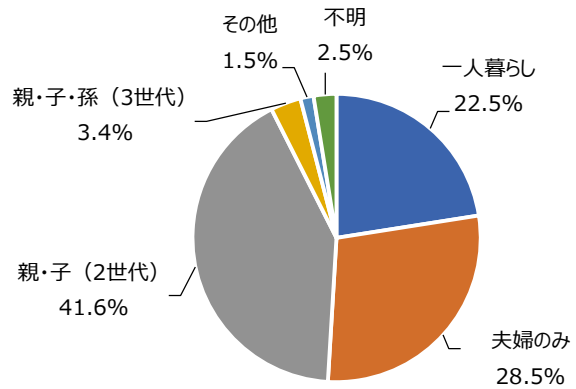
2 区民アンケート調査の結果

2-1 回答者属性

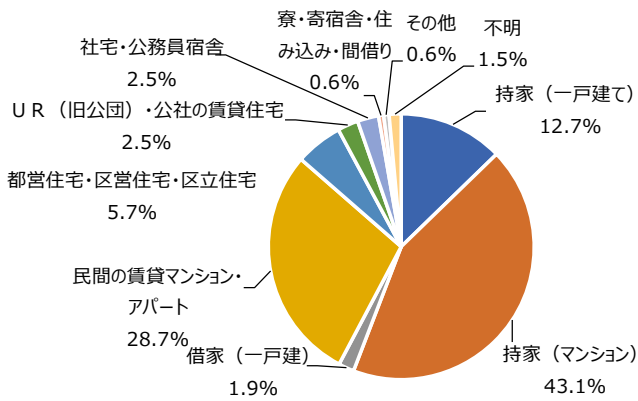
ア)年齢



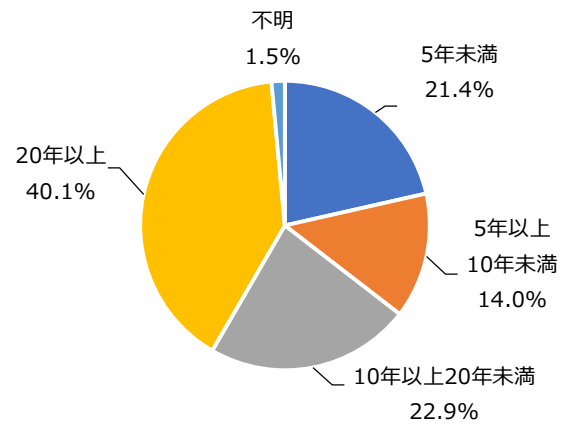
イ)世帯構成



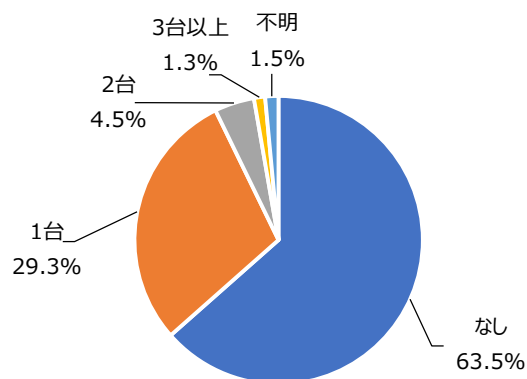
ウ)居住形態



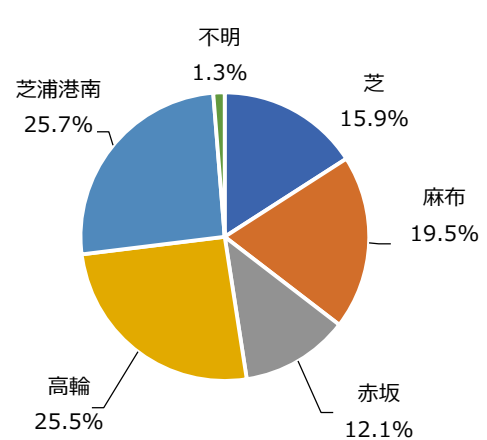
エ)居住年数



オ)自動車所有台数

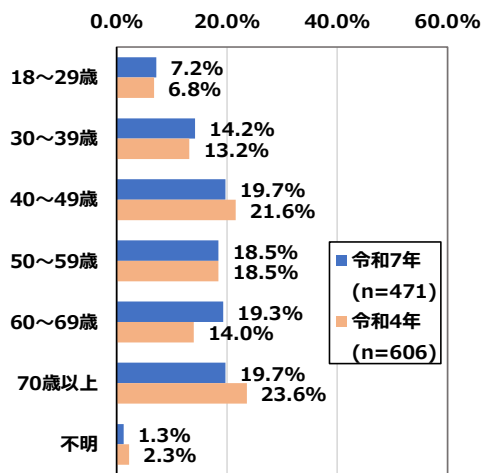


カ)居住地域

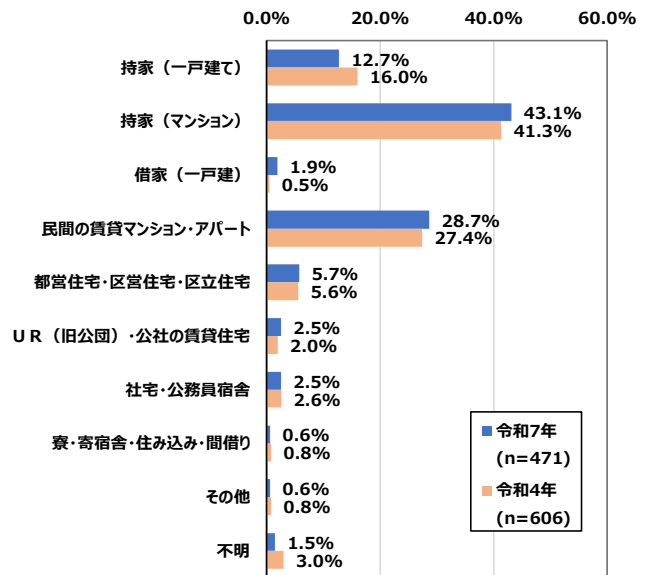


【前回調査との比較】※世帯構成は項目が異なるため除く。自動車所有台数は前回調査無し。

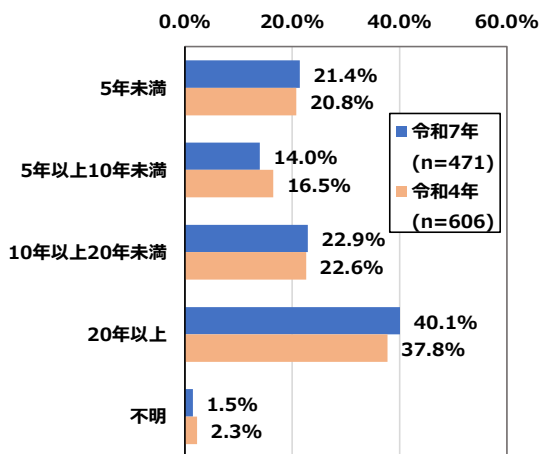
ア)年齢



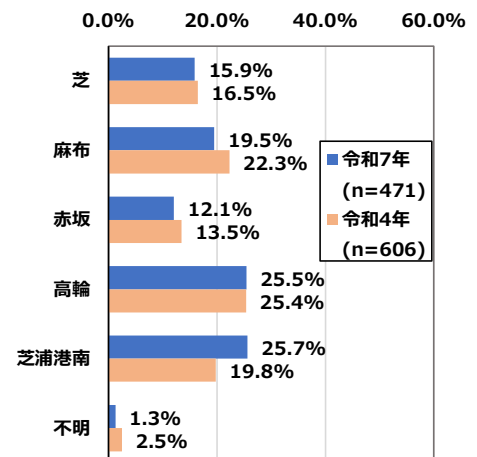
ウ)居住形態



エ)居住年数



カ)居住地域

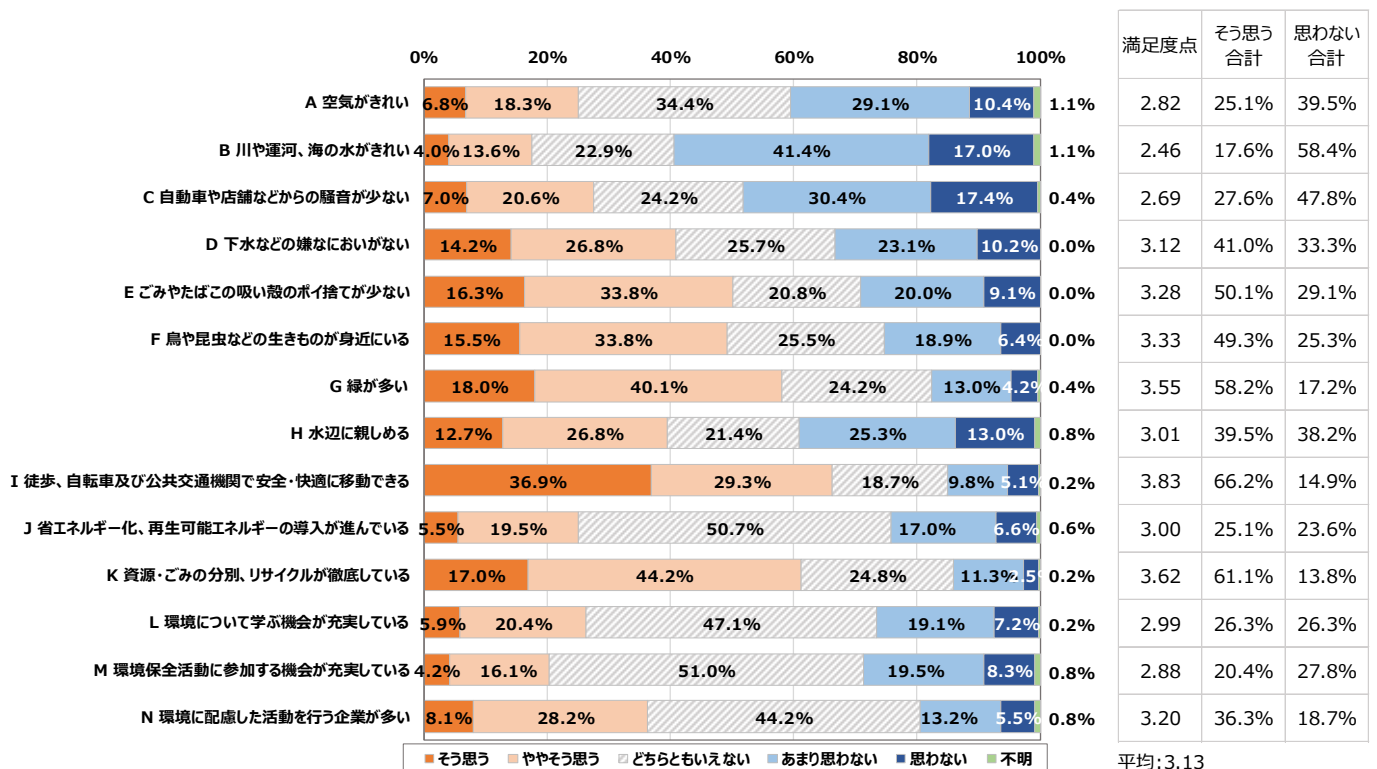


2-2 身の回りの環境について

(1) 港区の日常的な暮らしの中での環境への感じ方

問1 あなたは、日常の暮らしの中で港区の環境をどのように感じていますか。
次の中から、港区の環境に当てはまると思うものを選んでください。

- 港区の環境に対する感じ方について、肯定的なイメージに対して『そう思う合計』（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）が50%を超えていた項目は、14項目中4項目でした。
- 「そう思う」と「ややそう思う」の合計が最も高かったのは「I 徒歩、自転車及び公共交通機関で安全・快適に移動できる」（66.2%）でした。次いで「K 資源・ごみの分別、リサイクルが徹底している」（61.1%）、「G 緑が多い」（58.2%）の順で続いています。
- 一方、『思わない合計』（「あまり思わない」と「思わない」の合計）の割合が最も高かった項目は「B 川や運河、海の水がきれい」（58.4%）でした。次いで「C 自動車や店舗などからの騒音が少ない」（47.8%）、「A 空気がきれい」（39.5%）の順となっています。



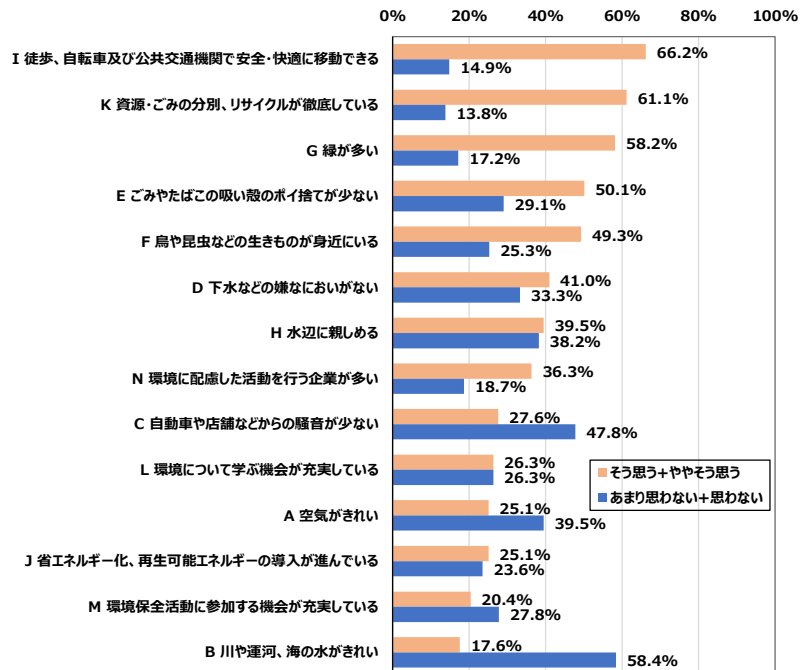
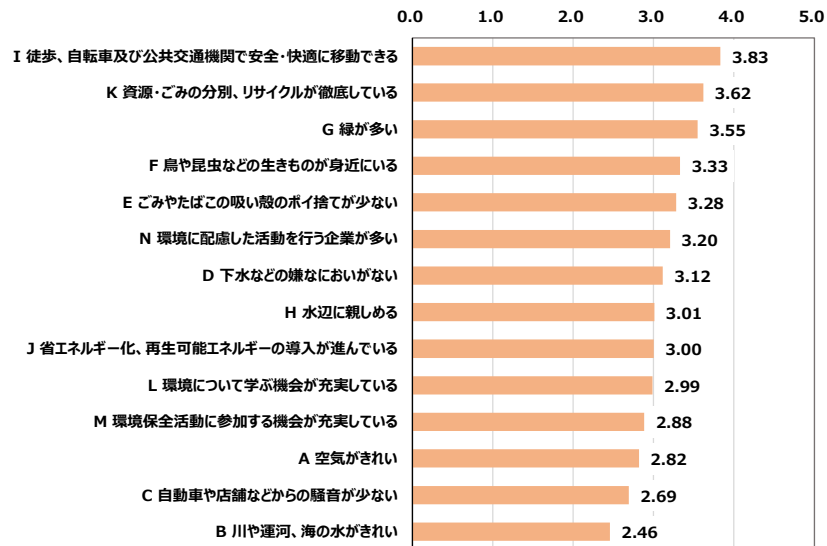
【日常の環境に対する満足度点】

- 『そう思う』と『思わない』の双方が多いケースなど一概に満足度が高いと判断できないため、すべての回答に配慮した指標を『満足度点』として以下の方法で算出しました。
- この結果、満足度点の平均は3.13となり、6項目で平均を超えていました。

「日常の環境に対する満足度点」

$$= \frac{\text{「そう思う」回答数} \times 5 + \text{「ややそう思う」回答数} \times 4 + \text{「どちらともいえない」回答数} \times 3 + \text{「あまり思わない」回答数} \times 2 + \text{「思わない」回答数} \times 1}{\text{回答者数（不明除く）}}$$

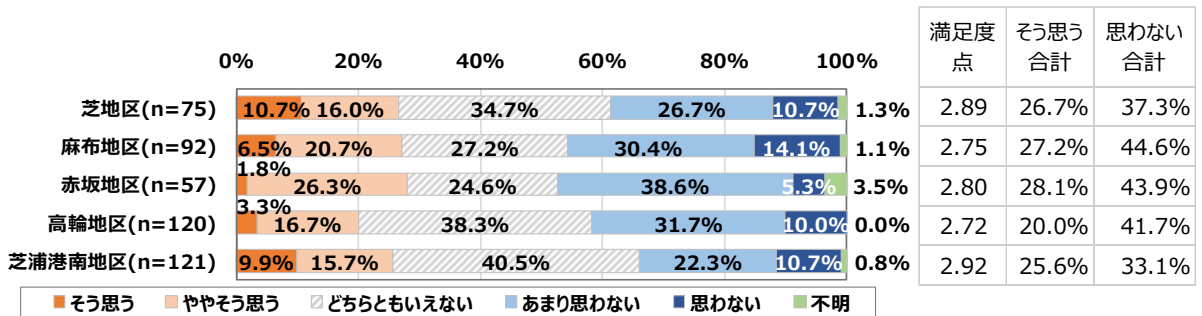
- 満足度点が最も高かったのは「I 徒歩、自転車及び公共交通機関で安全・快適に移動できる」(3.83)であり、次いで「K 資源・ごみの分別、リサイクルが徹底している」(3.62)、「G 緑が多い」(3.55)の順となりました。『そう思う合計』と比較すると、上位3位までは同一の項目で、4位以降に差異がみられます。
- 満足度点が最も低かったのは、『思わない合計』と同様、「B 川や運河、海の水がきれい」(2.46)であり、次いで「C 自動車や店舗などからの騒音が少ない」(2.69)、「A 空気がきれい」(2.82)の順となっています。



【居住地域別のクロス集計】

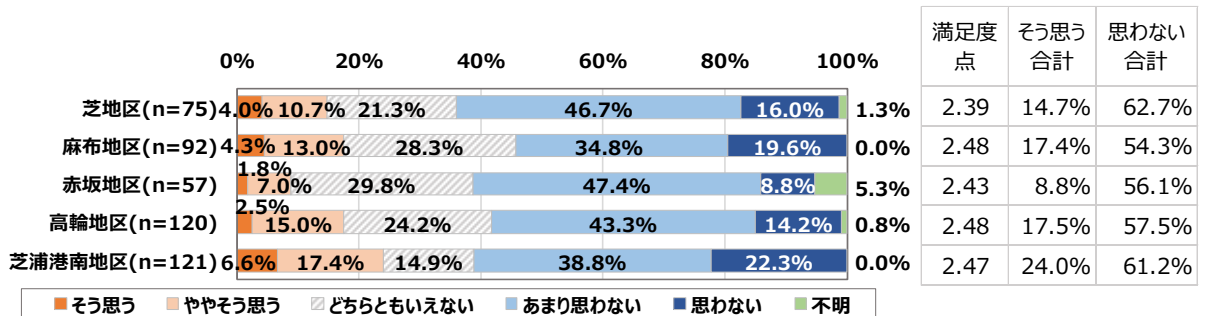
A 空気がきれい

- 麻布地区、赤坂地区、高輪地区で『思わない合計』（「あまり思わない」と「思わない」の合計）が4割以上となっており、満足度点も区内全体の2.82より低くなっています。



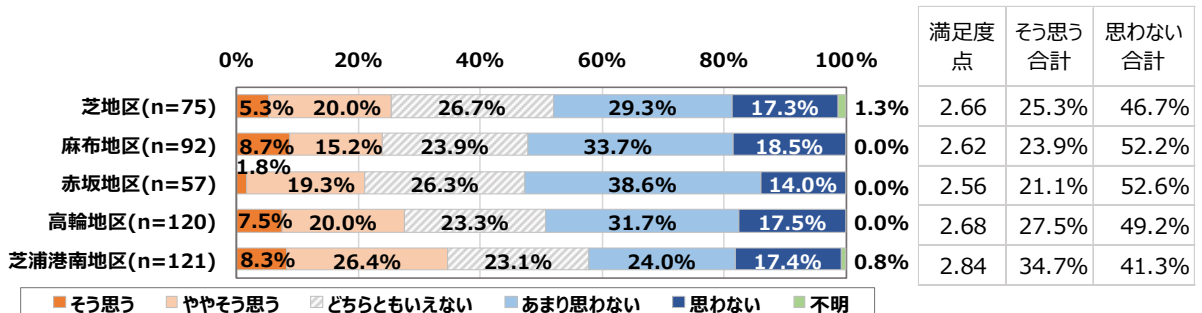
B 川や運河、海の水がきれい

- 芝地区、芝浦港南地区で『思わない合計』（「あまり思わない」と「思わない」の合計）が6割以上となっていますが、芝浦港南地区は、『そう思う合計』（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）が24.0%で最も高く、満足度点が2.47で区内全体の2.46と大きな差がありませんでした。満足度点は、芝地区が2.39、赤坂地区が2.43で区内全体の2.46より低くなっています。



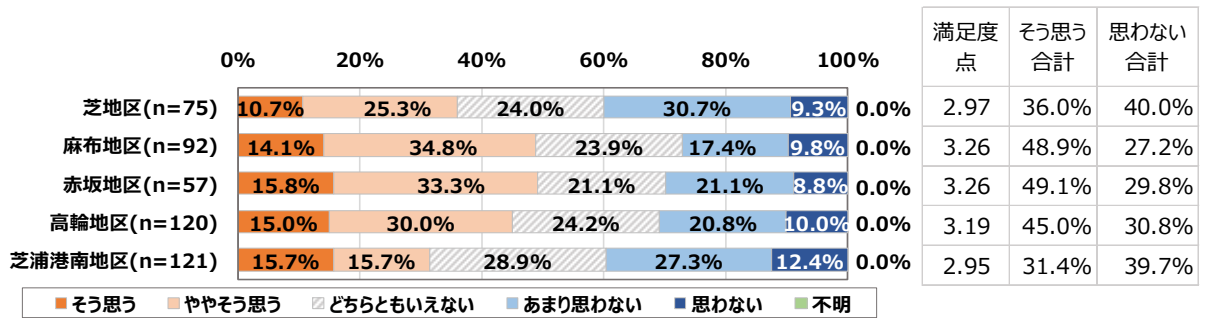
C 自動車や店舗などからの騒音が少ない

- 麻布地区、赤坂地区で『思わない合計』（「あまり思わない」と「思わない」の合計）が5割以上となっています。満足度点は、芝浦港南地区を除いたすべての地区で区内全体の2.69より低くなっています。



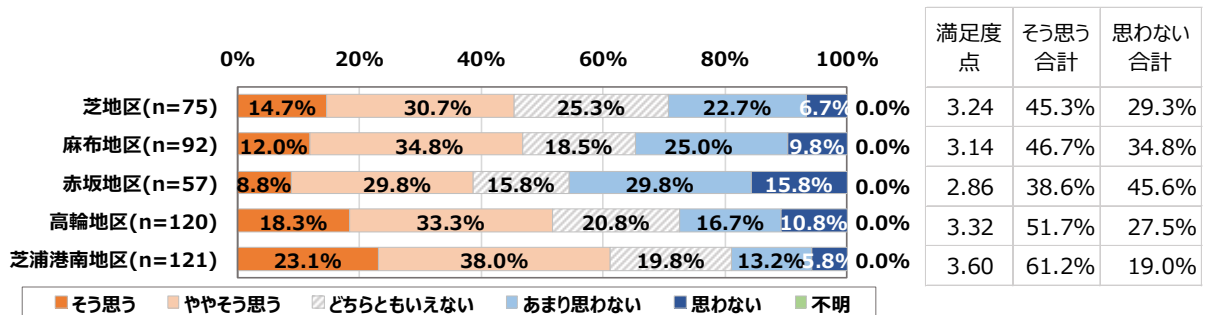
D 下水などの嫌なにおいがしない

- 芝地区、芝浦港南地区で『思わない合計』（「あまり思わない」と「思わない」の合計）が約4割となっており、満足度点も区内全体の3.12より低くなっています。



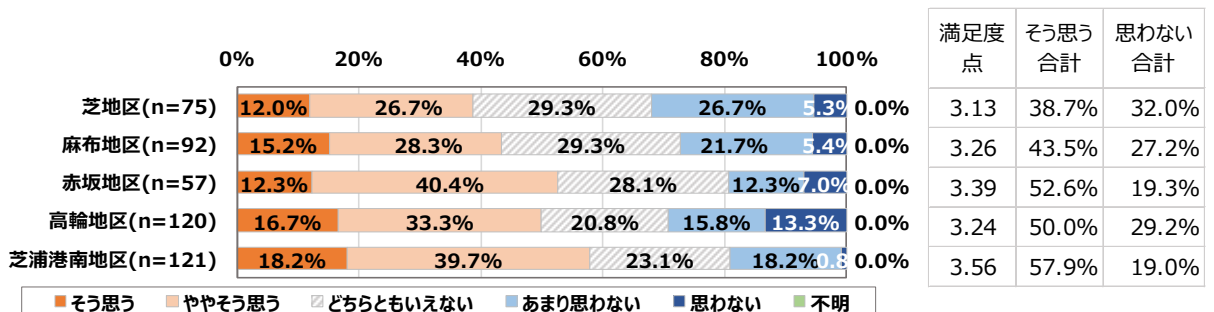
E ごみやたばこの吸い殻のポイ捨てが少ない

- 赤坂地区で『思わない合計』（「あまり思わない」と「思わない」の合計）が45.6%で他地区より10%以上高くなっており、満足度点も区内全体の3.28より低く、唯一の2点台となっています。一方、芝浦港南地区は、『そう思う合計』（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）が6割以上で満足度点が特に高くなっています。



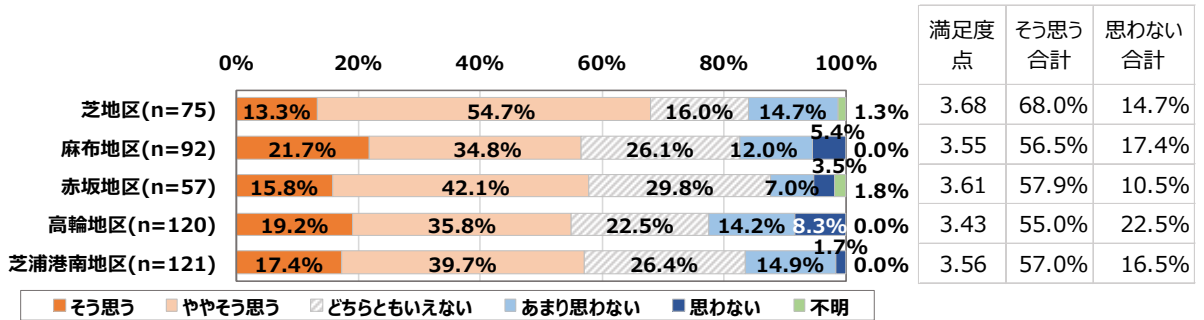
F 鳥や昆虫などの生きものが身近にいる

- 芝地区、麻布地区、高輪地区で『思わない合計』（「あまり思わない」と「思わない」の合計）が約3割となっており、満足度点も区内全体の3.33とより低くなっています。



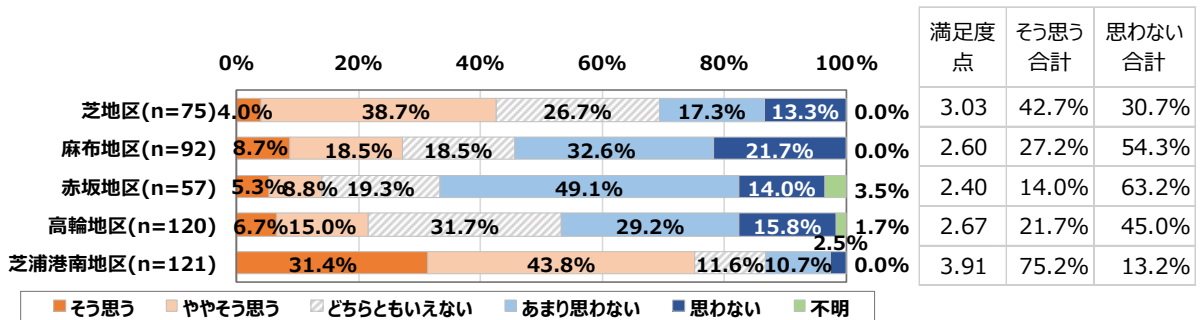
G 緑が多い

- 高輪地区で『思わない合計』（「あまり思わない」と「思わない」の合計）が22.5%となっており、満足度点も区内全体の3.55より低くなっています。一方、芝地区は、『そう思う合計』（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）が約7割で満足度点が特に高くなっています。



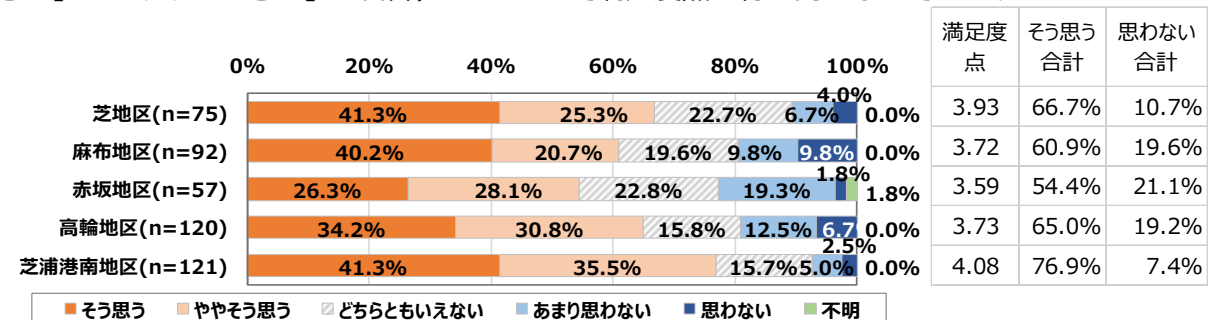
H 水辺に親しめる

- 赤坂地区で『思わない合計』（「あまり思わない」と「思わない」の合計）が6割以上となっており、満足度点も区内全体の3.01より低くなっています。一方、芝浦港南地区は、『そう思う合計』（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）が75%以上で満足度点が特に高くなっています。



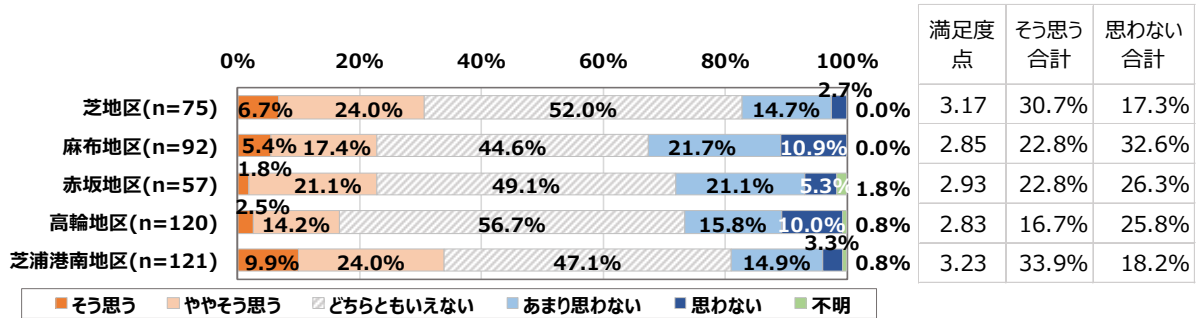
I 徒歩、自転車及び公共交通機関で安全・快適に移動できる

- 赤坂地区で『思わない合計』（「あまり思わない」と「思わない」の合計）が2割以上となっており、満足度点も区内全体の3.83より低くなっています。一方、芝浦港南地区は、『そう思う合計』（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）が76.9%で満足度点が特に高くなっています。



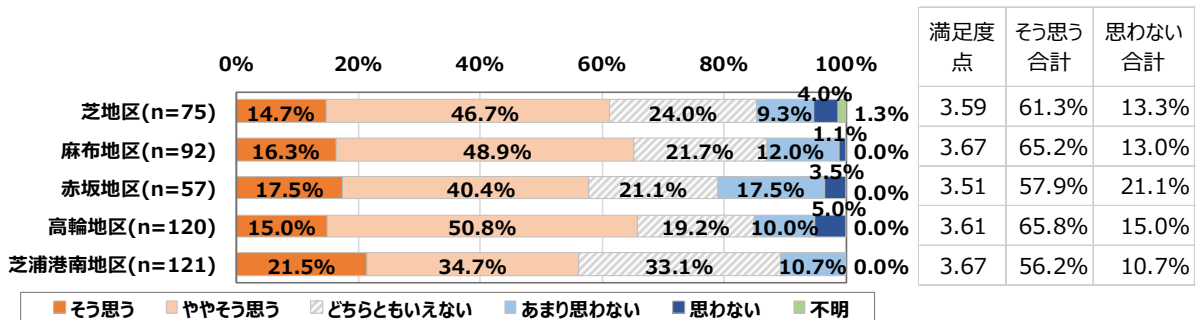
『省エネルギー化、再生可能エネルギーの導入が進んでいる』

- 麻布地区で『思わない合計』（「あまり思わない」と「思わない」の合計）が3割以上となっており、満足度点も区内全体の3.00より低くなっています。また、高輪地区が『そう思う合計』（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）が低く、満足度点も区内全体の3.00より低くなっています。



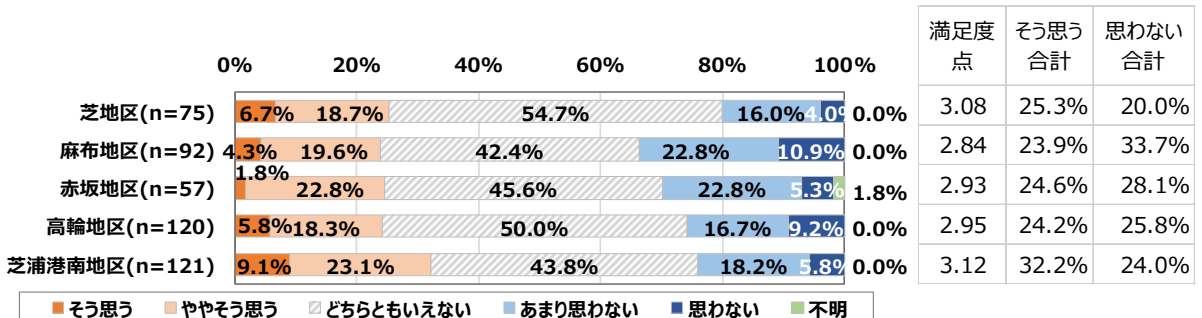
『資源・ごみの分別、リサイクルが徹底している』

- 赤坂地区で『思わない合計』（「あまり思わない」と「思わない」の合計）が2割以上となっており、満足度点も区内全体の3.62より低くなっています。



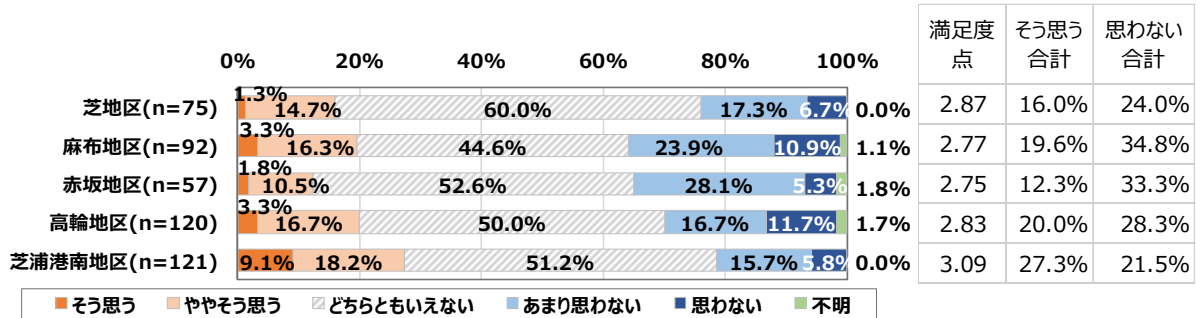
『環境について学ぶ機会が充実している』

- 麻布地区で『思わない合計』（「あまり思わない」と「思わない」の合計）が3割以上となっており、満足度点も区内全体の2.99より低くなっています。一方、芝浦港南地区は、『そう思う合計』（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）が3割以上で満足度点が比較的高くなっています。



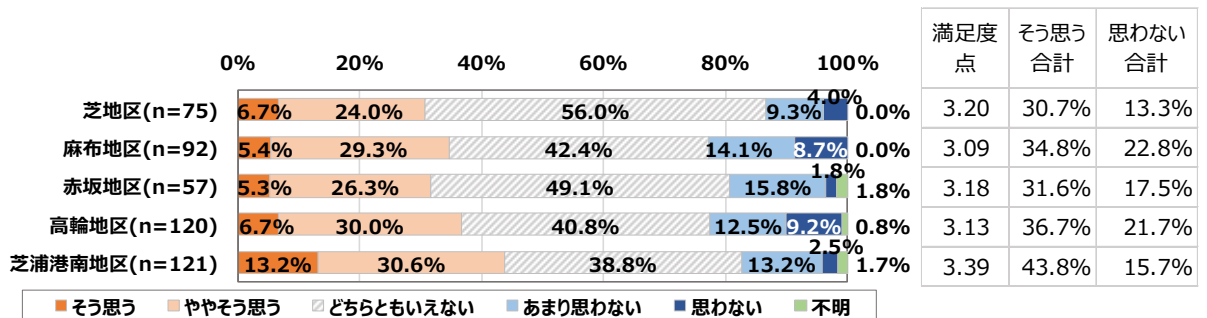
L 環境について学ぶ機会が充実している

● 麻布地区と赤坂地区で『思わない合計』（「あまり思わない」と「思わない」の合計）が3割以上となっており、満足度点も区内全体の2.88より低くなっています。一方、芝浦港南地区は、『そう思う合計』（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）が3割弱で満足度点が比較的高くなっています。



N 環境に配慮した活動を行う企業が多い

● 麻布地区と高輪地区で『思わない合計』（「あまり思わない」と「思わない」の合計）が2割以上となっており、満足度点も区内全体の3.20より低くなっています。一方、芝浦港南地区は、『そう思う合計』（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）が4割以上で満足度点が比較的高くなっています。

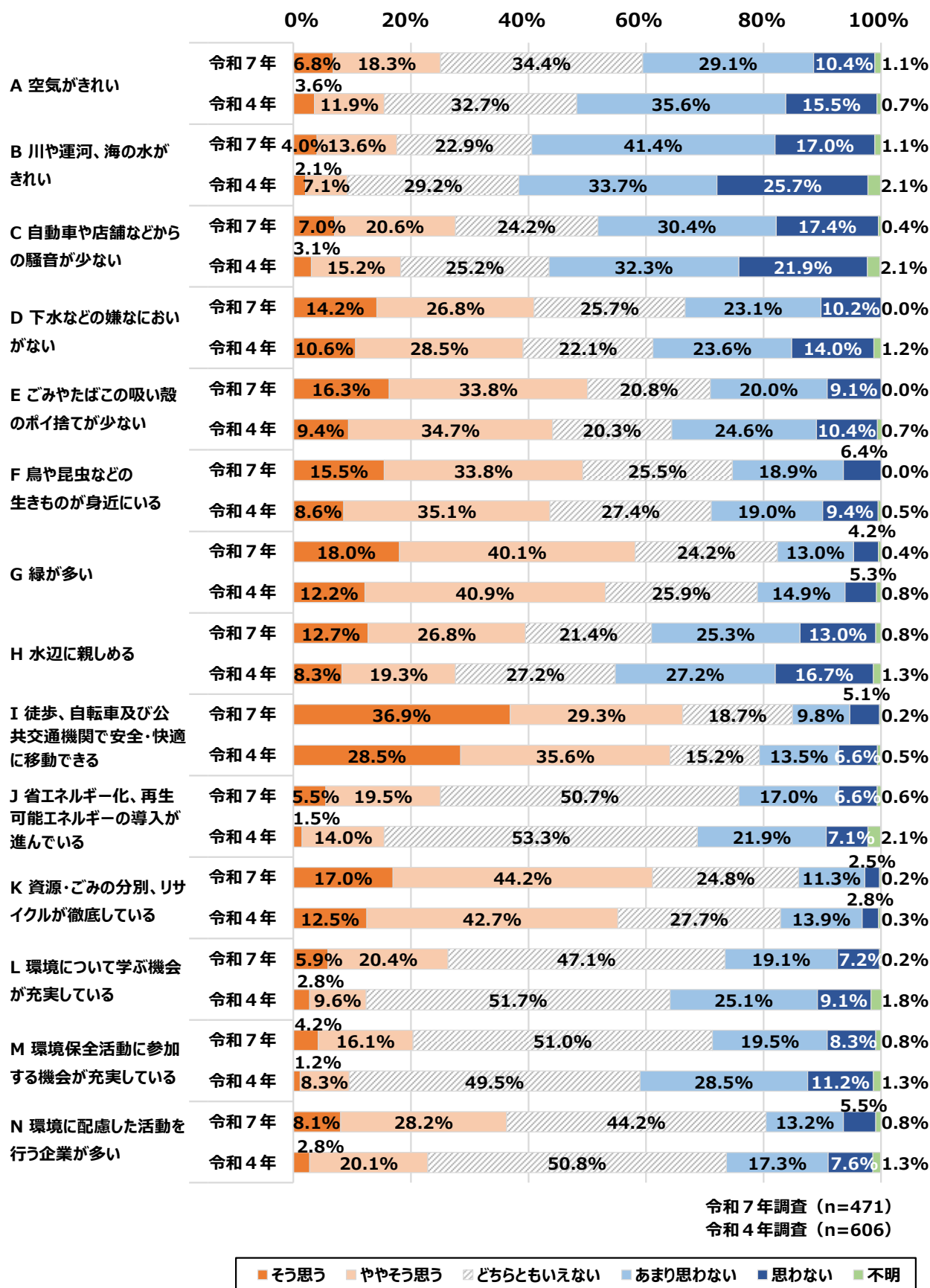


【前回調査との比較】

- 前回調査と比較すると、『そう思う合計』（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）、『思わない合計』（「あまり思わない」と「思わない」の合計）すべての項目で、変化量が好転していました。
- 『そう思う合計』の好転した上位3つは、「L 環境について学ぶ機会が充実している」が13.9ポイント、「N 環境に配慮した活動を行う企業が多い」が13.4ポイント、「H 水辺に親しめる」が11.9ポイント上昇しています。
- 『思わない合計』の好転した上位3つは、「M 環境保全活動に参加する機会が充実している」が11.9ポイント、「A 空気がきれい」が11.6ポイント、「L 環境について学ぶ機会が充実している」が7.9ポイント減少しています。

項目	そう思う合計 (%)			思わない合計 (%)		
	令和7年	令和4年	変化量	令和7年	令和4年	変化量
A 空気がきれい	25.1	15.5	9.6	39.5	51.1	▲11.6
B 川や運河、海の水がきれい	17.6	9.2	8.4	58.4	59.4	▲1.0
C 自動車や店舗などからの騒音が少ない	27.6	18.3	9.3	47.8	54.2	▲6.4
D 下水などの嫌なにおいが少ない	41.0	39.1	1.9	33.3	37.6	▲4.3
E ごみやたばこの吸い殻のポイ捨てが少ない	50.1	44.1	6.0	29.1	35.0	▲5.9
F 鳥や昆虫などの生きものが身近にいる	49.3	43.7	5.6	25.3	28.4	▲3.1
G 緑が多い	58.2	53.1	5.1	17.2	20.2	▲3.0
H 水辺に親しめる	39.5	27.6	11.9	38.2	43.9	▲5.7
I 徒歩、自転車及び公共交通機関で安全・快適に移動できる	66.2	64.1	2.1	14.9	20.1	▲5.2
J 省エネルギー化、再生可能エネルギーの導入が進んでいる	25.1	15.5	9.6	23.6	29.0	▲5.4
K 資源・ごみの分別、リサイクルが徹底している	61.1	55.2	5.9	13.8	16.7	▲2.9
L 環境について学ぶ機会が充実している	26.3	12.4	13.9	26.3	34.2	▲7.9
M 環境保全活動に参加する機会が充実している	20.4	9.5	10.9	27.8	39.7	▲11.9
N 環境に配慮した活動を行う企業が多い	36.3	22.9	13.4	18.7	24.9	▲6.2

※変化量が上昇した上位3つのセルを色付けしています。

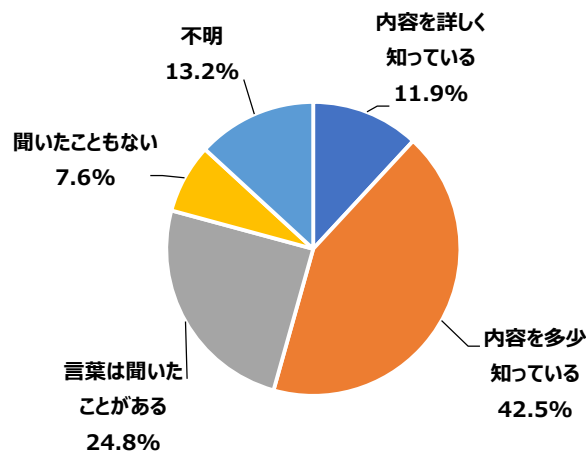


2-3 気候変動に関する取組について

(1) 「気候変動の影響への適応」の認知度

問2 あなたは、「気候変動の影響への適応」についてどのくらい知っていますか。

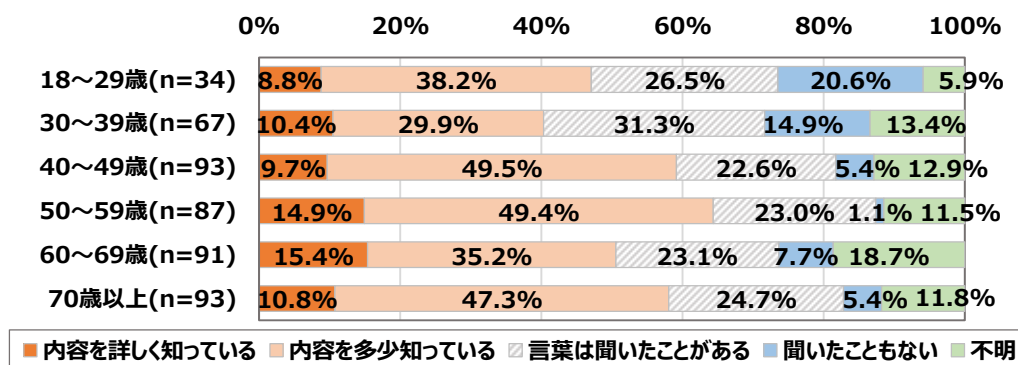
- 「気候変動の影響への適応」については、「内容を詳しく知っている」(11.9%)、「内容を多少知っている」(42.5%)、「言葉は聞いたことがある」(24.8%)、「聞いたこともない」(7.6%)の結果となりました。約8割の人が少なくとも聞いたことはあるとの回答となっています。



【年齢別のクロス集計】

- 少なくとも聞いたことがあると回答した年代は、50歳代(87.4%)の割合が最も高く、次いで70歳以上(82.8%)、40歳代(81.7%)で8割以上となっています。一方、最も割合が低かったのは30歳代となりました。また、18~29歳では「聞いたこともない」の回答が2割以上となっています。

項目	全体 (n=471) ※不明含む	18~29歳 (n=34)	30~39歳 (n=67)	40~49歳 (n=93)	50~59歳 (n=87)	60~69歳 (n=91)	70歳以上 (n=93)
「内容を詳しく知っている」 「内容を多少知っている」 「言葉は聞いたことがある」の合計	79.2%	73.5%	71.6%	81.7%	87.4%	73.6%	82.8%

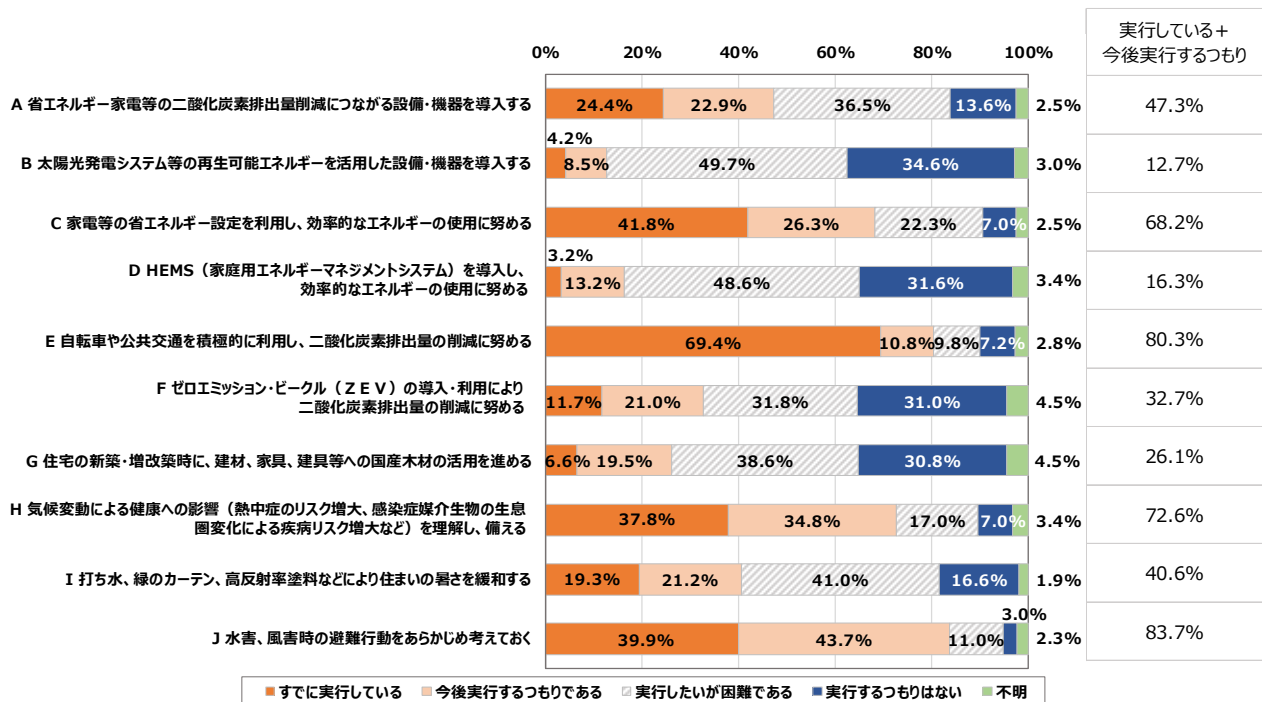


(2)気候変動対策の取組状況

問3 気候変動の影響への緩和や適応のための取組の状況をお答えください。

「実行したいが困難である」または「実行するつもりはない」を選んだ場合、実行しない理由もお答えください。

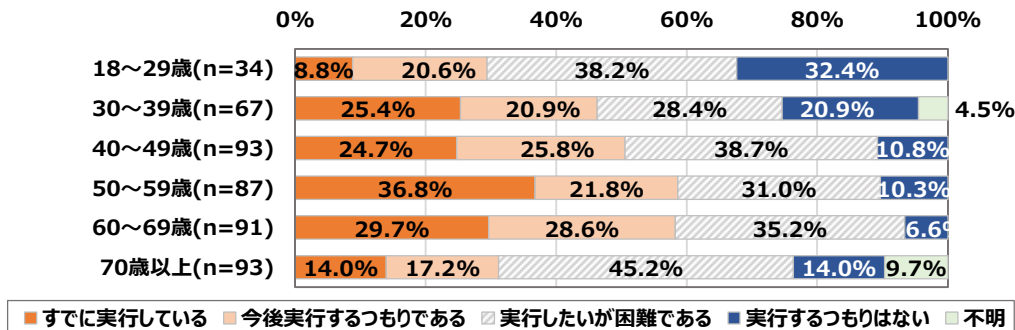
- 「すでに実行している」と「今後実行するつもりである」の合計の割合が高かったのは、「J 水害、風害時の避難行動をあらかじめ考えておく」(83.7%)、「E 自転車や公共交通を積極的に利用し、二酸化炭素排出量の削減に努める」(80.3%) とともに8割以上の回答となりました。
- 「実行したいが困難である」では、「B 太陽光発電システム等の再生可能エネルギーを活用した設備・機器を導入する」(49.7%)、「D HEMS (家庭用エネルギーマネジメントシステム)を導入し、効率的なエネルギーの使用に努める」(48.6%)、「I 打ち水、緑のカーテン、高反射率塗料などにより住まいの暑さを緩和する」(41.0%) の順に高い結果となりました。



【年齢別のクロス集計】

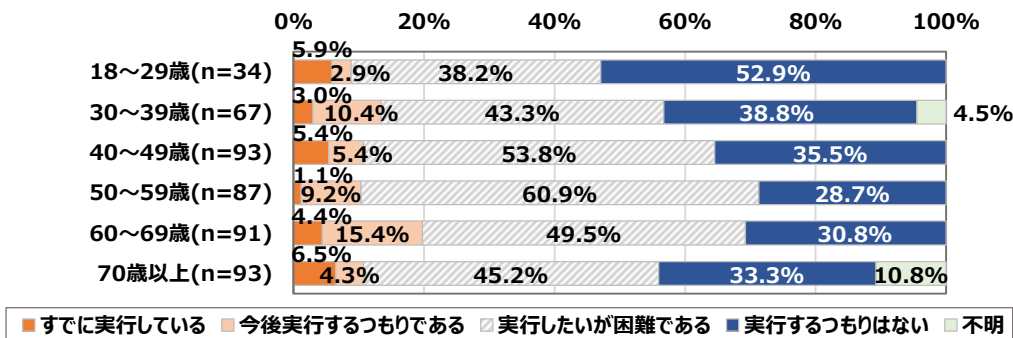
A 省エネルギー家電等の二酸化炭素排出量削減につながる設備・機器を導入する

- 「すでに実行している」と「今後実行するつもりである」の合計の割合は、50歳代と60歳で高く、約6割となっています。一方、18～29歳と70歳以上は約3割と低い回答率となっており、70歳以上では「実行したいが困難である」の割合が高くなっています。



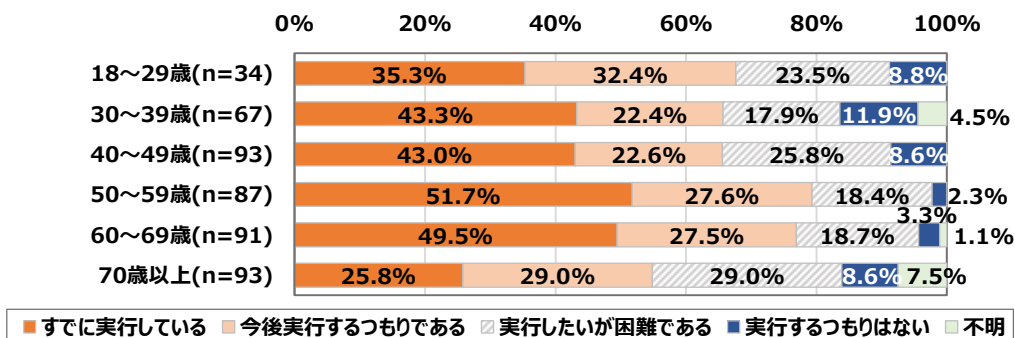
B 太陽光発電システム等の再生可能エネルギーを活用した設備・機器を導入する

- 「すでに実行している」と「今後実行するつもりである」の合計の割合は、60歳代で高く、約2割となっています。一方、18～29歳では、「実行するつもりがない」が5割以上となりました。



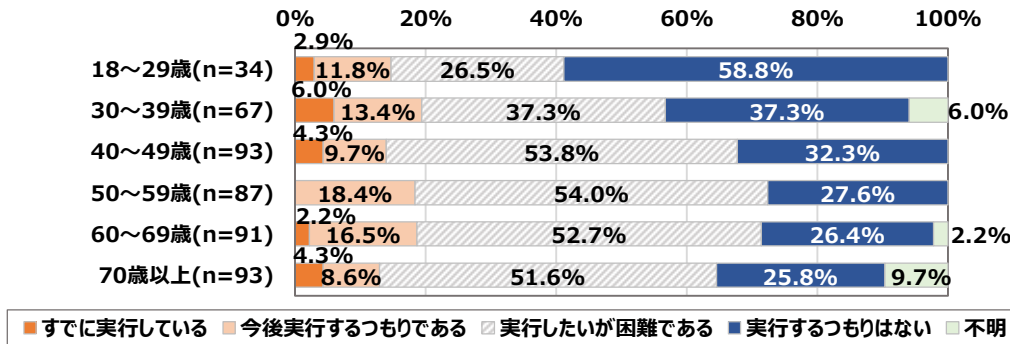
C 家電等の省エネルギー設定を利用し、効率的なエネルギーの使用に努める

- 「すでに実行している」と「今後実行するつもりである」の合計の割合は、50歳代と60歳で高く、約8割となっています。一方、70歳以上は約5割で相対的に低い回答率となっています。



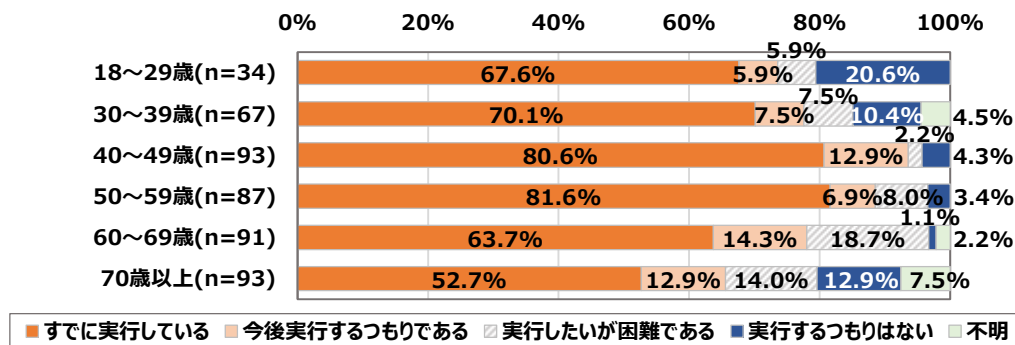
D HEMS(家庭用エネルギーマネジメントシステム)を導入し、効率的なエネルギーの使用に努める

- 「すでに実行している」と「今後実行するつもりである」の合計の割合は、30歳代、50歳代、60歳代で約2割となっています。一方、18～29歳では、「実行するつもりがない」が約6割となっています。



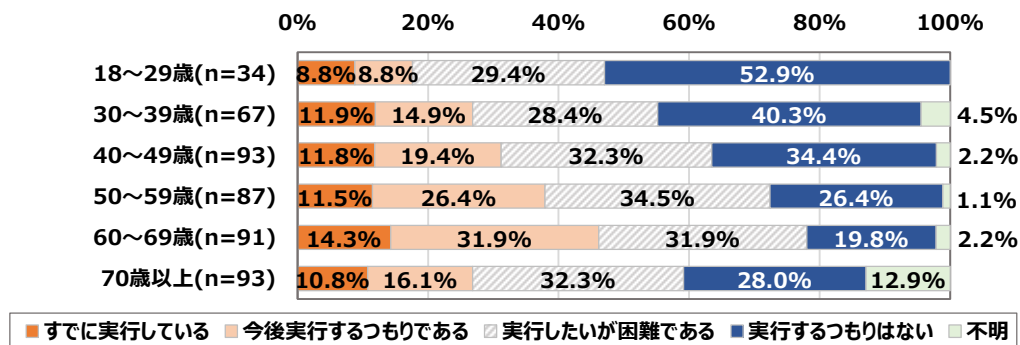
E 自転車や公共交通を積極的に利用し、二酸化炭素排出量の削減に努める

- 「すでに実行している」と「今後実行するつもりである」の合計の割合は全世代で高く、40歳代、50歳代では約9割となっています。一方、60歳代、70歳以上では、「実行したいが困難である」の割合が高くなっています。



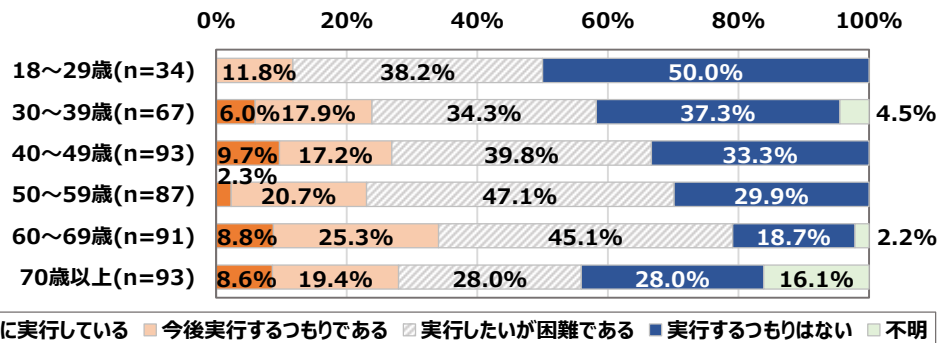
F ゼロエミッション・ビークル(ZEV)の導入・利用により二酸化炭素排出量の削減に努める

- 「すでに実行している」と「今後実行するつもりである」の合計の割合は、60歳代で高くなっています。一方、18～29歳では、「実行するつもりがない」が5割以上となりました。



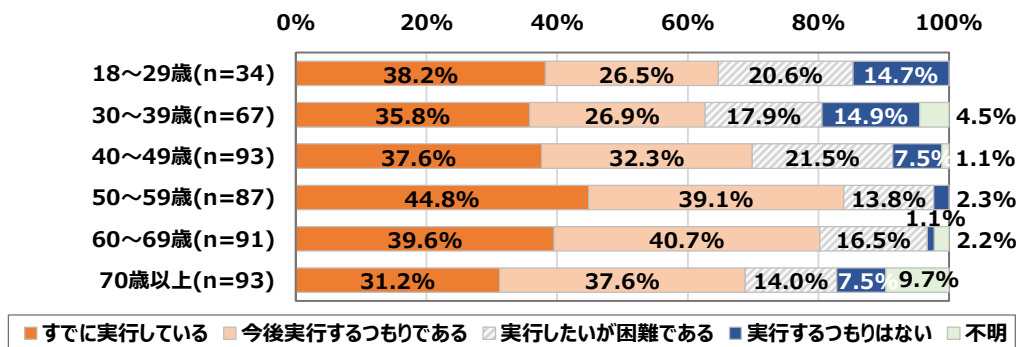
G 住宅の新築・増改築時に、建材、家具、建具等への国産木材の活用を進める

- 「すでに実行している」と「今後実行するつもりである」の合計の割合は、60歳代で高くなっています。また、50歳代では、「実行したいが困難である」の割合が5割近くとなりました。



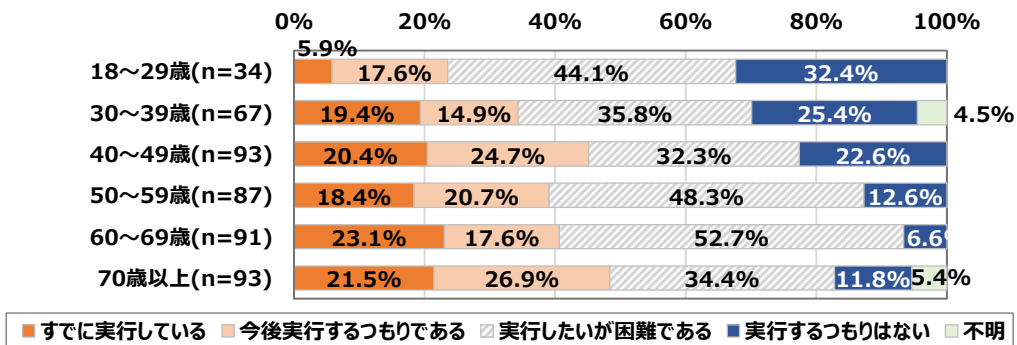
H 気候変動による健康への影響(熱中症のリスク増大、感染症媒介生物の生息圏変化による疾病リスク増大など)を理解し、備える

- 「すでに実行している」と「今後実行するつもりである」の合計の割合は全世代で高く、50歳代、60歳代では8割以上となっています。



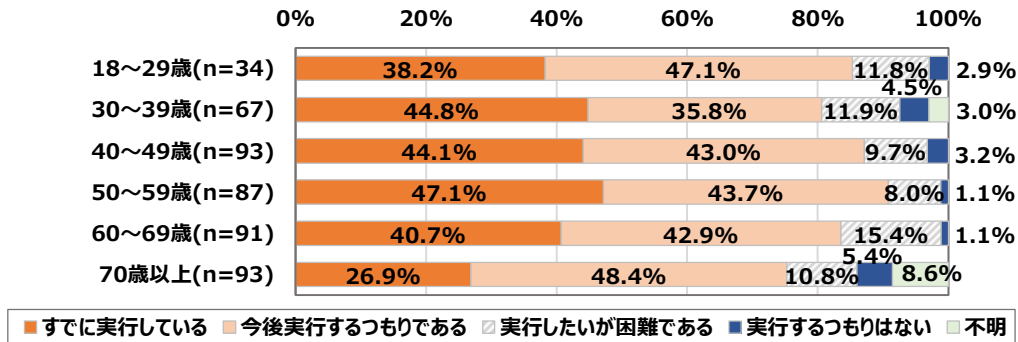
I 打ち水、緑のカーテン、高反射率塗料などにより住まいの暑さを緩和する

- 「すでに実行している」と「今後実行するつもりである」の合計の割合は、40歳以上で4割以上となっています。また、世代が若くなるにつれ、「実行するつもりはない」の割合が高くなっています。



【J】水害、風害時の避難行動をあらかじめ考えておく

- 「すでに実行している」と「今後実行するつもりである」の合計の割合は全世代で高く、70歳未満で8割以上となっています。一方、「実行するつもりがない」については70歳以上が最も高い割合となりました。



【前回調査との比較】

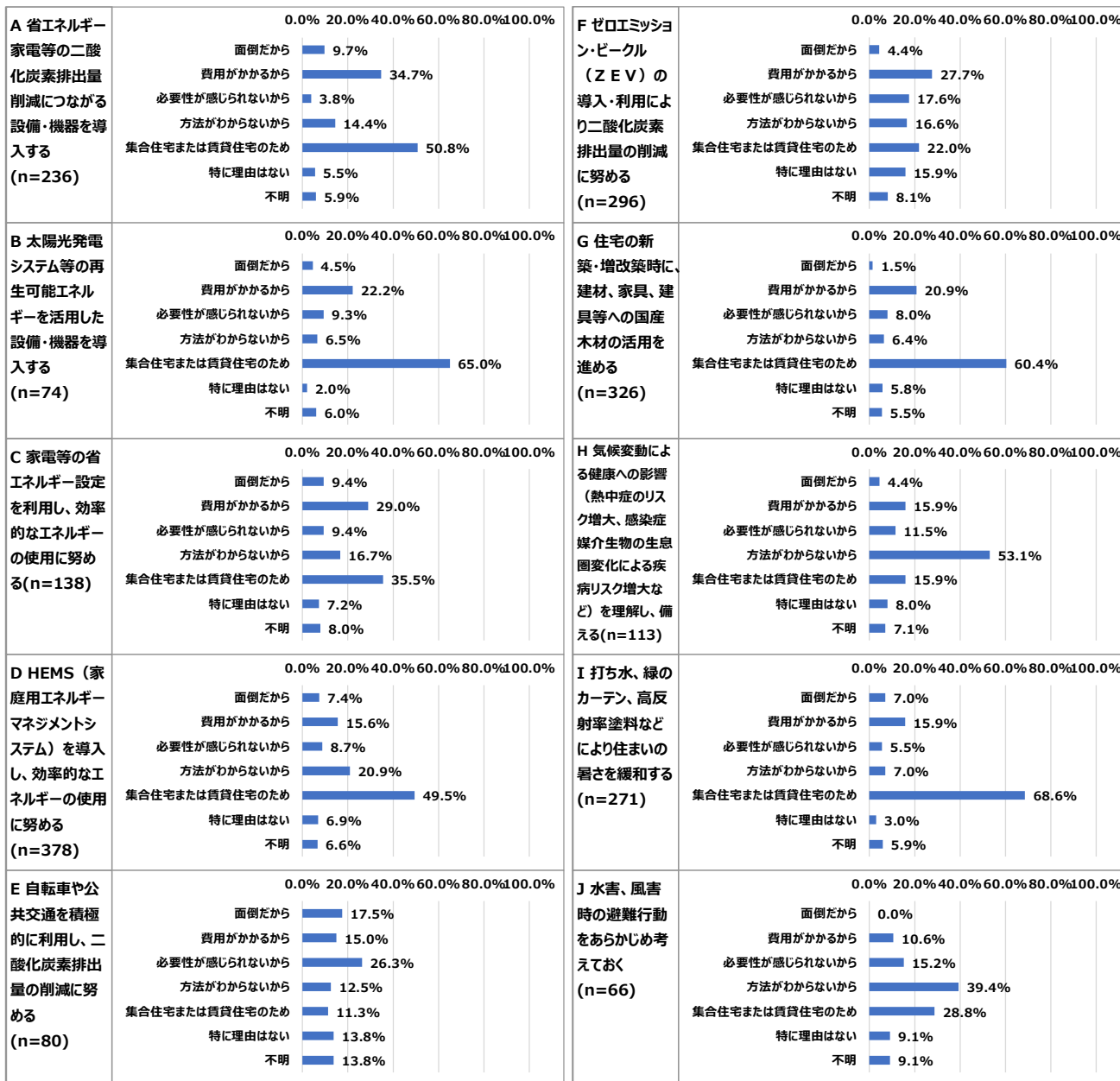
- 前回調査と比較可能な項目の変化状況を見ると、「H 気候変動による健康への影響（熱中症のリスク増大、感染症媒介生物の生息圏変化による疾病リスク増大など）を理解し、備える」などで、「すでに実行している」の割合が上昇しています。一方、「I 打ち水、緑のカーテン、高反射率塗料などにより住まいの暑さを緩和する」では実施率が低下していました。

項目	「すでに実行している」 (%)			「すでに実行している」「今後実行するつもりである」合計 (%)		
	令和7年	令和4年	変化量	令和7年	令和4年	変化量
G 住宅の新築・増改築時に、建材、家具、建具等への国産木材の活用を進める	6.6	5.4	1.2	26.1	30.5	▲ 4.4
H 気候変動による健康への影響（熱中症のリスク増大、感染症媒介生物の生息圏変化による疾病リスク増大など）を理解し、備える	37.8	30.7	7.1	72.6	75.3	▲ 2.7
I 打ち水、緑のカーテン、高反射率塗料などにより住まいの暑さを緩和する	19.3	21.5	▲ 2.2	40.6	46.7	▲ 6.1
J 水害、風害時の避難行動をあらかじめ考えておく	39.9	38.9	1.0	83.7	87.1	▲ 3.4

【気候変動対策を実行しない理由】

● 実行しない理由については、A 省エネ型設備機器、B 太陽光発電、C 家電等の省エネルギー設定、D HEMS、G 建材等への国産木材活用、I 打ち水、緑のカーテンなど、住居の形態によって導入が難しい設備機器等に関するものについて、「集合住宅や賃貸住宅のため」の回答が最も多くなっています。

● E 自転車や公共交通の積極的利用については「必要性を感じられないから」(26.3%) が、F ゼロエミッション・ビークルは「費用がかかるから」(27.7%)、H 気候変動による健康への影響への備えは「方法がわからないから」(53.1%)、J 水害風害時の避難行動への備えは「方法がわからないから」(39.4%) が最も多い回答となりました。

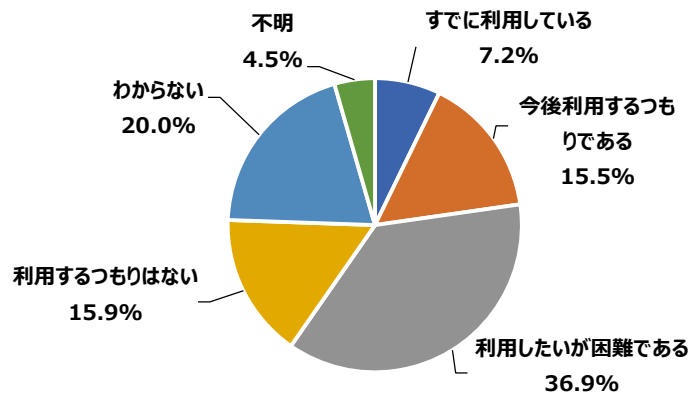


(3)再生可能エネルギー電気について

問 4 ご家庭の電気契約における再生可能エネルギープランの利用状況に関して、次の中で該当するものを選んでください。

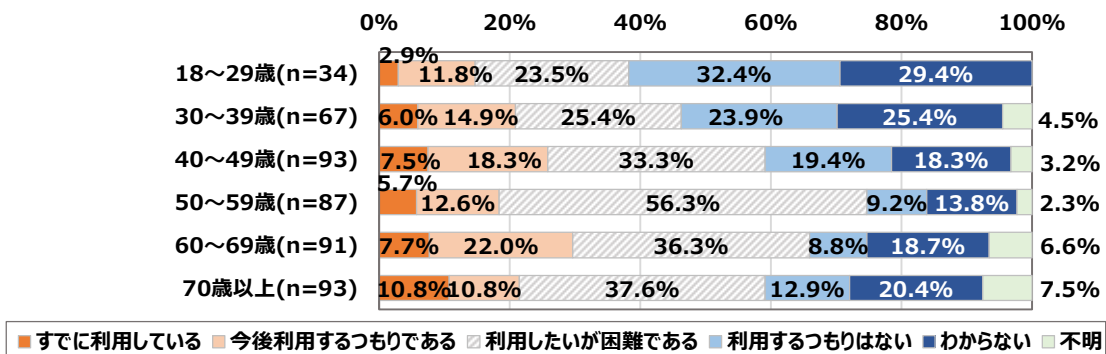
「利用したいが困難である」または「利用するつもりはない」を選んだ場合、理由もお答えください。

- 再生可能エネルギーの電気契約について、「すでに利用している」と「今後利用するつもりである」をあわせて 22.7%となりました。「利用したいが困難である」が 36.9%、「利用するつもりはない」が 15.9%、「わからない」が 20.0%の回答となりました。



【年齢別のクロス集計】

- 「すでに利用している」と「今後利用するつもりである」を合わせた割合が高いのは、60歳代で約3割となりました。一方、「利用したいが困難である」は50歳代で56.3%と割合が高くなっています。また、18～29歳では「利用するつもりはない」の回答が3割以上となっています。



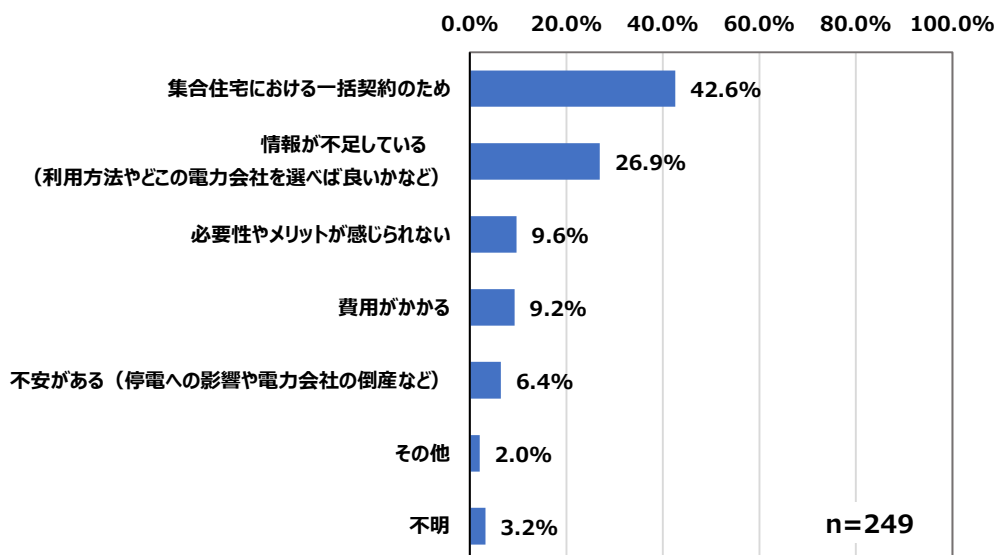
【前回調査との比較】

- 前回調査と比較すると、「すでに利用している」は 2.1 ポイント増加した一方、「今後利用するつもりである」は 3.0 ポイント低下しました。また、「利用したいが困難である」、「利用するつもりはない」の回答割合も増加しており、導入にあたっての課題があることがうかがえます。

項目	令和 7 年 (%)	令和 4 年 (%)	変化量
すでに利用している	7.2	5.1	2.1
今後利用するつもりである	15.5	18.5	▲ 3.0
利用したいが困難である	36.9	34.3	2.6
利用するつもりはない	15.9	13.7	2.2
わからない	20.0	24.1	▲ 4.1
不明	4.5	4.3	0.2

【再生可能エネルギー電気を利用しない理由】

- 利用しない理由については、「集合住宅における一括契約のため」(42.6%) が最も多く、次いで「情報が不足している」(26.9%) が多くなっています。



◆その他の回答(要約)

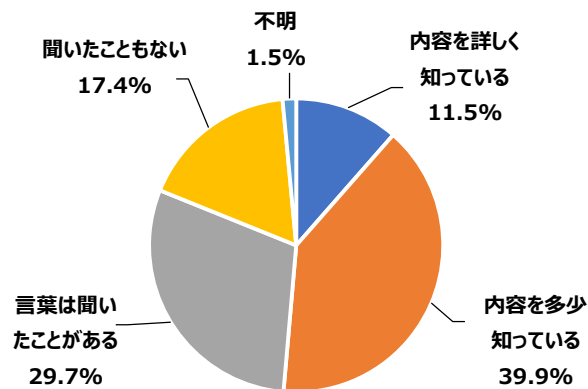
- 太陽光パネルは環境破壊なので反対！
- 経年劣化後の太陽光パネルの廃棄方法など、先の事があまり考えられていない為、迂闊に賛同出来ない。
- 住居マンションの民間で実施していることで港区が実行しているわけではない。
- 変えた場合のリスクが不透明。調べる、変更する労力が必要だし、変更して値上がるのは嫌。
- 日あたりが良くなく効果が期待できない環境である。
- プランの選択肢がない。
- 電気契約の内容が複雑で理解しにくいから。
- 利用している電力会社の取り組み次第だから。
- マンションだと対応できないとの話でした。お財布にも優しいことはないです！

2-4 生物多様性に関する取組について

(1) 「生物多様性」の認知度

問5 あなたは、「生物多様性」についてどのくらい知っていますか。

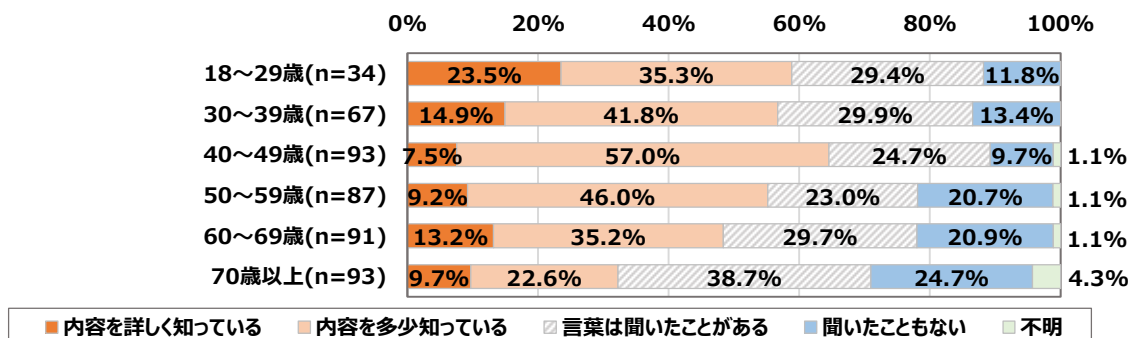
- 「生物多様性」については、「内容を詳しく知っている」(11.5%)、「内容を多少知っている」(39.9%)、「言葉は聞いたことがある」(29.7%)、「聞いたこともない」(17.4%)の結果となりました。約8割の人が少なくとも聞いたことはあるとの回答となっています。



【年齢別のクロス集計】

- 少なくとも聞いたことがあると回答した割合は、50歳未満が8割以上と高くなっています。一方、最も割合が低かったのは70歳以上で「聞いたこともない」の回答も24.7%となっています。

項目	全体 (n=471) ※不明含む	18~29歳 (n=34)	30~39歳 (n=67)	40~49歳 (n=93)	50~59歳 (n=87)	60~69歳 (n=91)	70歳以上 (n=93)
「内容を詳しく知っている」 「内容を多少知っている」 「言葉は聞いたことがある」 の合計	81.1%	88.2%	86.6%	89.2%	78.2%	78.0%	71.0%



【前回調査との比較】

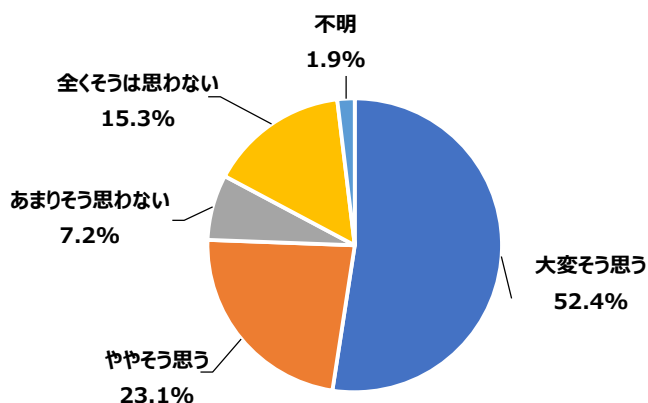
- 前回調査と比較すると、「内容を詳しく知っている」、「内容を多少知っている」、「言葉は聞いたことがある」の回答割合は低下しています。一方、「聞いたこともない」の回答割合が増加しています。また、少なくとも聞いたことがあると回答した割合は、前回と比較して 11.7 ポイント低下しています。

項目	令和7年 (%)	令和4年 (%)	変化量
内容を詳しく知っている	11.5	15.0	▲ 3.5
内容を多少知っている	39.9	45.5	▲ 5.6
言葉は聞いたことがある	29.7	32.3	▲ 2.6
聞いたこともない	17.4	6.6	▲ 10.8
不明	1.5	0.5	▲ 1.0
「内容を詳しく知っている」「内容を多少知っている」「言葉は聞いたことがある」の合計	81.1	92.8	▲ 11.7

(2) 「生物多様性」の大切さに対する考え方

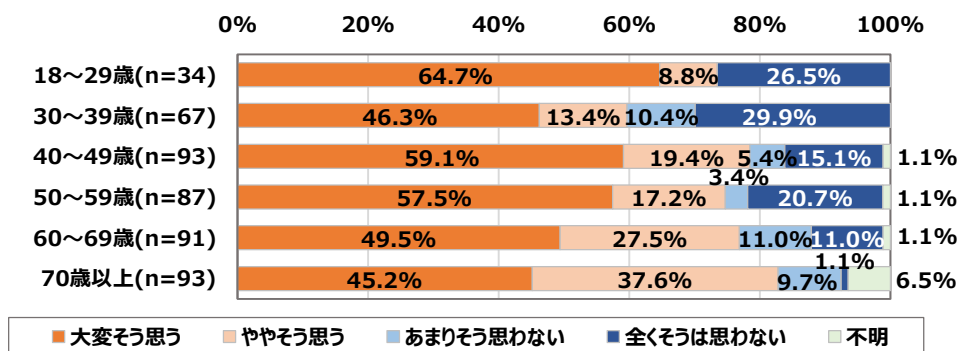
問 6 「生物多様性を守り、はぐくむことは大切である」という意見や考えについて、次の中からあなたの考えや意見に最も近いものを選んでください。

- 「生物多様性」の大切さについては、「大変そう思う」(52.4%)、「ややそう思う」(23.1%)、「あまりそう思わない」(7.2%)、「全くそうは思わない」(15.3%)の結果となりました。全体の3/4が「生物多様性」が大切であると考えています。



【年齢別のクロス集計】

- 「大変そう思う」と「そう思う」を合わせた割合は、70歳以上で最も多く、8割以上となっています。一方、30歳代は約6割に留まり、他の年代と比較して低い割合となっています。

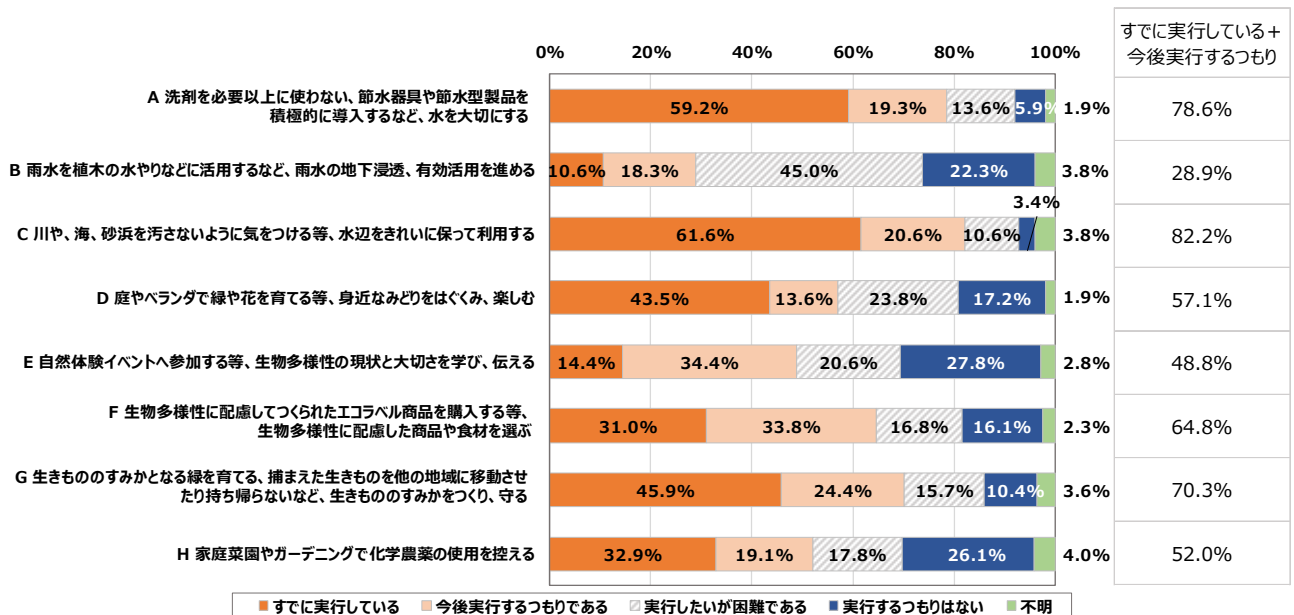


(3) 自然環境に関する取組の取組状況

問7 自然環境（緑や水辺、生きもの）に関する取組の状況をお答えください。

「実行したいが困難である」または「実行するつもりはない」を選んだ場合、実行しない理由もお答えください。

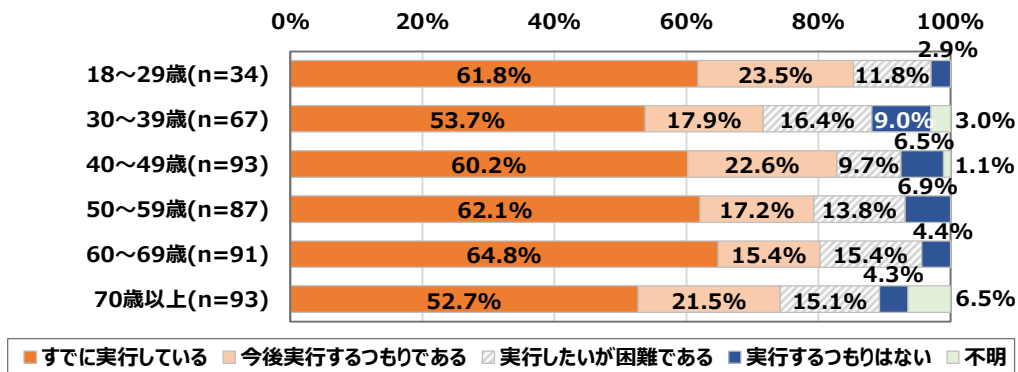
- 「すでに実行している」と「今後実行するつもりである」の合計の割合が高かったのは、「C 川や、海、砂浜を汚さないように気をつける等、水辺をきれいに保って利用する」(82.2%)、「A 洗剤を必要以上に使わない、節水器具や節水型製品を積極的に導入するなど、水を大切にする」(78.6%) とともに約8割の回答となりました。
- 「実行したいが困難である」では、「B 雨水を植木の水やりなどに活用するなど、雨水の地下浸透、有効活用を進める」(45.0%)、「D 庭やベランダで緑や花を育てる等、身近なみどりをはぐくみ、楽しむ」(23.8%)、「E 自然体験イベントへ参加する等、生物多様性の現状と大切さを学び、伝える」(20.6%) の順に高い結果となりました。



【年齢別のクロス集計】

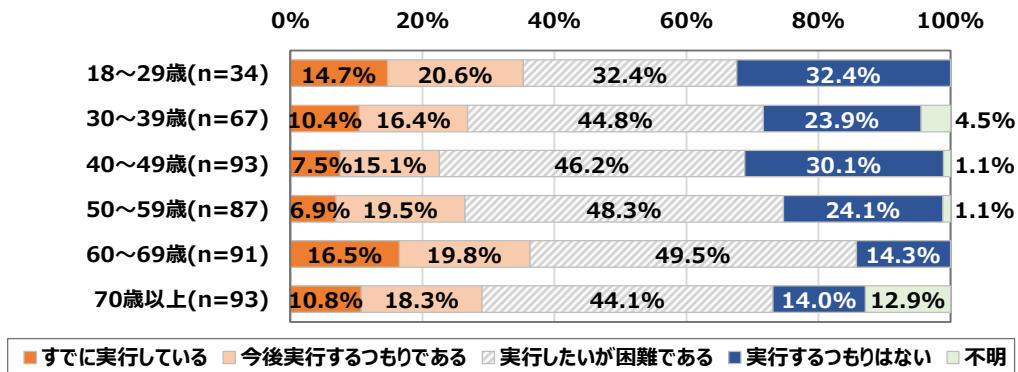
A 洗剤を必要以上に使わない、節水器具や節水型製品を積極的に導入するなど、水を大切に

- 「すでに実行している」と「今後実行するつもりである」の合計の割合は全世代で高く、18～29歳と40歳代、60歳代では8割以上となっています。



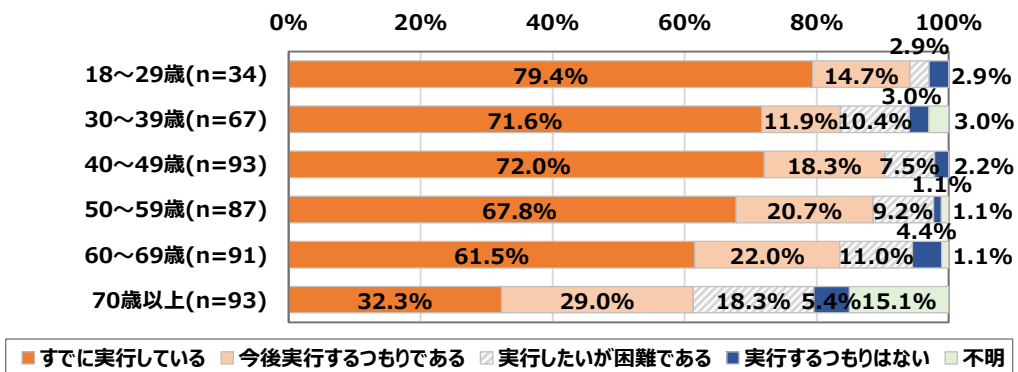
B 雨水を植木の水やりなどに活用するなど、雨水の地下浸透、有効活用を進める

- 「すでに実行している」と「今後実行するつもりである」の合計の割合は、18～29歳と60歳代で高く、35%以上となっています。また、60歳代は「実行したいが困難である」の割合も約5割と高くなっています。



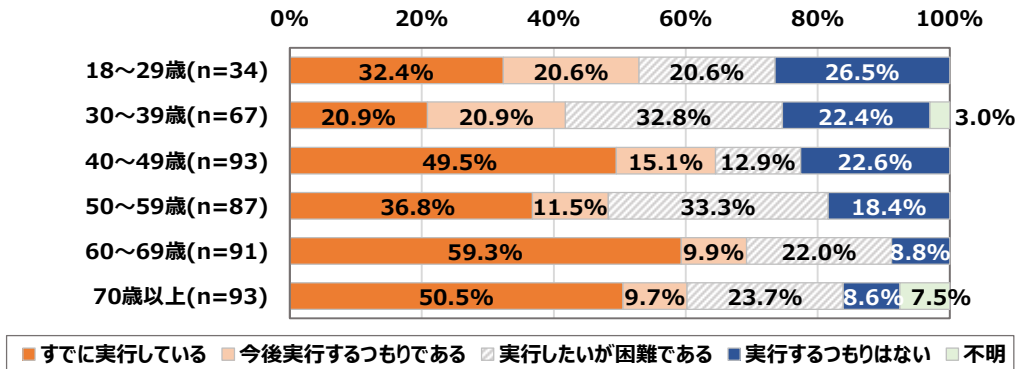
C 川や、海、砂浜を汚さないように気をつける等、水辺をきれいに保って利用する

- 「すでに実行している」と「今後実行するつもりである」の合計の割合は、年代が若いほど高くなっています。18～29歳と40歳代では9割以上と高い回答率となりました。



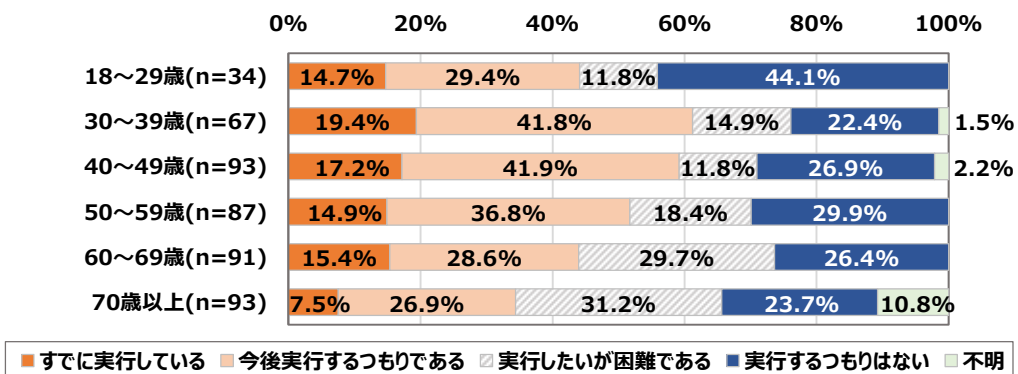
D 庭やバルコニーで緑や花を育てる等、身近なみどりをはぐくみ、楽しむ

- 「すでに実行している」と「今後実行するつもりである」の合計の割合は、40歳代、60歳代、70歳以上で高く、6割以上となっています。また、40歳未満では、「実行するつもりがない」が2割以上となっています。



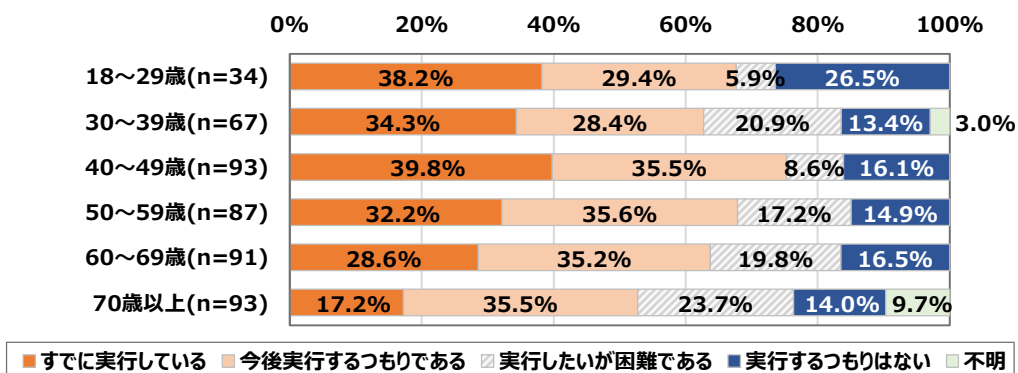
E 自然体験イベントへ参加する等、生物多様性の現状と大切さを学び、伝える

- 「すでに実行している」と「今後実行するつもりである」の合計の割合は、30歳代が61.2%で最も高く、次いで40歳代(59.1%)となっています。また、18～29歳では、「実行するつもりがない」が44.1%となっています。



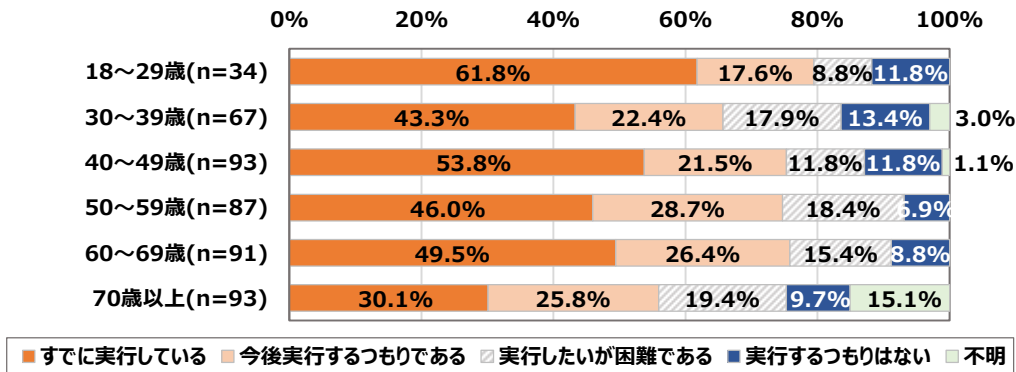
F 生物多様性に配慮してつくられたエコラベル商品を購入する等、生物多様性に配慮した商品や食材を選ぶ

- 「すでに実行している」と「今後実行するつもりである」の合計の割合は、40歳代が最も高く、75.3%となっています。また、18～29歳では、「実行するつもりがない」が26.5%となっています。



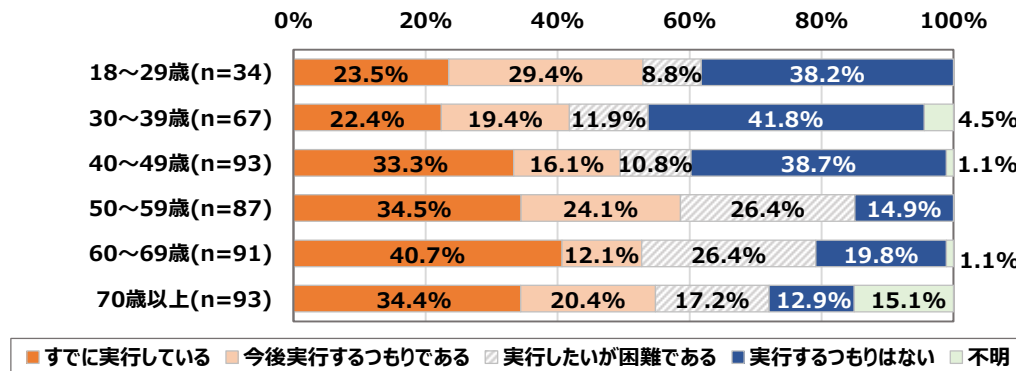
G 生きもののすみかとなる緑を育てる、捕まえた生きものを他の地域に移動させたり持ち帰らないなど、生きもののすみかをつくり、守る

- 「すでに実行している」と「今後実行するつもりである」の合計の割合は、18～29歳と40歳代～60歳代で7割以上となっています。一方、最も割合が低かったのは70歳以上で55.9%と相対的に低い回答率となっており、70歳以上では「実行したいが困難である」の割合が他と比べて高くなっています。



H 家庭菜園やガーデニングで化学農薬の使用を控える

- 「すでに実行している」と「今後実行するつもりである」の合計の割合は、50歳代で高くなっています。一方、50歳未満では「実行するつもりはない」の割合が高く、4割前後となっています。50歳以上では「実行したいが困難である」の割合が他と比べて高くなっています。



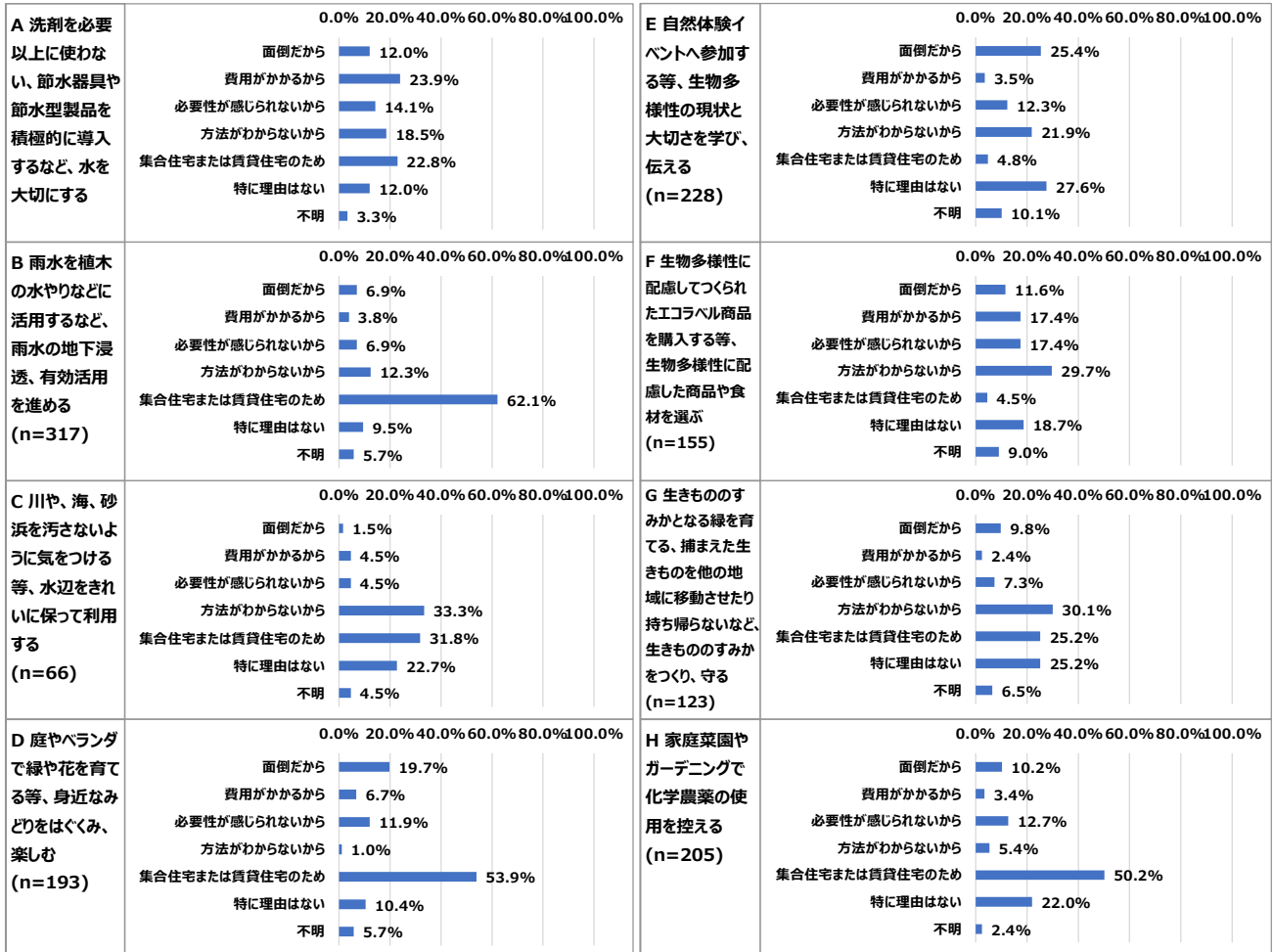
【前回調査との比較】

● 前回調査と比較可能な項目の変化状況を見ると、「F 生物多様性に配慮してつくられたエコラベル商品を購入する等、生物多様性に配慮した商品や食材を選ぶ」で、「すでに行っている」の割合が 8.4 ポイント上昇しています。一方、「A 洗剤を必要以上に使わない、節水器具や節水型製品を積極的に導入するなど、水を大切にすると「D 庭やベランダで緑や花を育てる等、身近なみどりをはぐくみ、楽しむ」は実施率が 10 ポイント以上低下しています。「今後実行するつもりである」との合計では、「E 自然体験イベントへ参加する等、生物多様性の現状と大切さを学び、伝える」のみ割合が上昇しています。

項目	「すでに行っている」 (%)			「すでに行っている」「今後実行するつもりである」合計 (%)		
	令和 7 年	令和 4 年	変化量	令和 7 年	令和 4 年	変化量
A 洗剤を必要以上に使わない、節水器具や節水型製品を積極的に導入するなど、水を大切にすると	59.2	70.5	▲ 11.3	78.6	92.1	▲ 13.5
B 雨水を植木の水やりなどに活用するなど、雨水の地下浸透、有効活用を進める	10.6	14.2	▲ 3.6	28.9	38.8	▲ 9.9
C 川や、海、砂浜を汚さないように気をつける等、水辺をきれいに保って利用する	61.6	65.8	▲ 4.2	82.2	87.4	▲ 5.2
D 庭やベランダで緑や花を育てる等、身近なみどりをはぐくみ、楽しむ	43.5	54.6	▲ 11.1	57.1	71.6	▲ 14.5
E 自然体験イベントへ参加する等、生物多様性の現状と大切さを学び、伝える	14.4	13.4	1.0	48.8	43.4	5.4
F 生物多様性に配慮してつくられたエコラベル商品を購入する等、生物多様性に配慮した商品や食材を選ぶ	31.0	22.6	8.4	64.8	71.9	▲ 7.1
G 生きもののすみかとなる緑を育てる、捕まえた生きものを他の地域に移動させたり持ち帰らないなど、生きもののすみかをつくり、守る	45.9	44.1	1.8	70.3	73.3	▲ 3.0
H 家庭菜園やガーデニングで化学農薬の使用を控える	32.9	37.5	▲ 4.6	52.0	63.7	▲ 11.7

【自然環境に関する取組を実行しない理由】

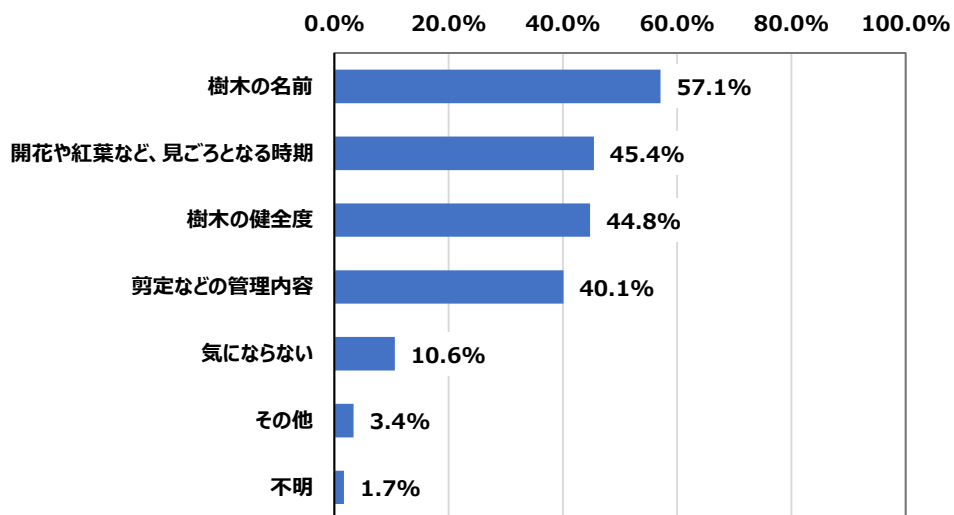
- 実行しない理由については、B 雨水の有効活用、D 庭やベランダで緑や花を育てる、H 化学農薬の使用を控えるなど、住居の形態によって実行が難しいものについて、「集合住宅や賃貸住宅のため」の回答が最も多くなっています。
- A 節水型製品の積極的導入については「費用がかかるから」、C 水辺をきれいに保って利用する、F 生物多様性に配慮した商品の選択、G 生きもののすみかをつくり、守るについては「方法がわからないから」、E 自然体験イベントへの参加は「特に理由はない」が最も多い回答となりました。



(4) 気になる樹木の情報

問 8 道路や公園に植えてある樹木について、どんな情報が気になりますか。

- 気になる樹木の情報については、「樹木の名前」(57.1%) が最も多く、次いで「開花や紅葉など、見ごろとなる時期」(45.4%)、「樹木の健全度」(44.8%)、「剪定などの管理内容」(40.1%)の順に続いています。「気にならない」は10.6%でした。



◆その他の回答(要約)

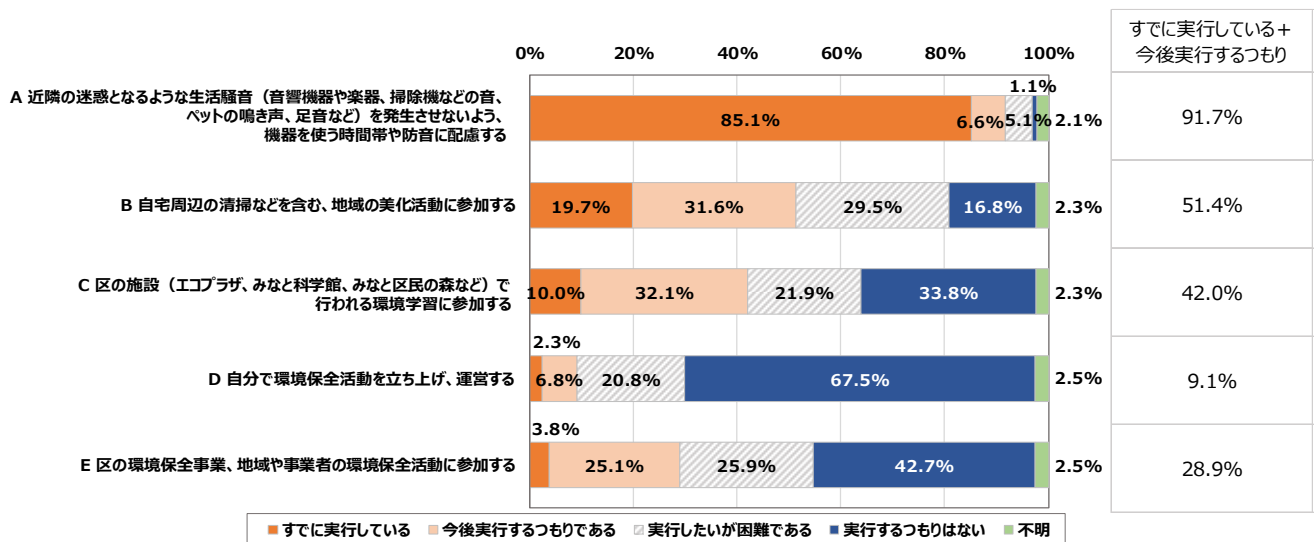
- 樹齢、植樹した年月
- 在来種、外来種の区別
- 害虫の発生状況や駆除対策
- 生物学的データ(樹齢など)や環境への貢献度(大気汚染物質除去量など)
- 樹木に生息する生き物の種類や地域への益害に関する情報

2-5 身近な環境や環境保全活動に関する取組について

(1) 身近な環境への配慮や環境保全活動に関する取組の取組状況

問9 身近な環境への配慮や環境保全活動に関する取組の状況をお答えください。
 「実行したいが困難である」または「実行するつもりはない」を選んだ場合、実行しない理由もお答えください。

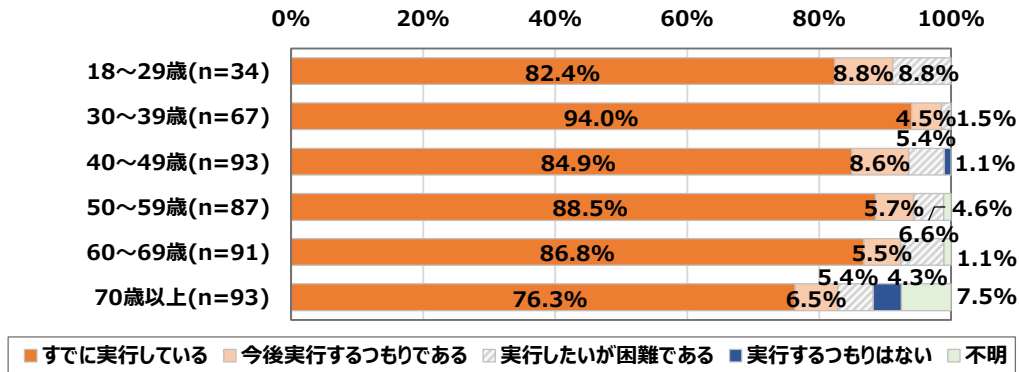
- 「すでに実行している」と「今後実行するつもりである」の合計の割合が高かったのは、「A 近隣の迷惑となるような生活騒音（音響機器や楽器、掃除機などの音、ペットの鳴き声、足音など）を発生させないように、機器を使う時間帯や防音に配慮する」（91.7%）でした。
- 「実行したいが困難である」では、「B 自宅周辺の清掃などを含む、地域の美化活動に参加する」（29.5%）、「E 区の環境保全事業、地域や事業者の環境保全活動に参加する」（25.9%）、「C 区の施設（エコプラザ、みなと科学館、みなと区民の森など）で行われる環境学習に参加する」（21.9%）、「D 自分で環境保全活動を立ち上げ、運営する」（20.8%）の順に高い結果となりました。
- 「D 自分で環境保全活動を立ち上げ、運営する」については、「実行するつもりがない」が67.5%と半数以上の回答割合となっています。



【年齢別のクロス集計】

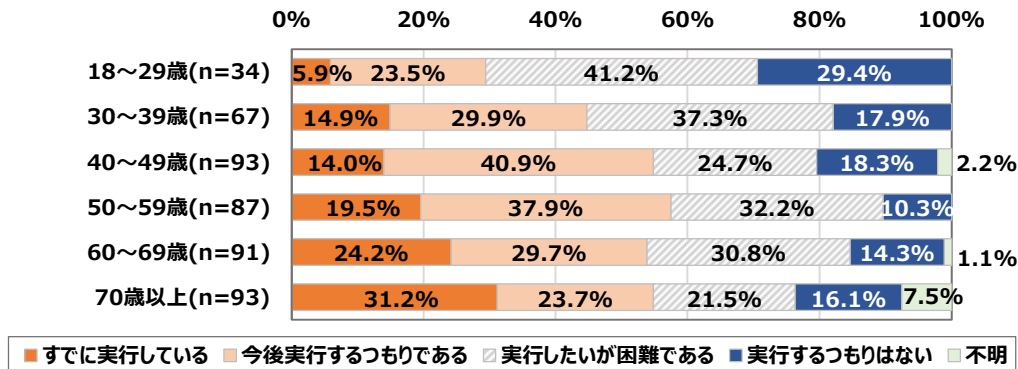
A 近隣の迷惑となるような生活騒音(音響機器や楽器、掃除機などの音、ペットの鳴き声、足音など)を発生させないよう、機器を使う時間帯や防音に配慮する

- 「すでに実行している」と「今後実行するつもりである」の合計の割合は全世代で高くなっています。「実行するつもりはない」の回答は、70歳以上で4.3%となっています。



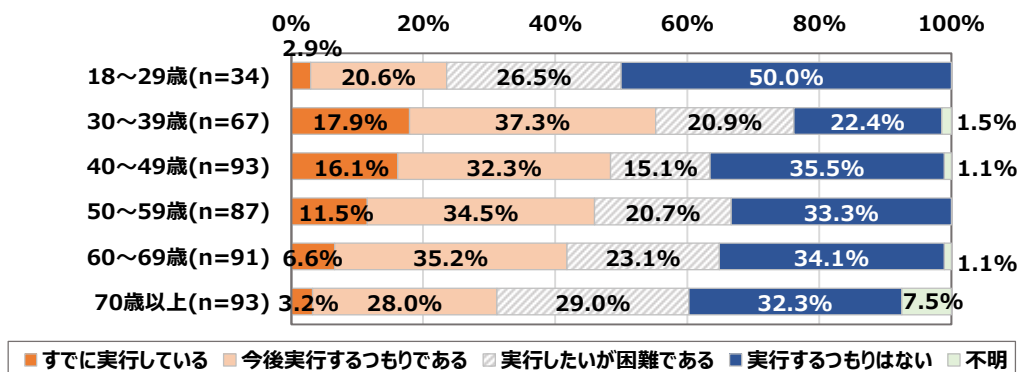
B 自宅周辺の清掃などを含む、地域の美化活動に参加する

- 「すでに実行している」と「今後実行するつもりである」の合計の割合は、40歳以上で高く5割以上となっています。18~29歳では「実行したいが困難である」が4割以上の回答となっています。



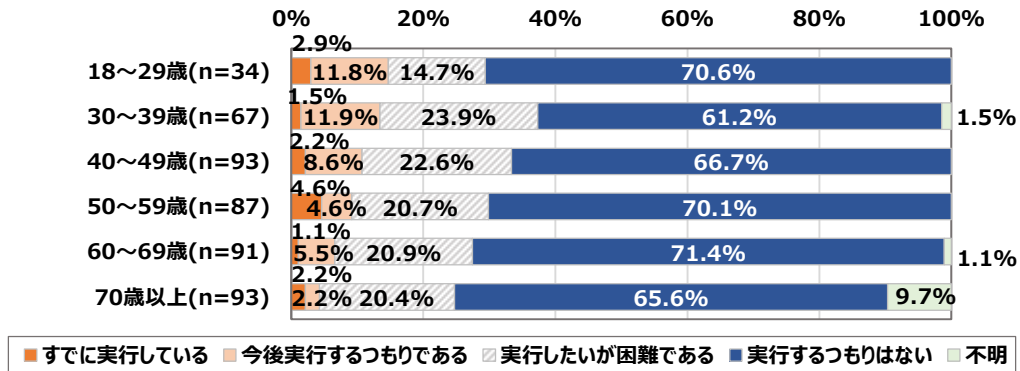
C 区の施設(エコプラザ、みなと科学館、みなと区民の森など)で行われる環境学習に参加する

- 「すでに実行している」と「今後実行するつもりである」の合計の割合は、30歳代で高く5割以上となっています。18~29歳では「実行するつもりはない」が5割の回答となっています。



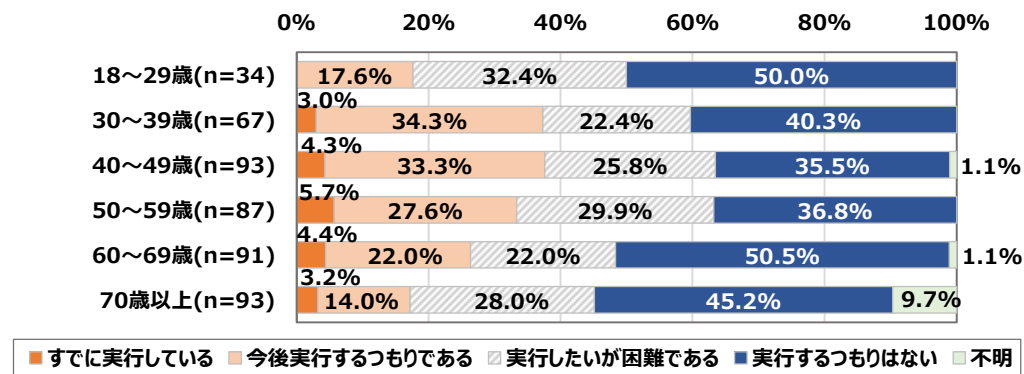
D 自分で環境保全活動を立ち上げ、運営する

- 「すでに実行している」と「今後実行するつもりである」の合計の割合は、世代が若くなるにつれて高くなっています。「実行したいが困難である」の回答が30歳以上で約2割となっています。



E 区の環境保全事業、地域や事業者の環境保全活動に参加する

- 「すでに実行している」の割合は、18～29歳では0%でした。「今後実行するつもりである」との合計の割合は30歳代～50歳代で高く、3割以上となっています。



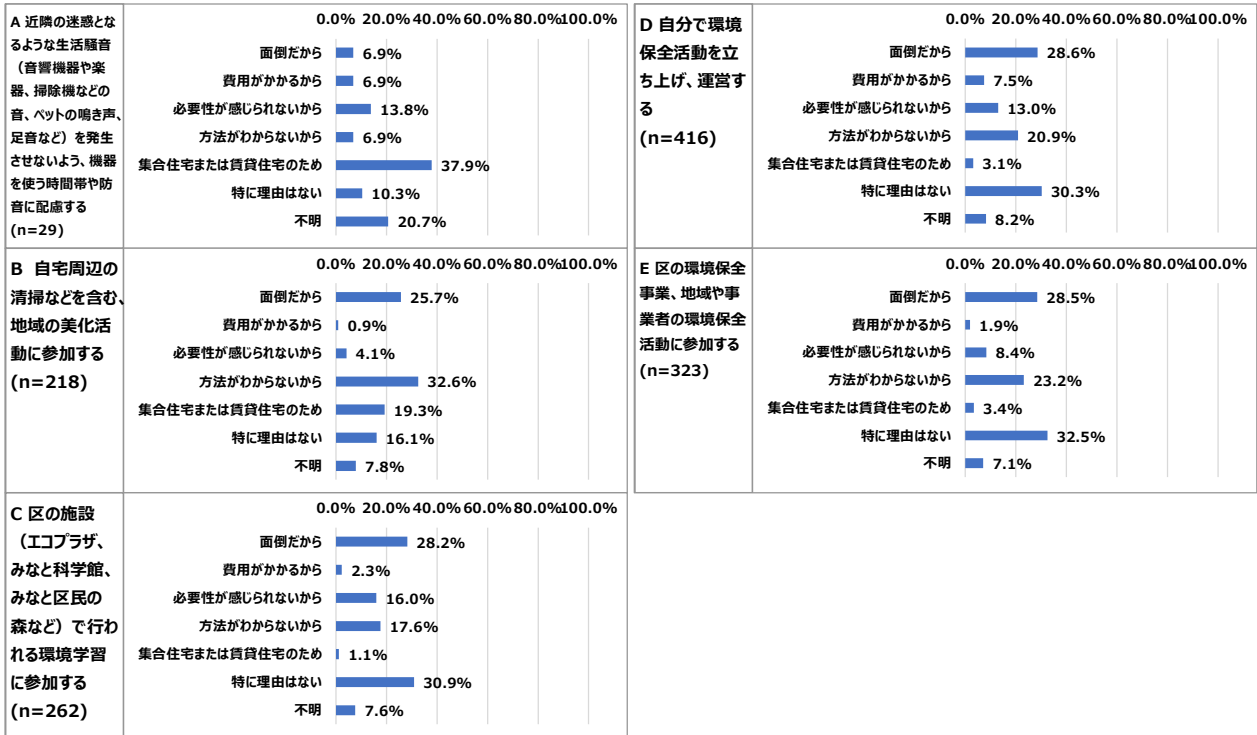
【前回調査との比較】

- 前回調査と比較可能な項目の変化状況を見ると、「B 自宅周辺の清掃などを含む、地域の美化活動に参加する」と「C 区の施設（エコプラザ、みなと科学館、みなと区民の森など）で行われる環境学習に参加する」で、「すでに実行している」の割合が5ポイント以上上昇しています。「今後実行するつもりである」との合計では、「C 区の施設（エコプラザ、みなと科学館、みなと区民の森など）で行われる環境学習に参加する」の割合が11.8ポイント上昇しています。

項目	「すでに実行している」 (%)			「すでに実行している」「今後実行するつもりである」合計 (%)		
	令和7年	令和4年	変化量	令和7年	令和4年	変化量
A 近隣の迷惑となるような生活騒音（音響機器や楽器、掃除機などの音、ペットの鳴き声、足音など）を発生させないよう、機器を使う時間帯や防音に配慮する	85.1	84.7	0.4	91.7	92.0	▲ 0.3
B 自宅周辺の清掃などを含む、地域の美化活動に参加する	19.7	14.7	5.0	51.4	49.7	1.7
C 区の施設（エコプラザ、みなと科学館、みなと区民の森など）で行われる環境学習に参加する	10.0	3.6	6.4	42.0	30.2	11.8
D 自分で環境保全活動を立ち上げ、運営する	2.3	1.5	0.8	9.1	7.9	1.2
E 区の環境保全事業、地域や事業者の環境保全活動に参加する	3.8	2.3	1.5	28.9	24.7	4.2

【身近な環境への配慮や環境保全活動に関する取組を実行しない理由】

- 実行しない理由については、C 区の施設の環境学習への参加、D 環境保全活動の運営、E 環境保全活動への参加で「特に理由はない」の回答が最も多くなっています。
- A 生活騒音への配慮については「集合住宅または賃貸住宅のため」(37.9%)、B 地域美化活動への参加は「方法がわからないから」(32.6%) が最も多い回答となりました。

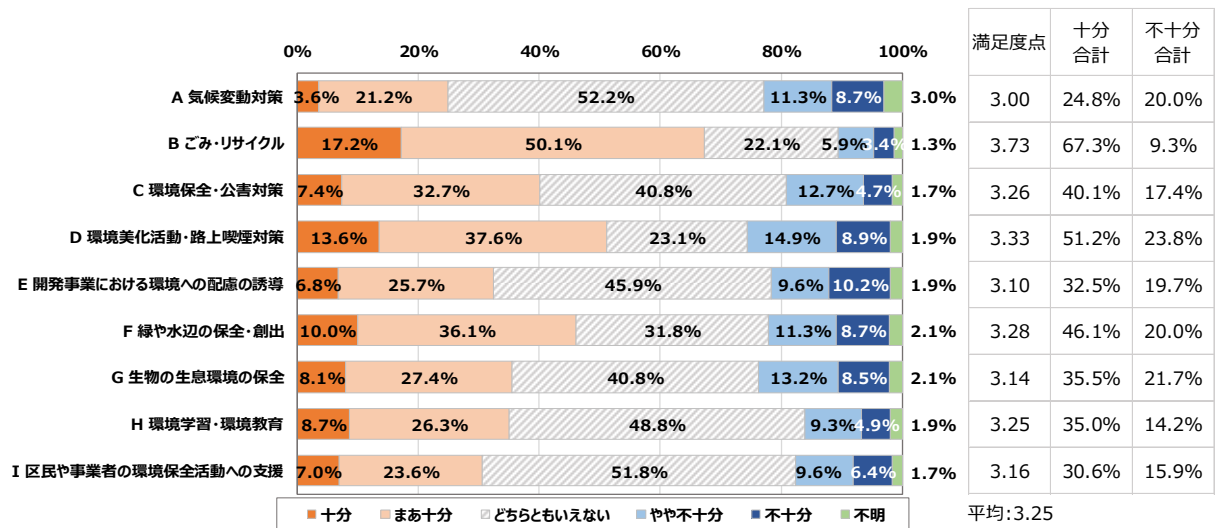


2-6 区の取組について

(1)環境に関する区の取組状況への感じ方

問 10 環境に関する現在の区の取組状況について、どのように感じていますか。

- 環境に関する現在の区の取組状況について、『十分合計』（「十分」と「まあ十分」の合計）が50%を超えていた項目は、9項目中2項目でした。
- 「十分」と「まあ十分」の合計が最も高かったのは「B ごみ・リサイクル」（67.3%）でした。次いで「D 環境美化活動・路上喫煙対策」（51.2%）、「F 緑や水辺の保全・創出」（46.1%）の順で続いています。
- 一方、『不十分合計』（「やや不十分」と「不十分」の合計）の割合が最も高かった項目は「D 環境美化活動・路上喫煙対策」（23.8%）でした。次いで「G 生物の生息環境の保全」（21.7%）となっています。



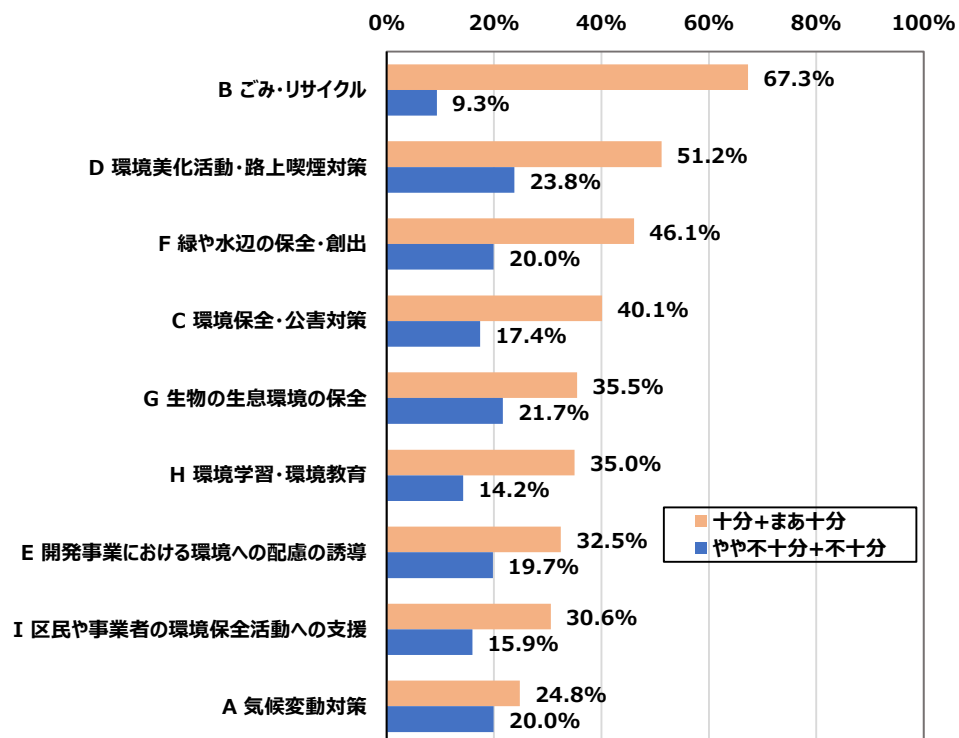
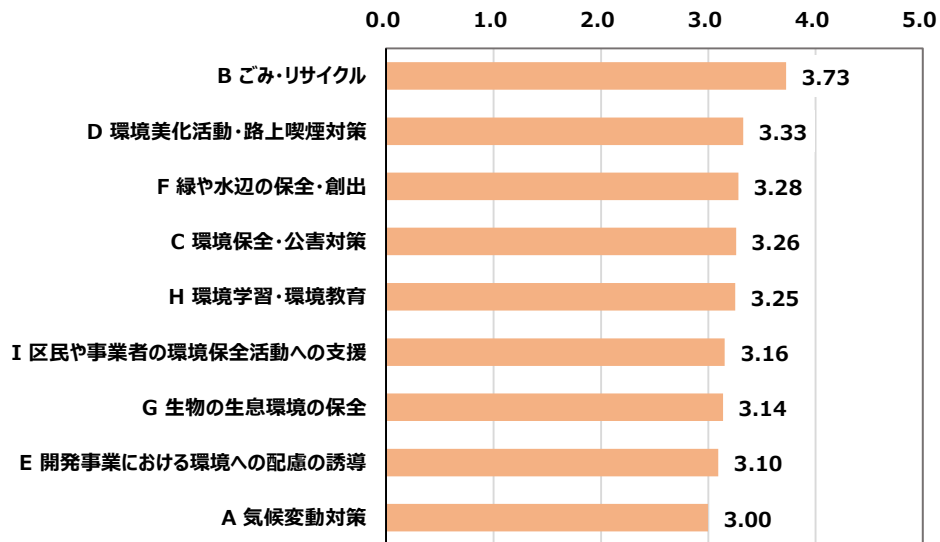
【区の取組状況に対する満足度点】

- 『十分』と『不十分』の双方が多いケースなど一概に満足度が高いと判断できないため、すべての回答に配慮した指標を『満足度点』として以下の方法で算出しました。
- この結果、満足度点の平均は3.25となり、5項目で平均を超えていました。

「区の取組状況に対する満足度点」

$$= \frac{\text{「十分」回答数} \times 5 + \text{「まあ十分」回答数} \times 4 + \text{「どちらともいえない」回答数} \times 3 + \text{「やや不十分」回答数} \times 2 + \text{「不十分」回答数} \times 1}{\text{回答者数（不明除く）}}$$

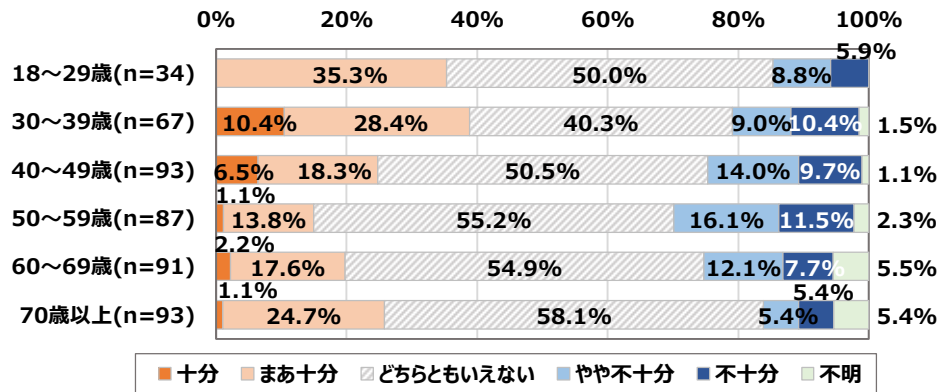
- 満足度点が最も高かったのは「B ごみ・リサイクル」(3.73)であり、次いで「D 環境美化活動・路上喫煙対策」(3.33)、「F 緑や水辺の保全・創出」(3.28)の順となりました。
- 満足度点が最も低かったのは「A 気候変動対策」(3.00)でした。



【年齢別のクロス集計】

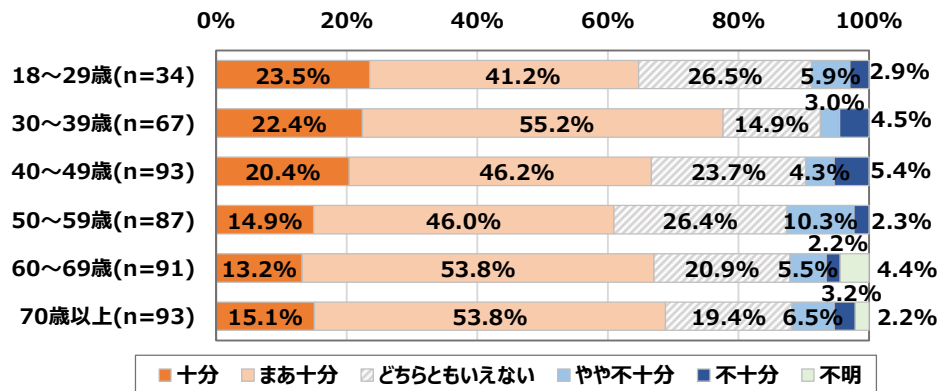
A 気候変動対策

- 『十分合計』（「十分」と「まあ十分」の合計）の割合は、40歳未満で高く、3割以上となっています。一方、『不十分合計』（「やや不十分」と「不十分」の合計）の割合は、40歳代～50歳代で高く、2割以上となっています。



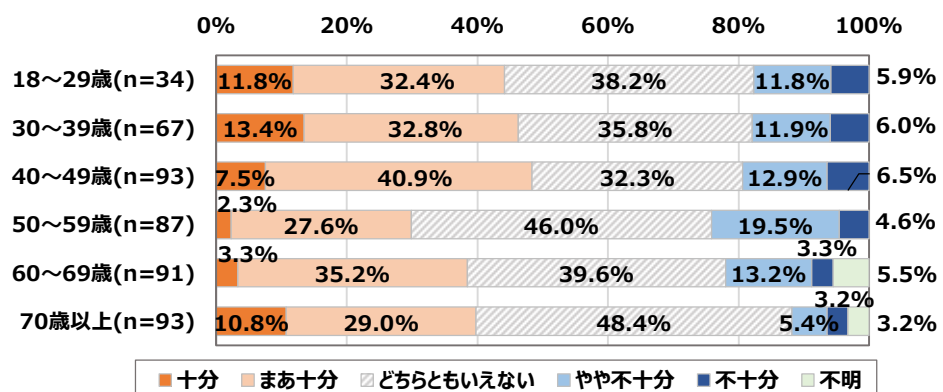
B ごみ・リサイクル

- 『十分合計』（「十分」と「まあ十分」の合計）の割合は、全世代で高く、30歳以上では8割近くとなっています。一方、『不十分合計』（「やや不十分」と「不十分」の合計）の割合は、50歳代で高くなっています。



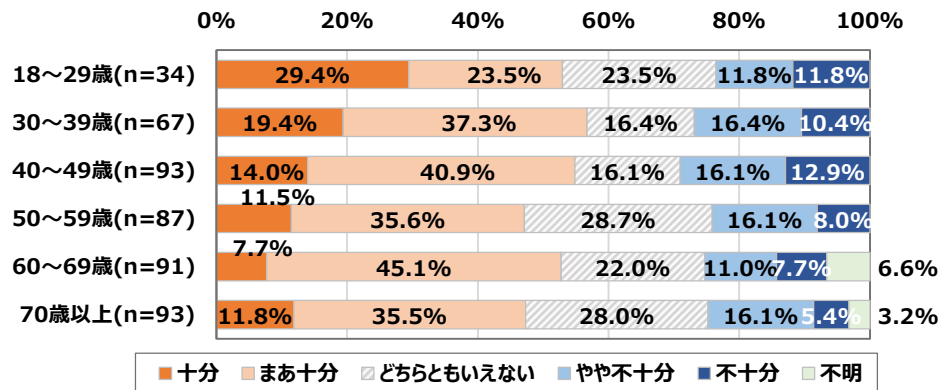
C 環境保全・公害対策

- 『十分合計』（「十分」と「まあ十分」の合計）の割合は、40歳未満で4割以上となっています。一方、『不十分合計』（「やや不十分」と「不十分」の合計）の割合は、50歳代で高く、2割以上となっています。



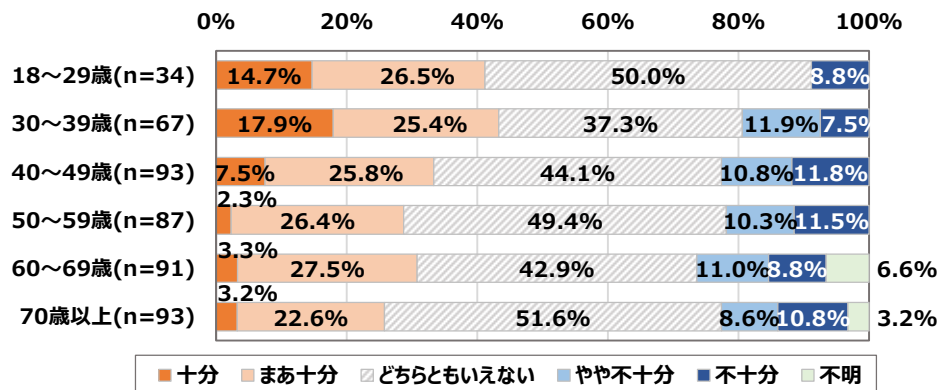
D 環境美化活動・路上喫煙対策

- 『十分合計』（「十分」と「まあ十分」の合計）の割合は、全世代高くなっています。一方、『不十分合計』（「やや不十分」と「不十分」の合計）の割合は、40歳代で高く、約3割となっています。



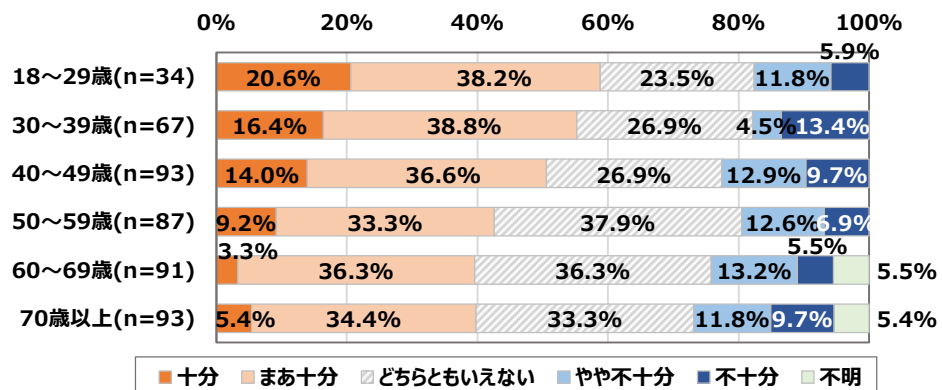
E 開発事業における環境への配慮の誘導

- 『十分合計』（「十分」と「まあ十分」の合計）の割合は、40歳未満で高く、4割以上となっています。一方、『不十分合計』（「やや不十分」と「不十分」の合計）の割合は、30歳代以上で約2割となっています。



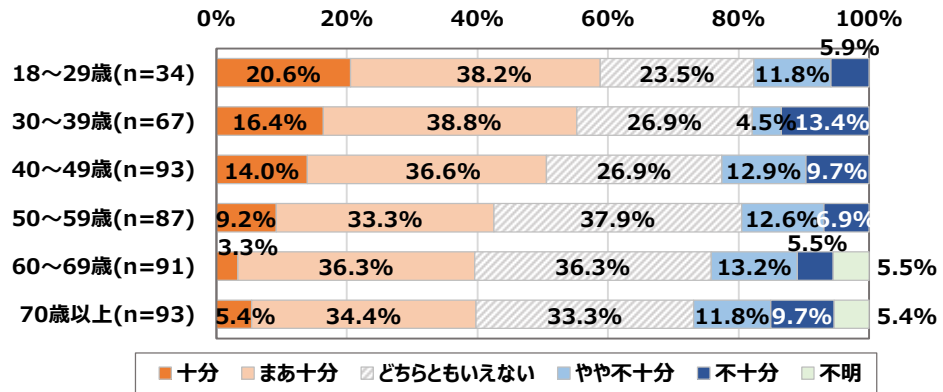
F 緑や水辺の保全・創出

- 『十分合計』（「十分」と「まあ十分」の合計）の割合は、50歳未満で高く、5割以上となっています。一方、『不十分合計』（「やや不十分」と「不十分」の合計）の割合は、全世代で約2割となっています。



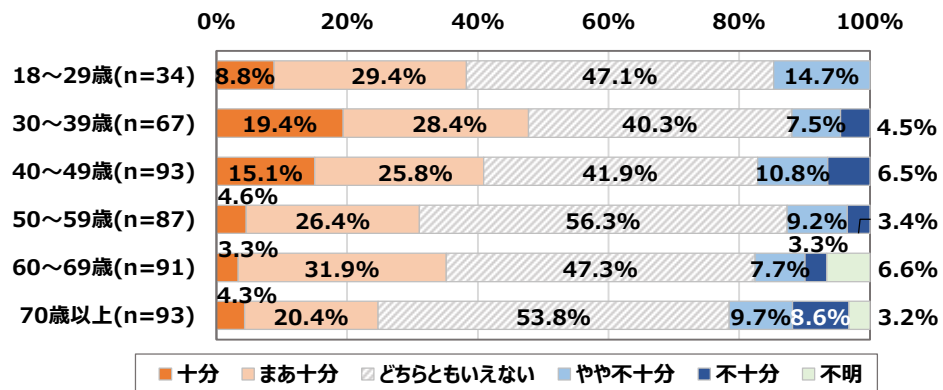
G 生物の生息環境の保全

- 『十分合計』（「十分」と「まあ十分」の合計）の割合は、50歳未満で高く、5割以上となっています。一方、『不十分合計』（「やや不十分」と「不十分」の合計）の割合は、全世代で約2割となっています。



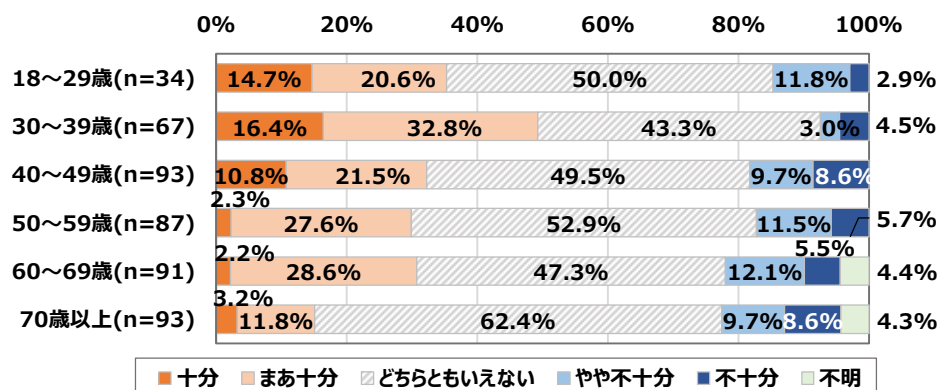
H 環境学習・環境教育

- 『十分合計』（「十分」と「まあ十分」の合計）の割合は、30歳代で高く、約5割となっています。一方、『不十分合計』（「やや不十分」と「不十分」の合計）の割合は、40歳代と70歳以上で2割近くとなっています。



I 区民や事業者の環境保全活動への支援

- 『十分合計』（「十分」と「まあ十分」の合計）の割合は、30歳代で高く、約5割となっています。一方、『不十分合計』（「やや不十分」と「不十分」の合計）の割合は、40歳以上で2割近くとなっています。

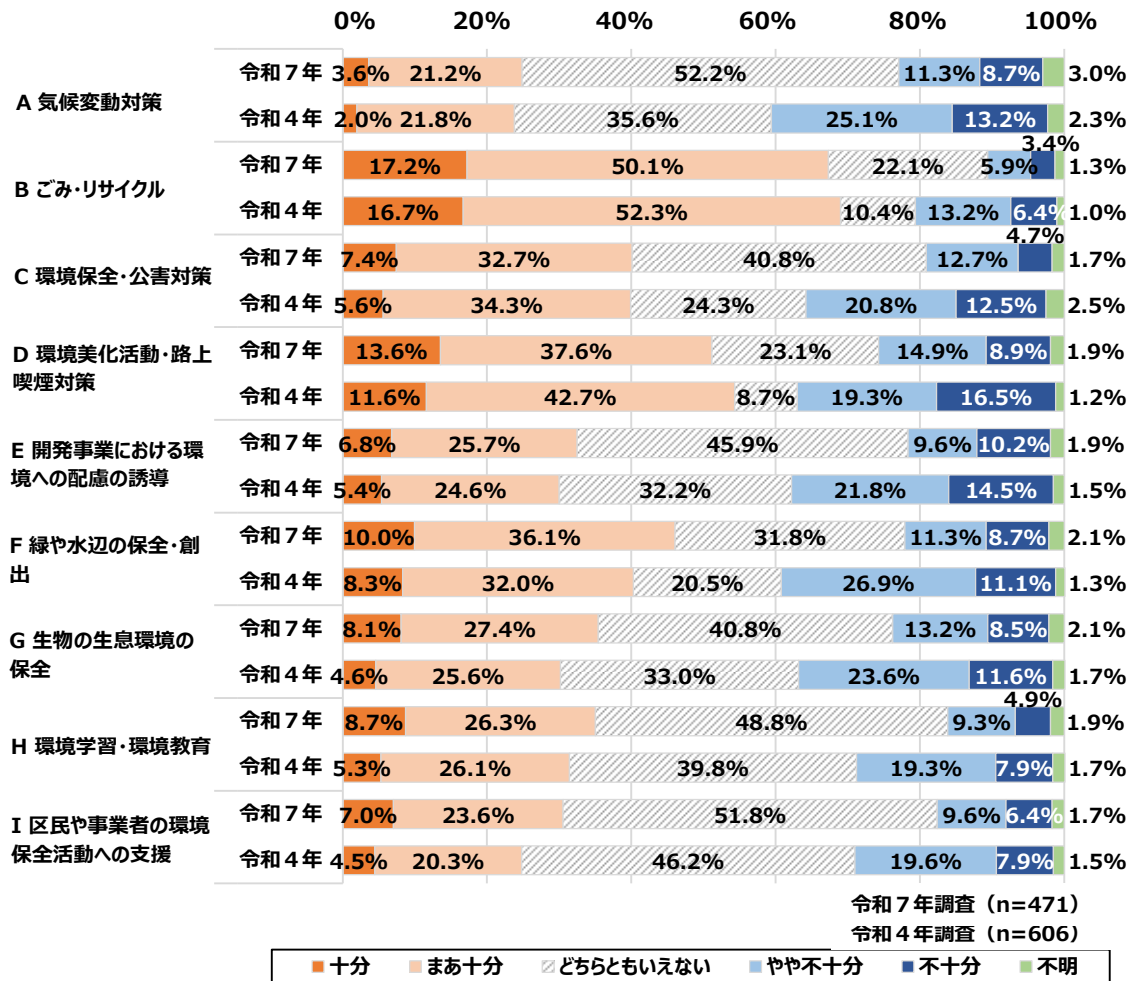


【前回調査との比較】

- 前回調査と比較すると、『不十分合計』（「やや不十分」と「不十分」の合計）すべての項目で、変化量が上昇していました。
- 『十分合計』の上位3つは、「L 環境について学ぶ機会が充実している」が13.9ポイント、「N 環境に配慮した活動を行う企業が多い」が13.4ポイント、「H 水辺に親しめる」が11.9ポイント上昇しています。「F 緑や水辺の保全・創出」が5.8ポイント、「G 生物の生息環境の保全」が5.3ポイント、「I 区民や事業者の環境保全活動への支援」が5.3ポイント上昇しています。
- 『不十分合計』の上位3つは、「A 気候変動対策」が18.3ポイント、「E 開発事業における環境への配慮の誘導」が16.6ポイント、「F 緑や水辺の保全・創出」が18.0ポイント減少しています。

項目	十分合計 (%)			不十分合計 (%)		
	令和7年	令和4年	変化量	令和7年	令和4年	変化量
A 気候変動対策	24.8	23.8	1.0	20.0	38.3	▲ 18.3
B ごみ・リサイクル	67.3	69.0	▲ 1.7	9.3	19.6	▲ 10.3
C 環境保全・公害対策	40.1	39.9	0.2	17.4	33.3	▲ 15.9
D 環境美化活動・路上喫煙対策	51.2	54.3	▲ 3.1	23.8	35.8	▲ 12.0
E 開発事業における環境への配慮の誘導	32.5	30.0	2.5	19.7	36.3	▲ 16.6
F 緑や水辺の保全・創出	46.1	40.3	5.8	20.0	38.0	▲ 18.0
G 生物の生息環境の保全	35.5	30.2	5.3	21.7	35.2	▲ 13.5
H 環境学習・環境教育	35.0	31.4	3.6	14.2	27.2	▲ 13.0
I 区民や事業者の環境保全活動への支援	30.6	24.8	5.8	15.9	27.5	▲ 11.6

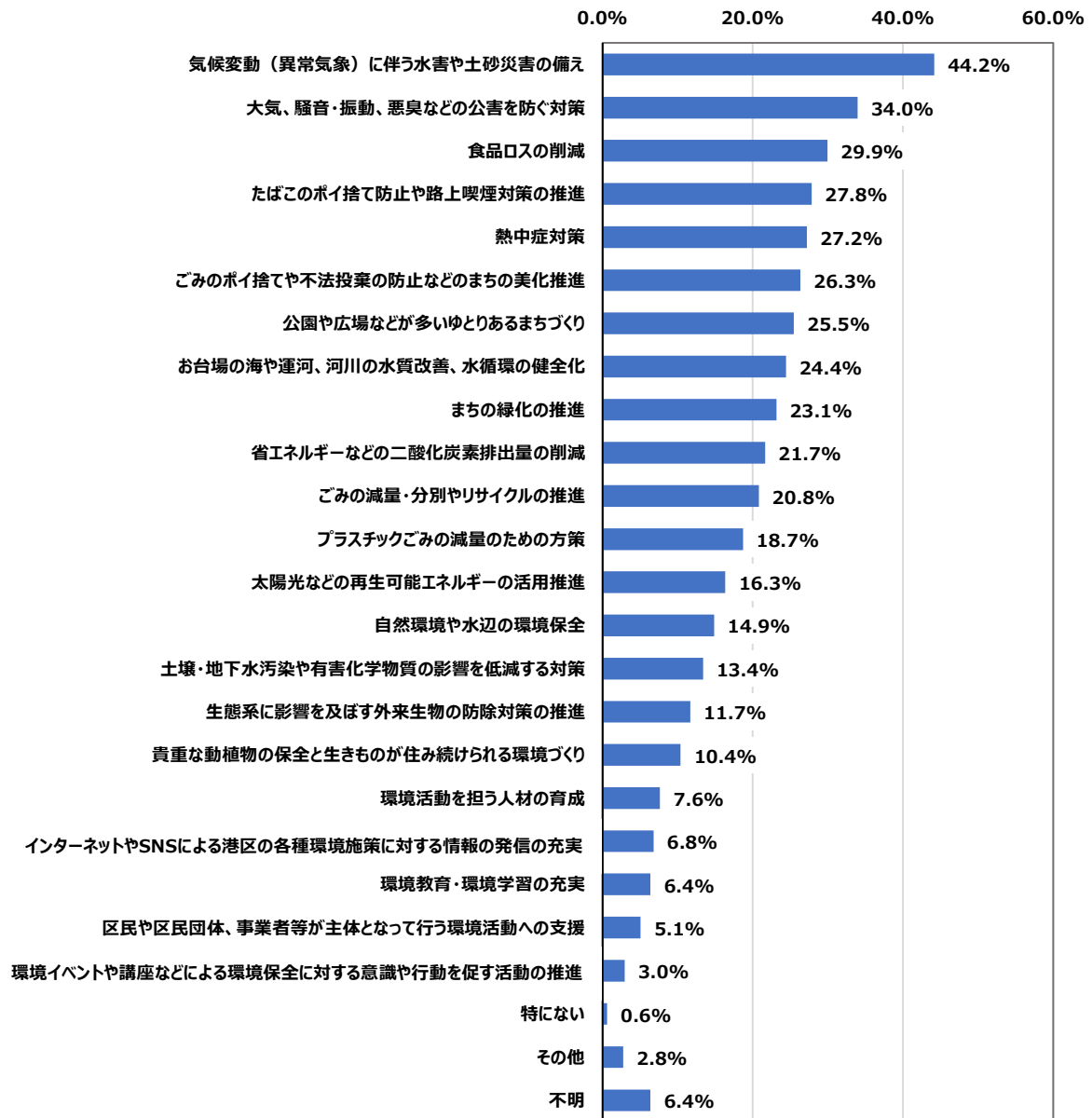
※変化量が上昇した上位3つのセルを色付けしています。



(2) 区が重点的に取り組むべき施策

問 11 港区の環境をより良くしていくため、今後、区が重点的に取り組むべきと思うものを選んでください。(○は5つまで)

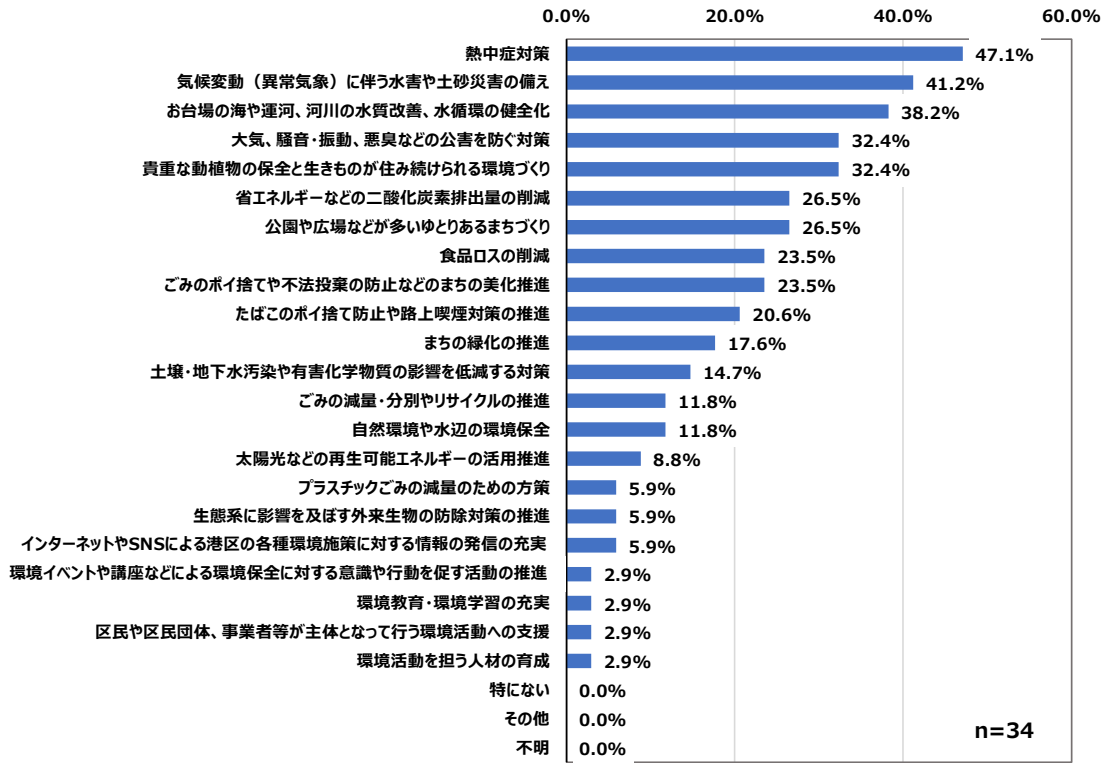
- 区が重点的に取り組むべき施策については、「気候変動（異常気象）に伴う水害や土砂災害の備え」（44.2%）が最も多く、次いで「大気、騒音・振動、悪臭などの公害を防ぐ対策」（34.0%）、「食品ロスの削減」（29.9%）の順に続いています。



【年齢別のクロス集計】

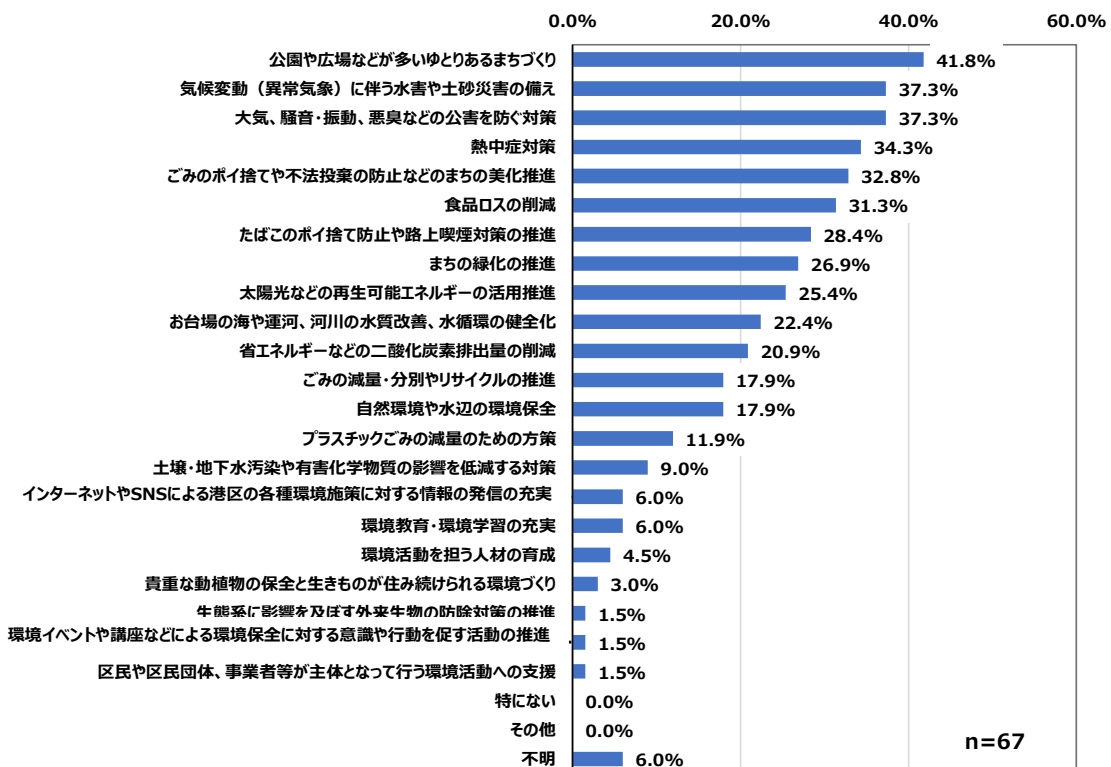
18～29 歳(n=34)

- 「熱中症対策」(47.1%) が最も多く、次いで「気候変動(異常気象)に伴う水害や土砂災害の備え」(41.2%)、「お台場の海や運河、河川の水質改善、水循環の健全化」(38.2%) の順に続いています。



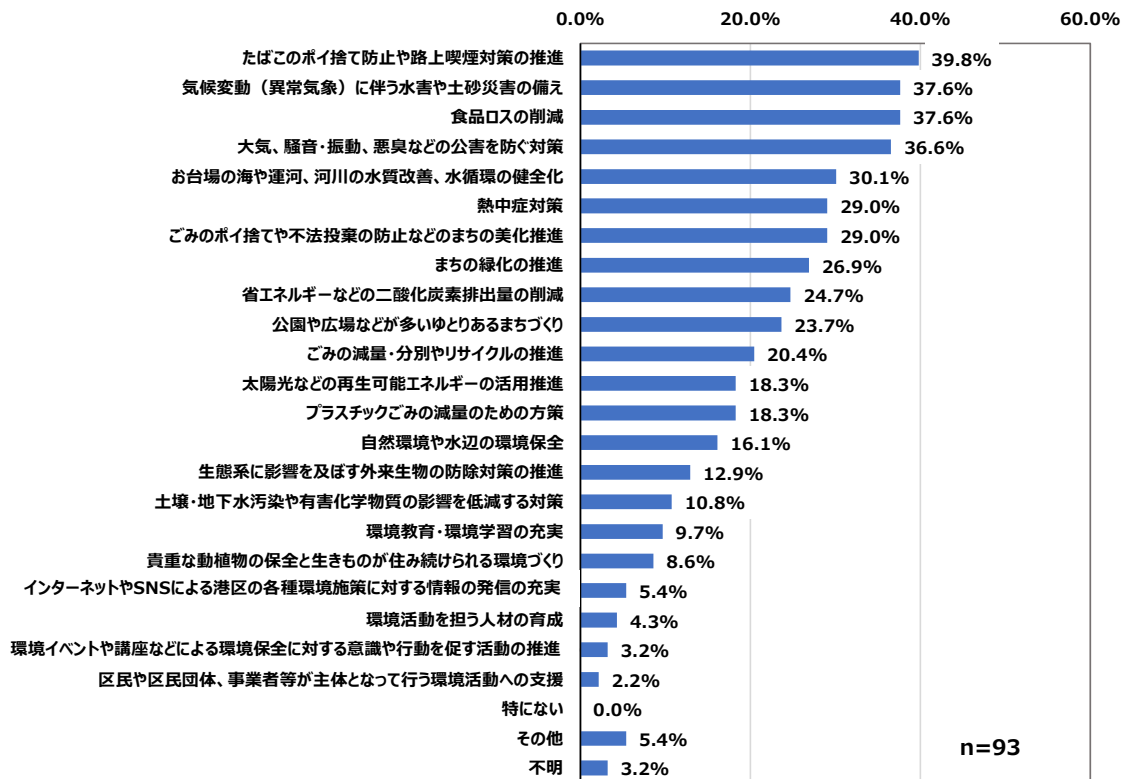
30～39 歳(n=67)

- 「公園や広場などが多いゆとりあるまちづくり」(41.8%) が最も多く、次いで「気候変動(異常気象)に伴う水害や土砂災害の備え」(37.3%)、「大気、騒音・振動、悪臭などの公害を防ぐ対策」(37.3%) が同率で続いています。



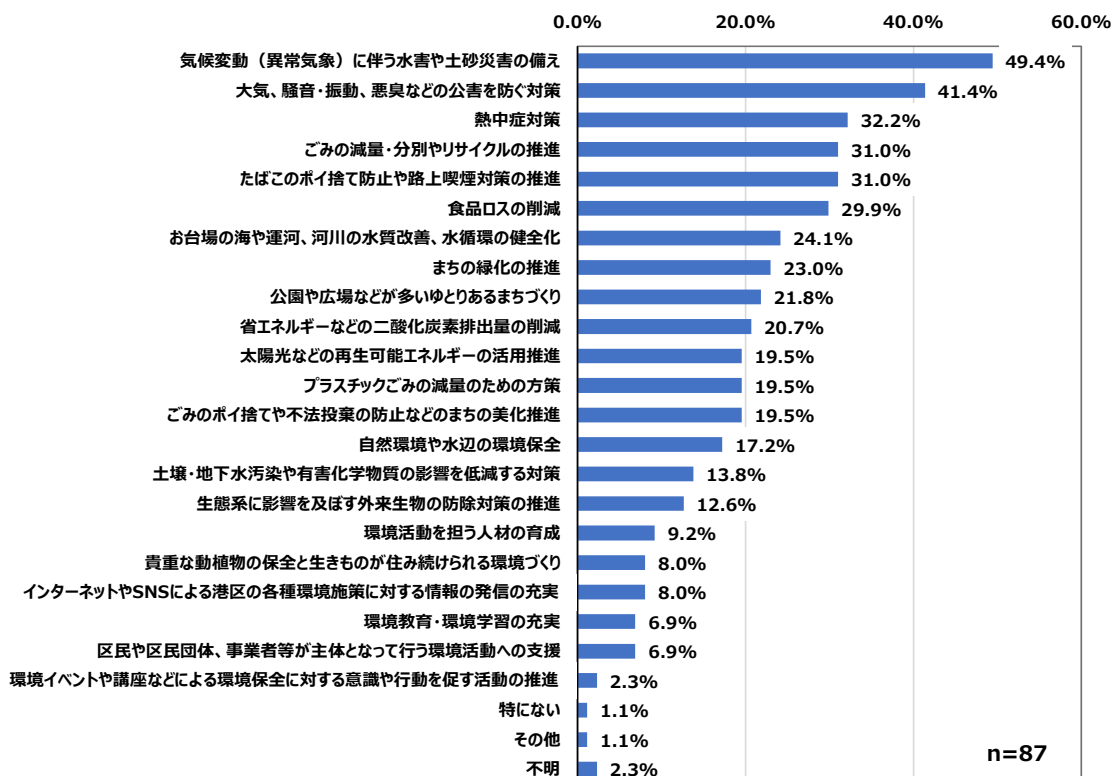
40~49 歳(n=93)

- 「たばこのポイ捨て防止や路上喫煙対策の推進」(39.8%) が最も多く、次いで「気候変動(異常気象)に伴う水害や土砂災害の備え」(37.6%)、「食品ロスの削減」(37.6%) が同率で続いています。



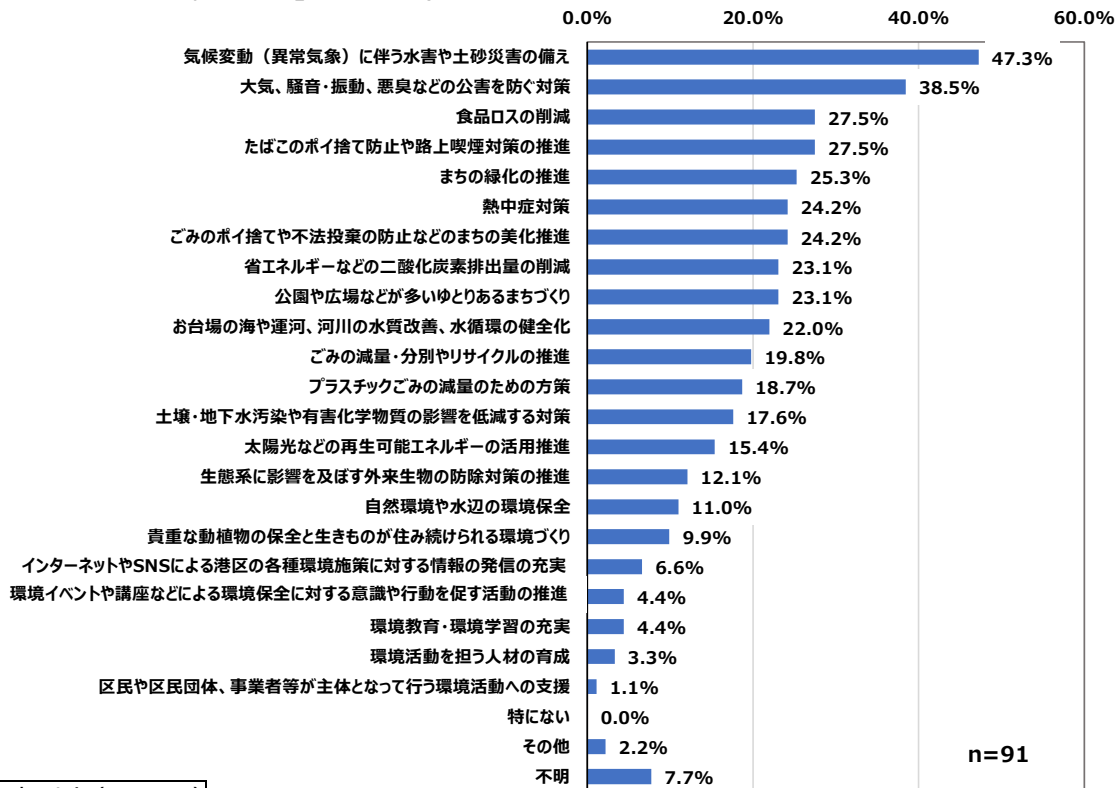
50~59 歳(n=87)

- 「気候変動(異常気象)に伴う水害や土砂災害の備え」(49.4%) が最も多く、次いで「大気、騒音・振動、悪臭などの公害を防ぐ対策」(41.4%)、「熱中症対策」(32.2%) の順に続いています。



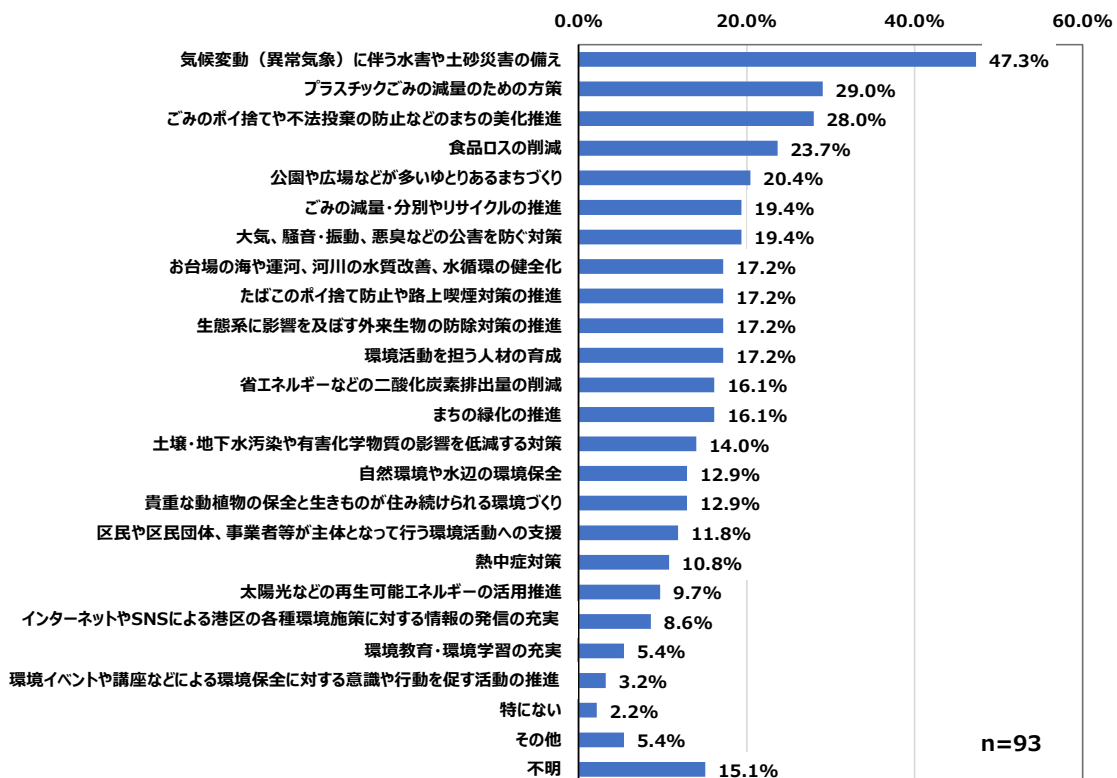
60~69 歳(n=91)

- 「気候変動（異常気象）に伴う水害や土砂災害の備え」（47.3%）が最も多く、次いで「大気、騒音・振動、悪臭などの公害を防ぐ対策」（38.5%）、「食品ロスの削減」（27.5%）と「たばこのポイ捨て防止や路上喫煙対策の推進」（27.5%）が同率で続いています。



70 歳以上(n=93)

- 「気候変動（異常気象）に伴う水害や土砂災害の備え」（47.3%）が最も多く、次いで「プラスチックごみの減量のための方策」（29.0%）、「ごみのポイ捨てや不法投棄の防止などのまちの美化推進」（28.0%）の順に続いています。



◆その他の回答(要約)

〈リチウムイオンバッテリー〉

- リチウムバッテリーの廃棄の仕方。
- モバイルバッテリーを回収する拠点を役所など設置してほしい。
- ボタン電池の回収に区が主体となって取り組む。

〈土地利用・まちづくり〉

- 不可な土地、極狭の土地の緑化。
- 高層マンションを増やしてほしい。ビル風により自転車の転倒も多い。かさも壊れる。
- 海からの涼風を遮断するタワーマンションの新規建設の禁止を強く望みます。地価、家賃の高騰も解消されます。千代田区の業界団体への通達（転売の自粛要請）を是非参考にしてください。
- 木々の伐採を伴う大規模再開発の規制。

〈生活環境、マナー〉

- 飛行機をこれ以上港区の上空で飛ぶことを許可しないでほしい。
- 夜バイクや自動車によるひどい騒音をなくすこと。
- 住宅街での車の運転スピード。
- 駐車違反の取締強化（ドライバー乗車中のエアコン排熱等が迷惑）。
- 自転車専用道と車道の間にパイロンのようなものを設置してほしい、路駐多すぎて機能してない。
- ゴミ問題。
- 若い世代、一人暮らし世帯への分別意識の向上施策実施。
- 住宅問題、外黒人対策。
- 民泊による外国人のマナー
- 南浜町児童公園で、近隣ビルの大勢の方がタバコを吸っています。港区に連絡すると貼っていただける看板はたくさん貼ってありますが、改善しません。芝浜小学校の通学路ですし、しっかり取り締まってほしいです
- 犬のおシッコ、フンの処理を飼い主に徹底させる。毎日している犬がいる。環境に関係ないが、水で洗い流しているため、水道代がかかる。
- ペットのふん美化推進。
- 犬のおしっこを道路にさせないようにしてください。
- 飼い主に犬の散歩時の排泄物処理のマナーを厳しくしてほしい。
- ペットを連れた人のマナーの向上。
- ペットの路上でのおしっこなどの規制。
- 路上に犬の糞が多い。数 10メートル間隔で落ちており、あまりにもひどく、対策を講じるべき。

〈獣害〉

- カラス、ハトが増えた場合、なんとかしてほしい。
- からす、ねずみの対策

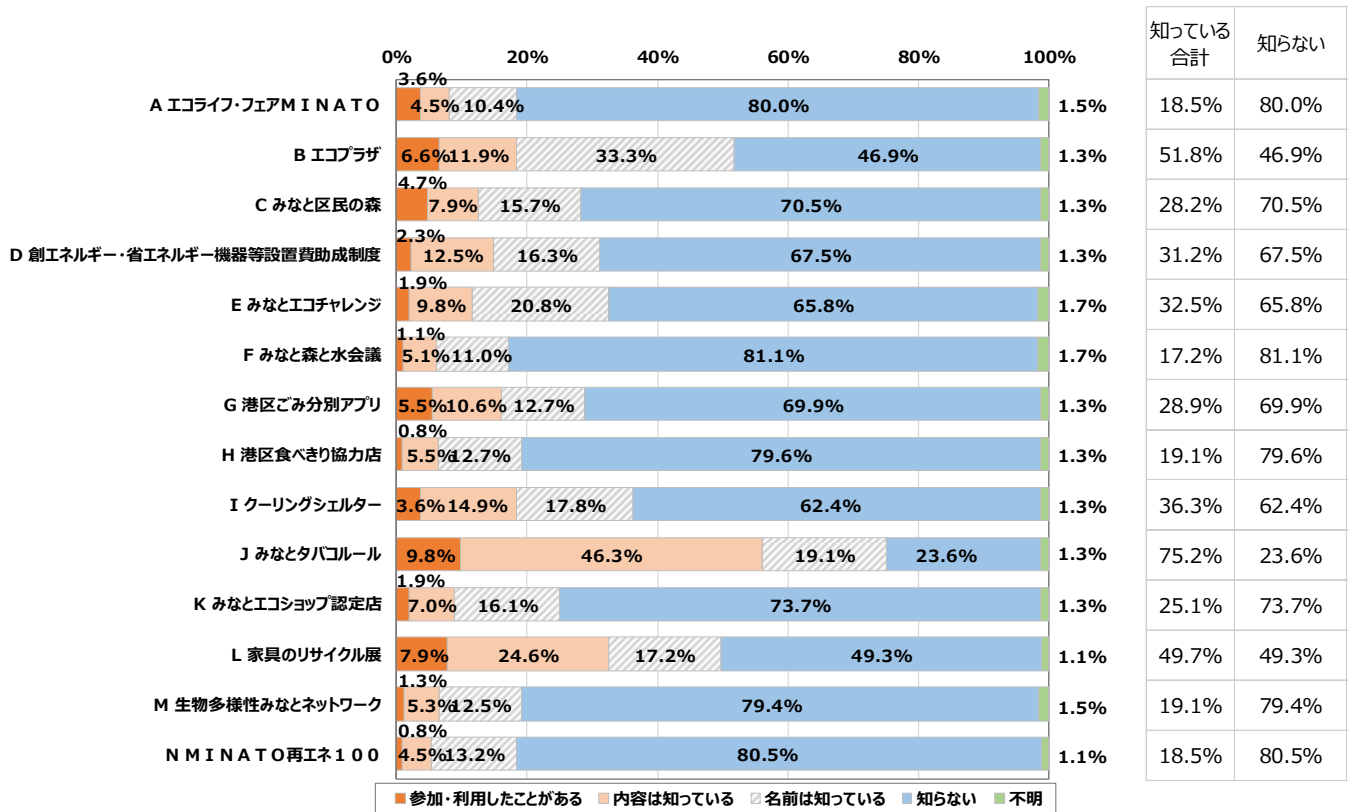
〈気候変動・防災〉

- 公園の噴水や砂場の上にタープ・屋根を貼る等、日陰作りに力を入れて欲しい。暑くて遊ぶ機会がどんどん減ってます。
- グリーンカーテンをやるにも、土が捨てられないので困る。集合住宅の場合にできることがよく分からない。
- 早期、ペロブスカイト太陽電池（折りたためる。丸めて使用できる）の安価な導入、WBSTV 東京紹介。
- 防災アナウンスの内容がほぼ聞きとれません。「こちらは港区」まではたいてい聞こえますので、大事な部分の聞きとりやすさを改善していただきたいです。

(3) 区的环境に関する事業の認知度

問 12 区的环境に関する取組や施設等について伺います。あなたは、次の事業を知っていますか。

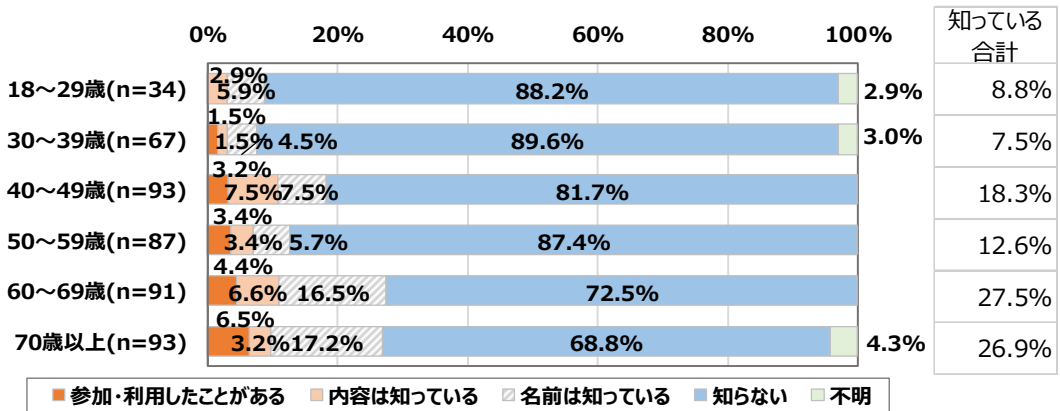
- 環境に関する区の事業について、『知っている合計』（「参加・利用したことがある」、「内容は知っている」、「名前は知っている」の合計）が50%を超えていた項目は、14項目中2項目でした。
- 「参加・利用したことがある」、「内容は知っている」、「名前は知っている」の合計が最も高かったのは「J みなとタバコルール」（75.2%）でした。次いで「B エコプラザ」（51.8%）、「L 家具のリサイクル展」（49.7%）の順で続いています。
- 一方、「知らない」の割合が高かった項目は「F みなと森と水会議」（81.1%）、「N M I N A T O再エネ100」（80.5%）、「A エコライフ・フェア MINATO」（80.0%）で8割以上の回答割合となりました。



【年齢別のクロス集計】

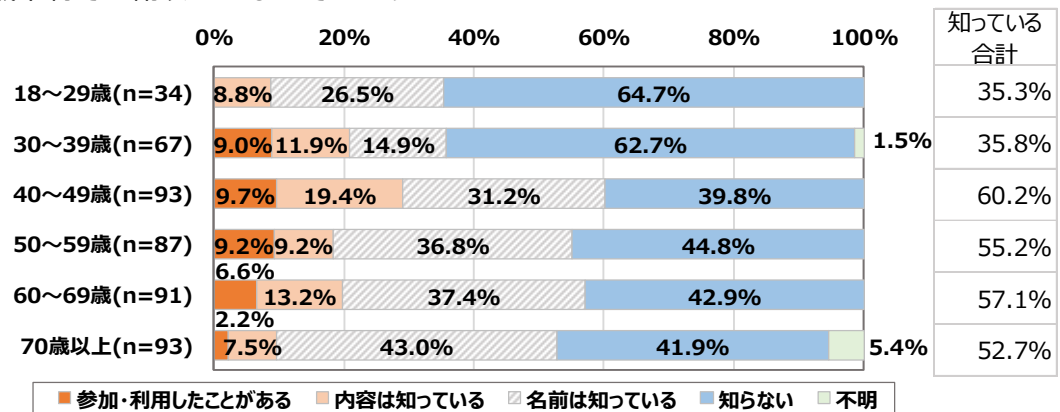
A エコライフ・フェア MINATO

- 『知っている合計』（「参加・利用したことがある」、「内容は知っている」、「名前は知っている」の合計）の割合は、60歳以上で高く、3割近くとなっています。一方、「知らない」の割合は、18～29歳、30歳代、50歳代で高く、9割近くとなっています。



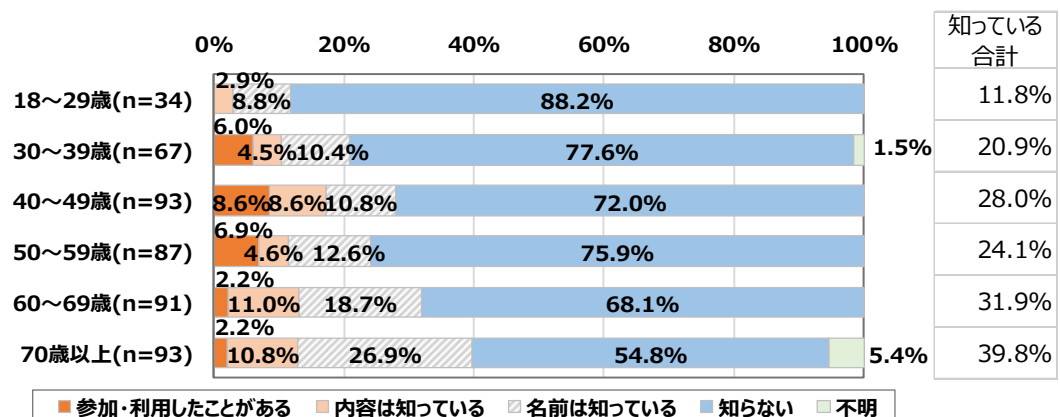
B エコプラザ

- 『知っている合計』（「参加・利用したことがある」、「内容は知っている」、「名前は知っている」の合計）の割合は、40歳以上で高く、40歳代では6割となっています。一方、「知らない」の割合は、40歳未満で6割以上となっています。



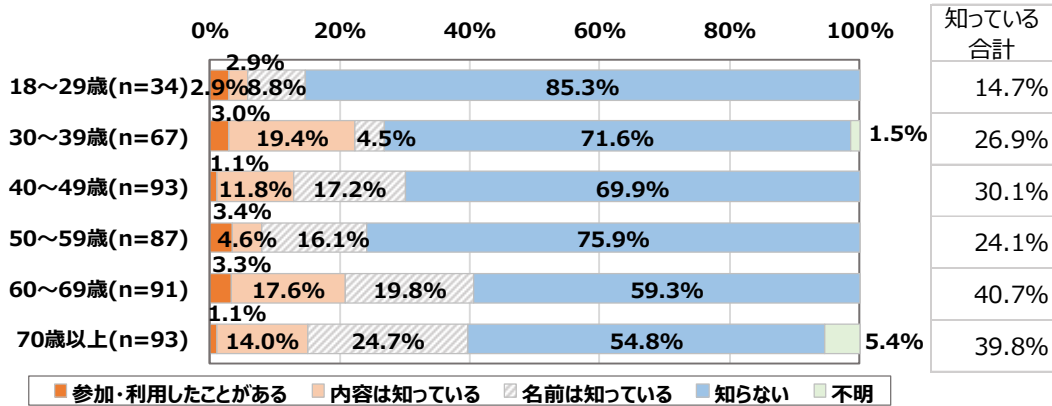
C みなと区民の森

- 『知っている合計』（「参加・利用したことがある」、「内容は知っている」、「名前は知っている」の合計）の割合は、70歳代で高く、約4割となっています。一方、「知らない」の割合は、18～29歳で約1割となっています。



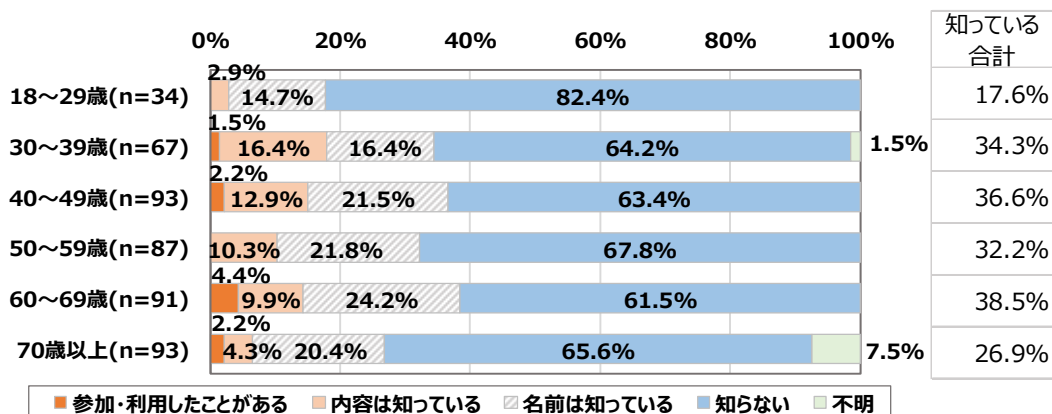
D 創エネルギー・省エネルギー機器等設置費助成制度

- 『知っている合計』（「参加・利用したことがある」、「内容は知っている」、「名前は知っている」の合計）の割合は、60歳以上で高く、4割近くとなっています。一方、「知らない」の割合は、18～29歳で85.3%となっています。



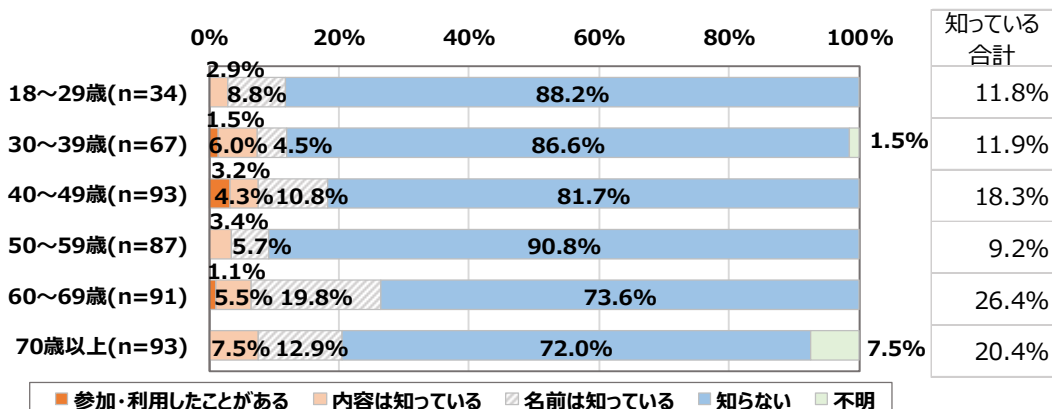
E みなとエコチャレンジ

- 『知っている合計』（「参加・利用したことがある」、「内容は知っている」、「名前は知っている」の合計）の割合は、30歳代～60歳代で高く、3割以上となっています。一方、「知らない」の割合は、18～29歳で8割以上となっています。



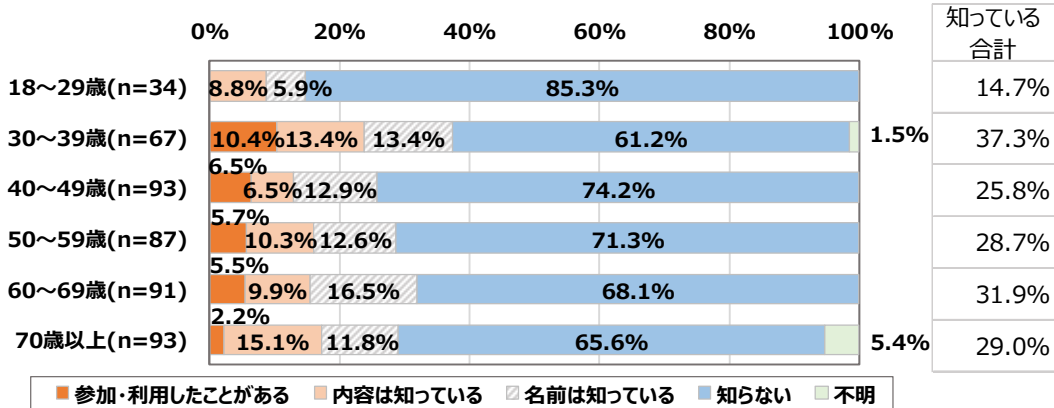
F みなと森と水会議

- 『知っている合計』（「参加・利用したことがある」、「内容は知っている」、「名前は知っている」の合計）の割合は、60歳以上で高く、2割以上となっています。一方、「知らない」の割合は、60歳未満で8割～9割となっています。



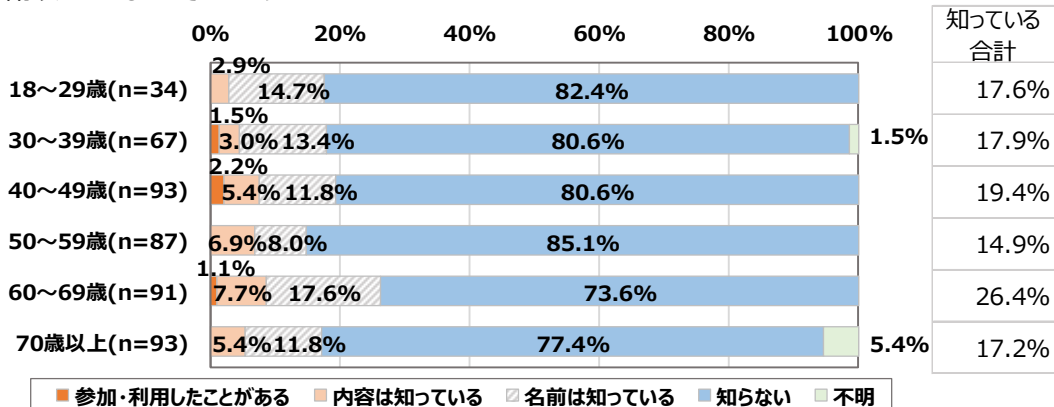
G 港区ごみ分別アプリ

- 『知っている合計』（「参加・利用したことがある」、「内容は知っている」、「名前は知っている」の合計）の割合は、30歳代で高く、約4割となっています。一方、「知らない」の割合は、18～29歳で85.3%となっています。



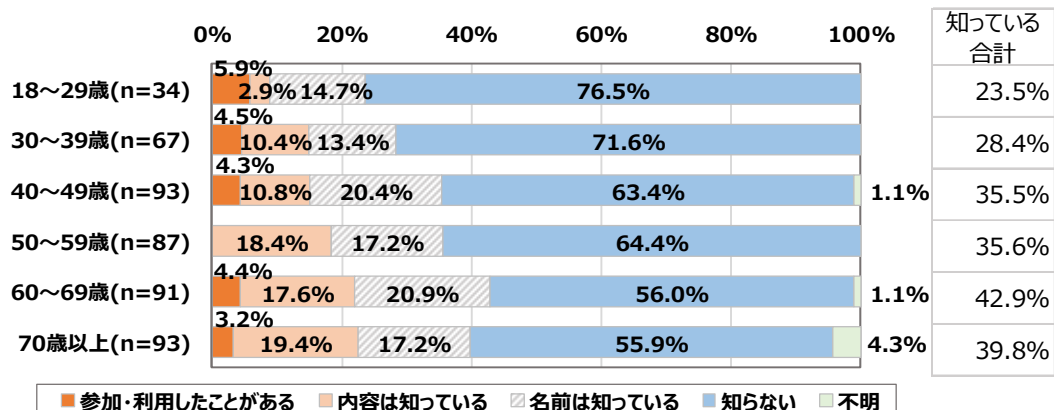
H 港区食べきり協力店

- 『知っている合計』（「参加・利用したことがある」、「内容は知っている」、「名前は知っている」の合計）の割合は、60歳代で高く、3割近くとなっています。一方、「知らない」の割合は、60歳未満で8割以上となっています。



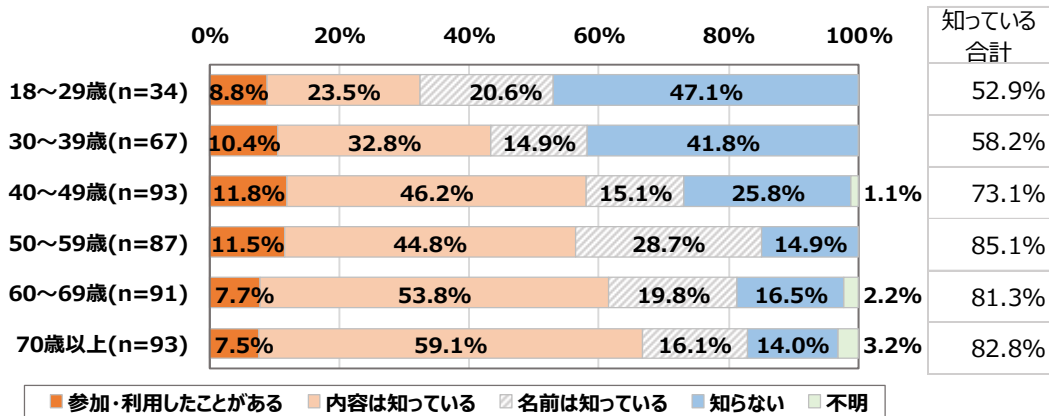
I クーリングシェルター

- 『知っている合計』（「参加・利用したことがある」、「内容は知っている」、「名前は知っている」の合計）の割合は、年齢が高くなるにつれて多くなっています。一方、「知らない」の割合は、40歳未満で7割以上となっています。



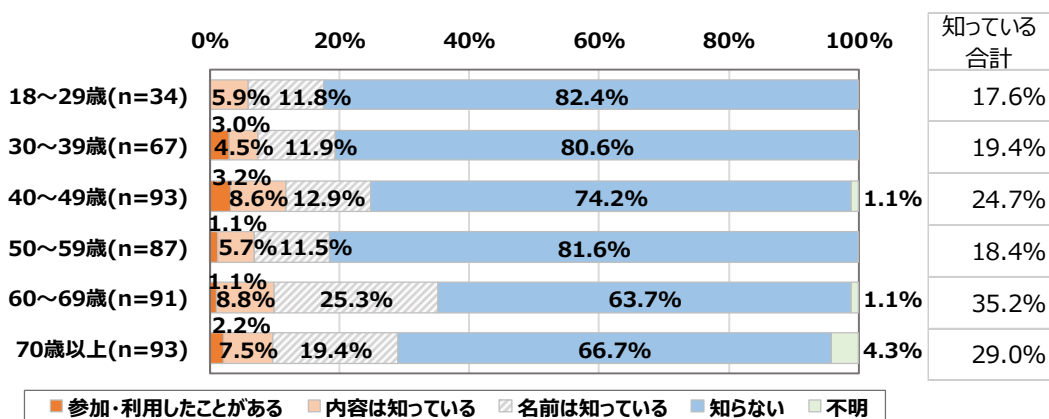
J みなとタバコルール

- 『知っている合計』（「参加・利用したことがある」、「内容は知っている」、「名前は知っている」の合計）の割合は、40歳以上で高くなっています。一方、「知らない」の割合は、40歳未満で4割以上となっています。



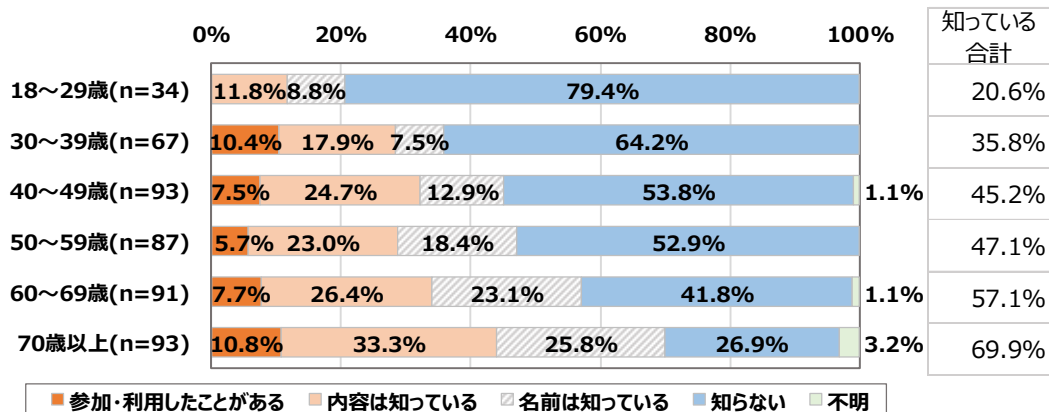
K みなとエコショップ認定店

- 『知っている合計』（「参加・利用したことがある」、「内容は知っている」、「名前は知っている」の合計）の割合は、60歳以上で高く、3割前後となっています。一方、「知らない」の割合は、18~29歳、30歳代、50歳代で高く、8割以上となっています。



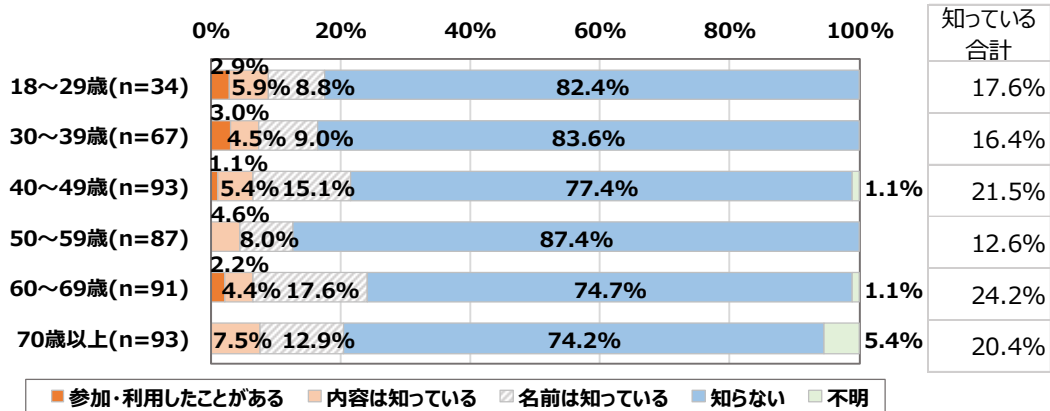
L 家具のリサイクル展

- 『知っている合計』（「参加・利用したことがある」、「内容は知っている」、「名前は知っている」の合計）の割合は、年齢が高くなるにつれて多くなっています。一方、「知らない」の割合は、18~29歳で約8割となっています。



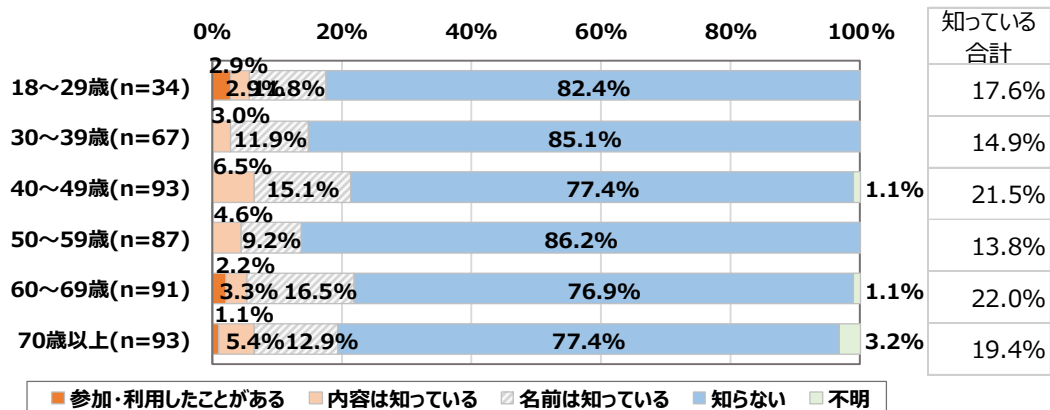
M 生物多様性みなとネットワーク

- 『知っている合計』（「参加・利用したことがある」、「内容は知っている」、「名前は知っている」の合計）の割合は、40歳代と60歳以上で高く、2割以上となっています。一方、「知らない」の割合は、18～29歳、30歳代、50歳代で高く、8割以上となっています。



N MINATO再エネ100

- 『知っている合計』（「参加・利用したことがある」、「内容は知っている」、「名前は知っている」の合計）の割合は、18～29歳、40歳代、60歳以上で2割前後となっています。一方、「知らない」の割合は、40歳未満と50歳代で高く、8割以上となっています。

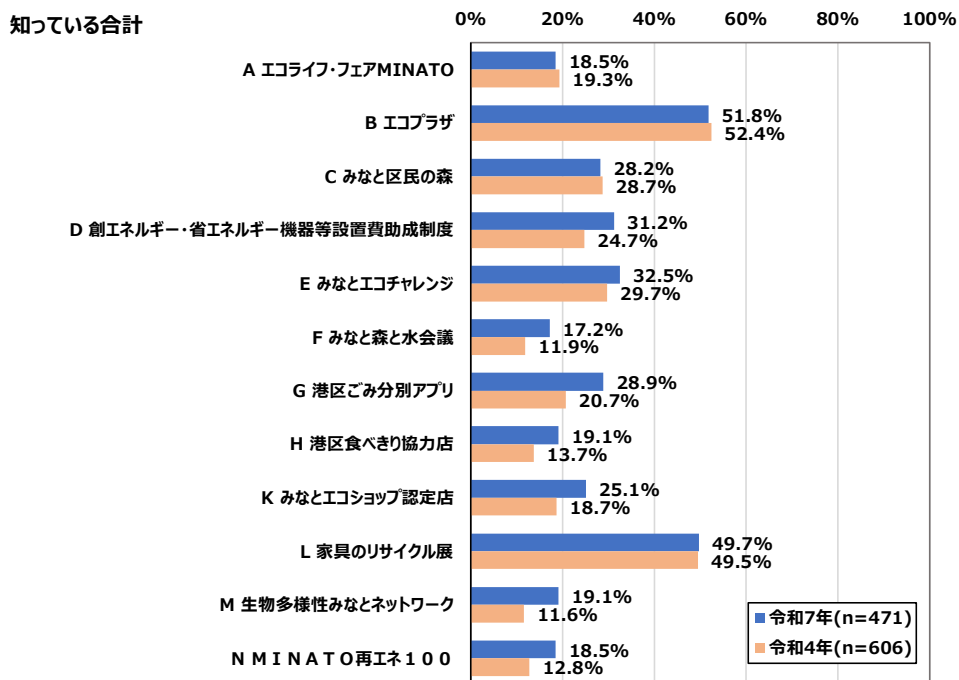


【前回調査との比較】

- 比較可能な項目について前回調査と比較すると、『知っている合計』の割合は、「A エコライフ・フェアMINATO」、「B エコプラザ」、「C みなと区民の森」以外の項目で、変化量が上昇していました。
- 『知っている合計』の上位3つは、「G 港区ごみ分別アプリ」が8.2ポイント、「L 家具のリサイクル展」が7.5ポイント、「D 創エネルギー・省エネルギー機器等設置費助成制度」が6.5ポイント上昇しています。

項目	知っている合計 (%)			知らない (%)		
	令和7年	令和4年	変化量	令和7年	令和4年	変化量
A エコライフ・フェアMINATO	18.5	19.3	▲ 0.8	80.0	79.0	1.0
B エコプラザ	51.8	52.4	▲ 0.6	46.9	46.0	0.9
C みなと区民の森	28.2	28.7	▲ 0.5	70.5	70.0	0.5
D 創エネルギー・省エネルギー機器等設置費助成制度	31.2	24.7	6.5	67.5	72.9	▲ 5.4
E みなとエコチャレンジ	32.5	29.7	2.8	65.8	68.6	▲ 2.8
F みなと森と水会議	17.2	11.9	5.3	81.1	86.1	▲ 5.0
G 港区ごみ分別アプリ	28.9	20.7	8.2	69.9	77.4	▲ 7.5
H 港区食べきり協力店	25.1	18.7	6.4	73.7	79.4	▲ 5.7
K みなとエコショップ認定店	49.7	49.5	0.2	49.3	49.0	0.3
L 家具のリサイクル展	19.1	11.6	7.5	79.4	86.0	▲ 6.6
M 生物多様性みなとネットワーク	18.5	12.8	5.7	80.5	85.1	▲ 4.6
N MINATO再エネ100	25.1	18.7	6.4	73.7	79.4	▲ 5.7

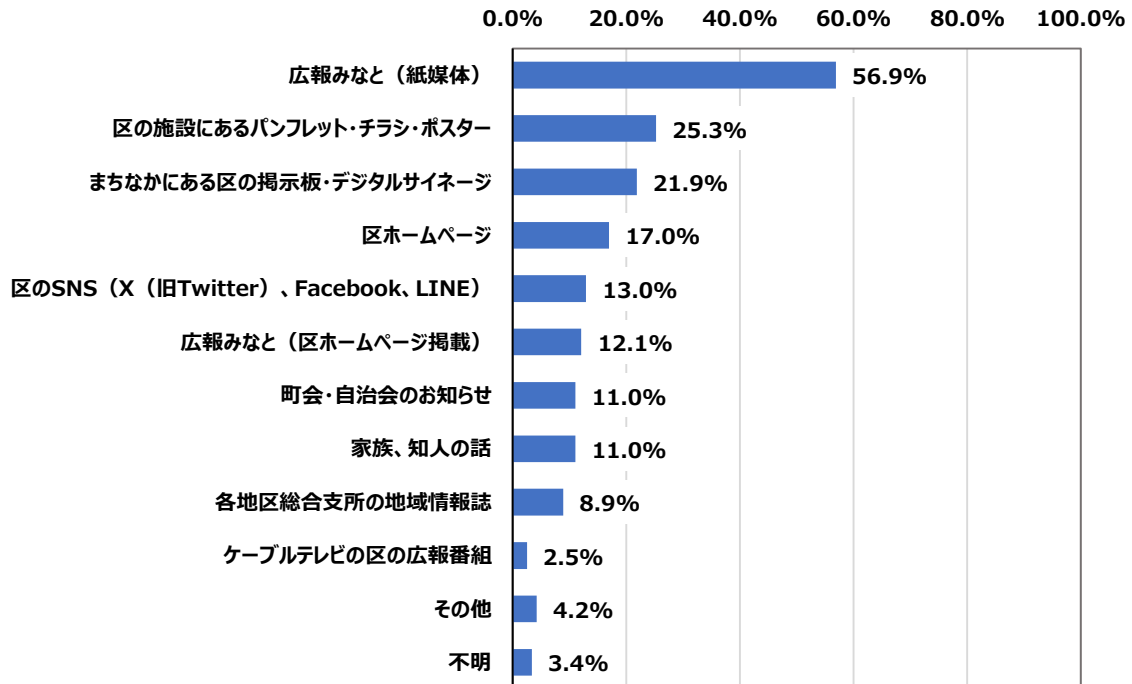
※変化量が上昇した上位3つのセルを色付けしています。



(4) 環境情報の入手方法

問 13 あなたは、港区の環境に関する活動の情報をどこから入手していますか。

- 環境情報の入手方法については、「広報みなと（紙媒体）」（56.9%）が最も多く、次いで「区の施設にあるパンフレット・チラシ・ポスター」（25.3%）、「まちなかにある区の掲示板・デジタルサイネージ」（21.9%）の順に続いています。



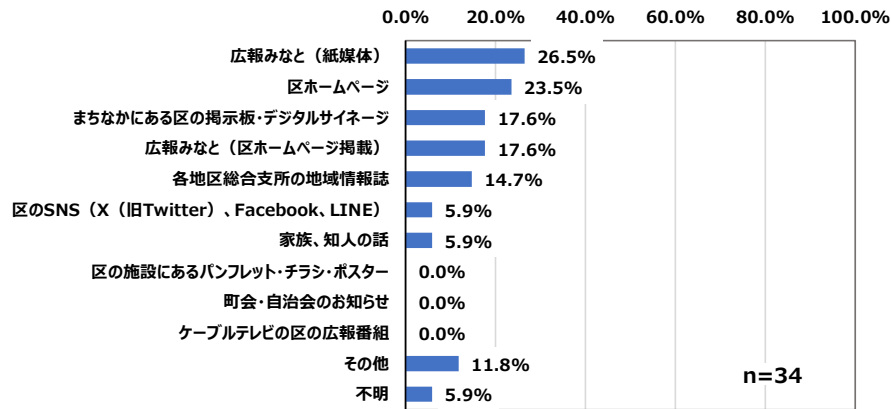
◆その他の回答(要約)

- 入手していない。知らない。（15件）
- 情報が入ってこない。目にしたことがない。（4件）
- ラインお友達。
- 学校配布のちらし
- ご近所さん
- 区の実行は全て Pull タイプであり Push ではないので、住民の認知度は薄い。私の入居中のマンションの民間の取り組みの方がインパクトがある。港区職員も頑張っていると思うが、区民に認知させたいなら、ちゃんとした戦略を立てられるパートナーを選ぶべき。
- Twitter(X)
- 保育園
- From the management in the building in which I live（住宅の管理会社）

【年齢別のクロス集計】

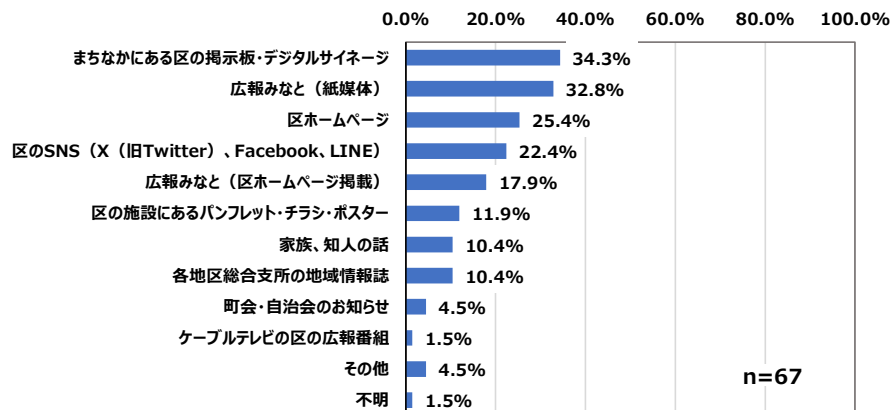
18～29歳(n=34)

- 「広報みなと（紙媒体）」（26.5%）が最も多く、次いで「区ホームページ」（23.5%）、「まちなかにある区の掲示板・デジタルサイネージ」（17.6%）、「広報みなと（区ホームページ掲載）」が同率で続いています。



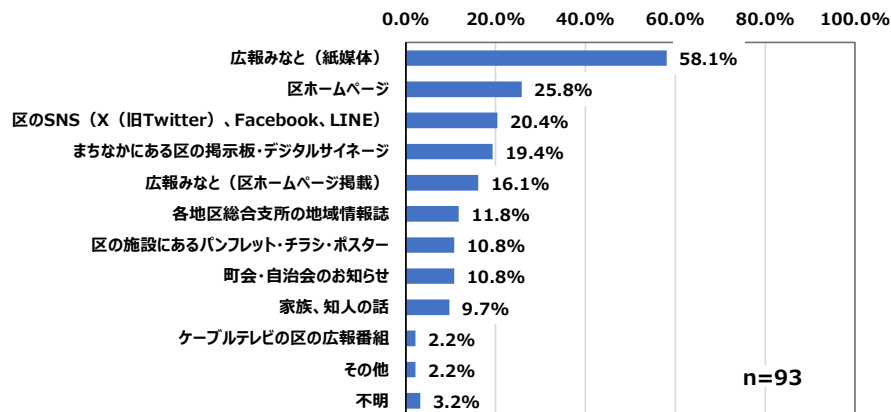
30～39歳(n=67)

- 「まちなかにある区の掲示板・デジタルサイネージ」（34.3%）が最も多く、次いで「広報みなと（紙媒体）」（32.8%）、「区ホームページ」（25.4%）の順に続いています。



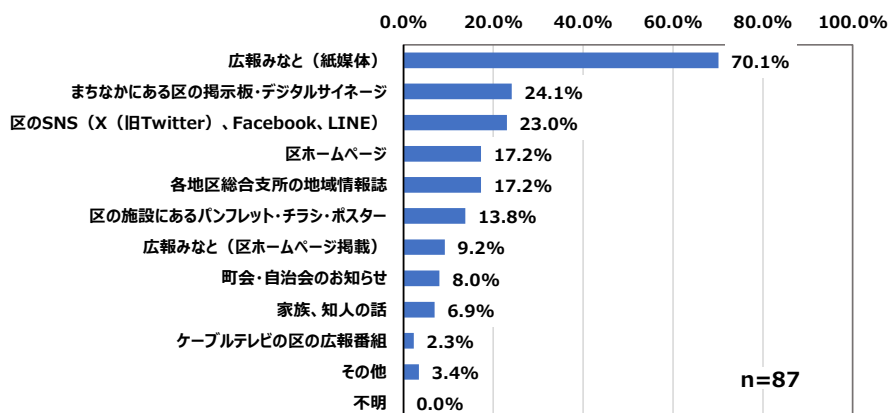
40～49歳(n=93)

- 「広報みなと（紙媒体）」（58.1%）が最も多く、次いで「区ホームページ」（25.8%）、「区のSNS（X（旧Twitter）、Facebook、LINE）」（20.4%）の順に続いています。



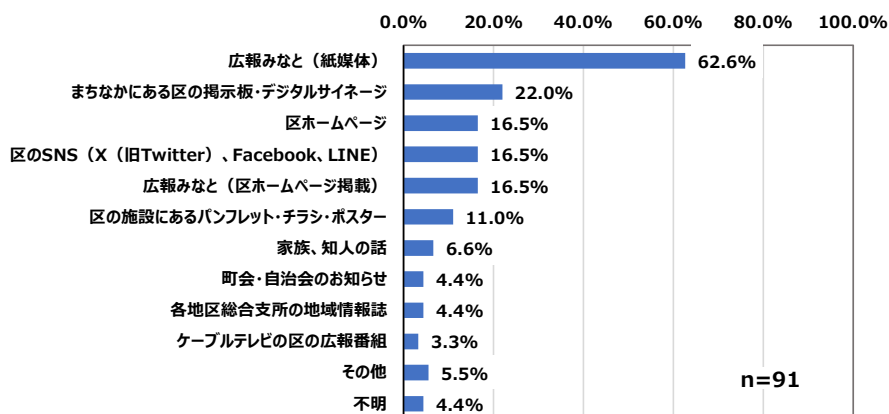
50～59 歳(n=87)

- 「広報みなと（紙媒体）」（70.1%）が最も多く、次いで「まちなかにある区の掲示板・デジタルサイネージ」（24.1%）、「区の SNS（X（旧 Twitter）、Facebook、LINE）」（23.0%）の順に続いています。



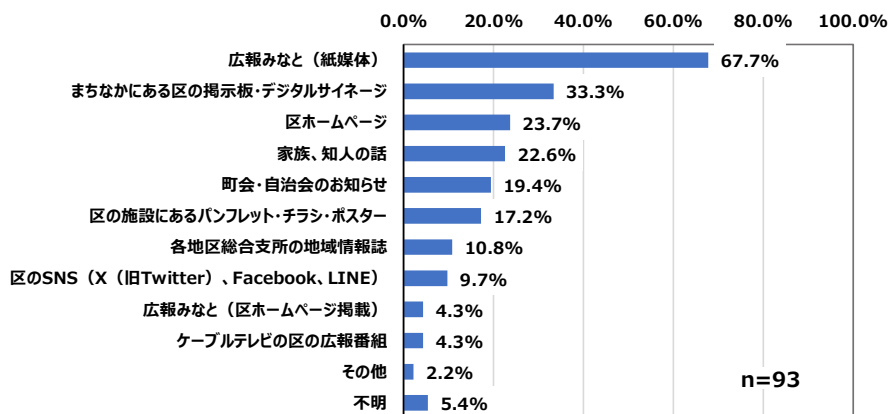
60～69 歳(n=91)

- 「広報みなと（紙媒体）」（62.6%）が最も多く、次いで「まちなかにある区の掲示板・デジタルサイネージ」（22.0%）が続き、「区ホームページ」、「区の SNS（X（旧 Twitter）、Facebook、LINE）」、「広報みなと（区ホームページ掲載）」（16.5%）が同率で続いています。



70 歳以上(n=93)

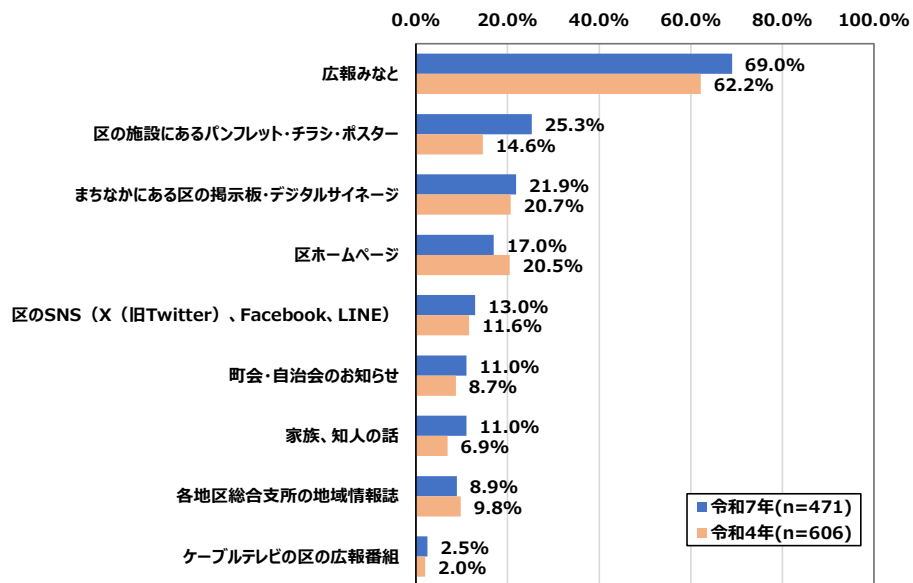
- 「広報みなと（紙媒体）」（56.9%）が最も多く、次いで「まちなかにある区の掲示板・デジタルサイネージ」（33.3%）、「区ホームページ」（23.7%）の順に続いています。



【前回調査との比較】

- 比較可能な項目を前回調査と比較すると、最も増加したのは「区の施設にあるパンフレット・チラシ・ポスター」で10.7ポイント上昇しました。次いで、「広報みなと（紙媒体・WEB）」が6.8ポイント上昇しています。一方、「区のホームページ」が3.5ポイント低下しました。

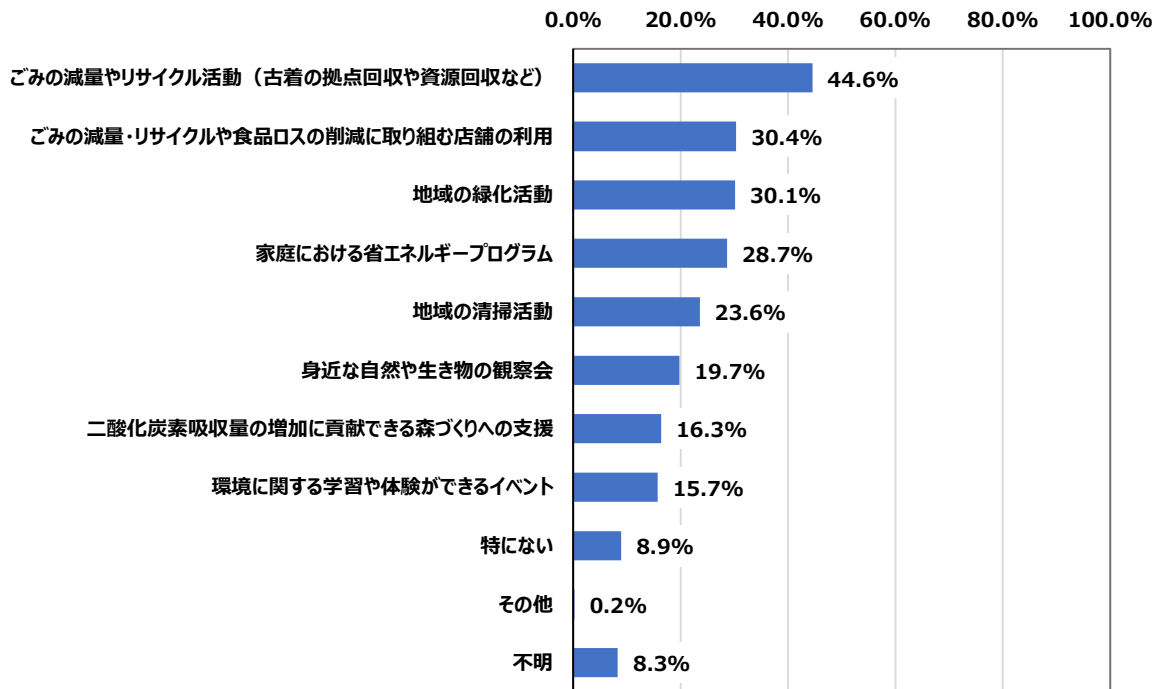
項目	令和7年 (%)	令和4年 (%)	変化量
広報みなと（紙媒体・WEB）	69.0%	62.2%	6.8
区の施設にあるパンフレット・チラシ・ポスター	25.3%	14.6%	10.7
まちなかにある区の掲示板・デジタルサイネージ	21.9%	20.7%	1.2
区ホームページ	17.0%	20.5%	▲ 3.5
区のSNS（X（旧Twitter）、Facebook、LINE）	13.0%	11.6%	1.4
町会・自治会のお知らせ	11.0%	8.7%	2.3
家族、知人の話	11.0%	6.9%	4.1
各地区総合支所の地域情報誌	8.9%	9.8%	▲ 0.9
ケーブルテレビの区の広報番組	2.5%	2.0%	0.5
その他	4.2%	5.3%	▲ 1.1
不明	3.4%	11.2%	▲ 7.8



(5) 興味のある環境活動

問 14 今後、区民と区が協力して取り組む環境に関する活動に参加するとすれば、どのような活動に興味がありますか。

- 興味のある環境活動については、「ごみの減量やリサイクル活動（古着の拠点回収や資源回収など）」（44.6%）が最も多く、次いで「ごみの減量・リサイクルや食品ロスの削減に取り組む店舗の利用」（30.4%）、「地域の緑化活動」（30.1%）の順に続いています。



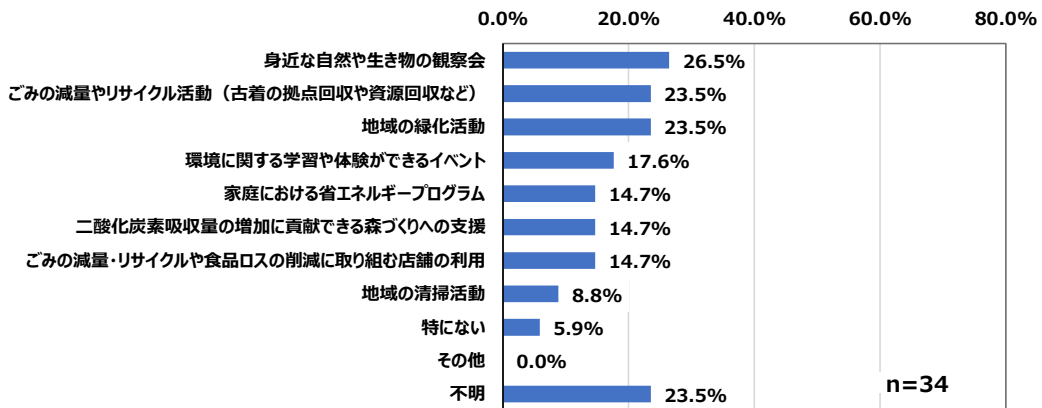
◆その他の回答(要約)

- 高齢につき。
- 羽田空港への飛行機着陸による騒音被害の防止。
- ビルやマンションへの義務付け。

【年齢別のクロス集計】

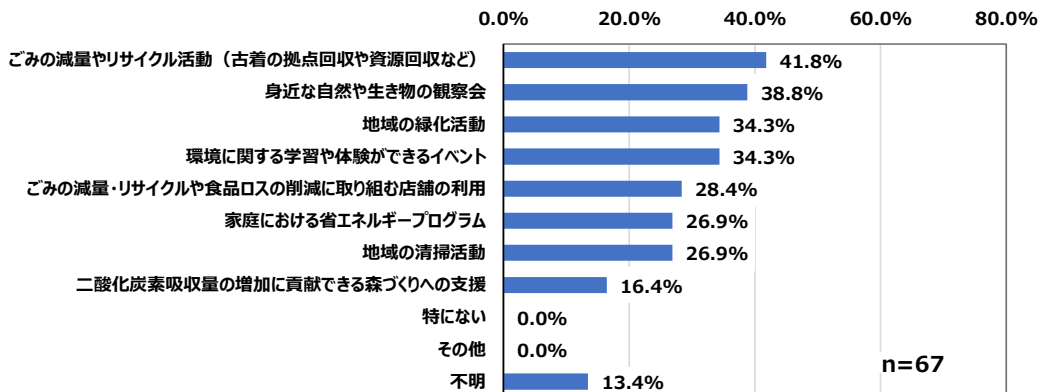
18～29 歳(n=34)

- 「身近な自然や生き物の観察会」(26.5%) が最も多く、次いで「ごみの減量やリサイクル活動(古着の拠点回収や資源回収など)」、「地域の緑化活動」(23.5%) が同率で続いています。



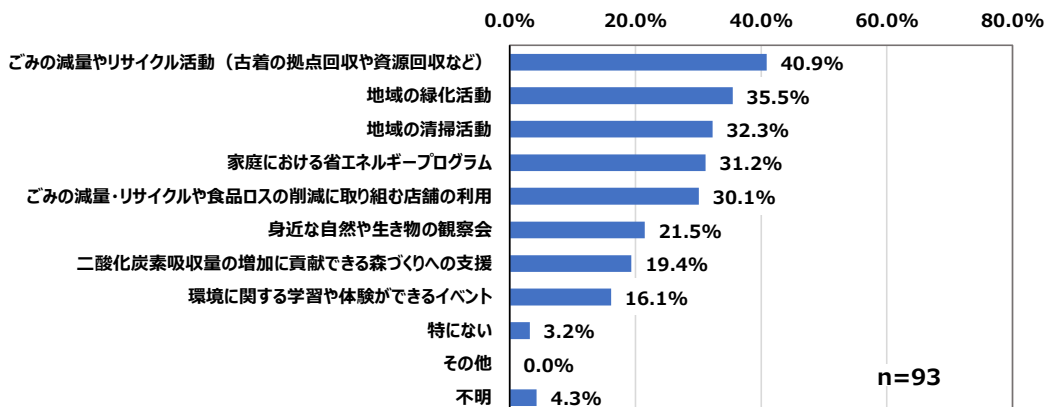
30～39 歳(n=67)

- 「ごみの減量やリサイクル活動(古着の拠点回収や資源回収など)」(26.5%) が最も多く、次いで「身近な自然や生き物の観察会」(38.8%)、「地域の緑化活動」と「環境に関する学習や体験ができるイベント」(34.3%) が同率で続いています。



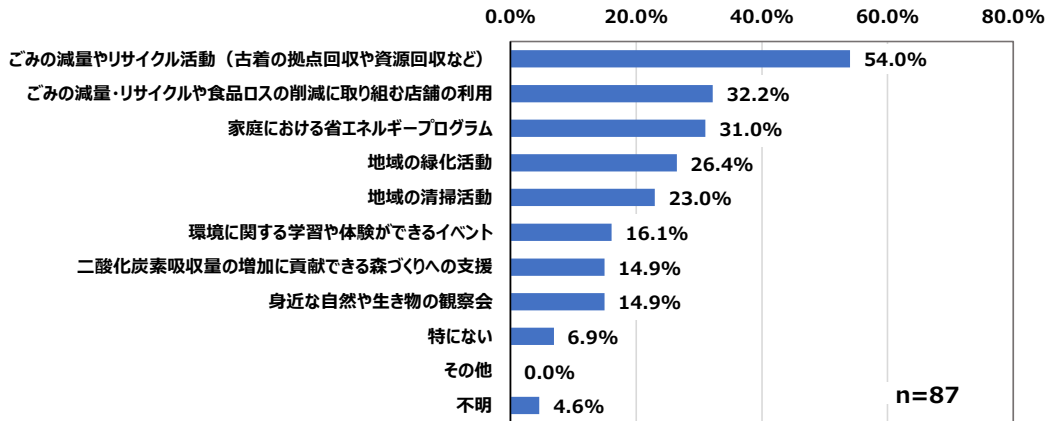
40～49 歳(n=93)

- 「ごみの減量やリサイクル活動(古着の拠点回収や資源回収など)」(40.9%) が最も多く、次いで、「地域の緑化活動」(35.5%)、「地域の清掃活動」(22.3%) が続いています。



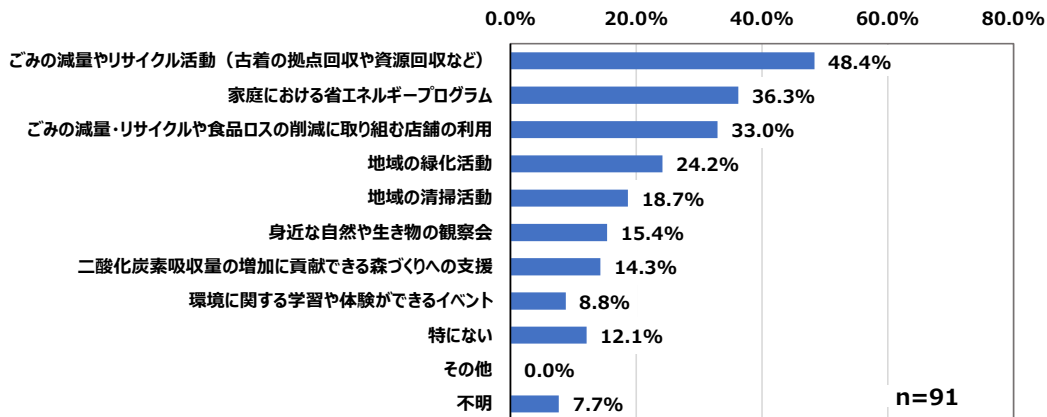
50～59 歳(n=87)

- 「ごみの減量やリサイクル活動（古着の拠点回収や資源回収など）」（54.0%）が最も多く、次いで「ごみの減量・リサイクルや食品ロスの削減に取り組む店舗の利用」（32.2%）、「家庭における省エネルギープログラム」（31.0%）の順に続いています。



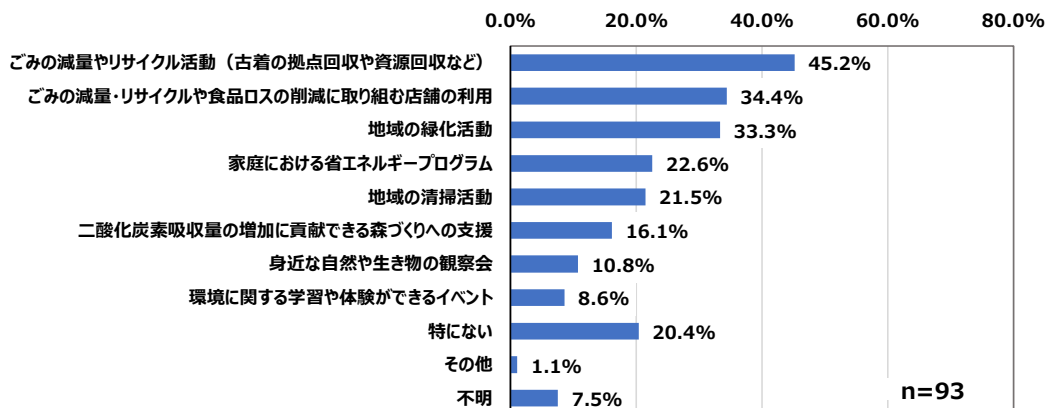
60～69 歳(n=91)

- 「ごみの減量やリサイクル活動（古着の拠点回収や資源回収など）」（48.4%）が最も多く、次いで「家庭における省エネルギープログラム」（36.3%）、「ごみの減量・リサイクルや食品ロスの削減に取り組む店舗の利用」（33.0%）の順に続いています。



70 歳以上(n=93)

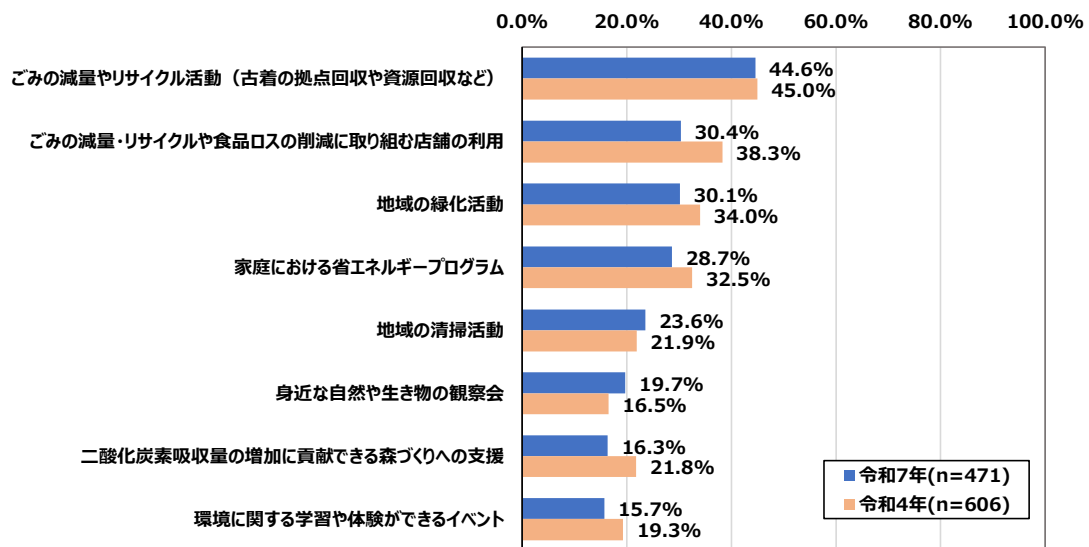
- 「ごみの減量やリサイクル活動（古着の拠点回収や資源回収など）」（45.2%）が最も多く、次いで「ごみの減量・リサイクルや食品ロスの削減に取り組む店舗の利用」（34.4%）、「地域の緑化活動」（33.3%）の順に続いています。



【前回調査との比較】

● 比較可能な項目を前回調査と比較すると、割合が上昇した興味のある環境活動は、「地域の清掃活動」と「身近な自然や生き物の観察会」であり、他の活動は割合が低下しています。最も低下したのは「ごみの減量・リサイクルや食品ロスの削減に取り組む店舗の利用」で 7.9 ポイント低下しました。

項目	令和7年 (%)	令和4年 (%)	変化量
ごみの減量やリサイクル活動（古着の拠点回収や資源回収など）	44.6%	45.0%	▲ 0.4
ごみの減量・リサイクルや食品ロスの削減に取り組む店舗の利用	30.4%	38.3%	▲ 7.9
地域の緑化活動	30.1%	34.0%	▲ 3.9
家庭における省エネルギープログラム	28.7%	32.5%	▲ 3.8
地域の清掃活動	23.6%	21.9%	▲ 1.7
身近な自然や生き物の観察会	19.7%	16.5%	▲ 3.2
二酸化炭素吸収量の増加に貢献できる森づくりへの支援	16.3%	21.8%	▲ 5.5
環境に関する学習や体験ができるイベント	15.7%	19.3%	▲ 3.6
その他	0.2%	1.7%	▲ 1.5
不明	8.3%	11.4%	▲ 3.1



(6) 自由意見

問 15 これからの港区の環境や区の実施に望むことについて、ご意見・ご要望がありましたらご記入ください。

- 港区の環境や区の実施に望むことについてのご意見・ご要望を自由記述形式で求めたところ、129人（27.4%）の方から回答があり、一人で複数の分野の意見を記入している場合はそれぞれ1件として数え、延べ件数は175件となりました。記入内容を分類し、以下の表にまとめました。

分類	件数
総計	175
生活環境	(計) 74
美化、マナー	27
(うち 路上喫煙対策)	17
(うち ごみ)	13
(うち ペット)	3
まちづくり	17
公害防止 (化学物質・騒音・振動・悪臭・水質汚濁)	14
交通、道路・歩道の環境	11
路上駐車、放置自転車	5
自然・生物多様性	(計) 22
みどり (公園・緑地・街路樹)	14
河川、水辺	3
生物多様性・外来生物対策	3
獣害	2
循環型社会	(計) 12
ごみの分別・収集、マナー、カラス対策	7
資源の有効利用 (リユース・リサイクル)	3
ごみの減量 (リデュース)	2
気候変動対策	(計) 13
気候変動への適応	6
再生可能エネルギー	3
省エネルギー	2
電気自動車 (EV) 等	2
普及啓発・環境活動	(計) 29
啓発・情報発信	14
住民参加、協働	12
ICT、AI 活用	2
環境教育・環境学習	1
環境全般	(計) 6
その他	(計) 19

【主な意見(要約)】

生活環境について

〈美化、マナー〉

- 路上喫煙・歩行喫煙の多さへの苦情と厳格な取締り要望（禁止エリアでも常態化）。
- ポイ捨て（駅周辺、公園、繁華街）への対策強化。
- 観光客、区外通勤者などルール未周知層へのマナー周知徹底。
- ごみ箱の設置（駅、公園、繁華街）。
- 犬のフン未回収などペットマナーの改善。

- タバコについては強く改善を求めます。路上喫煙多すぎです。禁止エリアなのに当たり前のように吸っている状態です。
- ルールを守らない（あるいは使い方がわからない）観光の方によって、公共のトイレやせっかくの設備が壊されたり汚されたりしないよう、維持してほしい。
- 路上、歩行喫煙、ポイ捨てがかなり多いです。コンビニ前の座り込みでの飲食、喫煙、ペランダでのタバコもかなり迷惑。また、路上駐車が多すぎると思います。"
- 路上・私道（コインパーキング）等、公共の場での喫煙が目立ってきているよう感じる。パトロールの方々に注意喚起できるような条例が必要では。一時の千代田区のような反則金制度も必要ではないかと思えます。巡回で「吸いながら」を処理するだけではなく、定点（苦情等がある場所）監視も必要と思えます。（10:00・15:00・17:00 頃が、喫煙タイムで、企業の人が決まった場所で喫煙をする。）
- ゴミのポイ捨てはシンガポールの法律みたいに処しても良いと思えます。
- 町や公園にごみ箱がないため、自宅前や自販機のゴミ捨てがひどい。カラスやハトなどが、早朝、飲食店前のゴミをあさり道路が汚い。インバウンドの旅行客のゴミなども深刻な状況。ごみ箱の設置が望まれる（バンクーバーなど 50m 位ごとにゴミ分別有）。
- 品川駅付近ではゴミ箱がないため、ゴミが捨ててあり公園が汚い。昼を食べる所、ゴミ箱がなく捨て放題。近くのコンビニで受け入れ、お店の人が近くを清掃してください。どの駅も周りはゴミばかり。小さな公園も。
- みなとタバコルールについて、良い活動です。新橋、田町等、駅の周囲にタバコスペースでポイ捨てが減っている。タバコを拾うパトロールの方が周遊されていて、タバコのポイ捨ても減っているというより、取り除いている活動はとても良い。ただ、駅のブースは（特に田町）臭いがもれて、吸わない人への煙の影響がある。場所を変更してほしい。ものすごいタバコ人口で、スペースが少なすぎる。人が通行しない所へ移動すべきです。
- ここ 1 年くらい、外国人が路上喫煙しているのをたまに見かけるようになった。ルールが外国人に伝わっていないのでは。
- 公園などに朝散歩に行くと、空き缶やタバコの吸い殻が目につきます。夜間に公園利用者が行ったものと思えます。
- 歩きタバコ、ゴミのポイ捨て、ゴミ捨て場への不法投棄、六本木エリアに住んでいますが、匂いもひどいものがあります。もっとキレイな街になるよう取り組みがあったらいいと期待します。
- 犬のフンを片付けなかったり、してはいけない所でオシッコをさせる人を取り締まってほしい。とても迷惑しています。捨て犬や捨て猫の保護活動を行政が大きく補助してほしい。不幸な動物をなくしてほしいです。
- 路上に犬の糞が多すぎる。特に白金、白金台エリア。これまで日本各地 10 回近く転居しているが港区が一番酷い。
- 「犬の散歩の前に家でトイレを済ませてきましょう」という看板についてです。内容の実現が大変困難なため、後始末する為の水を補充できるように水道設備を増やしていただくと助かります。"
- 路上喫煙禁止の強化徹底を求めます。その為に、全てのタバコの港区内での販売・使用の禁止。違反販売者へ 100 万円以上、使用者へ 10 万円以上の罰金を課す。喫煙所の即時撤廃。を強く求めます。
- 不法侵入者、不法侵入車両、不法投函物の徹底排除を求めます。25 年以上に渡り様々な対策をしても一切これらの犯罪がなくなりません。犯罪防止の為、これらの違反者に 10 万円以上の罰金を課す事を求めます。同時に、犯罪防止の為の、看板、違反車両のタイヤに設置する逃亡防止器具等の無料配布を求めます。
- 集合住宅居住者のゴミ分別条例違反、喫煙条例違反、騒音違反、ペット飼育違反等の違反者への 10 万円以上の罰金を課す事を求めます。同時に管理会社にも 100 万円以上の罰金を課す事を求めます。

〈まちづくり〉

- 再開発・高層化による風・暑熱・景観悪化への懸念。規制強化や低層・省エネ義務付けの提案。
- 緑の大型空間の確保。
- 電線地中化の推進。

- 港区は安全で街がきれいに整備されていて、住みやすいと思えます（都心部なのに緑が多く、きれいに整っている）。
- 電線の地中化。

- 使用していない土地が多く、有効活用できていない。"
- 大きなビルが多すぎる。排熱により、人が住みにくい町となってしまった。これ以上大きなビルを建てないような規制強化をしてほしい。
- 老朽化したビルは建て直すのを義務化し、最先端の省エネ性能かつ低層を義務化しなければならないと考える。
- 立ち並ぶビルにより風の通り道が塞がれ、数十年前まではあった風も吹かなくなった気がする。人間活動と自然活動のバランスを考えなくては思う日々である。
- 高層ビルをこれ以上建てない（風の通り道を防ぐことをしないように、建築の制限を計画的にすべき）。
- 周りの開発により電線ばかりが太くなり、多くなり、電磁波が人体に影響していることが心配です。
- 開発のビルがいくつかできて景観や日当たりが悪くなり、住環境が非常に悪くなった。
- 田町駅周辺では開発が進み、コンクリートジャングルになってしまうのではないかと懸念しています。利益を追求するだけでなく、住民や通勤者にとって、心地よい空間を作ることが港区の持続可能な成長のためには重要だと思います。
- 港区は高層ビル、高層マンションが多いですが、これらが住んでいる住民の日頃の生活に必要なものなのか？ 日常生活のしにくさにつながっていないか？ 今一度考えていただきたいです。
- 商業の活性と生活・自然環境の保全が両立できる場所になったら素敵だと思います。
- 緑が多く、清潔で安全な街にするための施策をお願い致します。
- 最近大型のビル(マンション)が多くなり、緑の数が減っている。いかにも人工的に作られた緑、庭ではなく芝公園だったり明治神宮のような大型の緑がもっと欲しい

〈公害防止（化学物質・騒音・振動・悪臭・水質汚濁）〉

- 夜間の車・バイク騒音の徹底的な対策を要望。
- 下水・悪臭の改善。
- 羽田新飛行ルート等の航空機騒音への懸念。

- 夜、バイクや自動車からのひどい騒音に大変つく感じています。是非、徹底的に取り組んでほしい。
- 夜になるとカックつけてエンジン吹かし運転する野郎がいます。迅速に処してください。迷惑ですし、なにより誇り高く誉に満ちた港区が穢れてゆくような気がしてたまりません。
- お台場の夜のバイクの騒音がひどいので、対応をお願いしたいです。
- 西麻布の浄化槽の二オイを軽減してほしい。
- 西麻布の飲食店の下水の匂いが店内まで伝わる人が多いです。改善されると良いと思います。
- 雨天時の下水の臭いがひどいので対策をしてほしい。
- 羽田空港へ行く航空機の進路を変更してほしい。羽田空港飛行ルート固定化の回避（区長の公約では）。
- 港区上空を飛行する羽田新飛行経路の運用を停止し、元の海上ルートへ戻してください。ひどい騒音と大気汚染は正しく公害です。昨今は墜落、炎上事故が頻発していますし、轟音を聞いた時に事故を起こすのではと不安と恐怖に怯え、強いストレスを感じます。
- 騒音が凄くて窓を開けられない。従って家の中が換気出来ない。休息/休眠出来ない。勉強出来ない。などなど落ち着いて生活出来ない。
- これこそ最大の環境破壊！ とにかく上空飛行を止めて欲しい。
- 住宅地上空を回避するルートは幾らでもある。知恵を絞って、真面目に考えてください。それが行政の仕事！
- 屋上エアコン室外機、排気ダクトの整備不良により、騒音を出している例がある。区の担当に連絡を入れるが、対応しない事業者もいるので、基準を超えた場合の強制力を行政として考えてほしい。
- 区民の命を守ってください。区民の静かで安全安心な健やかに暮らせる環境を返してほしいです。
- 工事の騒音管理。

〈交通、道路・歩道の環境〉

- 自転車レーンの安全性向上、歩行者との分離。
- 狭い道路の歩行者環境の改善。
- モペット、ファットバイクや電動自転車、LUUP等の運転マナーの取り締まり。

- 歩道での自転車の走行管理。ビクビクしながら歩道を歩いている
- 交通安全の強化（自転車の歩道における走行）。バリアフリー（天現寺橋など）。
- 北米の自転車推進都市のように、自転車走行（歩行者の快適性を損なうことのない）しやすい道路、街づくりを希望します。自転車専用レーンを車道脇に作ったとはいえ、車が一時停止していることが非常に多く、その度に道路の

真ん中近くまで出て走行しなければならず、大変危険と感じています。港区は歩道も狭く、歩行者としても自転車利用者としても、快適ではありません。

- 第一京浜など片側3車線など本当に必要でしょうか。1車線減らし、その分歩行者と自転車が安全に快適に通れる道とするほうが有意義に思いますが。平日は歩道もビジネスマンが大変多く、車中心の街づくりから変化していかなくてはならないのでは、と感じます。
- 自転車専用路が設置されたが、変わらず歩道を走る自転車に轢かれそうになる。歩道の安全を確保してほしい。
- 麻布地区は道路が狭く、一通の道路も多いのですが、歩道がなかったり、一部だけだったりです。子どもが通学で通るが、タクシーや車がスピードを出して走っています。車の速度制限の標識もなく、とても危ないです。日赤通りは一通ではありませんが、歩道がとても狭くて危険です。改善していただきたいです。
- 区内をパトロールしている車で歩道にはみ出している木や店先の椅子・看板等、注意してほしい。
- 道路がポコポコしているので整備してほしい（港区全体的に）。
- モペットの取り締まりを強化してほしい。
- ファットバイクや電動自転車、LUUPの運転に身の危険を感じる。規制や歩車分離に取り組んでほしい。

〈路上駐車、放置自転車〉

- 路上駐車、放置自転車の厳格な撤去・取締り。

○路上駐車が多すぎだと思います。"

○放置自転車等もう少し厳しく取り締まってよいと思う。他の区では買物している数分間で持って行かれたことがある。

○近所に投棄された原付バイクが何カ月もそのままになっているので、今後早期に撤去されるようになると思います。

○駐停車違反車両の徹底排除を求めます。違反監視員の大幅増員。違反車両へ10万円以上の罰金を課す。

自然・生物多様性

〈みどり（公園・緑地・街路樹）〉

- 樹木の維持管理（剪定周期、通行支障、落雷・倒木リスク）強化。
- 猛暑・ヒートアイランド対策としての緑化・土の復活・日陰の確保。
- 子どもの遊び場や安らぎの空間の充実（公園機能の拡充）。

○区内の樹木の維持・管理について。古木が多く目立つようです。剪定のサイクルも長く、少なくなって、枝葉が伸びて通行の障害になっている場所を見かけます。最近の異常気象で落雷の「側撃」や「倒木」も心配されるところです。ぜひ区内の樹木の健全度を確認していただきまよう、お願い申し上げます。"

○この夏、区内を歩くときはみな日陰を選んでいた。当然のことかもしれないが、緑の大切さを、その行動から改めて思うこととなった。立ち並ぶビルにより風の通り道が塞がれ、数十年前まではあった風も吹かなくなった気がする。人間活動と自然活動のバランスを考えなくては思う日々である。

○区内の緑化を増やし、夏期の気温上昇に対策を講じてほしい。土の復活。

○温暖化対策として緑地（木）を増やして、アスファルトを減らしてほしい。

○緑をもっと増やしてほしい。これ以上木を切らないでほしい。

○緑化を積極的に企業といっしょにもっと取り組んでいただきたいと思います。

○公園など子どもの遊べる場所が都会は少ないなと感じます。会社員の方もホッと休憩でき、子どもも遊べる、見守る親たちもリラックスできる空間ができてほしいです。

〈河川、水辺〉

- 古川の水質・悪臭の改善。
- 運河の水質改善。

○古川の水質改善をお願いしたいです。いつも近くを通っていますが、悪臭と見かけが非常に良くないです。

○私が住んでいる芝浦地区は、運河があり、公園もあり、心地よい環境だと感じっていますが、運河の水質向上や周辺環境の整備を進めることで、より地区の魅力や価値の向上につながるのではないかと、期待しています。

○運河の水質改善。

〈生物多様性〉

- 希少種（例：ニホンアカガエル）保護や観察会など具体策の実施要望。
- 池の外来種捕獲・管理など外来種対策の推進。

○高輪公園内の池に、東京都区部絶滅危惧種 IB 類にランクされているニホンアカガエルという希少なカエルが産卵・

生息しています。アズマヒキガエルの幼生と共に来園者に大量に捕獲されてしまっています。2022年、2023年と、公園を所管される高輪地区総合支所まちづくり課に、厳重な保護施策をお願いしたものの、小さな三角コーンとパネルで「おたまじゃくしを持って帰らず見守りましょう」との喚起のみ。親子連れはパネルを無視して、何ら効果をあげていません。このままでは確実に絶滅してしまいます。港区が本気で生物多様性にアクションを起こして取り組むつもりがあるのか？はなはだ疑問です。専門家（両生類）に依頼し、来年1～2月の産卵期までに、有効な保護策＝2～6月までの池の立入禁止策、そしてそれこそエコプラザのような施設を活用、主催で定期的におたまじゃくしの観察会を実施するよう、ご検討いただけないでしょうか？何卒よろしく願いいたします。

○有栖川公園など池のある公園の環境保全を続けてお願いします。ミシシippアカミガメや鯉などの外来生物が未だ蔓延っているので捕獲し、施設などで飼育してください。費用はもちろん区議会の予算で頑張ってください。

〈獣害〉

●鳩、カラス、ネズミ等への対策。

○ハト害をどうかしてください。

○からす、ねずみの対策。

循環型社会

〈ごみの分別・収集、マナー、カラス対策〉

●分別回収品目の追加。

●分別案内の具体例の充実。

●分別マナーの向上。

●カラス被害防止（黄色ネット100%化、重点箇所の掲示・巡回）。

○植木鉢程度の土の回収、依頼。

○以前のように乾電池を回収していただけると助かります。

○区内のボタン電池の回収拠点が未整備であり、今後、区のゴミ回収の品目に加えるべき。

○ゴミの分別方法の案内について。ホームページに分別の具体例が少ない。生活の中で発生したごみが何ゴミかすぐにしらべられるよう記載網羅してほしい。

○外国人の多い集合住宅なので、住民の意識が低い。

○からす対策を強化してほしい。からすがごみの日にごみをあさって荒らしている現場をよく見かける。環境的にもとても汚く不衛生なため改善してほしい。東京都と連携できること、港区としてできることをできる限り対策をもっと取ってほしい。

○「みなとからすプロジェクト」案

・東京都と連携して、港区からからすを減らす取り組みを強化して、その結果をHPで公表する。

・黄色いネットを使用していないごみ出し現場をパトロール調査して、黄色いネット100%化する。

・からすがごみを荒らしている現場を特定して、その現場に貼紙などして注意喚起・改善を図る。周辺住民にも広報みなとや区HP、チラシを作成して配布するなど啓蒙活動を行う。

・マンション管理人がいる現場はきちんと整理されているが、住民が個々にごみを出す現場はどうしてもからすに狙われやすいので、これを徹底的に改善できるよう行政主導でお願いしたい。

〈資源の有効利用（リユース・リサイクル）〉

●回収拠点の利便性向上。

●リユース／リサイクルの案内充実。

○家具や古着の回収の拠点を増やすなど、利便性を良くしてほしい。

○古着などのリサイクル回収を気軽に行えるように拠点を増やして欲しい。区の施設にあるのは知っているが、開館時間内に行けない。

○リサイクルの商品、また粗大ゴミで引き取らないものの処分方法のインフォメーション。

〈ごみの減量（リデュース）〉

●過剰包装の削減やばら売り拡大でのごみ減量。

○スーパーの過剰包装が減らせたら、もう少しゴミ減量になるのではないのでしょうか？まだまだ過剰すぎているように思われます。商品によってはバラ売りが増えたら、減らすことができると考えます。

○もっとゴミを減らす活動に取り組んで欲しいです。

気候変動対策

〈気候変動への適応〉

- 暑さ対策。
- インドアスポーツの普及。
- ゲリラ豪雨対策。
- 防災情報伝達方法の改善。

○夏はこれからもっと暑くなりそうなので、暑さ対策をしっかりやってほしい。エアコンがないと死にます。

○夏の異常な高温化により、外競技の減少を見込んで、インドアスポーツ対応の枠をもう少しつくてほしい。NBA の日 本人選手活躍でバスケットボール人気も高まっているので、公園などの増設も希望。

○ゲリラ豪雨への対策。

○下水と雨水のパイプを分けて、大雨の時に下水を運河に流さないようにする。

○防災のアナウンスが風雨で聞こえないので、各戸で聞こえるようなシステムがあればよいと思う。先日の豪雨、雷の際に内容がわからなかった。

○災害へのあらゆる対策を希望します。

〈再生可能エネルギー〉

- 再エネ普及を求める声と、太陽光パネル（廃棄等）への懸念が併存。

○再生可能エネルギーの普及。

○再生エネルギーを産出し、情報発信基地となるようなモデル地区となることを期待します。

○太陽光パネルはいずれゴミになり処理が大変になるうえ、環境、自然破壊しているので即中止するべき！！

〈省エネルギー〉

- 省エネに配慮した建築への義務付けや規制。

○老朽化したビルは建て直すのを義務化し、最先端の省エネ性能かつ低層を義務化しなければならないと考える。

○タワーマンションに在住。安全対策としてベランダに洗濯物を干すことが禁止されているため、電気(風呂場乾燥機や洗濯乾燥機)を使って洗濯物を乾かしている。特に夏場は勿体無い。区民個人レベルへの啓蒙も良いが、もっと大きなところへ働きかけをして欲しい。例えば、区内タワーマンションは洗濯物が飛ばないように柵を設けることを規則化するなど、区でしかできないことがあると思う。

〈電気自動車（EV）等〉

- 集合住宅での充電設備不足、月極・立体駐車場での対応要望。
- 公用車、公共バスの EV 推進。

○電気自動車を購入したいが、集合住宅で充電可能な駐車場を備えていない。また、立体駐車場で充電可能な駐車スペースがあったとしても重量オーバーである。今後、電気自動車に移行していくと、充電可能な駐車場が不足するのではないかと思います。区で何か対応が可能でしたらお願いしたいです。

○公用車、公共バスの EV 推進。

普及啓発・環境活動

〈啓発・情報発信〉

- 活動情報が届きにくい→HP・紙媒体・メルマガなど「周知の“見える化”」を強化。
- 企業・商業施設での掲示や連携促進。
- 集合住宅や通勤・通学者への啓発。
- Tree Map 等の見える化（街路樹データの公開・活用）提案。

○環境問題に関心があるが、区が取り組もうとしている事が区のホームページや区の広報誌で伝わって来ない。自分の認識の問題もあると思うが、環境活動の取組みの情報入手をどうしたら良いか、よく分からない。

○環境に関して自ら情報を取らないとほぼ入ってこない状態。アンケートを行うまで知らない活動ばかりだった。

○情報がほしいです。子どもと楽しく活動できるイベントなどがあれば参加したい。自然に関するボランティアなど。

○情報発信を多くしてほしい。紙媒体であれば必ず目に触れるので。

○参加したいと思う催し物を知ることが少ないので、工夫が必要ではないかと考えます。

○目で見、読んで知るだけでなく、（声）でボタンをおしたら聞こえてくる、知らせる、簡単な声で心に残る、知らせることいいと思います。

- 色んなことをしてることは分かりましたが、区民から情報を取りに行くなんてあり得ないと思うので、強制的に視認できる場所に情報を置くとか、メルマガに登録させるとか、認知度を高める工夫をして頂くと良いと思います。
- 行政区として取り組む以上は、リベラリズムの風潮を背景としたアクションではなく、確固たる宗教観をもって発信すべきだと思います（生物多様性や再エネをそもそも維持すべきでは。知性より価値観だと考えるため）。
- 区民の多くは環境問題に取り組む専門の業者・団体・研究者ではないが、区や都として本腰を入れて取り組まなければならないテーマであり、区民や港区にある企業で働く人の協力が必要だと思う。そのためには、港区内のスーパー・コンビニ、駅、商業施設内などに、実施している活動の掲示をして、広報してみてもどうでしょうか？
- 今回のアンケートで、区の活動を知る機会が少ないと感じました。商店街の活動が比較的活発なエリアだと思うので、もう少し見えるような巻き込み方ができると、地域にも伝わるのかもしれない。
- 集合住宅が多いので、集合住宅でも出来る取り組みがあると良い。
- 港区が鋭意努力されておられるのは理解しているが、港区への通勤、通学者（港区外在住）への啓蒙が大変だと思います。
- みどりの見える化。みどりの存在を高く位置づけ、区民がいつでもその状況を知ることができる、みどりの見える化【Minato City Tree Map】を提案する。例えばニューヨークの「New York City Tree Map」は、管理するすべての街路樹の、樹種、幹の直径、大気汚染物質除去量などを確認でき、アプリで誰もが利用できる。ボランティアによって毎日更新され、生物学的なデータも計測され、一本一本の樹木がどれだけ空気汚染を軽減し、水害を防止し、CO2 を減らし、エネルギーが節約されたかが表示される。こうしたシステムを導入することで、二酸化炭素削減に対する意識の向上や、街路樹の保護意識の高まりが期待できる。

〈住民参加、協働〉

- 参加しやすい時間・場所（平日夕方・早朝、居住地近く）での開催を希望。
- 宗教色/クローズド感など参加障壁の緩和。
- 企業等と連携した「見える化」による参加促進。

- 勤務者が思い立ったときに参加できる活動が、居住地内の身近な所で開催されると参加しやすい。夏季の夕方以降や早朝などを含め。
- フルタイムで働いているのでほとんど参加したことがありません。土・日は疲れているので参加しようと思いません。協力しなくてはならないとわかっているのですが、現在ではできない状態です。何か良いアイデアがあったらと思っています。
- 皆で港区を明るく、楽しく、住みやすく、安心・安全の港区！協力します。
- このようなアンケートを通じて区民を積極的に巻き込んでほしいです。月 1 位なら区へ貢献していきたいと思っています。
- 後期高齢者で老々介護者ですので、行事に参加したくても困難です。
- 色々な活動があることがわかりましたが、参加しづらい。
- 地域のイベントに宗教色の強い方や、一定のメンバー以外を受け付けられないような流れがあり、参加しづらい。
- 皆で港区を明るく、楽しく、住みやすく、安心・安全の港区！協力します。
- 取組みの「見える化」に対応できる企業を選択して合同で取り組むことが重要。

〈ICT、AI 活用〉

- デジタル化・AI 導入・ペーパーレスの加速。
- オンライン化での手続き迅速化。

- ペーパーレスの推進、オンラインへの移行。
- デジタル化や AI 導入を進め、もっともっとスピードアップしないと難しいと思っている。

〈環境教育・環境学習〉

- 観察会の実施など子ども・住民向け学習機会の拡大。

- 自然を増やして、子どもの自然体験イベントを多く開催してほしいです。

環境全般

- 費用対効果を意識した取組、見える化・情報発信。
- 企業連携。

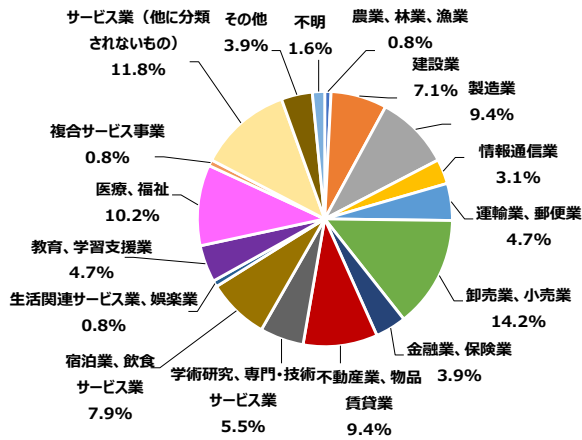
- そういったモノの購入に対してのみ使える助成金がほしい。
- ふるさと納税は行っており、毎年きちんと港区に納税しています。きちんと納税している人に対して、区も何らかのメリットを作ると、居住地に納税する人が増えるのではないかと思います。例えば、みなとエコポイントなど。

- 百年前の人々で、百年後の今を想像していた人はいるのだろうか？食品ロス、温暖化、スマホ…。百年後を想像するのは難しい。行政に携わる人達は真剣に考えて、仕事をされている。自分を含め、人間としての質を問うていくべきなのでは…。
- 良き環境が整った港区の住民であることを誇りに思います。
- 脱炭素に対する施策が十分と思えない。事業社への義務等、強いリーダーシップを発揮して、日本の脱炭素をひきいてほしい。
- 地域での資源循環についても、多分野で取り組んでほしい。豊かな緑は守ってほしい。"

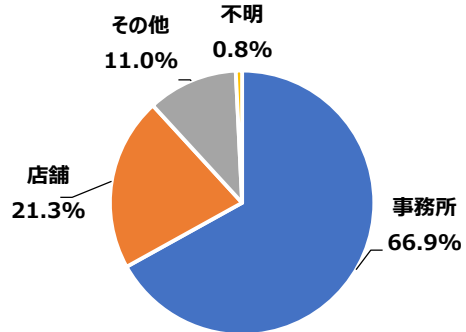
3 事業者アンケート調査の結果

3-1 回答者属性

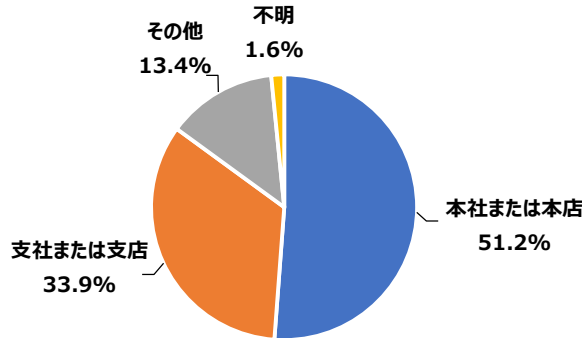
ア)業種



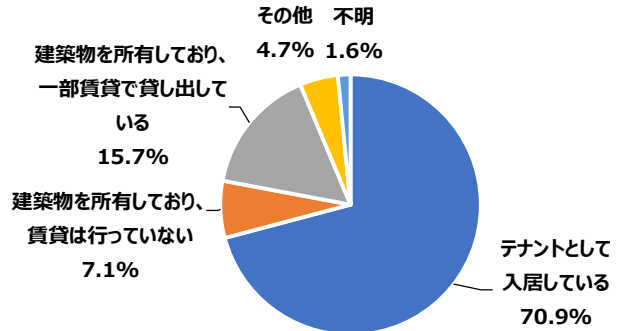
イ)事業所の形態



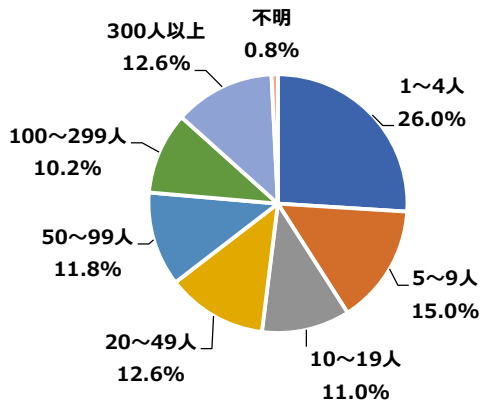
ウ)本社(本店)・支社(支店)の別



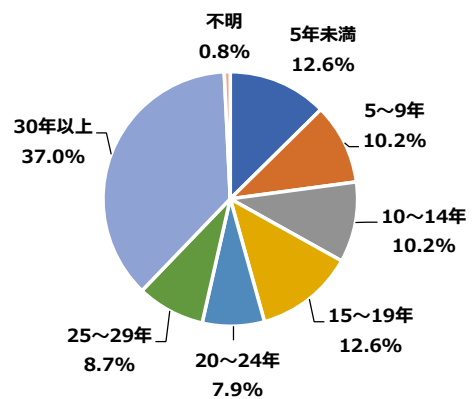
エ)建物の所有の状況



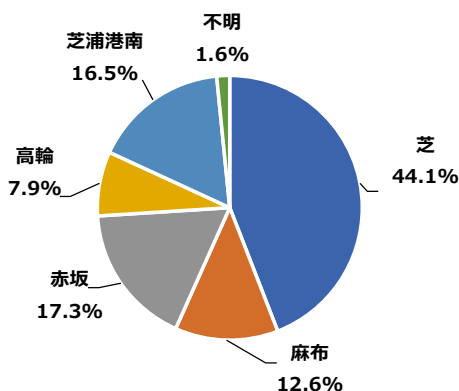
オ)従業員数



カ)区内での事業年数

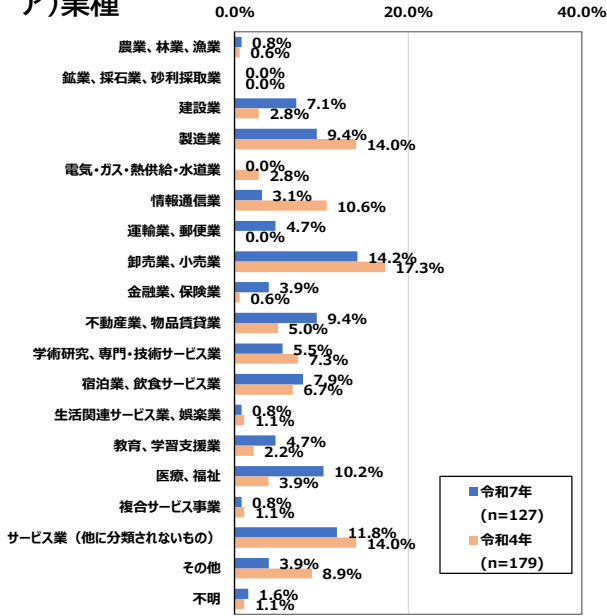


キ)事業所の所在地

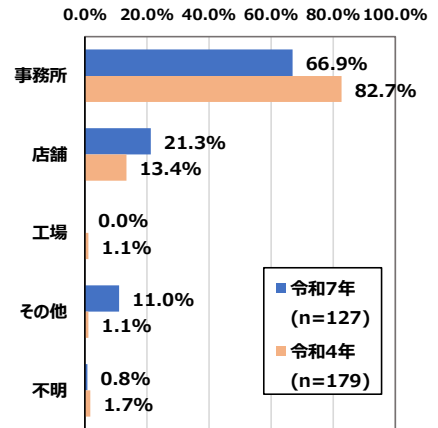


【前回調査との比較】※区内での事業年数は前回調査無し。

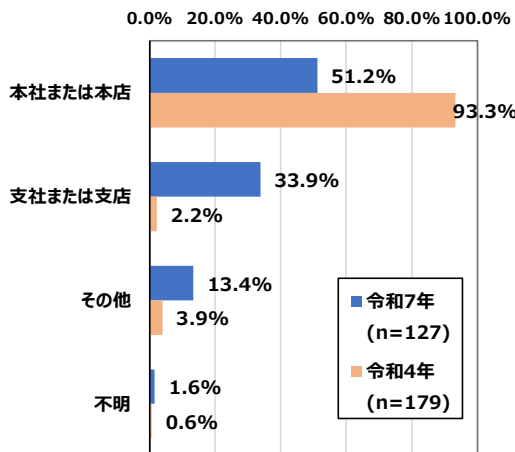
ア)業種



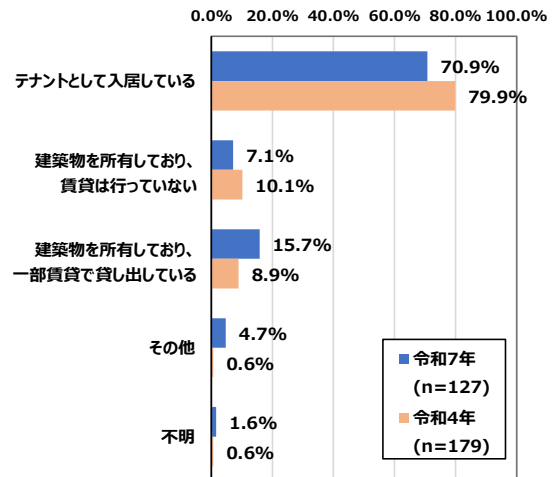
イ)事業所の形態



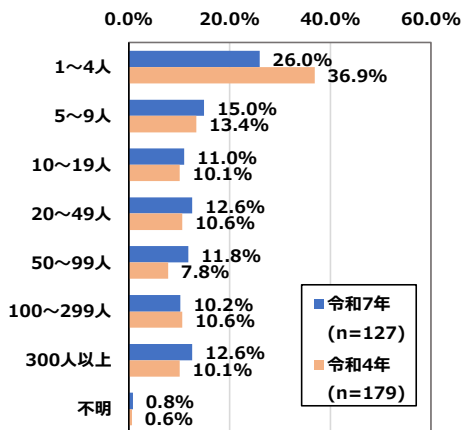
ウ)本社(本店)・支社(支店)の別



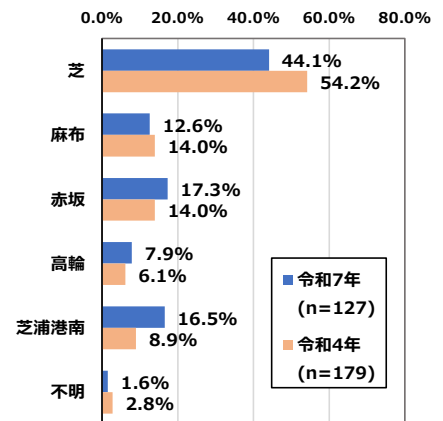
エ)建物の所有の状況



オ)従業員数



キ)事業所の所在地

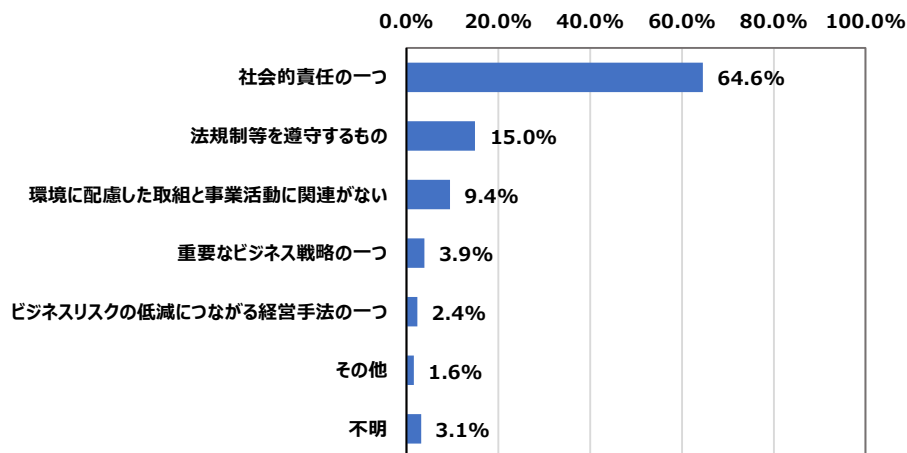


3-2 事業活動における環境に関する取組等の位置づけについて

(1) 事業活動における環境の取組の位置づけ

問 1 貴組織の事業活動において、環境に配慮した取組は、現在どのように位置づけられていますか。貴組織の考えにもっとも近いものを1つお選びください。

- 事業活動における環境の取組の位置づけについては、「社会的責任の一つ」(64.6%)が最も多くなっています。次いで「法規制等を遵守するもの」(15.0%)、「環境に配慮した取組と事業活動に関連がない」(9.4%)の順に続いています。

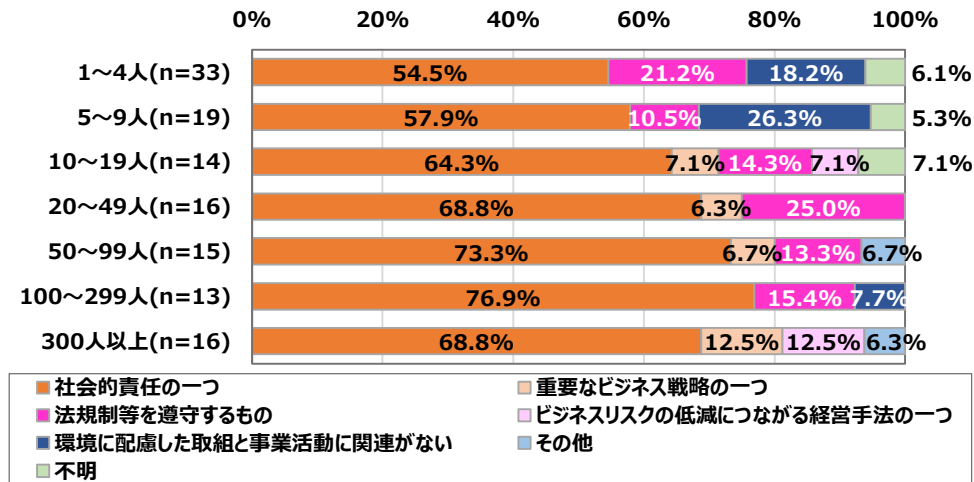


◆その他の回答(要約)

- 地域に密着し、社会貢献活動の一環
- 特に何もしていない

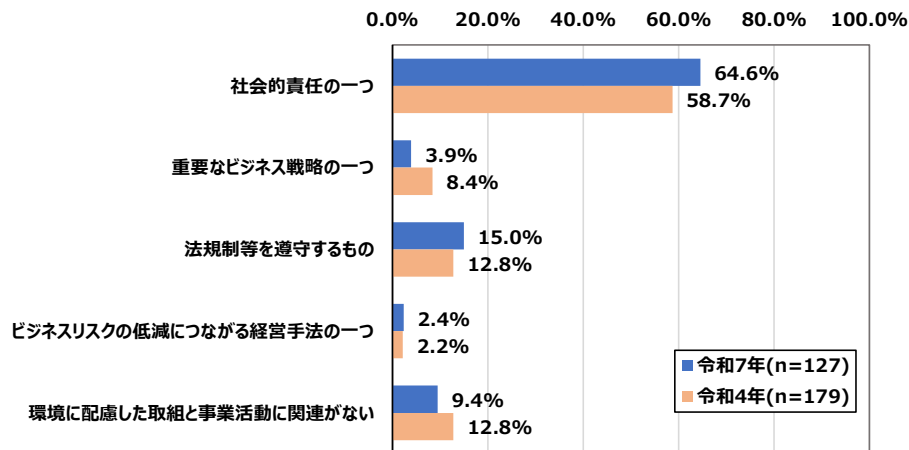
【従業員規模別のクロス集計】

- 「重要なビジネス戦略の一つ」については、従業員規模 10 人未満と 100～299 人で回答がありませんでした。また、従業員規模 10 人未満と 100～299 人では「環境に配慮した取組と事業活動に関連がない」が回答としてあげられています。
- 「法規制等を遵守するもの」については、従業員規模 300 人未満では回答が 1 割～2 割となっていますが、従業員規模 300 人以上では回答はゼロでした。
- 「ビジネスリスクの低減につながる経営手法の一つ」は、従業員規模 10～19 人と 300 人以上で回答としてあげられています。



【前回調査との比較】

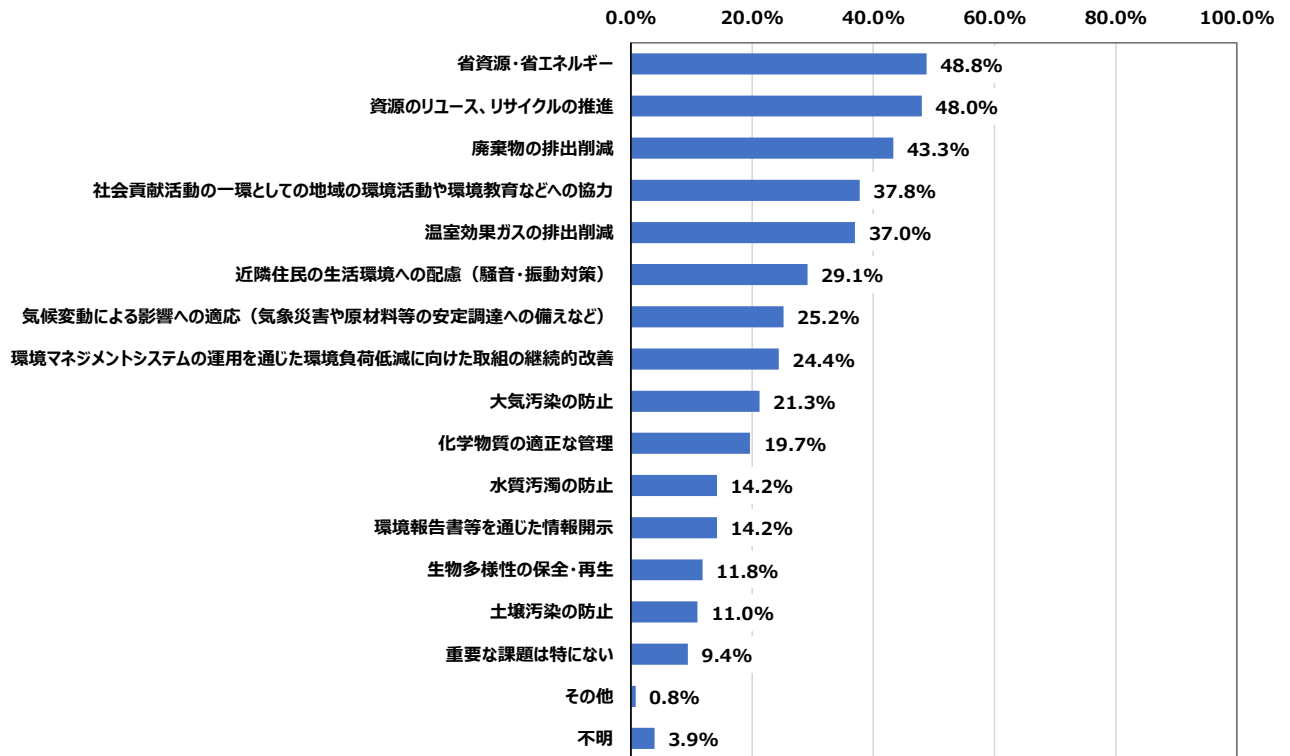
- 割合が上昇したのは、「社会的責任の一つ」と「法規制等を遵守するもの」でした。「重要なビジネス戦略の一つ」は割合が低下しています。また、「環境に配慮した取組と事業活動に関連がない」についても割合が低下しています。



(2) 事業活動における環境の取組の重要な課題

問 2 貴組織の事業活動における環境に配慮した取組の中で、重要な課題として位置づけられているものは何ですか。

- 事業活動における環境の取組の重要な課題については、「省資源・省エネルギー」(48.8%)が最も多く、次いで「資源のリユース、リサイクルの推進」(48.0%)、「廃棄物の排出削減」(43.3%)の順に続いています。



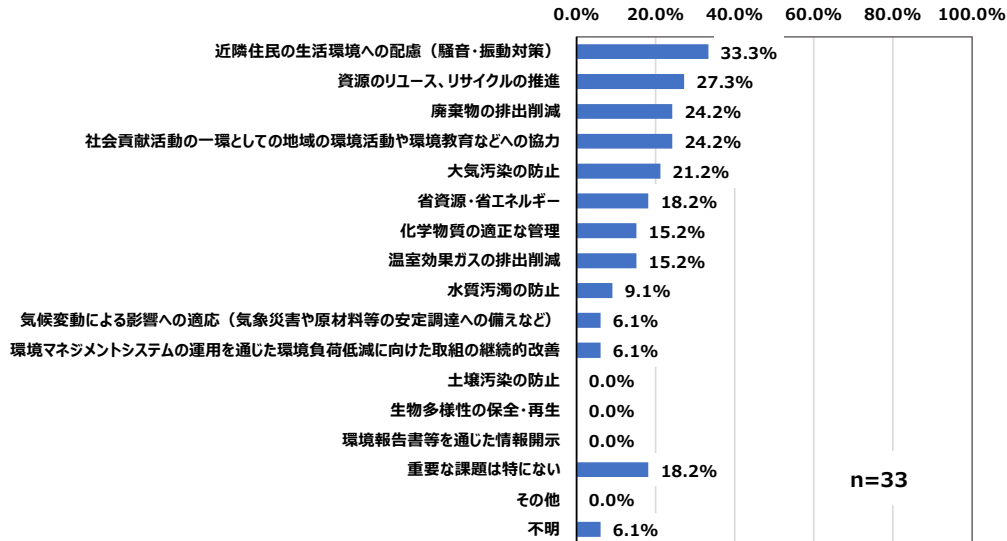
◆その他の回答(要約)

- ESG 活動の KPI 作成

【従業員規模別のクロス集計】

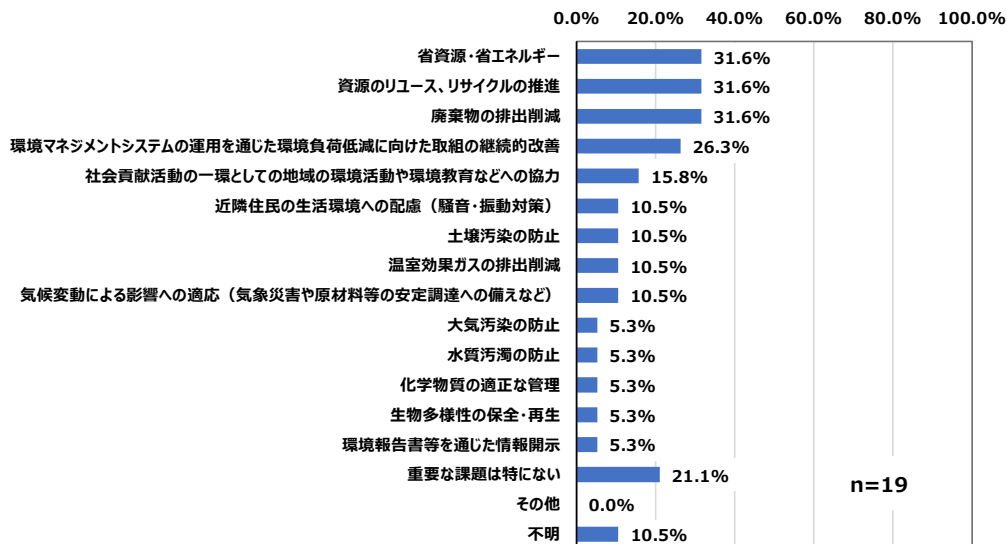
1~4人(n=33)

- 「近隣住民の生活環境への配慮（騒音・振動対策）」(33.3%)が最も多く、次いで「資源のリユース、リサイクルの推進」(27.3%)、「廃棄物の排出削減」と「社会貢献活動の一環としての地域の環境活動や環境教育などへの協力」(24.2%)の順に続いています。



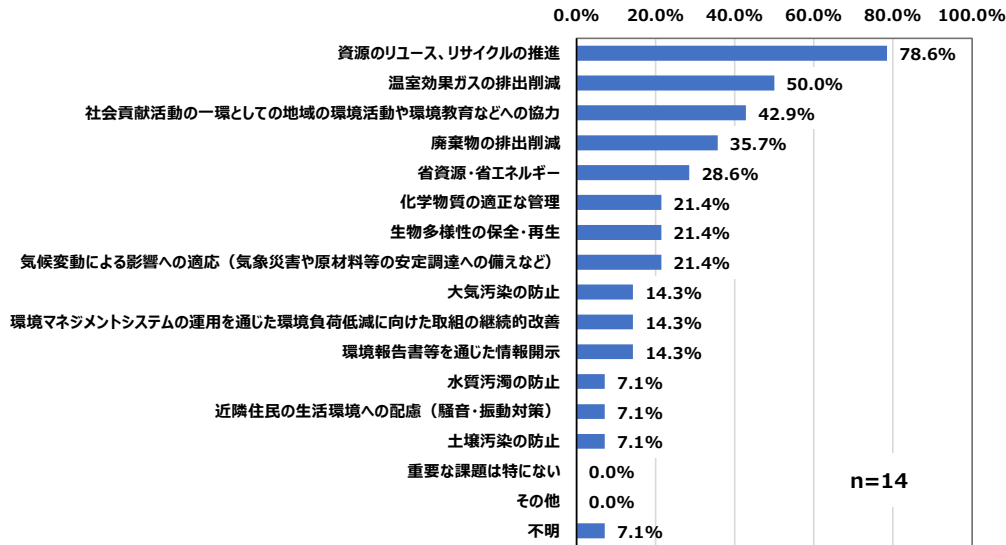
5~9人(n=19)

- 「省資源・省エネルギー」、「資源のリユース、リサイクルの推進」、「廃棄物の排出削減」(31.6%)が同率で最も多くなっています。



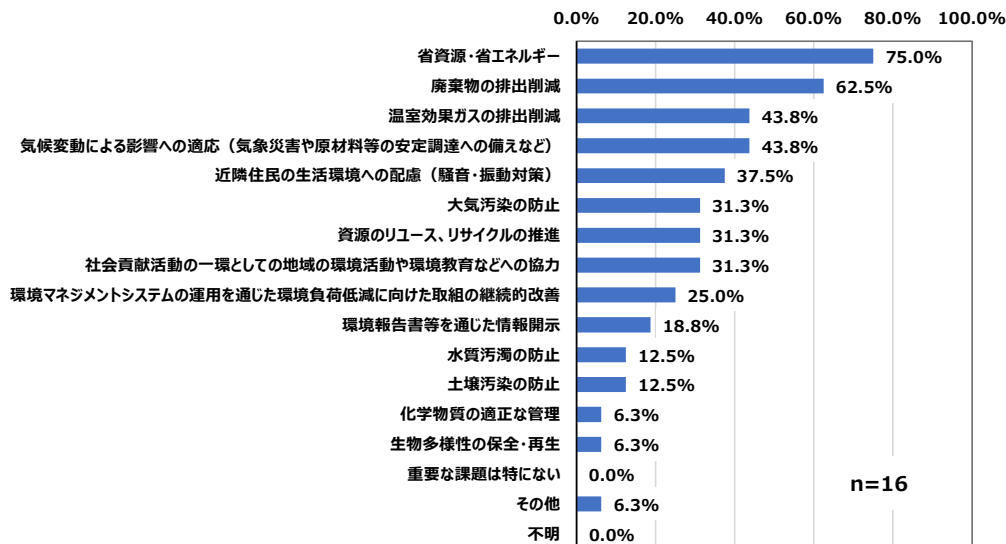
10~19人(n=14)

- 「資源のリユース、リサイクルの推進」(78.6%) が最も多く、次いで「温室効果ガスの排出削減」(50.0%)、「社会貢献活動の一環としての地域の環境活動や環境教育などへの協力」(42.9%)の順に続いています。



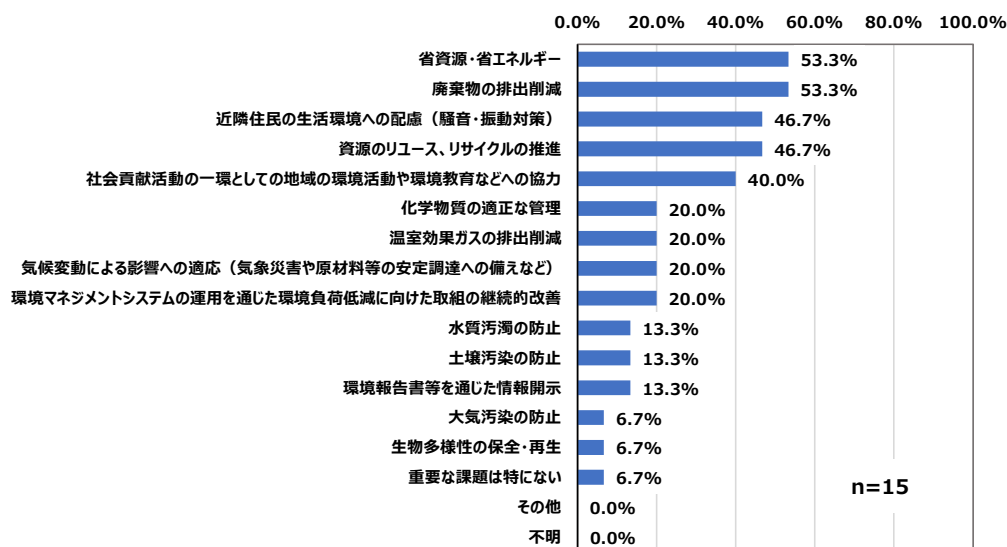
20~49人(n=16)

- 「省資源・省エネルギー」(75.0%) が最も多く、次いで「廃棄物の排出削減」(62.5%)、と「温室効果ガスの排出削減」と「気候変動による影響への適応（気象災害や原材料等の安定調達への備えなど）」(43.8%)の順に続いています。



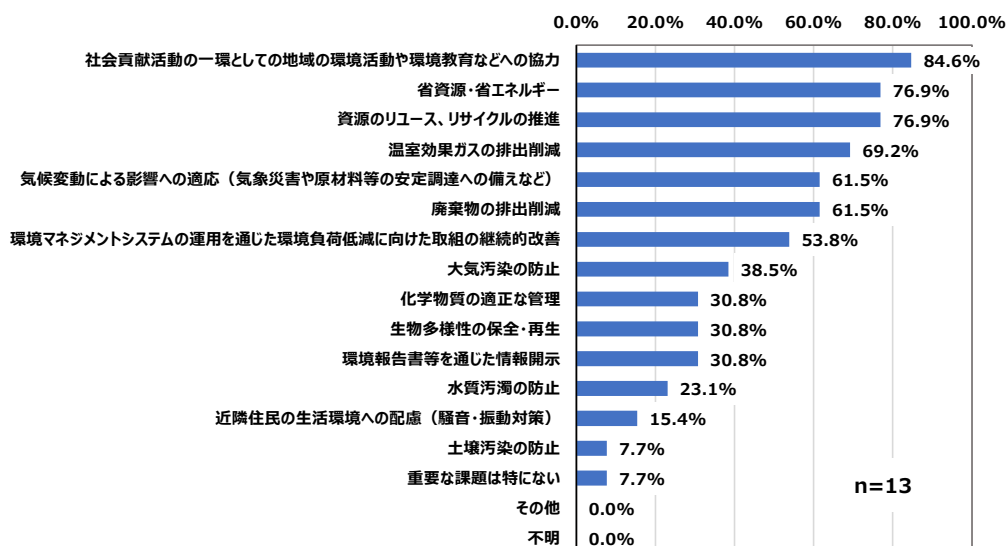
50~99人(n=15)

- 「省資源・省エネルギー」と「廃棄物の排出削減」(53.3%) が最も多く、次いで「近隣住民の生活環境への配慮(騒音・振動対策)」と「資源のリユース、リサイクルの推進」(46.7%) の順に続いています。



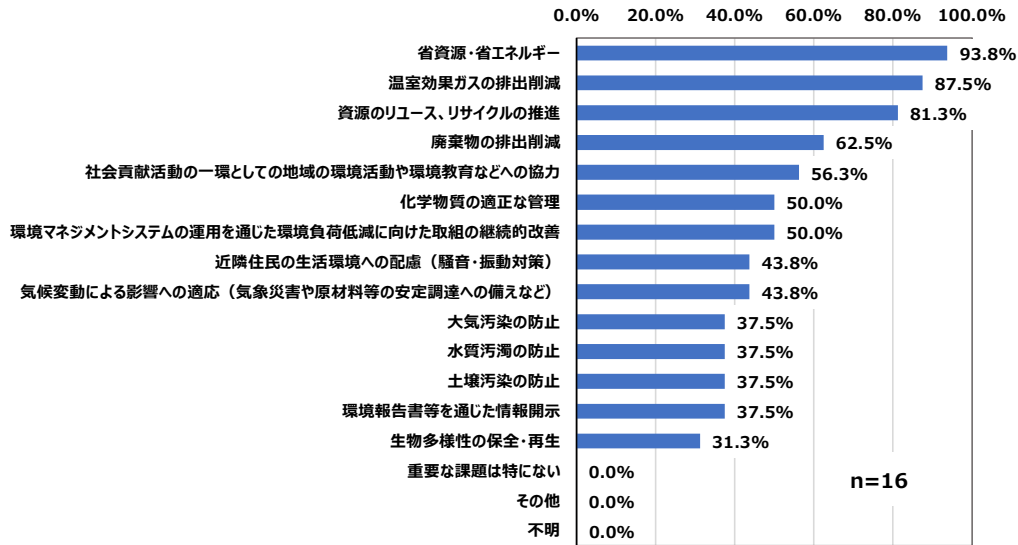
100~299人(n=13)

- 「社会貢献活動の一環としての地域の環境活動や環境教育などへの協力」(84.6%) が最も多く、次いで「省資源・省エネルギー」と「資源のリユース、リサイクルの推進」(78.9%) の順に続いています。



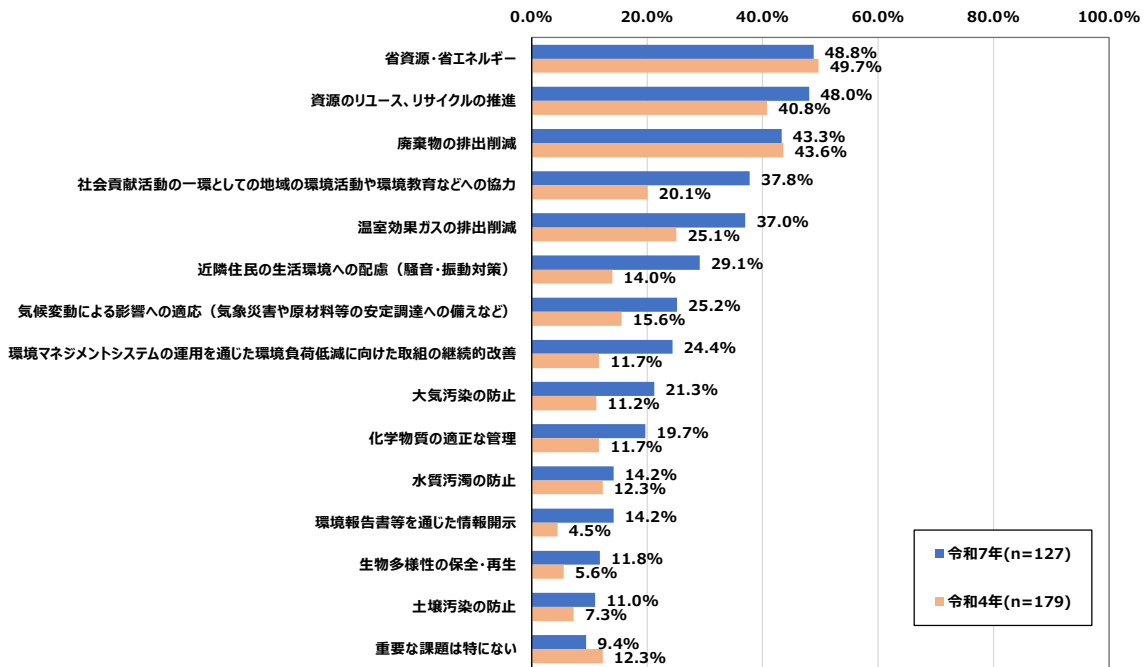
300人以上(n=16)

- 「省資源・省エネルギー」(93.8%)が最も多く、次いで「温室効果ガスの排出削減」(87.5%)、「資源のリユース、リサイクルの推進」(81.3%)の順に続いています。



【前回調査との比較】

- 「社会貢献活動の一環としての地域の環境活動や環境教育などへの協力」と「近隣住民の生活環境への配慮（騒音・振動対策）」で15ポイント以上割合が増加しています。「重要な課題は特にない」は約3ポイント割合が低下しています。

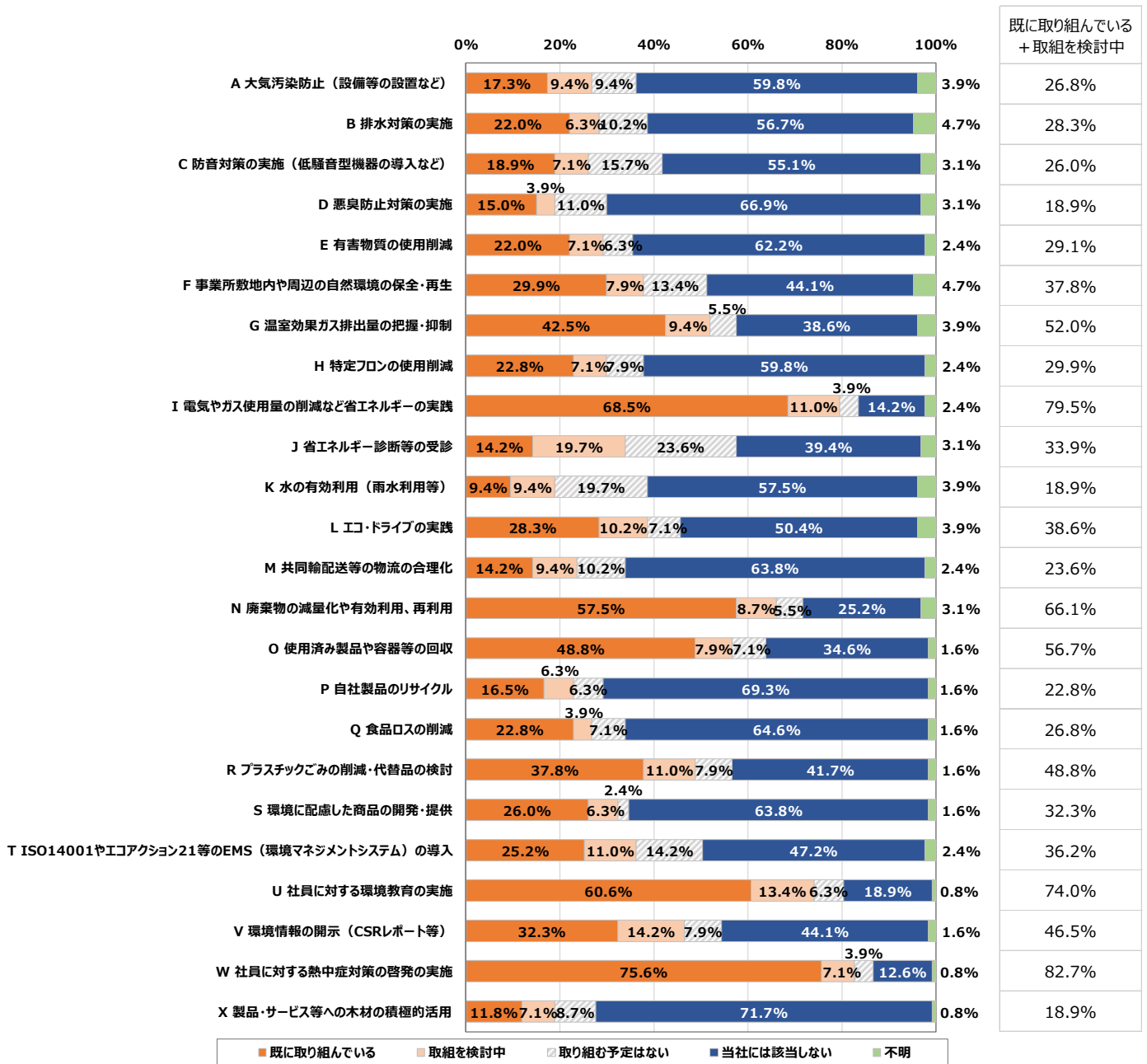


3-3 実施している環境に配慮した取組について

(1) 環境に配慮した取組の状況

問 3 貴組織で実施している、あるいは今後実施する予定の環境に配慮した取組について、当てはまる番号に○をつけてください。
 「3 取り組む予定はない」を選んだ場合、取り組まない理由もお答えください。

- 「既に取り組んでいる」と「取組を検討中」の合計の割合が高かったのは、「W 社員に対する熱中症対策の啓発の実施」(82.7%)、「I 電気やガス使用量の削減など省エネルギーの実践」(79.5%)、「U 社員に対する環境教育の実施」(74.0%) で7割以上の回答となりました。
- 「取り組む予定はない」については、「J 省エネルギー診断等の受診」(23.6%)、「K 水の有効利用(雨水利用等)」(19.7%)、「C 防音対策の実施(低騒音型機器の導入など)」(15.7%) の順で回答が多くなっています。



【参考:業種別のクロス集計】

A 大気汚染防止(設備等の設置など)

	既に取り組 んでいる	取組を 検討中	取り組む 予定はない	当社には 該当しない	不明
農業、林業、漁業(n=1)	-	1	-	-	-
鉱業、採石業、砂利採取業(n=0)	-	-	-	-	-
建設業(n=9)	5	1	1	2	-
製造業(n=12)	4	-	4	3	1
電気・ガス・熱供給・水道業(n=0)	-	-	-	-	-
情報通信業(n=4)	-	-	1	3	-
運輸業、郵便業(n=6)	3	-	1	2	-
卸売業、小売業(n=18)	2	3	1	11	1
金融業、保険業(n=5)	-	1	-	4	-
不動産業、物品賃貸業(n=12)	-	-	-	11	1
学術研究、専門・技術サービス業(n=7)	-	1	1	5	-
宿泊業、飲食サービス業(n=1-)	2	1	1	5	1
生活関連サービス業、娯楽業(n=1)	-	-	-	1	-
教育、学習支援業(n=6)	1	1	-	4	-
医療、福祉(n=13)	2	1	1	8	1
複合サービス事業(n=1)	1	-	-	-	-
サービス業（他に分類されないもの）(n=15)	2	2	1	10	-
その他(n=5)	-	-	-	5	-
合計	22	12	12	76	5

B 排水対策の実施

	既に取り組 んでいる	取組を 検討中	取り組む 予定はない	当社には 該当しない	不明
農業、林業、漁業(n=1)	-	1	-	-	-
鉱業、採石業、砂利採取業(n=0)	-	-	-	-	-
建設業(n=9)	3	-	1	5	-
製造業(n=12)	4	-	3	4	1
電気・ガス・熱供給・水道業(n=0)	-	-	-	-	-
情報通信業(n=4)	-	-	1	3	-
運輸業、郵便業(n=6)	3	-	-	3	-
卸売業、小売業(n=18)	3	2	2	10	1
金融業、保険業(n=5)	-	1	-	4	-
不動産業、物品賃貸業(n=12)	2	-	-	8	2
学術研究、専門・技術サービス業(n=7)	-	-	1	6	-
宿泊業、飲食サービス業(n=1-)	5	1	2	1	1
生活関連サービス業、娯楽業(n=1)	1	-	-	-	-
教育、学習支援業(n=6)	4	-	-	2	-
医療、福祉(n=13)	2	1	2	7	1
複合サービス事業(n=1)	-	-	-	1	-
サービス業（他に分類されないもの）(n=15)	1	2	1	11	-
その他(n=5)	-	-	-	5	-
合計	28	8	13	72	6

C 防音対策の実施(低騒音型機器の導入など)

	既に取り組 んでいる	取組を 検討中	取り組む 予定はない	当社には 該当しない	不明
農業、林業、漁業(n=1)	-	1	-	-	-
鉱業、採石業、砂利採取業(n=0)	-	-	-	-	-
建設業(n=9)	2	1	2	4	-
製造業(n=12)	2	1	4	4	1
電気・ガス・熱供給・水道業(n=0)	-	-	-	-	-
情報通信業(n=4)	-	-	1	3	-
運輸業、郵便業(n=6)	2	-	1	3	-
卸売業、小売業(n=18)	4	2	1	10	1
金融業、保険業(n=5)	2	1	-	2	-
不動産業、物品賃貸業(n=12)	1	-	2	8	1
学術研究、専門・技術サービス業(n=7)	1	1	1	4	-
宿泊業、飲食サービス業(n=1-)	4	-	3	3	-
生活関連サービス業、娯楽業(n=1)	1	-	-	-	-
教育、学習支援業(n=6)	1	-	1	4	-
医療、福祉(n=13)	1	1	2	8	1
複合サービス事業(n=1)	1	-	-	-	-
サービス業（他に分類されないもの）(n=15)	1	1	2	11	-
その他(n=5)	-	-	-	5	-
合計	24	9	20	70	4

D 悪臭防止対策の実施

	既に取り組 んでいる	取組を 検討中	取り組む 予定はない	当社には 該当しない	不明
農業、林業、漁業(n=1)	-	1	-	-	-
鉱業、採石業、砂利採取業(n=0)	-	-	-	-	-
建設業(n=9)	2	-	2	5	-
製造業(n=12)	1	-	4	6	1
電気・ガス・熱供給・水道業(n=0)	-	-	-	-	-
情報通信業(n=4)	-	-	1	3	-
運輸業、郵便業(n=6)	2	-	-	4	-
卸売業、小売業(n=18)	3	1	1	12	1
金融業、保険業(n=5)	-	1	-	4	-
不動産業、物品賃貸業(n=12)	1	-	1	9	1
学術研究、専門・技術サービス業(n=7)	-	-	1	6	-
宿泊業、飲食サービス業(n=1-)	5	-	2	3	-
生活関連サービス業、娯楽業(n=1)	1	-	-	-	-
教育、学習支援業(n=6)	2	-	-	4	-
医療、福祉(n=13)	1	1	1	9	1
複合サービス事業(n=1)	-	-	-	1	-
サービス業（他に分類されないもの）(n=15)	1	1	1	12	-
その他(n=5)	-	-	-	5	-
合計	19	5	14	85	4

E 有害物質の使用削減

	既に取り組 んでいる	取組を 検討中	取組む 予定はない	当社には 該当しない	不明
農業、林業、漁業(n=1)	-	1	-	-	-
鉱業、採石業、砂利採取業(n=0)	-	-	-	-	-
建設業(n=9)	6	-	-	3	-
製造業(n=12)	3	-	3	5	1
電気・ガス・熱供給・水道業(n=0)	-	-	-	-	-
情報通信業(n=4)	1	-	1	2	-
運輸業、郵便業(n=6)	2	-	-	4	-
卸売業、小売業(n=18)	3	2	1	11	1
金融業、保険業(n=5)	2	1	-	2	-
不動産業、物品賃貸業(n=12)	2	-	-	9	1
学術研究、専門・技術サービス業(n=7)	-	1	1	5	-
宿泊業、飲食サービス業(n=1-)	3	1	1	5	-
生活関連サービス業、娯楽業(n=1)	1	-	-	-	-
教育、学習支援業(n=6)	2	-	-	4	-
医療、福祉(n=13)	1	2	-	10	-
複合サービス事業(n=1)	1	-	-	-	-
サービス業（他に分類されないもの）(n=15)	1	1	1	12	-
その他(n=5)	-	-	-	5	-
合計	28	9	8	79	3

F 事業所敷地内や周辺の自然環境の保全・再生

	既に取り組 んでいる	取組を 検討中	取組む 予定はない	当社には 該当しない	不明
農業、林業、漁業(n=1)	-	1	-	-	-
鉱業、採石業、砂利採取業(n=0)	-	-	-	-	-
建設業(n=9)	4	1	1	3	-
製造業(n=12)	3	-	2	6	1
電気・ガス・熱供給・水道業(n=0)	-	-	-	-	-
情報通信業(n=4)	1	-	1	2	-
運輸業、郵便業(n=6)	3	-	2	1	-
卸売業、小売業(n=18)	4	3	1	9	1
金融業、保険業(n=5)	3	1	-	1	-
不動産業、物品賃貸業(n=12)	5	-	1	4	2
学術研究、専門・技術サービス業(n=7)	-	1	2	4	-
宿泊業、飲食サービス業(n=1-)	4	-	1	5	-
生活関連サービス業、娯楽業(n=1)	-	-	-	1	-
教育、学習支援業(n=6)	5	-	-	1	-
医療、福祉(n=13)	2	2	2	5	2
複合サービス事業(n=1)	1	-	-	-	-
サービス業（他に分類されないもの）(n=15)	3	1	3	8	-
その他(n=5)	-	-	1	4	-
合計	38	10	17	56	6

G 温室効果ガス排出量の把握・抑制

	既に取り組 んでいる	取組を 検討中	取り組む 予定はない	当社には 該当しない	不明
農業、林業、漁業(n=1)	-	1	-	-	-
鉱業、採石業、砂利採取業(n=0)	-	-	-	-	-
建設業(n=9)	6	2	-	1	-
製造業(n=12)	8	-	1	2	1
電気・ガス・熱供給・水道業(n=0)	-	-	-	-	-
情報通信業(n=4)	2	-	1	1	-
運輸業、郵便業(n=6)	4	-	-	2	-
卸売業、小売業(n=18)	6	2	1	8	1
金融業、保険業(n=5)	3	1	-	1	-
不動産業、物品賃貸業(n=12)	2	1	1	7	1
学術研究、専門・技術サービス業(n=7)	3	1	1	2	-
宿泊業、飲食サービス業(n=1-)	2	1	1	6	-
生活関連サービス業、娯楽業(n=1)	1	-	-	-	-
教育、学習支援業(n=6)	6	-	-	-	-
医療、福祉(n=13)	2	2	-	8	1
複合サービス事業(n=1)	1	-	-	-	-
サービス業（他に分類されないもの）(n=15)	7	1	1	5	1
その他(n=5)	-	-	-	5	-
合計	54	12	7	49	5

H 特定フロンの使用削減

	既に取り組 んでいる	取組を 検討中	取り組む 予定はない	当社には 該当しない	不明
農業、林業、漁業(n=1)	-	1	-	-	-
鉱業、採石業、砂利採取業(n=0)	-	-	-	-	-
建設業(n=9)	1	1	2	5	-
製造業(n=12)	4	-	3	4	1
電気・ガス・熱供給・水道業(n=0)	-	-	-	-	-
情報通信業(n=4)	1	-	1	2	-
運輸業、郵便業(n=6)	1	-	-	5	-
卸売業、小売業(n=18)	2	2	1	13	-
金融業、保険業(n=5)	2	1	-	2	-
不動産業、物品賃貸業(n=12)	3	-	1	7	1
学術研究、専門・技術サービス業(n=7)	1	1	1	4	-
宿泊業、飲食サービス業(n=1-)	4	1	-	5	-
生活関連サービス業、娯楽業(n=1)	-	-	-	1	-
教育、学習支援業(n=6)	5	-	-	1	-
医療、福祉(n=13)	1	1	-	10	1
複合サービス事業(n=1)	1	-	-	-	-
サービス業（他に分類されないもの）(n=15)	3	1	1	10	-
その他(n=5)	-	-	-	5	-
合計	29	9	10	76	3

I 電気やガス使用量の削減など省エネルギーの実践

	既に取り組んでいる	取組を検討中	取り組む予定はない	当社には該当しない	不明
農業、林業、漁業(n=1)	-	1	-	-	-
鉱業、採石業、砂利採取業(n=0)	-	-	-	-	-
建設業(n=9)	7	-	-	2	-
製造業(n=12)	12	-	-	-	-
電気・ガス・熱供給・水道業(n=0)	-	-	-	-	-
情報通信業(n=4)	3	1	-	-	-
運輸業、郵便業(n=6)	5	-	-	1	-
卸売業、小売業(n=18)	9	3	1	4	1
金融業、保険業(n=5)	5	-	-	-	-
不動産業、物品賃貸業(n=12)	3	4	-	3	2
学術研究、専門・技術サービス業(n=7)	5	-	2	-	-
宿泊業、飲食サービス業(n=1-)	9	-	-	1	-
生活関連サービス業、娯楽業(n=1)	-	1	-	-	-
教育、学習支援業(n=6)	6	-	-	-	-
医療、福祉(n=13)	8	2	1	2	-
複合サービス事業(n=1)	1	-	-	-	-
サービス業（他に分類されないもの）(n=15)	11	2	1	1	-
その他(n=5)	2	-	-	3	-
合計	87	14	5	18	3

J 省エネルギー診断等の受診

	既に取り組んでいる	取組を検討中	取り組む予定はない	当社には該当しない	不明
農業、林業、漁業(n=1)	-	1	-	-	-
鉱業、採石業、砂利採取業(n=0)	-	-	-	-	-
建設業(n=9)	2	2	2	3	-
製造業(n=12)	3	1	3	5	-
電気・ガス・熱供給・水道業(n=0)	-	-	-	-	-
情報通信業(n=4)	1	-	2	1	-
運輸業、郵便業(n=6)	2	1	2	1	-
卸売業、小売業(n=18)	2	3	3	9	1
金融業、保険業(n=5)	1	1	1	2	-
不動産業、物品賃貸業(n=12)	1	1	3	5	2
学術研究、専門・技術サービス業(n=7)	-	1	3	3	-
宿泊業、飲食サービス業(n=1-)	-	4	3	3	-
生活関連サービス業、娯楽業(n=1)	-	1	-	-	-
教育、学習支援業(n=6)	3	1	-	2	-
医療、福祉(n=13)	1	1	4	6	1
複合サービス事業(n=1)	1	-	-	-	-
サービス業（他に分類されないもの）(n=15)	1	6	3	5	-
その他(n=5)	-	1	1	3	-
合計	18	25	30	50	4

K 水の有効利用(雨水利用等)

	既に取り組 んでいる	取組を 検討中	取り組む 予定はない	当社には 該当しない	不明
農業、林業、漁業(n=1)	-	1	-	-	-
鉱業、採石業、砂利採取業(n=0)	-	-	-	-	-
建設業(n=9)	2	1	2	4	-
製造業(n=12)	-	1	4	7	-
電気・ガス・熱供給・水道業(n=0)	-	-	-	-	-
情報通信業(n=4)	1	-	2	1	-
運輸業、郵便業(n=6)	-	-	2	4	-
卸売業、小売業(n=18)	2	2	2	11	1
金融業、保険業(n=5)	-	1	1	3	-
不動産業、物品賃貸業(n=12)	1	1	2	6	2
学術研究、専門・技術サービス業(n=7)	-	-	1	6	-
宿泊業、飲食サービス業(n=1-)	2	1	1	6	-
生活関連サービス業、娯楽業(n=1)	-	-	-	1	-
教育、学習支援業(n=6)	2	1	2	1	-
医療、福祉(n=13)	2	1	3	5	2
複合サービス事業(n=1)	-	-	-	1	-
サービス業（他に分類されないもの）(n=15)	-	1	3	11	-
その他(n=5)	-	1	-	4	-
合計	12	12	25	73	5

L エコ・ドライブの実践

	既に取り組 んでいる	取組を 検討中	取り組む 予定はない	当社には 該当しない	不明
農業、林業、漁業(n=1)	-	1	-	-	-
鉱業、採石業、砂利採取業(n=0)	-	-	-	-	-
建設業(n=9)	5	2	-	2	-
製造業(n=12)	5	-	2	5	-
電気・ガス・熱供給・水道業(n=0)	-	-	-	-	-
情報通信業(n=4)	-	-	2	2	-
運輸業、郵便業(n=6)	5	-	-	1	-
卸売業、小売業(n=18)	4	2	2	9	1
金融業、保険業(n=5)	2	1	-	2	-
不動産業、物品賃貸業(n=12)	-	-	1	9	2
学術研究、専門・技術サービス業(n=7)	1	1	1	4	-
宿泊業、飲食サービス業(n=1-)	2	1	-	7	-
生活関連サービス業、娯楽業(n=1)	1	-	-	-	-
教育、学習支援業(n=6)	2	-	-	4	-
医療、福祉(n=13)	3	2	-	6	2
複合サービス事業(n=1)	1	-	-	-	-
サービス業（他に分類されないもの）(n=15)	5	2	1	7	-
その他(n=5)	-	1	-	4	-
合計	36	13	9	64	5

M 共同輸配送等の物流の合理化

	既に取り組 んでいる	取組を 検討中	取組む 予定はない	当社には 該当しない	不明
農業、林業、漁業(n=1)	-	1	-	-	-
鉱業、採石業、砂利採取業(n=0)	-	-	-	-	-
建設業(n=9)	2	-	1	6	-
製造業(n=12)	5	1	3	3	-
電気・ガス・熱供給・水道業(n=0)	-	-	-	-	-
情報通信業(n=4)	-	-	2	2	-
運輸業、郵便業(n=6)	3	-	1	2	-
卸売業、小売業(n=18)	3	4	-	11	-
金融業、保険業(n=5)	-	1	-	4	-
不動産業、物品賃貸業(n=12)	-	-	1	10	1
学術研究、専門・技術サービス業(n=7)	-	1	1	5	-
宿泊業、飲食サービス業(n=1-)	1	1	2	6	-
生活関連サービス業、娯楽業(n=1)	1	-	-	-	-
教育、学習支援業(n=6)	-	-	1	5	-
医療、福祉(n=13)	1	2	-	8	2
複合サービス事業(n=1)	1	-	-	-	-
サービス業（他に分類されないもの）(n=15)	1	1	1	12	-
その他(n=5)	-	-	-	5	-
合計	18	12	13	81	3

N 廃棄物の減量化や有効利用、再利用

	既に取り組 んでいる	取組を 検討中	取組む 予定はない	当社には 該当しない	不明
農業、林業、漁業(n=1)	-	1	-	-	-
鉱業、採石業、砂利採取業(n=0)	-	-	-	-	-
建設業(n=9)	7	1	-	1	-
製造業(n=12)	9	-	2	1	-
電気・ガス・熱供給・水道業(n=0)	-	-	-	-	-
情報通信業(n=4)	2	-	1	1	-
運輸業、郵便業(n=6)	5	-	-	1	-
卸売業、小売業(n=18)	7	2	1	7	1
金融業、保険業(n=5)	4	-	-	1	-
不動産業、物品賃貸業(n=12)	2	1	1	6	2
学術研究、専門・技術サービス業(n=7)	3	-	1	3	-
宿泊業、飲食サービス業(n=1-)	6	1	1	2	-
生活関連サービス業、娯楽業(n=1)	1	-	-	-	-
教育、学習支援業(n=6)	5	1	-	-	-
医療、福祉(n=13)	6	2	-	4	1
複合サービス事業(n=1)	1	-	-	-	-
サービス業（他に分類されないもの）(n=15)	11	1	-	3	-
その他(n=5)	2	1	-	2	-
合計	73	11	7	32	4

○ 使用済み製品や容器等の回収

	既に取り組 んでいる	取組を 検討中	取組む 予定はない	当社には 該当しない	不明
農業、林業、漁業(n=1)	-	1	-	-	-
鉱業、採石業、砂利採取業(n=0)	-	-	-	-	-
建設業(n=9)	5	1	1	2	-
製造業(n=12)	6	-	2	4	-
電気・ガス・熱供給・水道業(n=0)	-	-	-	-	-
情報通信業(n=4)	1	-	1	2	-
運輸業、郵便業(n=6)	3	-	-	3	-
卸売業、小売業(n=18)	6	3	2	6	1
金融業、保険業(n=5)	4	-	-	1	-
不動産業、物品賃貸業(n=12)	5	1	-	5	1
学術研究、専門・技術サービス業(n=7)	4	-	1	2	-
宿泊業、飲食サービス業(n=1-)	6	-	-	4	-
生活関連サービス業、娯楽業(n=1)	1	-	-	-	-
教育、学習支援業(n=6)	4	-	-	2	-
医療、福祉(n=13)	7	1	-	5	-
複合サービス事業(n=1)	1	-	-	-	-
サービス業（他に分類されないもの）(n=15)	8	3	2	2	-
その他(n=5)	1	-	-	4	-
合計	62	10	9	44	2

□ 自社製品のリサイクル

	既に取り組 んでいる	取組を 検討中	取組む 予定はない	当社には 該当しない	不明
農業、林業、漁業(n=1)	-	1	-	-	-
鉱業、採石業、砂利採取業(n=0)	-	-	-	-	-
建設業(n=9)	2	2	-	5	-
製造業(n=12)	5	1	2	4	-
電気・ガス・熱供給・水道業(n=0)	-	-	-	-	-
情報通信業(n=4)	-	-	1	3	-
運輸業、郵便業(n=6)	2	-	-	4	-
卸売業、小売業(n=18)	3	2	3	10	-
金融業、保険業(n=5)	1	-	-	4	-
不動産業、物品賃貸業(n=12)	1	-	-	10	1
学術研究、専門・技術サービス業(n=7)	-	-	1	6	-
宿泊業、飲食サービス業(n=1-)	-	-	1	9	-
生活関連サービス業、娯楽業(n=1)	1	-	-	-	-
教育、学習支援業(n=6)	1	-	-	5	-
医療、福祉(n=13)	1	1	-	10	1
複合サービス事業(n=1)	1	-	-	-	-
サービス業（他に分類されないもの）(n=15)	3	1	-	11	-
その他(n=5)	-	-	-	5	-
合計	21	8	8	88	2

Q 食品ロスの削減

	既に取り組 んでいる	取組を 検討中	取り組む 予定はない	当社には 該当しない	不明
農業、林業、漁業(n=1)	-	1	-	-	-
鉱業、採石業、砂利採取業(n=0)	-	-	-	-	-
建設業(n=9)	1	1	-	7	-
製造業(n=12)	-	1	4	7	-
電気・ガス・熱供給・水道業(n=0)	-	-	-	-	-
情報通信業(n=4)	-	-	1	3	-
運輸業、郵便業(n=6)	-	-	-	6	-
卸売業、小売業(n=18)	5	-	1	12	-
金融業、保険業(n=5)	2	-	-	3	-
不動産業、物品賃貸業(n=12)	-	-	-	11	1
学術研究、専門・技術サービス業(n=7)	1	-	1	5	-
宿泊業、飲食サービス業(n=1-)	8	-	1	1	-
生活関連サービス業、娯楽業(n=1)	-	-	-	1	-
教育、学習支援業(n=6)	1	-	-	5	-
医療、福祉(n=13)	4	1	1	6	1
複合サービス事業(n=1)	-	-	-	1	-
サービス業（他に分類されないもの）(n=15)	6	1	-	8	-
その他(n=5)	1	-	-	4	-
合計	29	5	9	82	2

R プラスチックごみの削減・代替品の検討

	既に取り組 んでいる	取組を 検討中	取り組む 予定はない	当社には 該当しない	不明
農業、林業、漁業(n=1)	-	1	-	-	-
鉱業、採石業、砂利採取業(n=0)	-	-	-	-	-
建設業(n=9)	3	1	-	4	1
製造業(n=12)	4	-	1	7	-
電気・ガス・熱供給・水道業(n=0)	-	-	-	-	-
情報通信業(n=4)	1	-	2	1	-
運輸業、郵便業(n=6)	3	-	-	3	-
卸売業、小売業(n=18)	8	3	1	6	-
金融業、保険業(n=5)	4	1	-	-	-
不動産業、物品賃貸業(n=12)	-	1	-	10	1
学術研究、専門・技術サービス業(n=7)	2	1	3	1	-
宿泊業、飲食サービス業(n=1-)	7	1	1	1	-
生活関連サービス業、娯楽業(n=1)	1	-	-	-	-
教育、学習支援業(n=6)	2	1	1	2	-
医療、福祉(n=13)	2	2	1	8	-
複合サービス事業(n=1)	1	-	-	-	-
サービス業（他に分類されないもの）(n=15)	8	2	-	5	-
その他(n=5)	2	-	-	3	-
合計	48	14	10	53	2

S 環境に配慮した商品の開発・提供

	既に取り組 んでいる	取組を 検討中	取組む 予定はない	当社には 該当しない	不明
農業、林業、漁業(n=1)	-	1	-	-	-
鉱業、採石業、砂利採取業(n=0)	-	-	-	-	-
建設業(n=9)	2	1	-	6	-
製造業(n=12)	8	-	1	3	-
電気・ガス・熱供給・水道業(n=0)	-	-	-	-	-
情報通信業(n=4)	2	-	1	1	-
運輸業、郵便業(n=6)	-	-	-	6	-
卸売業、小売業(n=18)	9	2	-	7	-
金融業、保険業(n=5)	3	-	-	2	-
不動産業、物品賃貸業(n=12)	-	-	-	11	1
学術研究、専門・技術サービス業(n=7)	2	-	1	4	-
宿泊業、飲食サービス業(n=1-)	2	1	-	7	-
生活関連サービス業、娯楽業(n=1)	1	-	-	-	-
教育、学習支援業(n=6)	1	-	-	5	-
医療、福祉(n=13)	-	2	-	10	1
複合サービス事業(n=1)	1	-	-	-	-
サービス業（他に分類されないもの）(n=15)	2	1	-	12	-
その他(n=5)	-	-	-	5	-
合計	33	8	3	81	2

T ISO14001 やエコアクション 21 等の EMS(環境マネジメントシステム)の導入

	既に取り組 んでいる	取組を 検討中	取組む 予定はない	当社には 該当しない	不明
農業、林業、漁業(n=1)	-	1	-	-	-
鉱業、採石業、砂利採取業(n=0)	-	-	-	-	-
建設業(n=9)	5	1	-	3	-
製造業(n=12)	9	-	2	1	-
電気・ガス・熱供給・水道業(n=0)	-	-	-	-	-
情報通信業(n=4)	3	-	-	1	-
運輸業、郵便業(n=6)	2	1	-	3	-
卸売業、小売業(n=18)	2	2	5	9	-
金融業、保険業(n=5)	2	-	1	2	-
不動産業、物品賃貸業(n=12)	-	1	1	9	1
学術研究、専門・技術サービス業(n=7)	1	1	4	1	-
宿泊業、飲食サービス業(n=1-)	-	1	1	7	1
生活関連サービス業、娯楽業(n=1)	-	1	-	-	-
教育、学習支援業(n=6)	1	-	2	3	-
医療、福祉(n=13)	1	1	1	9	1
複合サービス事業(n=1)	1	-	-	-	-
サービス業（他に分類されないもの）(n=15)	4	3	1	7	-
その他(n=5)	-	1	-	4	-
合計	32	14	18	60	3

U 社員に対する環境教育の実施

	既に取り組んでいる	取組を検討中	取り組む予定はない	当社には該当しない	不明
農業、林業、漁業(n=1)	-	1	-	-	-
鉱業、採石業、砂利採取業(n=0)	-	-	-	-	-
建設業(n=9)	7	1	-	1	-
製造業(n=12)	11	1	-	-	-
電気・ガス・熱供給・水道業(n=0)	-	-	-	-	-
情報通信業(n=4)	2	-	1	1	-
運輸業、郵便業(n=6)	4	1	-	1	-
卸売業、小売業(n=18)	12	3	-	3	-
金融業、保険業(n=5)	5	-	-	-	-
不動産業、物品賃貸業(n=12)	3	1	-	7	1
学術研究、専門・技術サービス業(n=7)	3	1	3	-	-
宿泊業、飲食サービス業(n=1-)	6	2	2	-	-
生活関連サービス業、娯楽業(n=1)	1	-	-	-	-
教育、学習支援業(n=6)	5	-	1	-	-
医療、福祉(n=13)	6	1	-	6	-
複合サービス事業(n=1)	1	-	-	-	-
サービス業（他に分類されないもの）(n=15)	8	3	1	3	-
その他(n=5)	1	2	-	2	-
合計	77	17	8	24	1

V 環境情報の開示(CSRレポート等)

	既に取り組んでいる	取組を検討中	取り組む予定はない	当社には該当しない	不明
農業、林業、漁業(n=1)	-	1	-	-	-
鉱業、採石業、砂利採取業(n=0)	-	-	-	-	-
建設業(n=9)	4	1	1	3	-
製造業(n=12)	10	-	-	2	-
電気・ガス・熱供給・水道業(n=0)	-	-	-	-	-
情報通信業(n=4)	2	-	1	1	-
運輸業、郵便業(n=6)	1	2	-	3	-
卸売業、小売業(n=18)	6	3	2	7	-
金融業、保険業(n=5)	3	1	-	1	-
不動産業、物品賃貸業(n=12)	1	1	1	8	1
学術研究、専門・技術サービス業(n=7)	4	-	2	1	-
宿泊業、飲食サービス業(n=1-)	2	1	2	4	1
生活関連サービス業、娯楽業(n=1)	-	1	-	-	-
教育、学習支援業(n=6)	2	1	-	3	-
医療、福祉(n=13)	1	2	1	9	-
複合サービス事業(n=1)	1	-	-	-	-
サービス業（他に分類されないもの）(n=15)	4	3	-	8	-
その他(n=5)	-	1	-	4	-
合計	41	18	10	56	2

W 社員に対する熱中症対策の啓発の実施

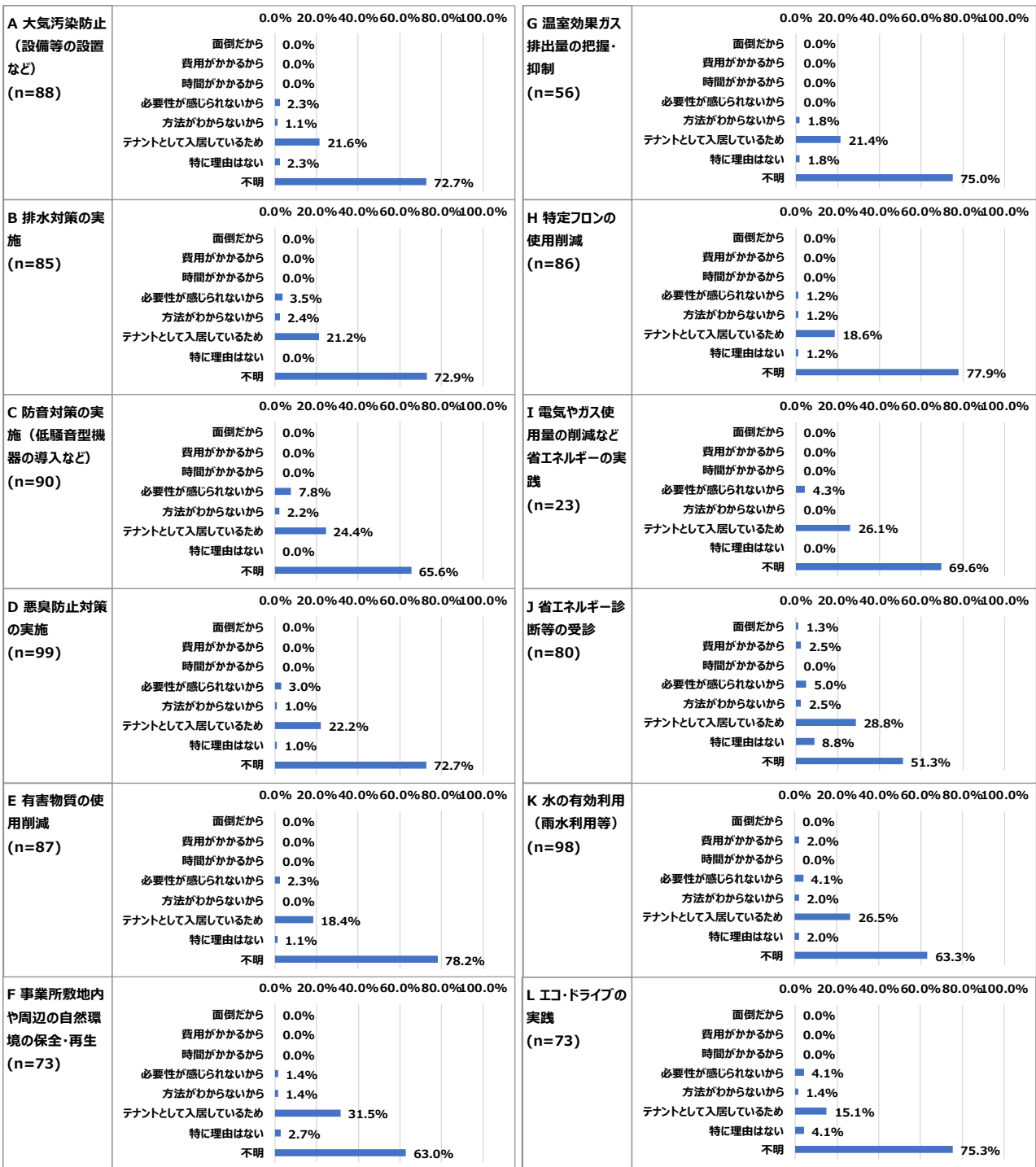
	既に取り組 んでいる	取組を 検討中	取り組む 予定はない	当社には 該当しない	不明
農業、林業、漁業(n=1)	-	1	-	-	-
鉱業、採石業、砂利採取業(n=0)	-	-	-	-	-
建設業(n=9)	8	-	-	1	-
製造業(n=12)	12	-	-	-	-
電気・ガス・熱供給・水道業(n=0)	-	-	-	-	-
情報通信業(n=4)	3	-	-	1	-
運輸業、郵便業(n=6)	5	1	-	-	-
卸売業、小売業(n=18)	17	-	-	1	-
金融業、保険業(n=5)	4	1	-	-	-
不動産業、物品賃貸業(n=12)	5	1	-	5	1
学術研究、専門・技術サービス業(n=7)	3	1	3	-	-
宿泊業、飲食サービス業(n=1-)	9	-	1	-	-
生活関連サービス業、娯楽業(n=1)	-	1	-	-	-
教育、学習支援業(n=6)	6	-	-	-	-
医療、福祉(n=13)	8	1	-	4	-
複合サービス事業(n=1)	1	-	-	-	-
サービス業（他に分類されないもの）(n=15)	1-	2	-	3	-
その他(n=5)	4	-	1	-	-
合計	96	9	5	16	1

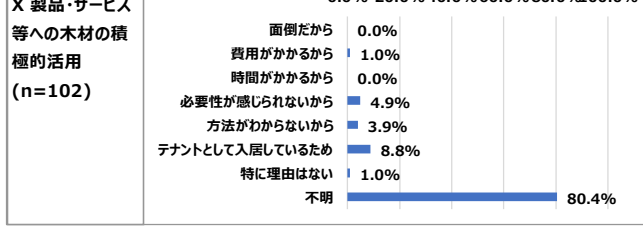
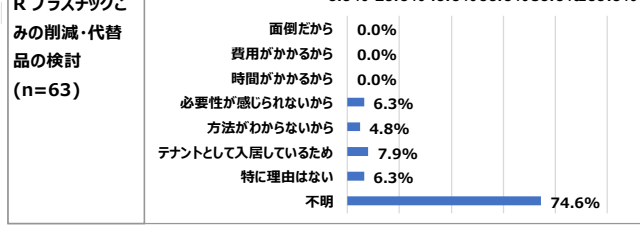
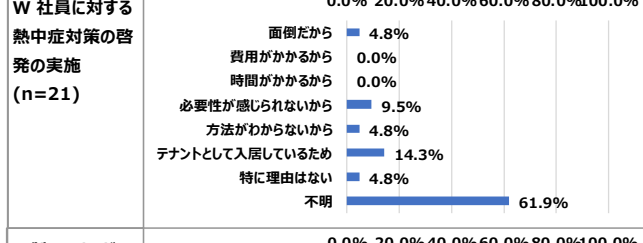
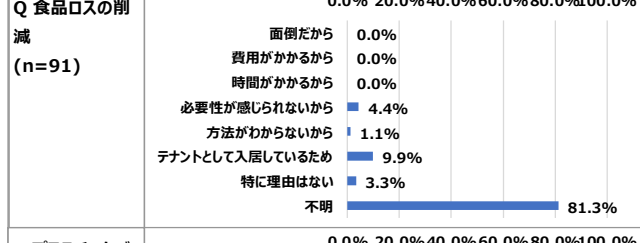
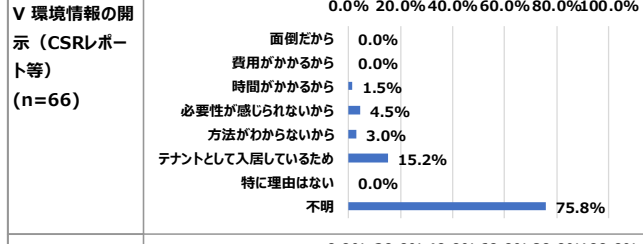
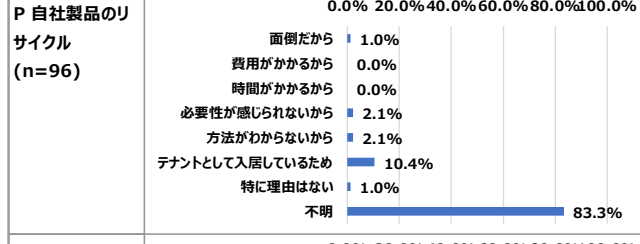
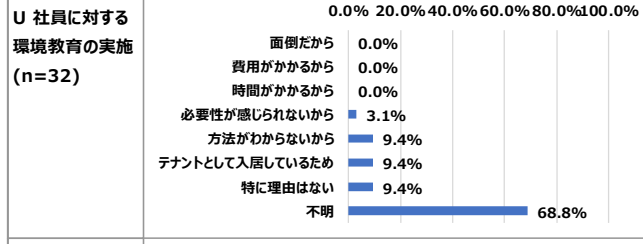
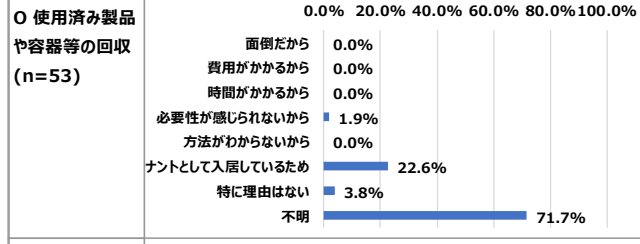
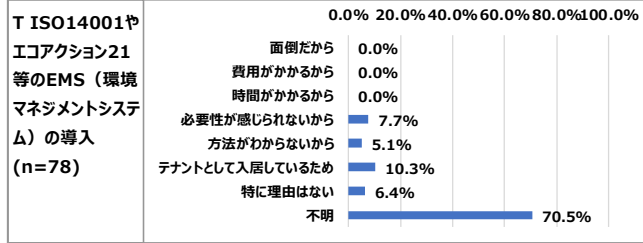
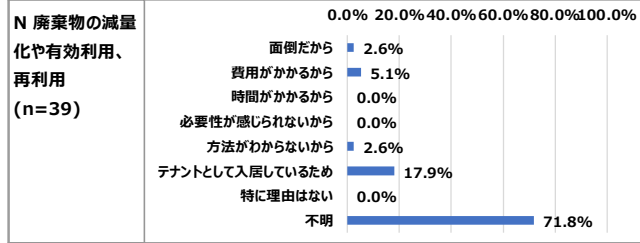
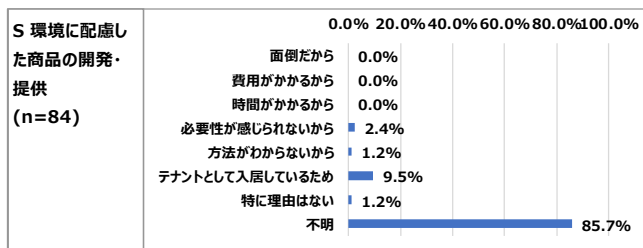
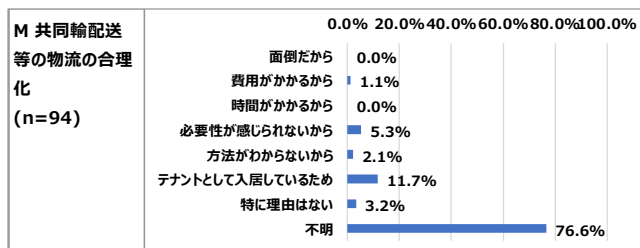
X 製品・サービス等への木材の積極的活用

	既に取り組 んでいる	取組を 検討中	取り組む 予定はない	当社には 該当しない	不明
農業、林業、漁業(n=1)	-	1	-	-	-
鉱業、採石業、砂利採取業(n=0)	-	-	-	-	-
建設業(n=9)	1	-	-	8	-
製造業(n=12)	3	-	1	8	-
電気・ガス・熱供給・水道業(n=0)	-	-	-	-	-
情報通信業(n=4)	-	-	1	3	-
運輸業、郵便業(n=6)	2	-	-	4	-
卸売業、小売業(n=18)	2	2	3	11	-
金融業、保険業(n=5)	1	-	-	4	-
不動産業、物品賃貸業(n=12)	3	-	-	8	1
学術研究、専門・技術サービス業(n=7)	-	1	1	5	-
宿泊業、飲食サービス業(n=1-)	1	1	2	6	-
生活関連サービス業、娯楽業(n=1)	-	-	-	1	-
教育、学習支援業(n=6)	1	-	-	5	-
医療、福祉(n=13)	-	2	2	9	-
複合サービス事業(n=1)	-	-	-	1	-
サービス業（他に分類されないもの）(n=15)	1	2	1	11	-
その他(n=5)	-	-	-	5	-
合計	15	9	11	91	1

【環境に配慮した取組に取り組まない理由】

● 取り組まない理由については、すべての項目で「テナントとして入居しているため」の回答が最も多くなっています。





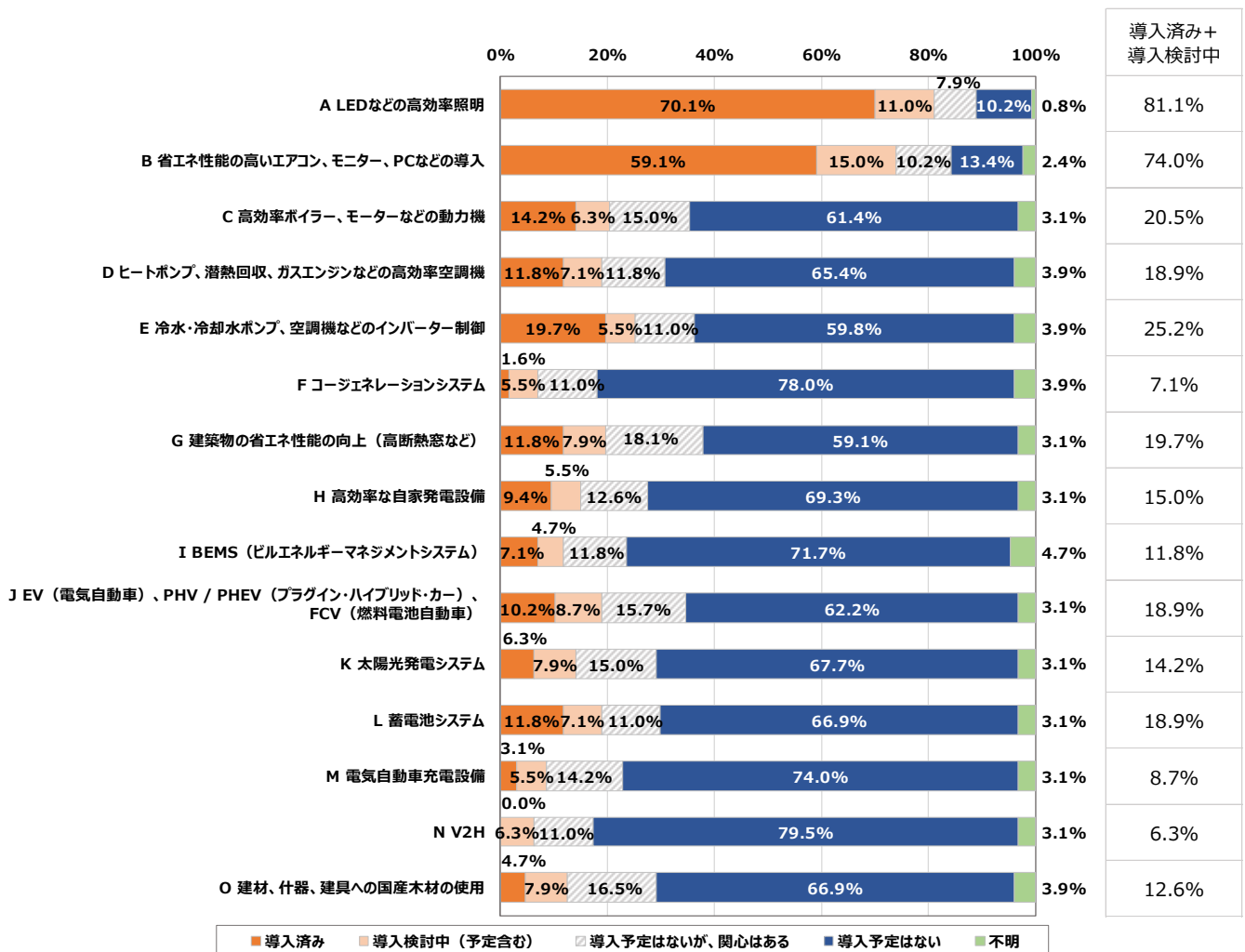
3-4 脱炭素の取組について

(1) 温暖化防止設備機器の導入状況

問 4 地球温暖化防止につながる機器や設備を導入していますか。それぞれの項目について、当てはまる番号に○をつけてください。

「3 導入予定はないが、関心はある」「4 導入予定はない」を選んだ場合、導入しない理由もお答えください。

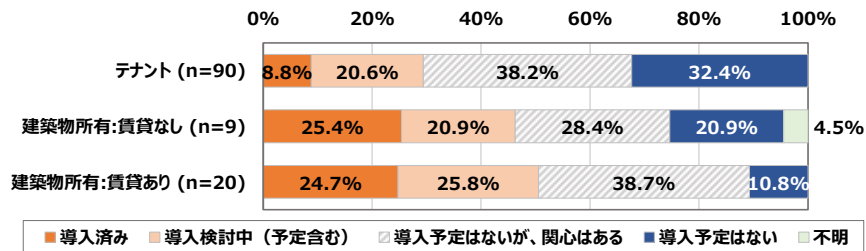
- 「導入済み」と「導入検討中（予定含む）」の合計の割合が高かったのは、「A LED などの高効率照明」（81.1%）、「B 省エネ性能の高いエアコン、モニター、PC などの導入」（74.0%）で 7 割以上の回答となっています。
- 「導入予定はないが、関心はある」については、「G 建築物の省エネ性能の向上（高断熱窓など）」（18.1%）、「O 建材、什器、建具への国産木材の使用」（16.5%）、「J EV（電気自動車）、PHV / PHEV（プラグイン・ハイブリッド・カー）、FCV（燃料電池自動車）」（15.7%）の順で多くなっています。



【建物所有状況別のクロス集計】

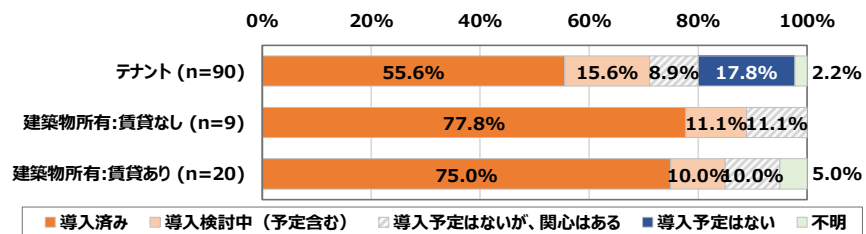
A LED などの高効率照明

● 「導入済み」と「導入検討中（予定含む）」の合計の割合は、建築物を所有している事業者で約 5 割、テナントで約 3 割となっています。一方、「導入予定はない」の割合は、テナントで約 3 割となっています。



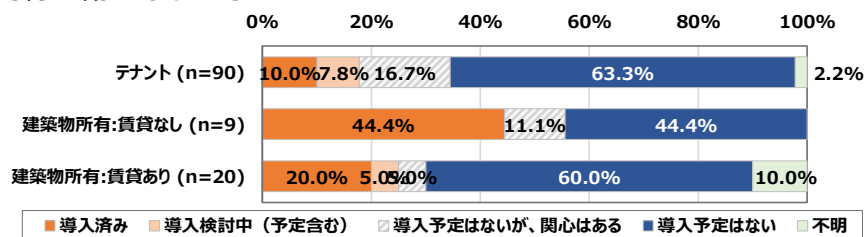
B 省エネ性能の高いエアコン、モニター、PC などの導入

● 「導入済み」と「導入検討中（予定含む）」の合計の割合は、建築物を所有している事業者で 8 割以上、テナントで約 7 割となっています。建築物を所有している事業者は、「導入予定はない」の回答がありませんでした。



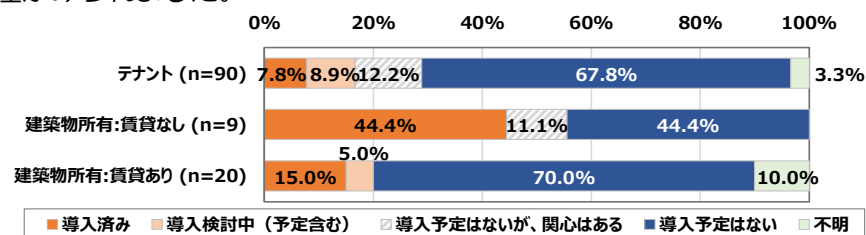
C 高効率ボイラー、モーターなどの動力機

● 「導入済み」と「導入検討中（予定含む）」の合計の割合は、賃貸なしの建築物を所有している事業者で 5 割前後でした。「導入予定はないが、関心はある」と合わせると、テナントと賃貸ありの建築物所有事業者で約 3 割となりました。



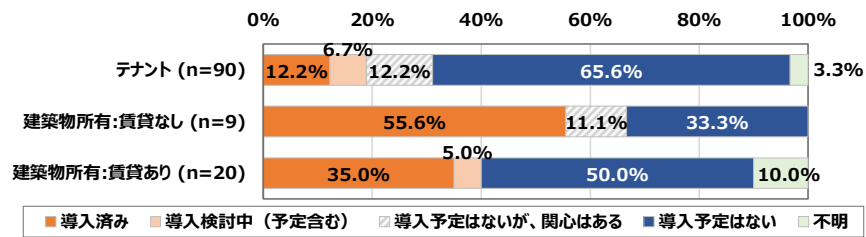
D ヒートポンプ、潜熱回収、ガスエンジンなどの高効率空調機

● 「導入済み」と「導入検討中（予定含む）」の合計の割合は、賃貸なしの建築物を所有している事業者で 5 割前後でした。テナントと賃貸ありの建築物所有事業者では「導入予定はないが、関心はある」で意識の差がみられました。



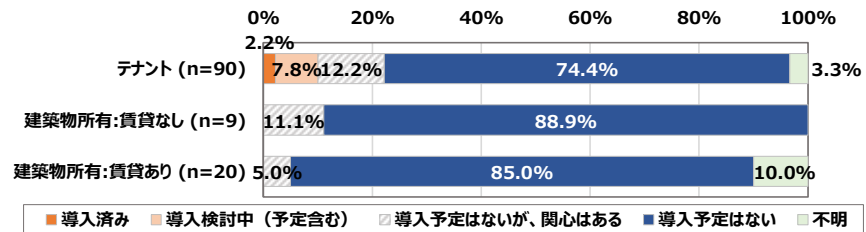
E 冷水・冷却水ポンプ、空調機などのインバーター制御

- 「導入済み」と「導入検討中（予定含む）」の合計の割合は、賃貸なしの建築物を所有している事業者で5割以上、賃貸ありの建築物所有事業者で4割でした。



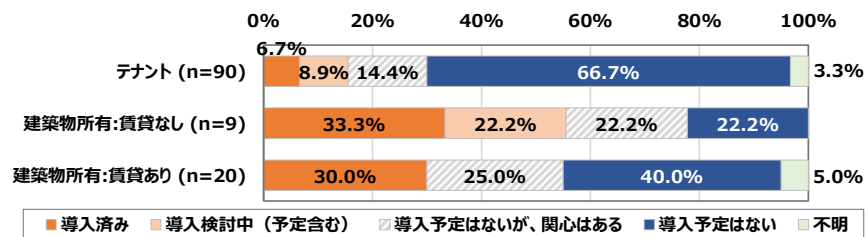
F コージェネレーションシステム

- 「導入済み」と「導入検討中（予定含む）」の合計の割合は、テナントのみで回答がありました。



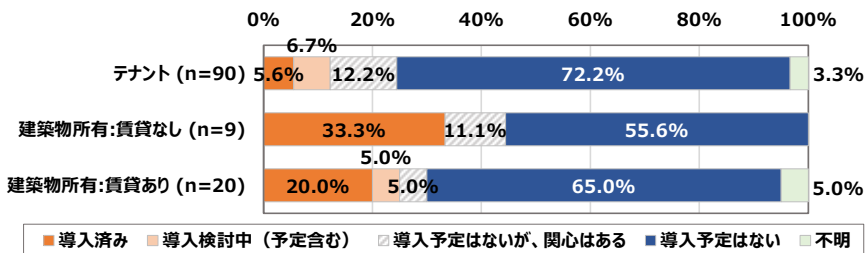
G 建築物の省エネ性能の向上(高断熱窓など)

- 「導入済み」と「導入検討中（予定含む）」の合計の割合は、賃貸なしの建築物を所有している事業者で5割以上、賃貸ありの建築物所有事業者で3割でした。「導入予定はないが、関心はある」は、建築物所有事業者で2割以上となっています。



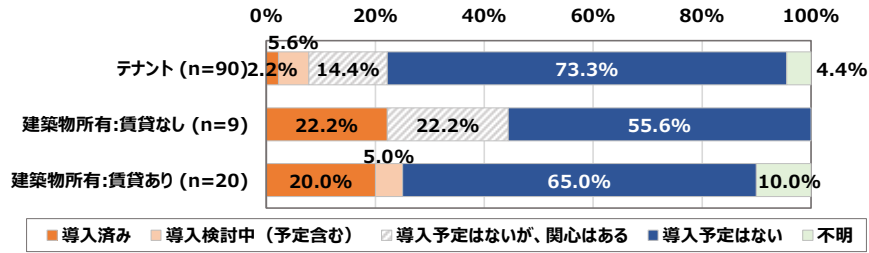
H 高効率な自家発電設備

- 「導入済み」と「導入検討中（予定含む）」の合計の割合は、建築物を所有している事業者で3割前後となりました。



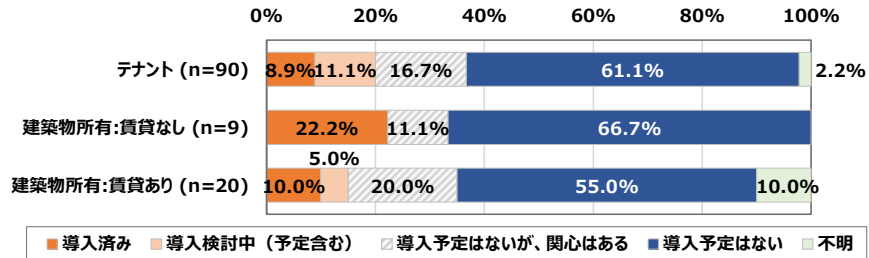
I BEMS(ビルエネルギーマネジメントシステム)

- 「導入済み」と「導入検討中(予定含む)」の合計の割合は、建築物を所有している事業者で2割以上となりました。



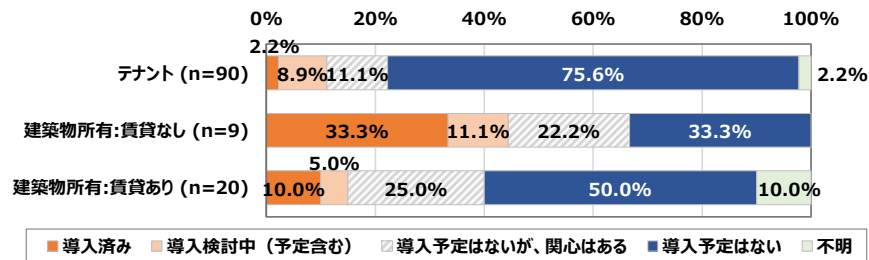
J EV(電気自動車)、PHV / PHEV(プラグイン・ハイブリッド・カー)、FCV(燃料電池自動車)

- 「導入済み」と「導入検討中(予定含む)」の合計の割合は、建築物の所有の有無に関わらず、2割前後となりました。



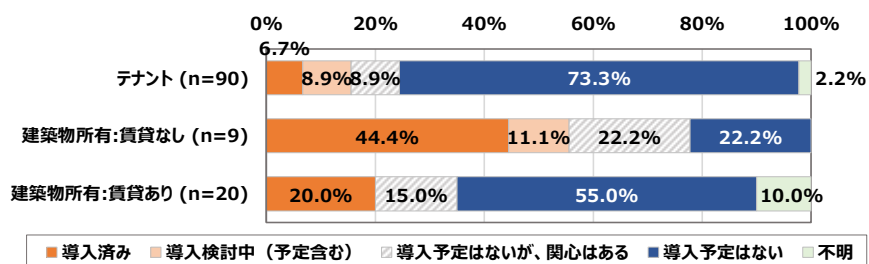
K 太陽光発電システム

- 「導入済み」と「導入検討中(予定含む)」の合計の割合は、賃貸なしの建築物を所有している事業者で4割以上となりました。「導入予定はないが、関心はある」は、建築物所有事業者で2割以上となっています。



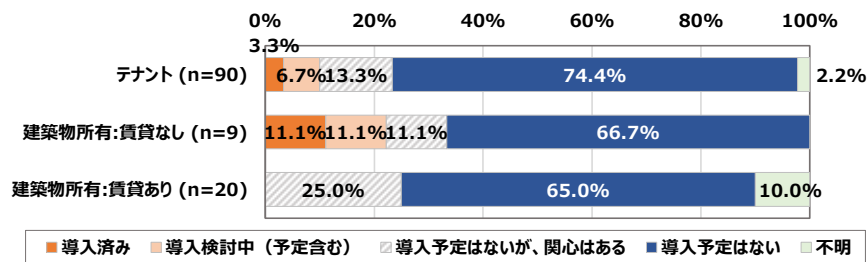
L 蓄電池システム

- 「導入済み」と「導入検討中(予定含む)」の合計の割合は、賃貸なしの建築物を所有している事業者で5割以上となりました。「導入予定はないが、関心はある」と合わせると約8割となっています。



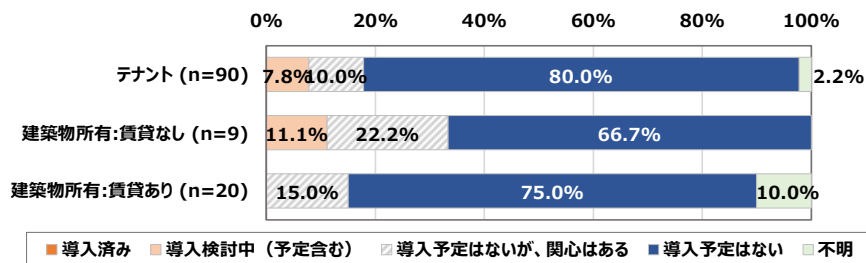
M 電気自動車充電設備

- 「導入済み」、「導入検討中（予定含む）」と「導入予定はないが、関心はある」と合わせると建物所有の有無に関わらず、2割以上から3割の回答となっています。



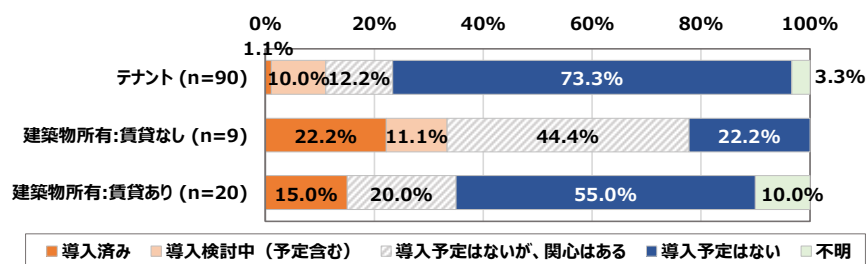
N V2H

- 「導入検討中（予定含む）」と「導入予定はないが、関心はある」と合わせると、建築物を所有している事業者で約3割、テナントと賃貸ありの建築物所有事業者で2割弱の回答となっています。



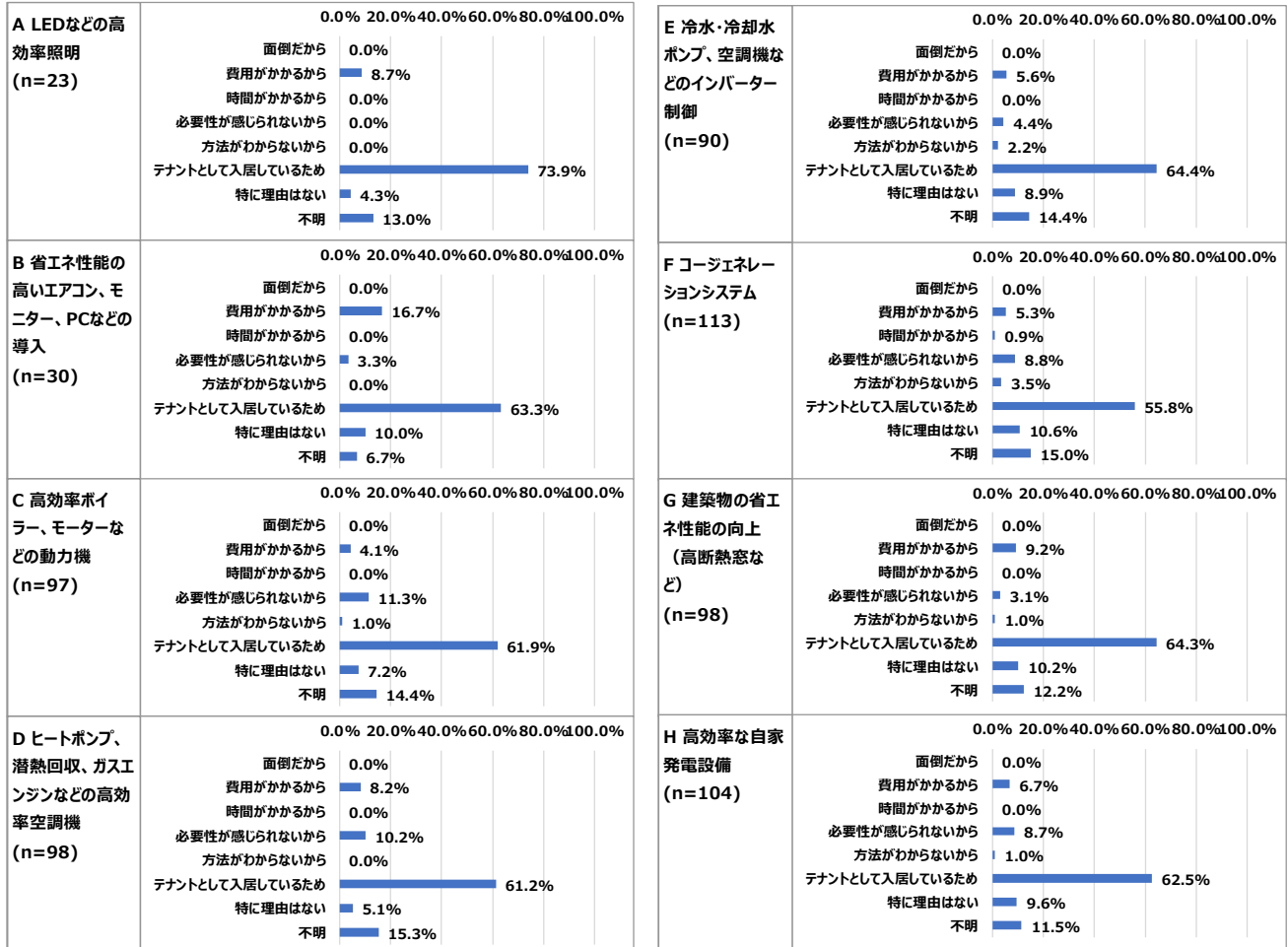
O 建材、什器、建具への国産木材の使用

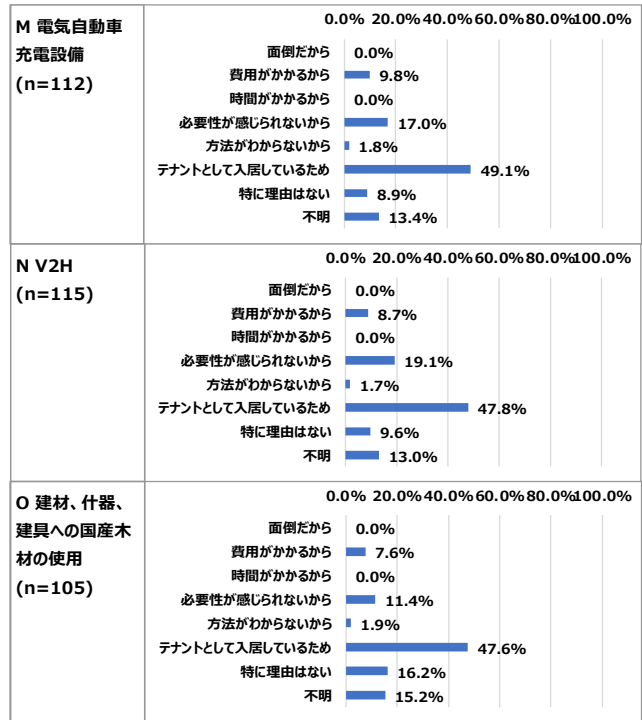
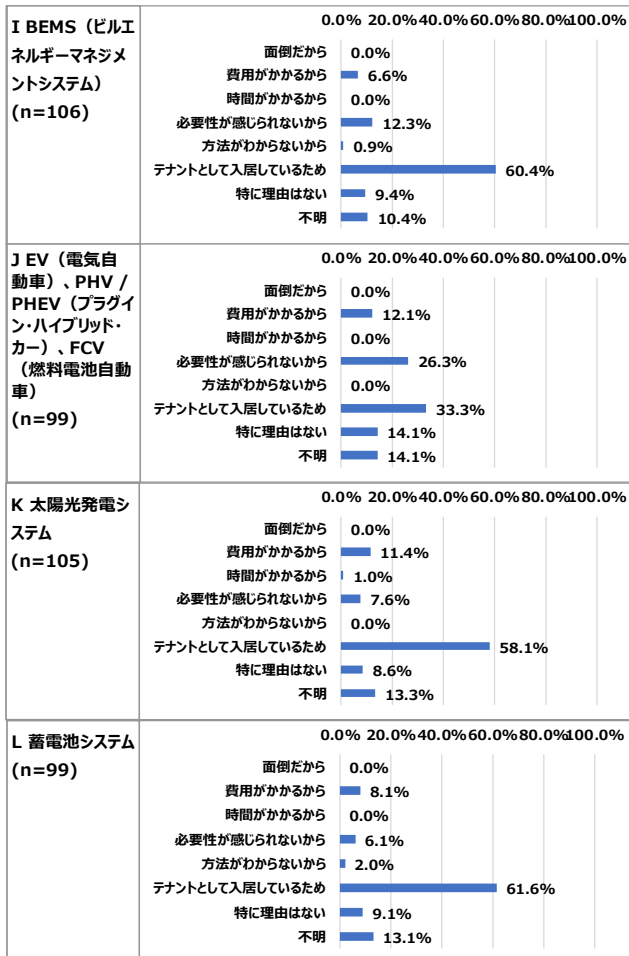
- 「導入済み」と「導入検討中（予定含む）」の合計の割合は、賃貸なしの建築物を所有している事業者で3割以上、「導入予定はないが、関心はある」と合わせると約8割となっています。



【地球温暖化防止設備機器を導入しない理由】

● 導入しない理由については、すべての項目で「テナントとして入居しているため」の回答が最も多くなっています。次点として「必要性が感じられないから」や「特に理由はない」の回答が多くなっています。





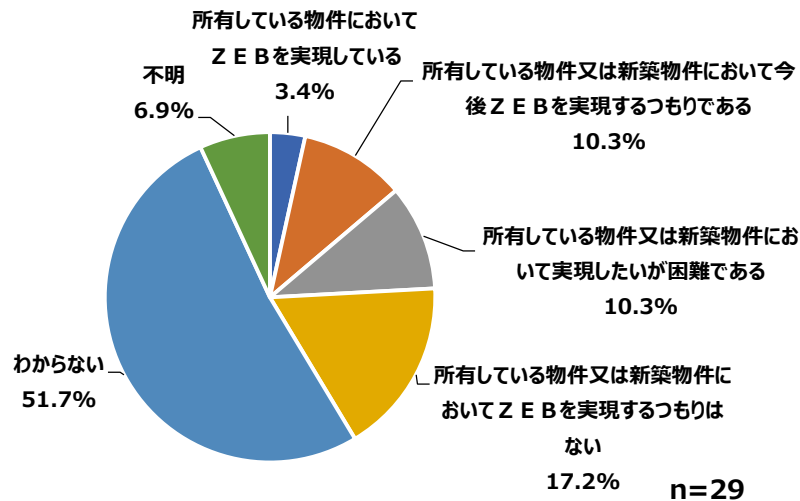
(2)ZEB について

問 5 ①ビルを所有している事業者

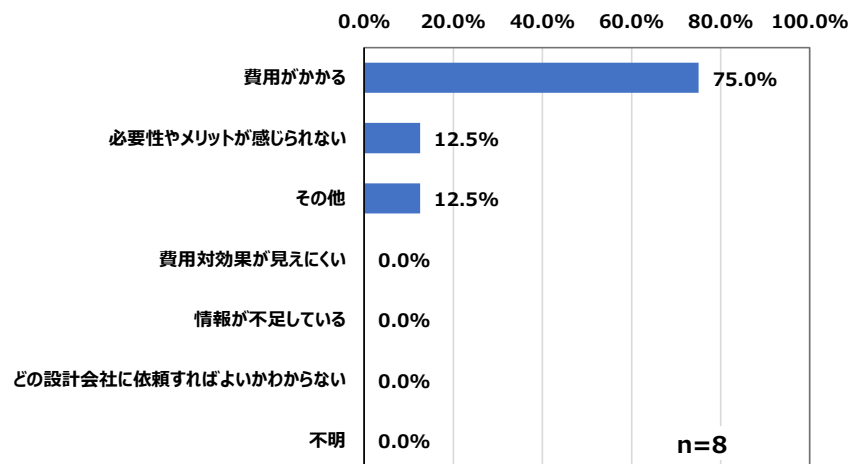
ZEB について、貴組織の考えにもっとも近いものを 1 つ選んでください。

「3 所有している物件又は新築物件において実現したいが困難である」または「4 所有している物件又は新築物件において ZEB を実現するつもりはない」を選んだ場合、理由もお答えください。

- ビルを所有している事業者の ZEB の実現状況については、「所有している物件において ZEB を実現している」と「所有している物件又は新築物件において今後 ZEB を実現するつもりである」であるの合計が 13.7%となりました。最も多い回答は、「わからない」(51.7%) となっています。
- ZEB の実現が困難または実現するつもりはない理由については、「費用がかかる」(75.-%) が最も多くなっています。



【ZEB の実現が困難または実現するつもりはない理由】

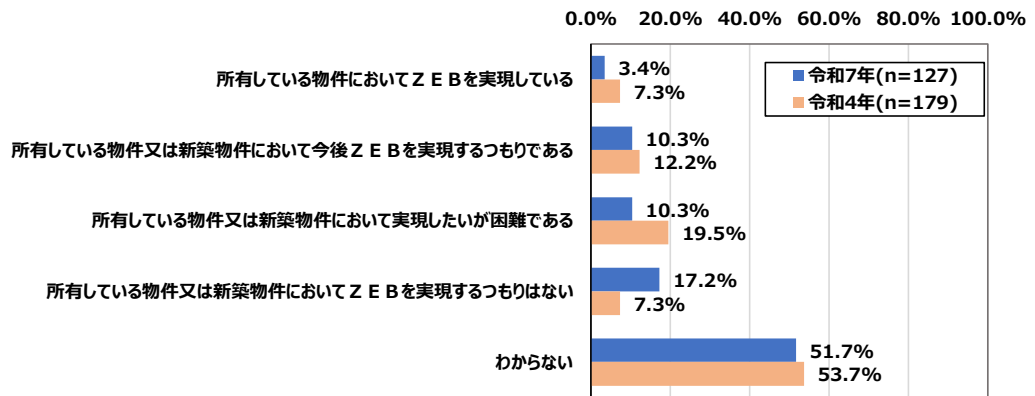


◆その他の回答(要約)

- 建物売却予定。
- 設計等、建築に関わる業務は本部が担っているから。

【前回調査との比較】

- 「所有している物件又は新築物件においてZEBを実現するつもりはない」で割合が増加しており、前回調査よりZEBに対して後ろ向きな回答が多い傾向となりました。

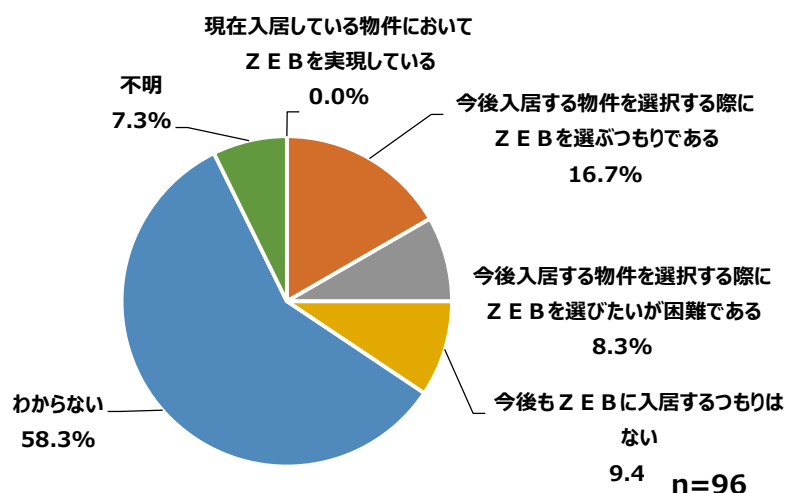


問5 ②テナントに入居している事業者

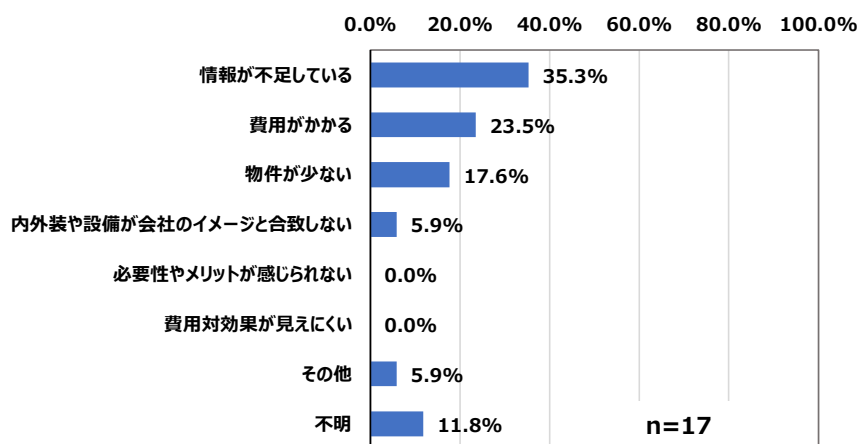
ZEBについて、貴組織の考えにもっとも近いものを1つ選んでください。

「3 今後入居する物件を選択する際に、ZEBを選びたいが困難である」または「4 今後もZEBに入居するつもりはない」を選んだ場合、理由もお答えください。

- テナントに入居している事業者のZEBの実現状況については、「現在入居している物件においてZEBを実現している」は回答率0%でしたが、「今後入居する物件を選択する際にZEBを選ぶつもりである」は16.7%となりました。最も多い回答は、「わからない」(58.3%)となっています。
- ZEBを選びたいが困難または入居するつもりはない理由については、「情報が不足している」(35.3%)、「費用がかかる」(23.5%)、「物件が少ない」(17.6%)の順で多くなっています。



【ZEBを選びたいが困難または入居するつもりはない理由】

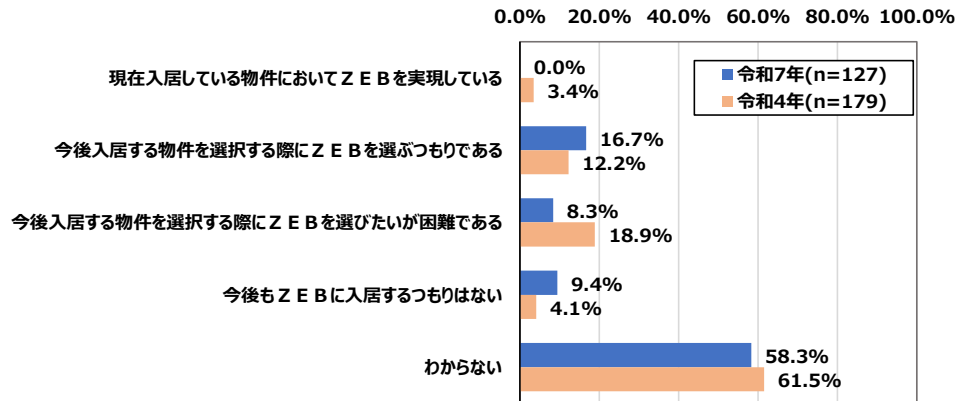


◆その他の回答(要約)

- 「ZEB」を知らない。
- 移転予定がないため。
- 親会社のビルに移転。
- 入居する物件を選択する際にZEBであるかどうかを選択基準にできない。

【前回調査との比較】

- 「今後入居する物件を選択する際にZEBを選ぶつもりである」と回答した割合が増えている一方、「今後もZEBに入居するつもりはない」でも回答割合が増加しています。

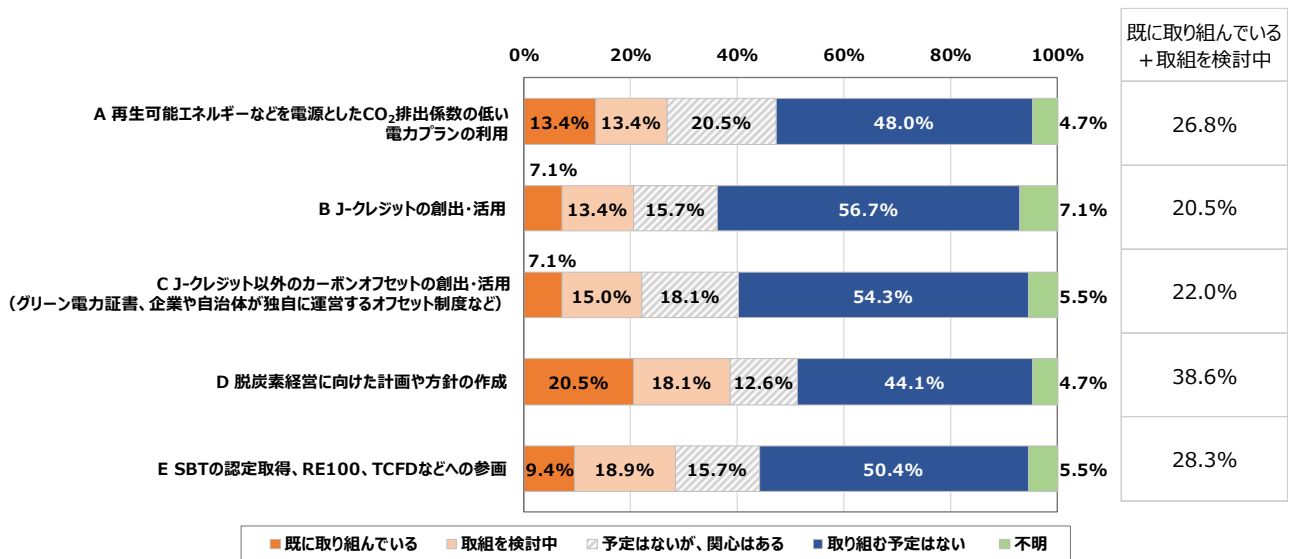


(3)脱炭素経営の取組状況

問6 以下は、設備導入が伴わない脱炭素経営の取組です。貴事業所で取り組んでいること、また関心があることはありますか。それぞれの項目について、当てはまる番号に○をつけてください。

「3 予定はないが、関心はある」「4 取り組む予定はない」を選んだ場合、取り組まない理由もお答えください。

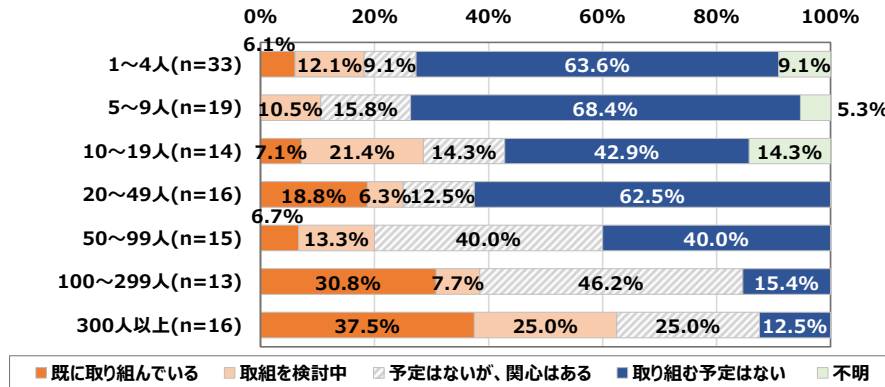
- 「既に取り組んでいる」と「取組を検討中」の合計の割合で見ると、「D 脱炭素経営に向けた計画や方針の作成」(38.6%)、「E SBTの認定取得、RE100、TCFDなどへの参画」(28.3%)、「A 再生可能エネルギーなどを電源としたCO₂排出係数の低い電力プランの利用」(26.8%)の順で多くなっています。
- 「予定はないが関心はある」は、「A 再生可能エネルギーなどを電源としたCO₂排出係数の低い電力プランの利用」(20.5%)が最も多く、2割以上の回答率となりました。
- 「取り組む予定はない」については、「B J-クレジットの創出・活用」(56.7%)、「C J-クレジット以外のカーボンオフセットの創出・活用(グリーン電力証書、企業や自治体が独自に運営するオフセット制度など)」(54.3%)、「E SBTの認定取得、RE100、TCFDなどへの参画」(50.4%)で5割以上の回答となっています。



【従業員規模別のクロス集計】

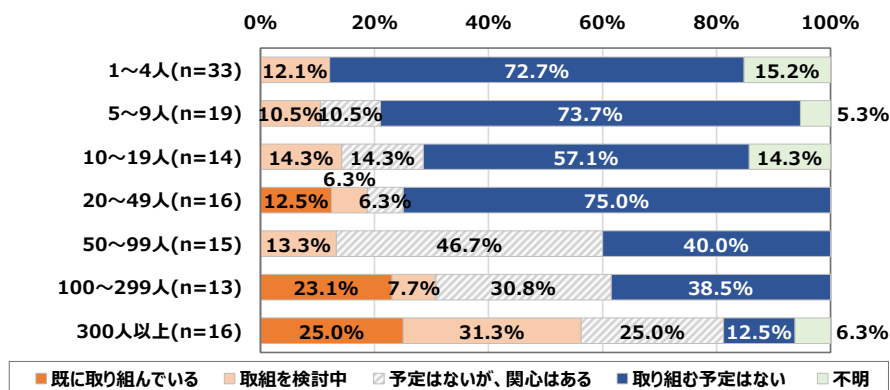
A 再生可能エネルギーなどを電源とした CO₂ 排出係数の低い電力プランの利用

● 「既に取り組んでいる」と「取組を検討中」の合計の割合は、従業員規模 300 人以上で 6 割を超えており、100～299 人で約 4 割となっています。「予定はないが関心はある」と合わせると、従業員規模 100 人以上で 8 割以上、50～99 人で 6 割となっています。



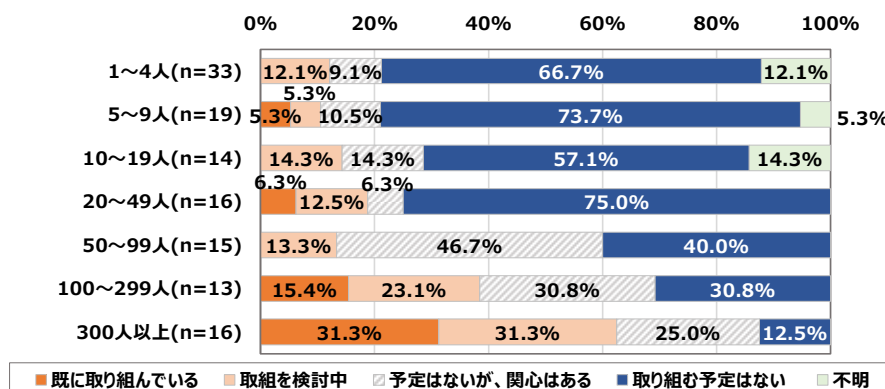
B J-クレジットの創出・活用

● 「既に取り組んでいる」と「取組を検討中」の合計の割合は、従業員規模 300 人以上で約 6 割、100～299 人で 3 割となっています。「予定はないが関心はある」と合わせると、従業員規模 300 人以上で 8 割以上、50～299 人で約 6 割となっています。



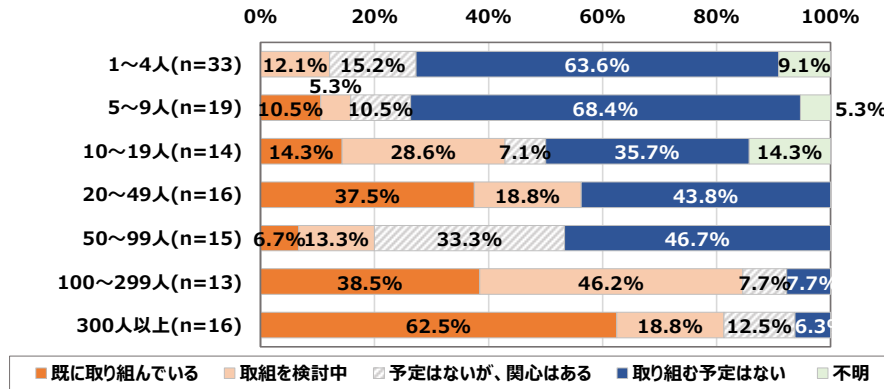
C J-クレジット以外のカーボンオフセットの創出・活用(グリーン電力証書、企業や自治体が独自に運営するオフセット制度など)

● 「既に取り組んでいる」と「取組を検討中」の合計の割合は、従業員規模 300 人以上で 6 割を超えており、100～299 人で約 4 割となっています。「予定はないが関心はある」と合わせると、従業員規模 300 人以上で 8 割以上、50～299 人で 6 割～7 割となっています。



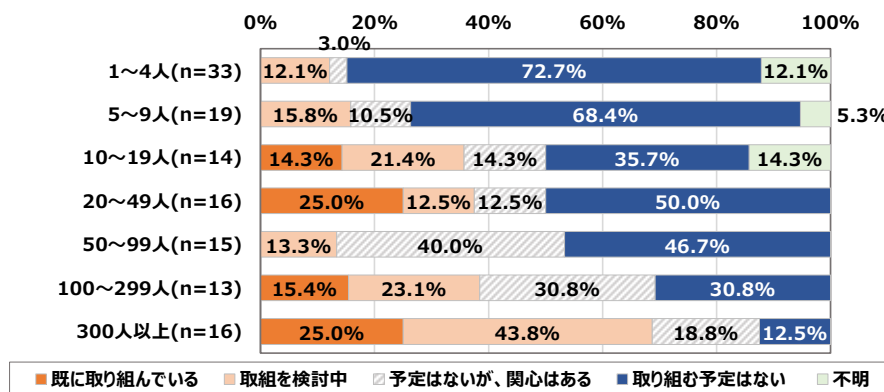
D 脱炭素経営に向けた計画や方針の作成

- 「既に取り組んでいる」と「取組を検討中」の合計の割合は、従業員規模 100 人以上で 8 割を超えています。「予定はないが関心はある」と合わせると、従業員規模 100 人以上で 9 割を超えており、10 人～99 人では 5 割以上となっています。



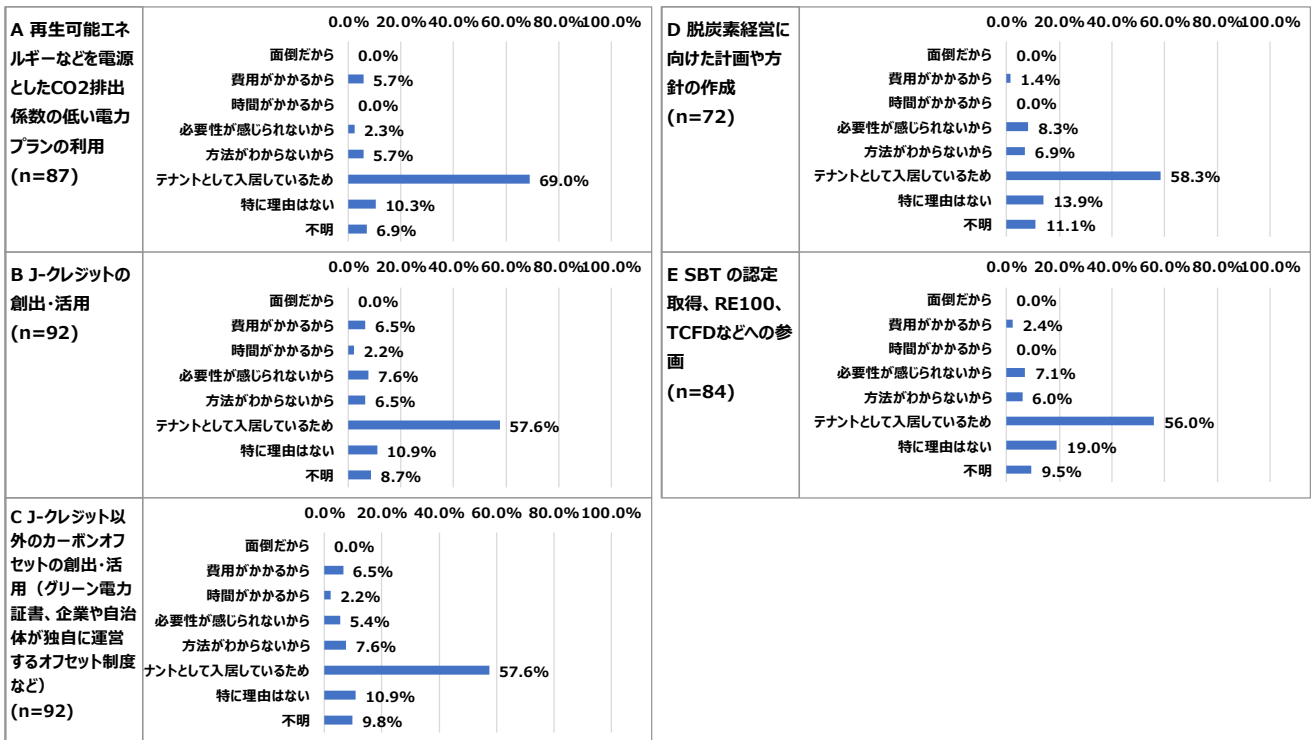
E SBT の認定取得、RE100、TCFD などへの参画

- 「既に取り組んでいる」と「取組を検討中」の合計の割合は、従業員規模 300 人以上で 6 割を超えており、100～299 人で約 4 割となっています。「予定はないが関心はある」と合わせると、従業員規模 300 人以上で約 9 割、100～299 人で約 7 割、10～99 人でも 5 割となっています。



【環境に配慮した取組に取り組まない理由】

- 取り組まない理由については、すべての項目で「テナントとして入居しているため」の回答が最も多くなっています。

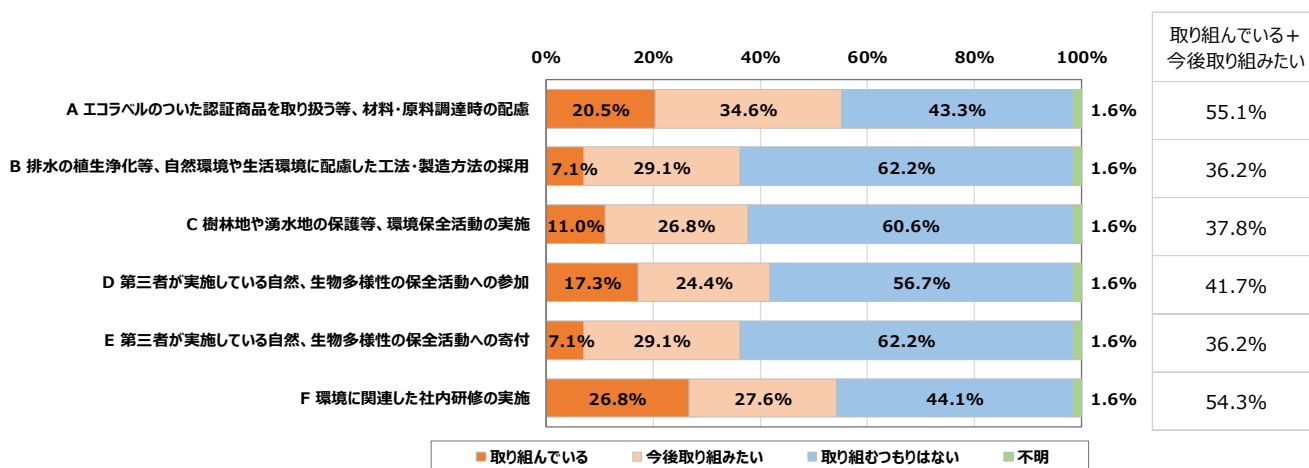


3-5 生物多様性に関する取組について

(1) 生物多様性の保全に関する取組の状況

問 7-1 貴組織が取り組んでいる、あるいは今後取り組む予定の生物多様性の保全に関する取組について、当てはまる番号に○をつけてください。

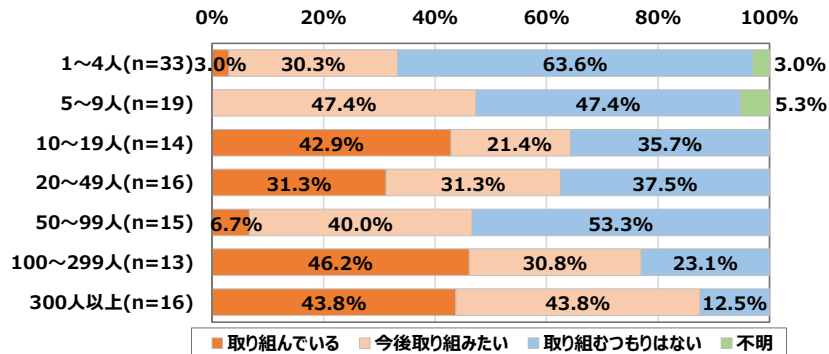
- 「取り組んでいる」と「今後取り組みたい」の合計の割合で見ると、「A エコラベルのついた認証商品を取り扱う等、材料・原料調達時の配慮」(55.1%)、「F 環境に関連した社内研修の実施」(54.3%)、「D 第三者が実施している自然、生物多様性の保全活動への参加」(41.7%) の順で多くなっています。
- 「取り組むつもりはない」については、「B 排水の植生浄化等、自然環境や生活環境に配慮した工法・製造方法の採用」(62.2%) と「E 第三者が実施している自然、生物多様性の保全活動への寄付」(62.2%) とが同率で最も多く、次いで「C 樹林地や湧水地の保護等、環境保全活動の実施」(60.6%) の回答が多くなっています。



【従業員規模別のクロス集計】

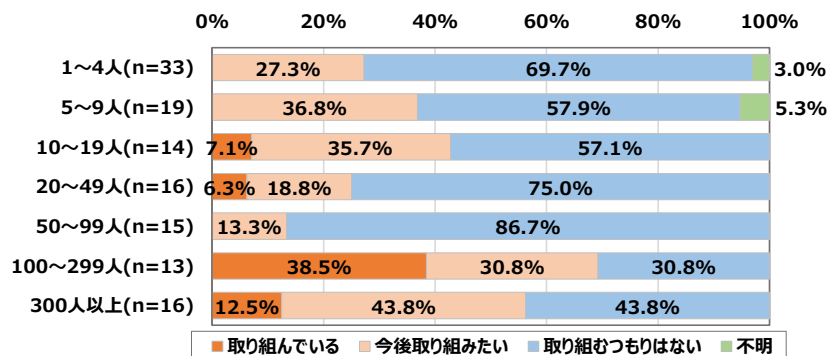
A エコラベルのついた認証商品を取り扱う等、材料・原料調達時の配慮

- 「取り組んでいる」の回答割合は、従業員規模 10～19 人、100 人以上で 4 割を超えています。「今後取り組みたい」と合わせると、従業員規模 100 人以上で 8 割前後、10～49 人で 6 割以上となっています。



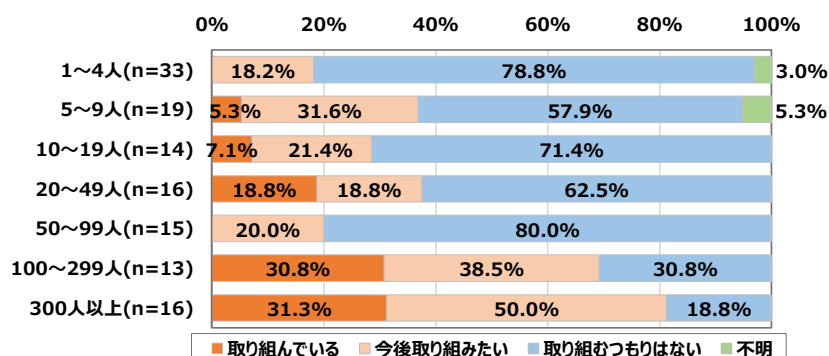
B 排水の植生浄化等、自然環境や生活環境に配慮した工法・製造方法の採用

- 「取り組んでいる」の回答割合は、従業員規模 100～299 人で約 4 割となっています。「今後取り組みたい」と合わせると、従業員規模 100～299 人で約 7 割、300 人以上で 6 割弱となっています。



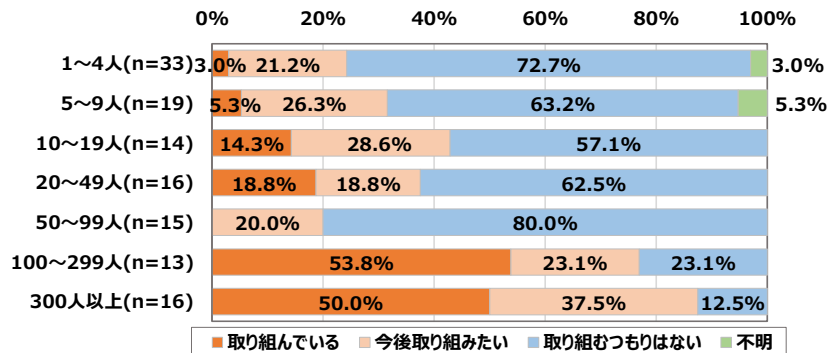
C 樹林地や湧水地の保護等、環境保全活動の実施

- 「取り組んでいる」の回答割合は、従業員規模 100 人以上で 3 割を超えています。「今後取り組みたい」と合わせると、従業員規模 100 人以上で 7 割～8 割となっています。



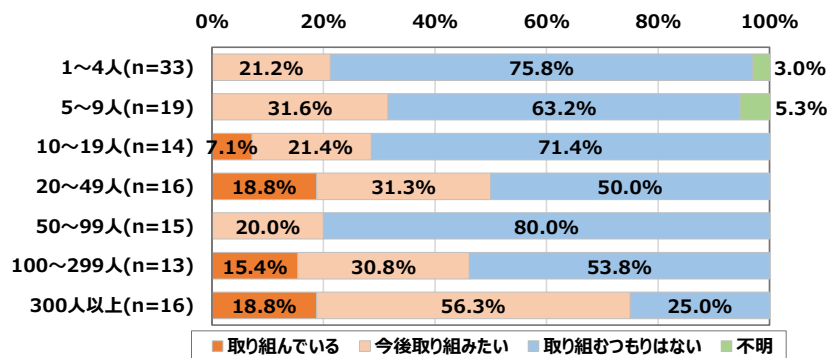
D 第三者が実施している自然、生物多様性の保全活動への参加

- 「取り組んでいる」の回答割合は、従業員規模 100 人以上で 5 割を超えています。「今後取り組みたい」と合わせると、従業員規模 100～299 人で 8 割弱、300 人以上で約 9 割となっています。



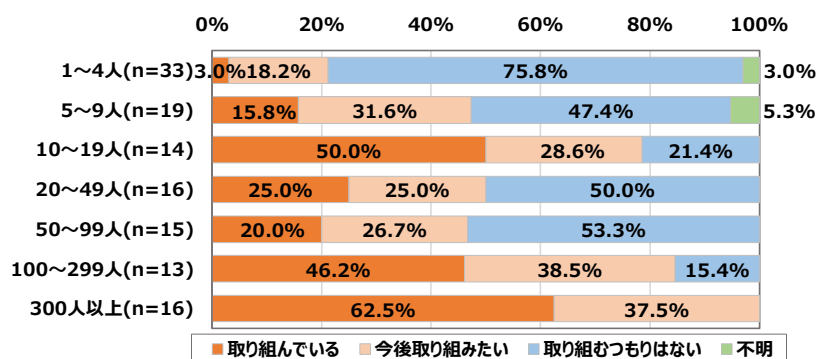
E 第三者が実施している自然、生物多様性の保全活動への寄付

- 「取り組んでいる」の回答割合は、従業員規模 20～49 人、100 人以上で約 2 割となっています。「今後取り組みたい」と合わせると、従業員規模 20～49 人と 100～299 人で約 5 割、300 人以上で 4 分の 3 を占めています。



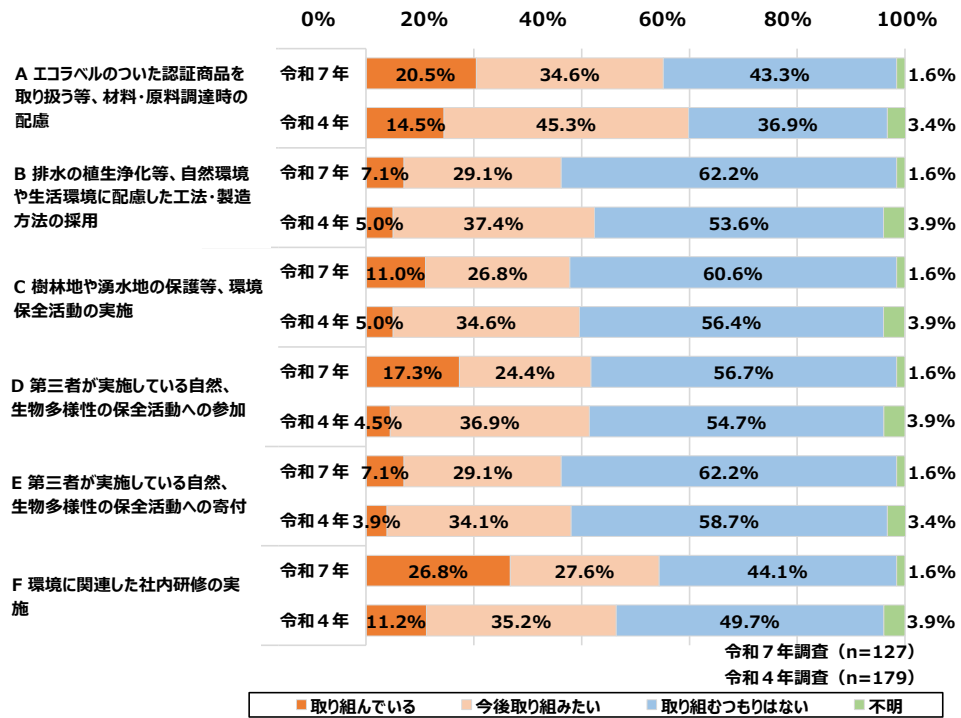
F 環境に関連した社内研修の実施

- 「取り組んでいる」の回答割合は、従業員規模 10～19 人、100～299 人以上で 5 割前後、300 人以上で 6 割以上となっています。「今後取り組みたい」と合わせると、従業員規模 1～4 人を除き、すべての規模で半数近くもしくはそれ以上の回答率となりました。従業員規模 300 人以上では「取り組むつもりはない」の回答はありませんでした。



【前回調査との比較】

● 全体的に「取り組んでいる」割合が上昇しています。一方、「今後取り組みたい」の回答割合は減少し、「F 環境に関連した社内研修の実施」以外は「取り組むつもりはない」の回答割合も増えています。



問 7-2 7-1 A～Fのうち、「取り組んでいる」または「今後取り組みたい」を選んだ方にお聞きします。具体的にどのようなことに取り組んでいる、もしくは取り組みたいと考えていますか。

- 44 事業者から回答がありました。

【主な回答(要約)】

SDGs への参画や勉強会の実施、環境保護の社内教育（e-learning）を定期的実施している、外構植物への散水に中水を使用、ビオトープ、FSC 認証紙の採用、サーキュラーエコノミーを学ぶコンテンツの受講、エシカル など

- 製品の開発設計を行っている拠点であり、建物や設備等の面で環境や生物への活動を行うのは困難であるが、製品設計や材料選出、梱包、輸送等については活動を行っている。
- 事務所ビルの利用について環境により提案があれば、コストとの関連で取り組みたい。
- 広範囲で継続的に実施できることがあれば取り組みたい。
- 知見を広めるための研修や講習会へ参加し、社内へ拡散することで、一人一人の興味や関心を高めていきたい。
- 脱炭素の商品の取り扱いを増やしている。自然にやさしい商品を取り扱ってきたい。
- 環境による施策を年 1 回発表し、周知。定期的にワークショップやセミナーを実施。
- エシカル
- 環境保護の社内教育（e-learning）を定期的実施している。環境に関連した社内研修の実施。
- 企業行動規範の研修の一部として社員教育を実施している。
- グリーンキー、さくらオリティ取得での社内研修。ISO14001 教育。SDGs への参画や勉強会の実施。
- 事業で行うイベントにおいて、環境に配慮した調達をするように社内に周知し、取組を吸い上げている。
- サーキュラーエコノミーを学ぶコンテンツの受講。
- 外構植物への散水に中水を使用。ビオトープ。
- 社有林等を活用。
- 自然、生物多様性の保全活動への参加。自然環境・生活環境への意識の向上を目的とした活動への参加。
- 商店会、町内会等地域の環境保全。
- 港区主催の生物多様性みなとネットワークに参加。
- カンセキの森植樹会。
- 化石燃料を使用しない電動機械の使用。
- グリーン購入適合品の購入。エコラベルのついた認証商品を使用。
- FSC 認証紙の採用。
- TCFD 提言への賛同。
- 化学物質の回収、廃棄物の分別教育、光熱費の削減。
- 建設工事において工事エリアから排水する水質の処理など
- 芝浦港南地区クリーンアップキャンペーンに参加。地域清掃活動への参加。

問 7-3 生物多様性の保全について、7-1 A～F 以外に取り組んでいるものや、今後取り組む予定のものがあれば記入してください。

- 5 事業者から回答がありました。

【主な回答(要約)】

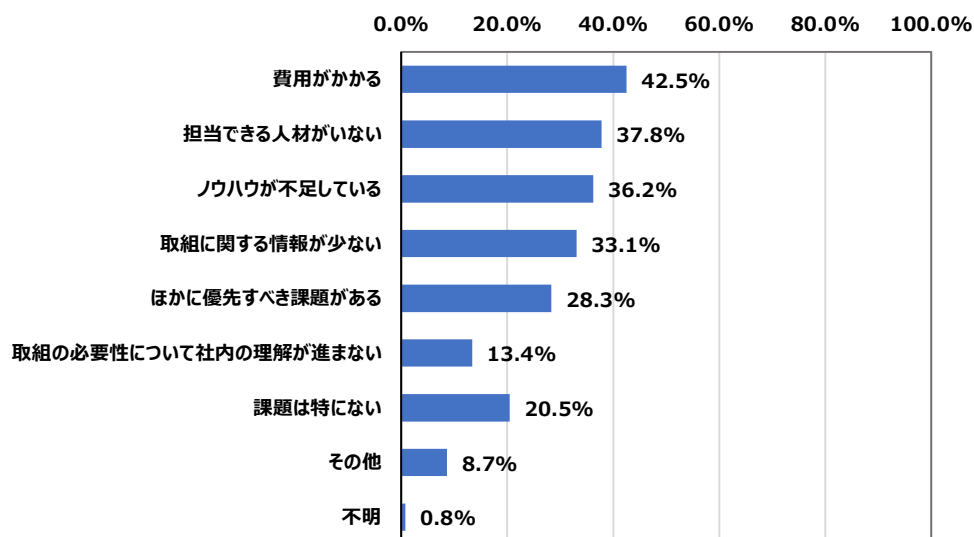
製品設計や材料選出・梱包・輸送等の面での環境や生き物への活動、施設の敷地内に干潟があり保護保全活動を実施、森林保全活動の実施、お台場海岸清掃活動に参加、日本野鳥の会への巣箱寄贈 など

3-6 取組を進める上での課題について

(1)環境の取組を進める上での課題

問 8 貴組織において環境に配慮した取組を進める上での課題は何ですか。

- 環境の取組を進める上での課題については、「費用がかかる」(42.5%) が最も多く、次いで「担当できる人材がいない」(37.8%)、「ノウハウが不足している」(36.2%) の順に続いています。



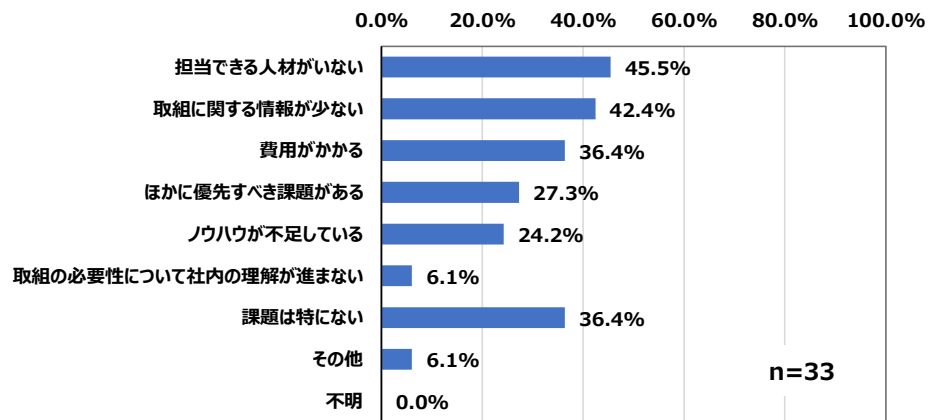
◆その他の回答(要約)

- 配慮すべき理由がわからない。
- 社会のニーズがまだ低い。
- 母体がグループとして取り組んでいるため、当組織の独自課題はない。
- 本社では取り組んではいるが、現場ではできていない。
- 大手事業者の下請業者なので、できることは限られる。
- テナントとして入居中のため容易に導入できないものが多数。
- テナントに左右されることで当社としては対応できない。
- 事業内容（メーカー等ではないので資源消費や廃棄物は少なく、自社ビル等設備も無い）の特性上、環境に関する取組は省エネ自動車を使う程度に限定され、他には事業内容と関係のない寄付や地域活動への参加となる。

【従業員規模別のクロス集計】

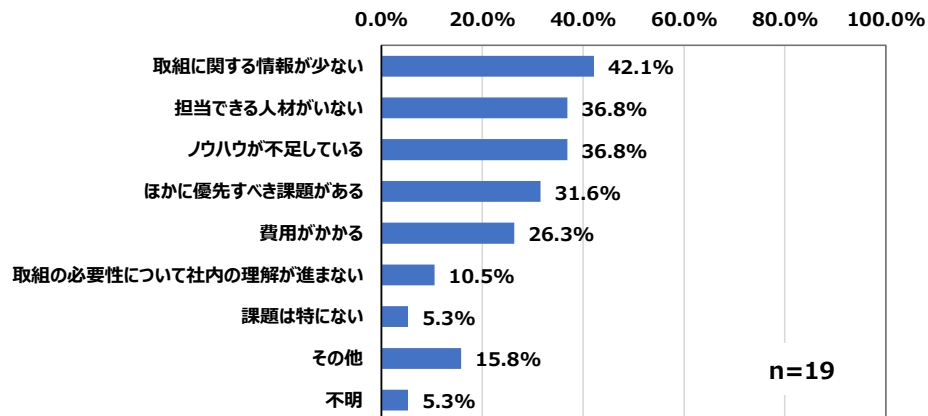
1~4人(n=33)

- 「担当できる人材がない」(45.5%) が最も多く、次いで「取組に関する情報が少ない」(42.4%)、「費用がかかる」(36.4%) の順に続いています。



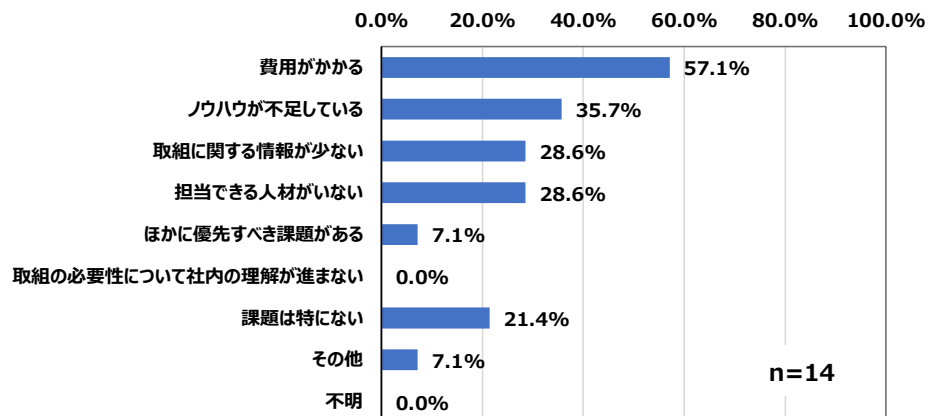
5~9人(n=19)

- 「取組に関する情報が少ない」(42.1%) が最も多く、次いで「担当できる人材がない」と「ノウハウが不足している」(36.8%) の順に続いています。



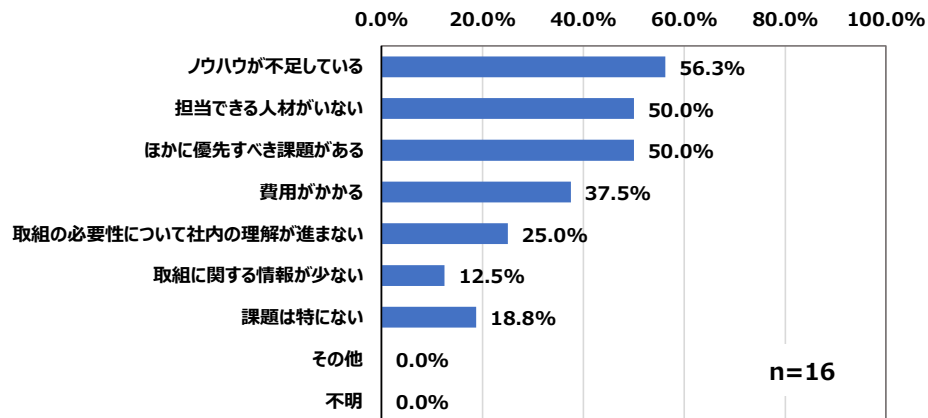
10~19人(n=14)

- 「費用がかかる」(57.1%) が最も多く、次いで「ノウハウが不足している」(35.7%)、「取組に関する情報が少ない」と「担当できる人材がない」(28.6%) の順に続いています。



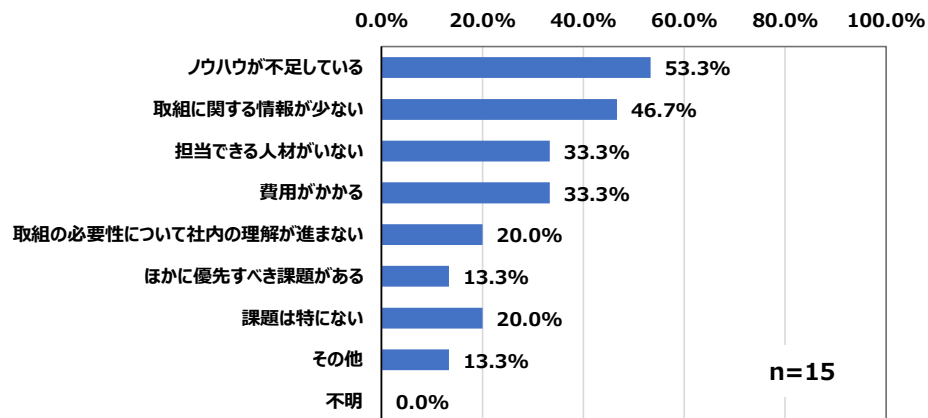
20~49人(n=16)

- 「ノウハウが不足している」(56.3%) が最も多く、次いで「担当できる人材がない」と「ほかに優先すべき課題がある」(50.0%)、の順に続いています。



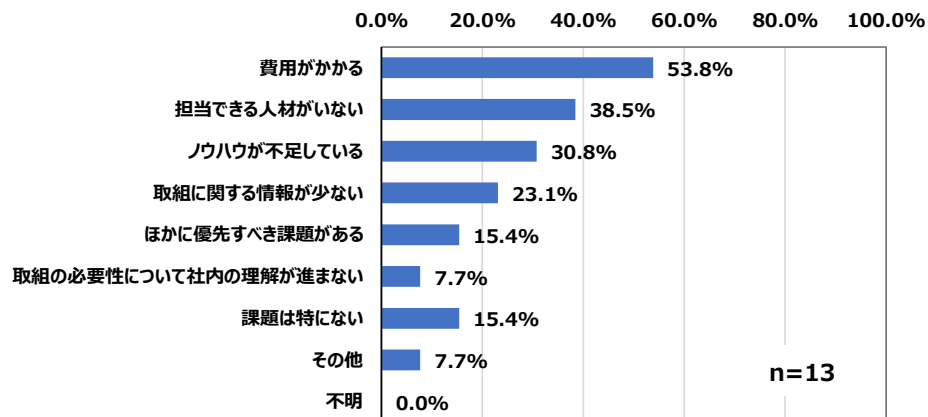
50~99人(n=15)

- 「ノウハウが不足している」(53.3%) が最も多く、次いで「取組に関する情報が少ない」(46.7%)、「担当できる人材がない」と「費用がかかる」(33.3%) の順に続いています。



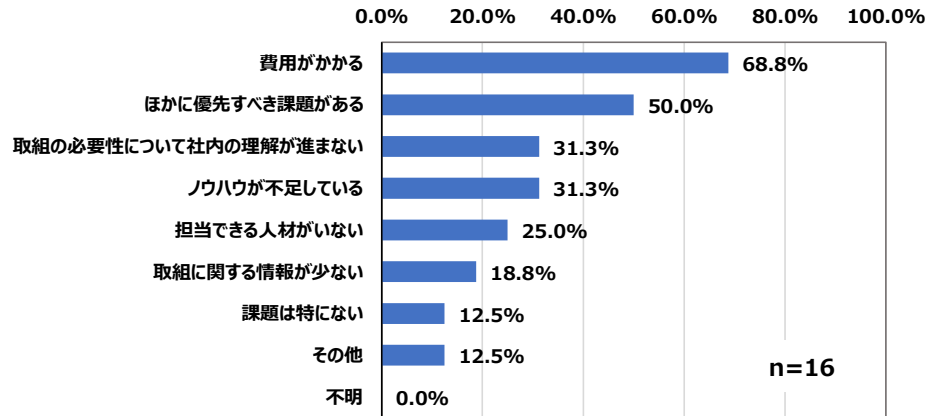
100~299人(n=13)

- 「費用がかかる」(53.8%) が最も多く、次いで「担当できる人材がない」(38.5%)、「ノウハウが不足している」(30.8%) の順に続いています。



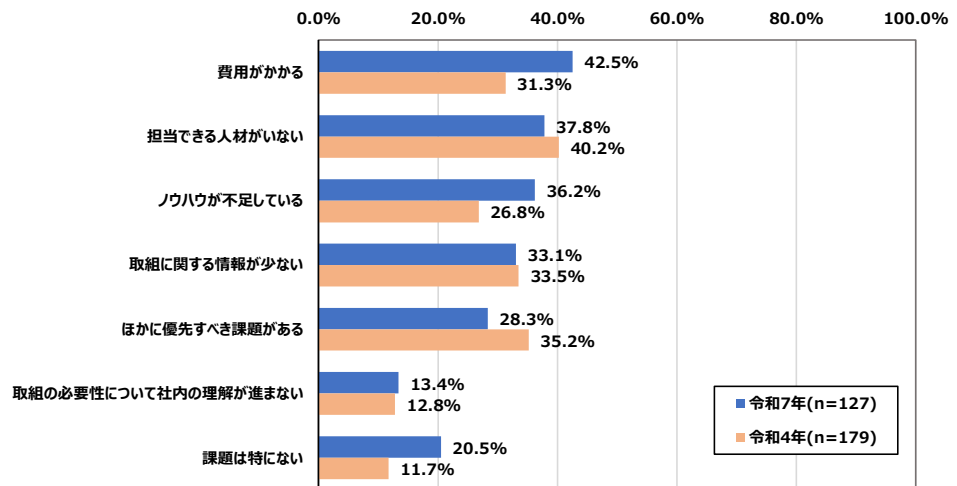
300人以上(n=16)

- 「費用がかかる」(68.8%) が最も多く、次いで「ほかに優先すべき課題がある」(50.0%)、「取組の必要性について社内の理解が進まない」と「ノウハウが不足している」(31.3%) の順に続いています。



【前回調査との比較】

- 「費用がかかる」「ノウハウが不足している」で 10 ポイント程度増加しています。一方、「課題は特にならない」も同程度の増加がみられました。

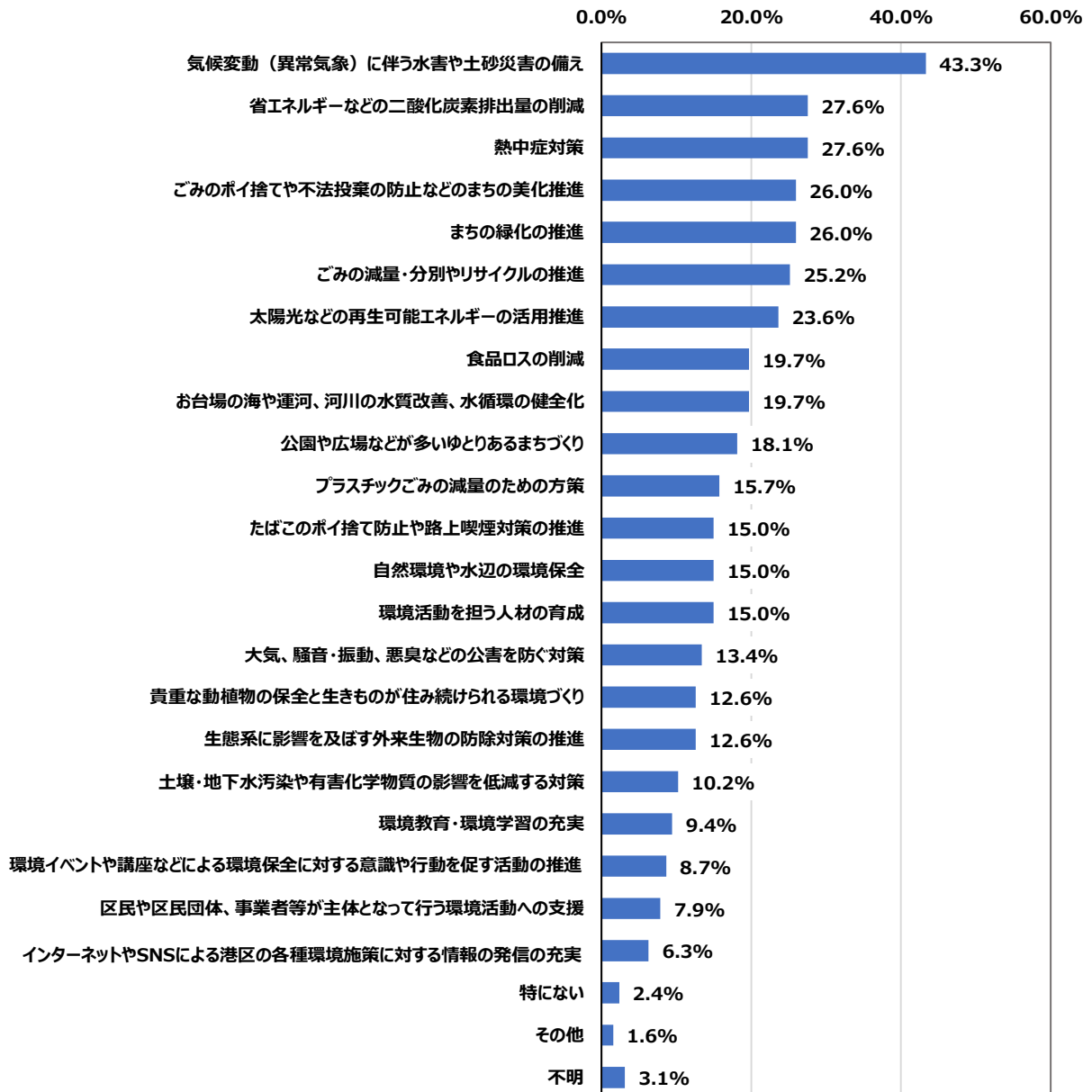


3-7 区の実施、区への協力、支援について

(1)区が重点的に取り組むべき施策

問 9 港区の環境をより良くしていくため、今後、区が重点的に取り組むべきと思うものを選んでください。(〇は5つまで)

- 区が重点的に取り組むべき施策については、「気候変動（異常気象）に伴う水害や土砂災害の備え」（43.3%）が最も多く、次いで「省エネルギーなどの二酸化炭素排出量の削減」（27.6%）と「熱中症対策」（27.6%）、「ごみのポイ捨てや不法投棄の防止などのまちの美化推進」と「まちの緑化の推進」（26.0%）が続いています。



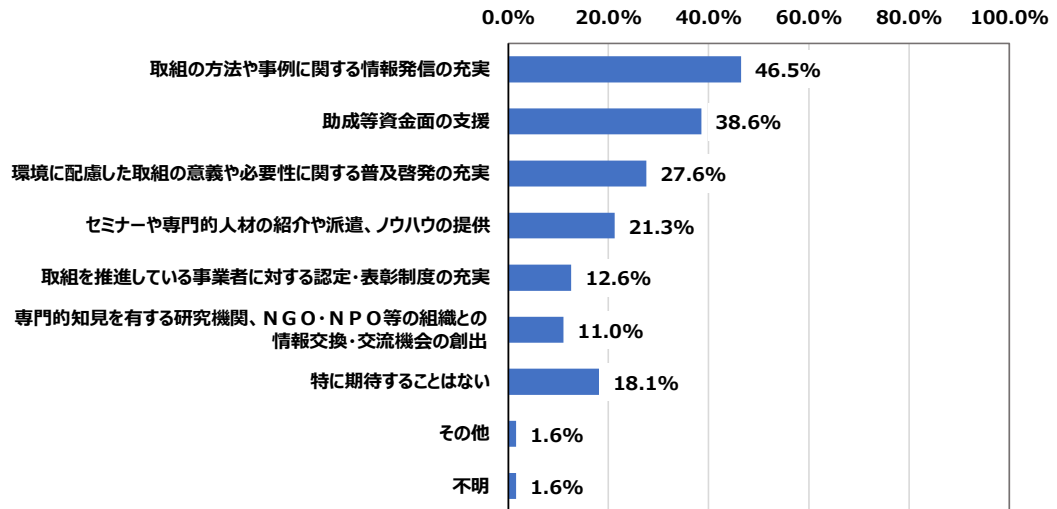
◆その他の回答(要約)

- 港区に限定しない自治体を超えた広範囲での取組。
- 大雨時の浜離宮前の下水放流。オリンピックの際の大腸菌問題しかり、根本的に改善へ向けて国も都も巻き込んだ大きな改善への動きが必要と考える。

(2)期待する区の支援

問 10 貴組織において環境に配慮した取組を進めるために、今後、区にどのような支援を期待しますか。

- 期待する区の支援について、「取組の方法や事例に関する情報発信の充実」(46.5%) が最も多く、次いで「助成等資金面の支援」(38.6%)、「環境に配慮した取組の意義や必要性に関する普及啓発の充実」(27.6%) の順に続いています。



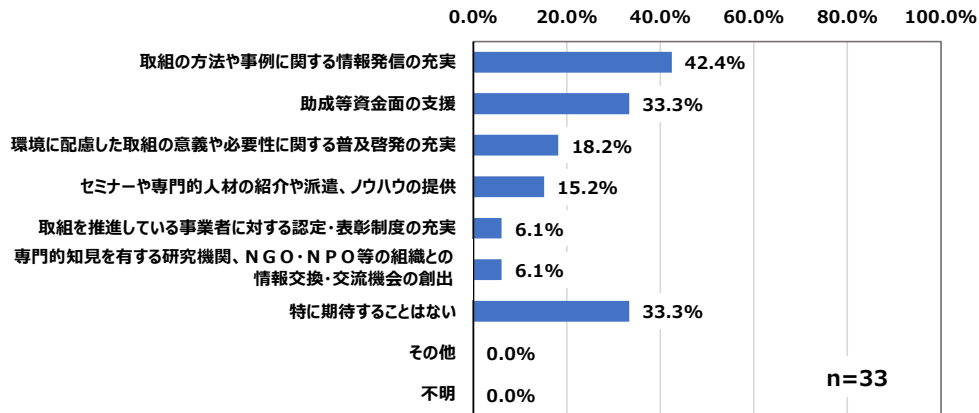
◆その他の回答(要約)

- 母体企業がグループとして環境対策に取り組んでいるため、当組織として独自に支援を得ることはない。
- 取組企業への税優遇措置。
- 隅田川、東京湾と綺麗に清潔にしていく義務があると思う。未処理の下水を絶対に放流しない等の対策を期待する。

【従業員規模別のクロス集計】

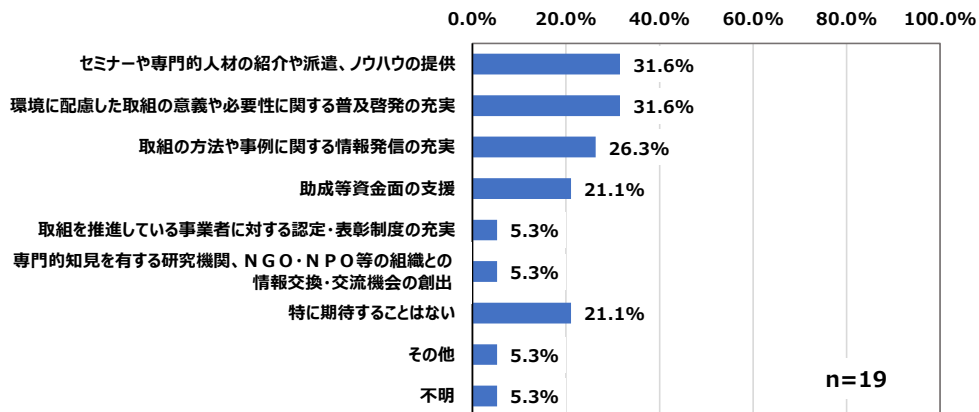
1~4人(n=33)

- 全体集計と同様「取組の方法や事例に関する情報発信の充実」(42.4%) が最も多く、次いで「助成等資金面の支援」(33.3%)、「環境に配慮した取組の意義や必要性に関する普及啓発の充実」(18.2%) の順に続いています。



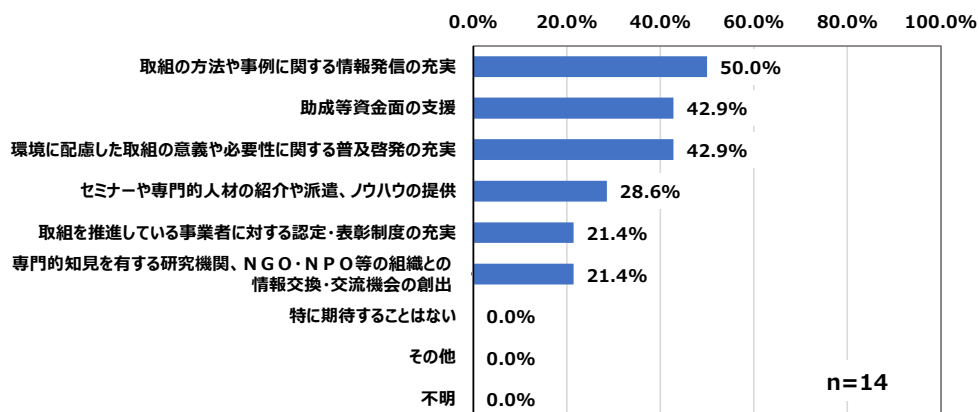
5~9人(n=19)

- 「セミナーや専門的人材の紹介や派遣、ノウハウの提供」と「環境に配慮した取組の意義や必要性に関する普及啓発の充実」(31.6%) が最も多く、次いで「取組の方法や事例に関する情報発信の充実」(26.3%) の順に続いています。



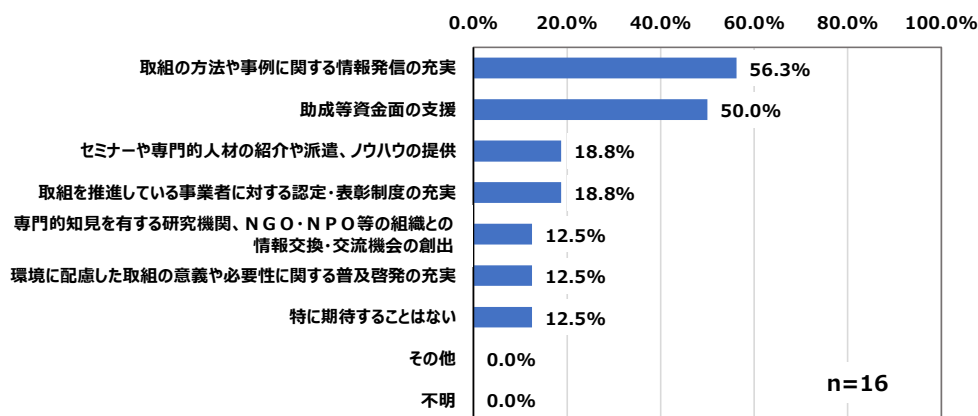
10~19人(n=14)

- 全体集計と同様「取組の方法や事例に関する情報発信の充実」(50.0%) が最も多く、次いで「助成等資金面の支援」と「環境に配慮した取組の意義や必要性に関する普及啓発の充実」(42.9%) の順に続いています。



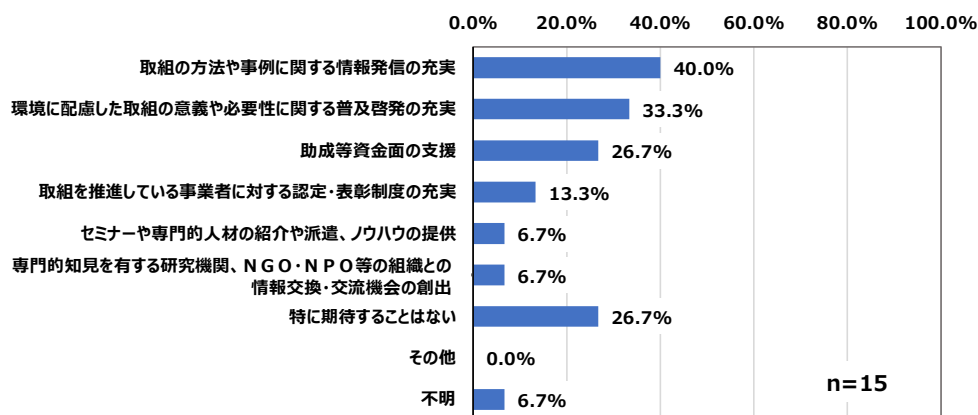
20~49人(n=16)

- 「取組の方法や事例に関する情報発信の充実」(56.3%) が最も多く、次いで「助成等資金面の支援」(50.0%)、「セミナーや専門的人材の紹介や派遣、ノウハウの提供」と「取組を推進している事業者に対する認定・表彰制度の充実」(18.8%) の順に続いています。



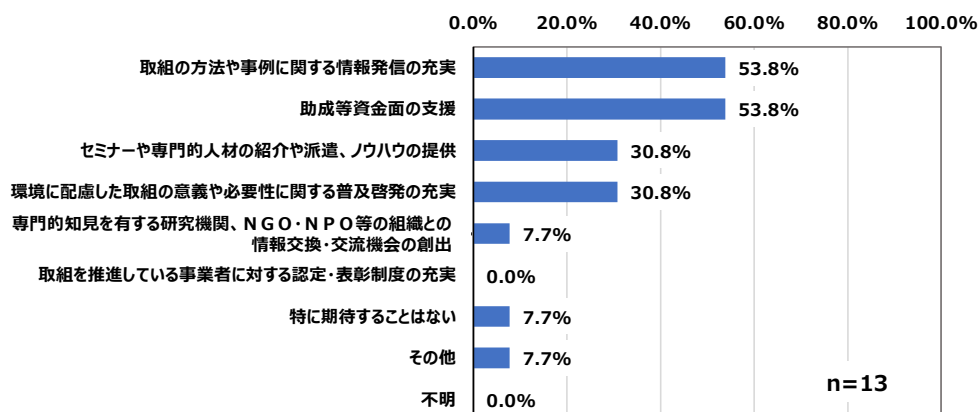
50~99人(n=15)

- 「取組の方法や事例に関する情報発信の充実」(40.0%) が最も多く、次いで「環境に配慮した取組の意義や必要性に関する普及啓発の充実」(33.3%)、「助成等資金面の支援」(26.7%) の順に続いています。



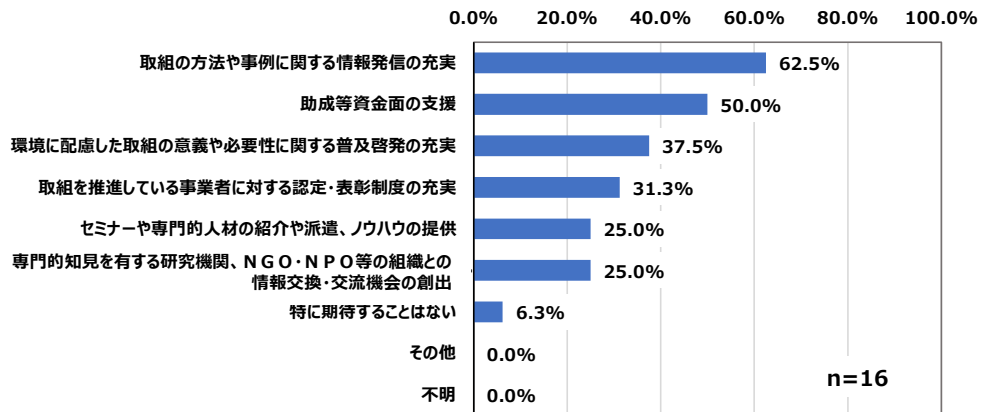
100~299人(n=13)

- 「取組の方法や事例に関する情報発信の充実」と「助成等資金面の支援」(53.8%) が最も多く、次いで、「セミナーや専門的人材の紹介や派遣、ノウハウの提供」と「環境に配慮した取組の意義や必要性に関する普及啓発の充実」(30.8%) の順に続いています。



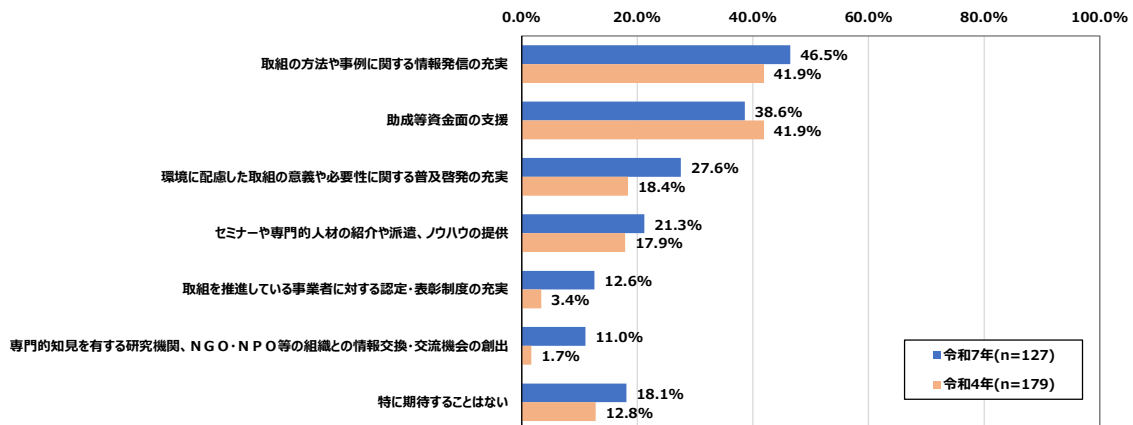
300人以上(n=16)

- 全体集計と同様「取組の方法や事例に関する情報発信の充実」(62.5%) が最も多く、次いで「助成等資金面の支援」(50.0%)、「環境に配慮した取組の意義や必要性に関する普及啓発の充実」(37.5%) の順に続いています。



【前回調査との比較】

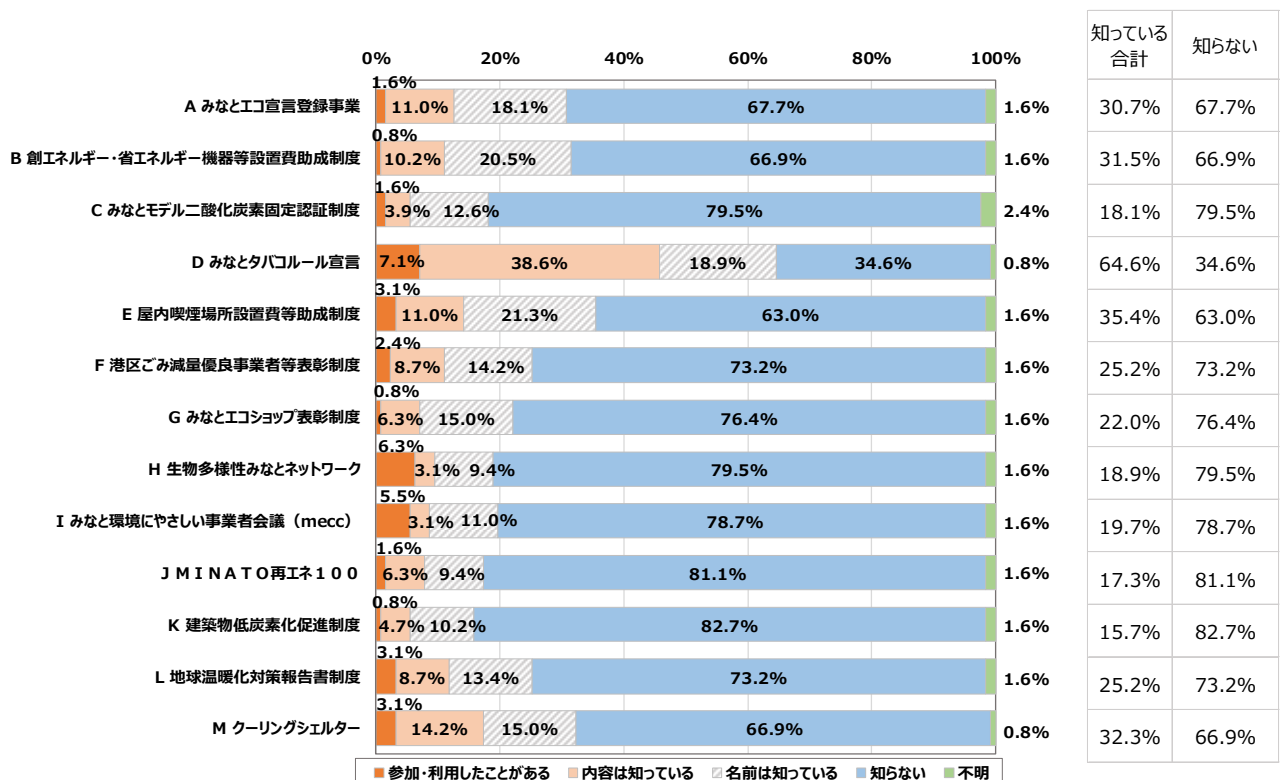
- 「助成等資金面の支援」以外すべての項目で割合の増加がみられました。



(3) 区的环境保全事業の認知について

問 11-1 区が、事業者と協力して環境の保全を進めるために行っている事業・取組について伺います。貴組織では、次の事業を知っていますか。

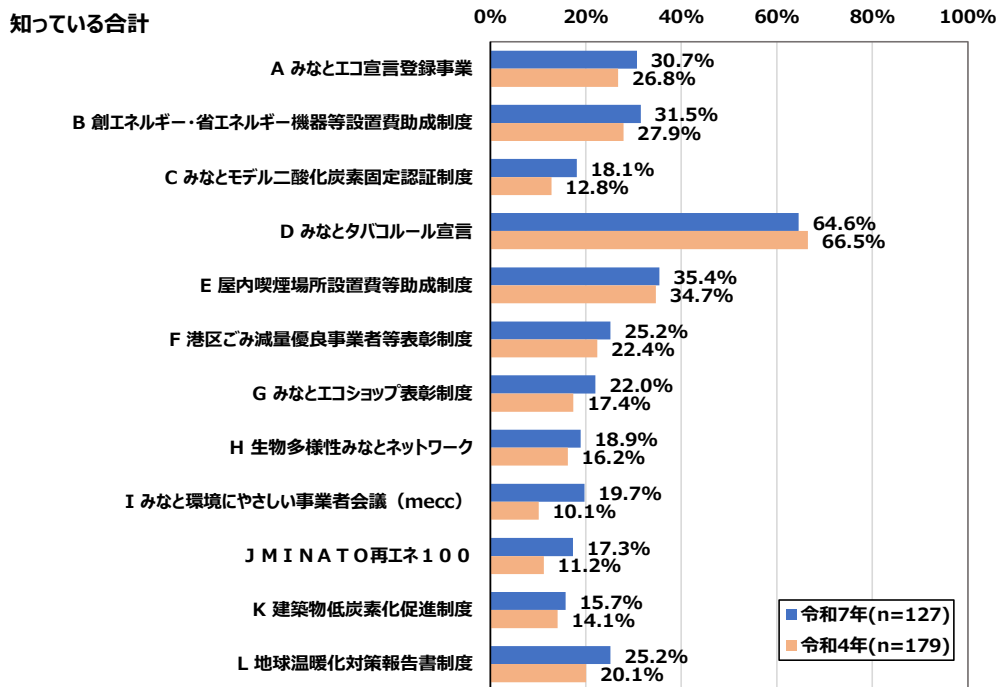
- 事業者と協力して環境の保全を進めるための区の事業・取組について、『知っている合計』（「参加・利用したことがある」、「内容は知っている」、「名前は知っている」の合計）が50%を超えていた項目は、13項目中1項目でした。
- 「参加・利用したことがある」、「内容は知っている」、「名前は知っている」の合計が最も高かったのは「J みなとタバコルール宣言」（64.6%）でした。次いで「E 屋内喫煙場所設置費等助成制度」（35.4%）、「M クーリングシェルター」（32.3%）、「B 創エネルギー・省エネルギー機器等設置費助成制度」（31.5%）の順で続いています。
- 一方、「知らない」の割合が高かった項目は、「K 建築物低炭素化促進制度」（82.7%）、「J M I N A T O再エネ100」（81.1%）で8割を超えていました。



【前回調査との比較】

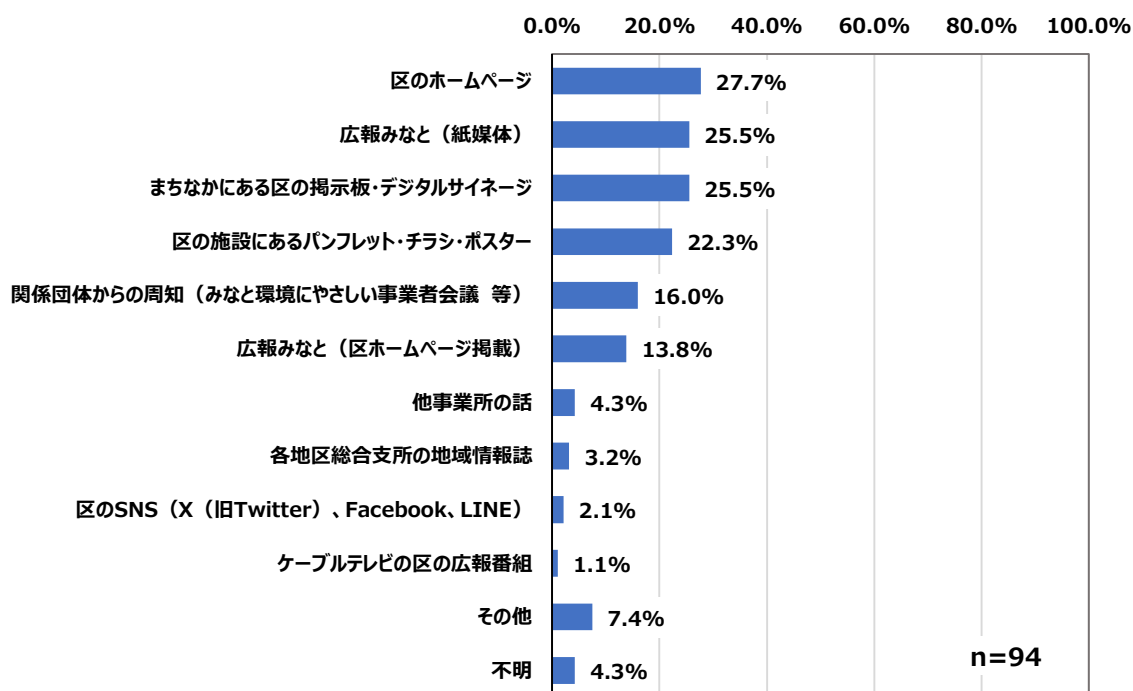
- 比較可能な項目について前回調査と比較すると、『知っている合計』の割合は、「D みなとタバコルール宣言」以外の項目で上昇していました。
- 『知っている合計』の上位3つは、「I みなと環境にやさしい事業者会議（mecc）」が9.6ポイント、「J MINATO再エネ100」が6.1ポイント、「C みなとモデル二酸化炭素固定認証制度」が5.3ポイント上昇しています。

項目	知っている合計 (%)			知らない (%)		
	令和7年	令和4年	変化量	令和7年	令和4年	変化量
A みなとエコ宣言登録事業	30.7	26.8	3.9	67.7	70.4	▲ 2.7
B 創エネルギー・省エネルギー機器等設置費助成制度	31.5	27.9	3.6	66.9	69.8	▲ 2.9
C みなとモデル二酸化炭素固定認証制度	18.1	12.8	5.3	79.5	84.4	▲ 4.9
D みなとタバコルール宣言	64.6	66.5	▲ 1.9	34.6	31.8	▲ 2.8
E 屋内喫煙場所設置費等助成制度	35.4	34.7	0.7	63.0	63.1	▲ 0.1
F 港区ごみ減量優良事業者等表彰制度	25.2	22.4	2.8	73.2	76.0	▲ 2.8
G みなとエコショップ表彰制度	22.0	17.4	4.6	76.4	80.4	▲ 4.0
H 生物多様性みなとネットワーク	18.9	16.2	2.7	79.5	81.6	▲ 2.1
I みなと環境にやさしい事業者会議（mecc）	19.7	10.1	9.6	78.7	87.7	▲ 9.0
J MINATO再エネ100	17.3	11.2	6.1	81.1	86.6	▲ 5.5
K 建築物低炭素化促進制度	15.7	14.1	1.6	82.7	83.8	▲ 1.1
L 地球温暖化対策報告書制度	25.2	20.1	5.1	73.2	77.7	▲ 4.5



問 11-2 問 11-1 で、「1 参加・利用したことがある」、「2 内容は知っている」、「3 名前は知っている」に1つでも○を付けた方にお聞きします。貴組織では、港区の事業に関する情報をどこから入手していますか。

- 区の事業に関する情報の入手方法については、「区のホームページ」(27.7%)が最も多く、次いで「広報みなと(紙媒体)」(25.5%)と「まちなかにある区の掲示板・デジタルサイネージ」(25.5%)が同率で多くなっています。



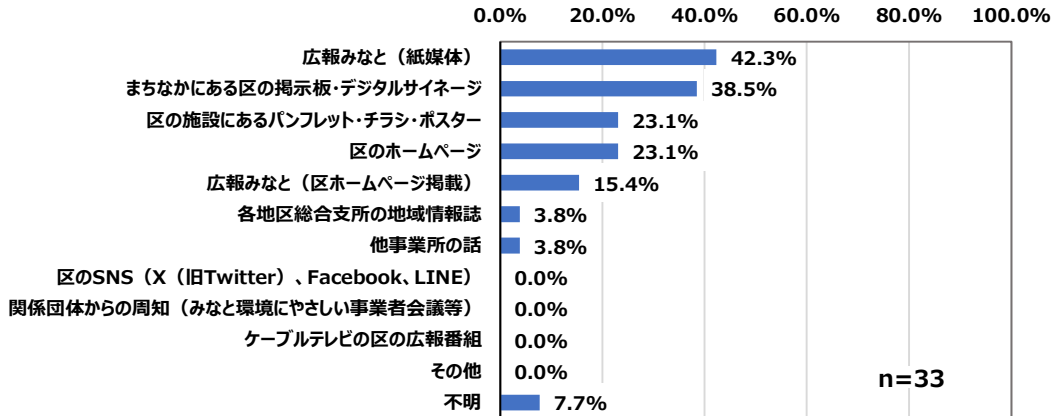
◆その他の回答(要約)

- テナントビルからの周知。
- 港区との連絡会や所管課からの連絡により。
- 生物多様性ネットワーク。
- TV・ニュース等。
- インターネット。
- 何かで聞いたことがある。
- 日常的に情報を得ていない。

【従業員規模別のクロス集計】

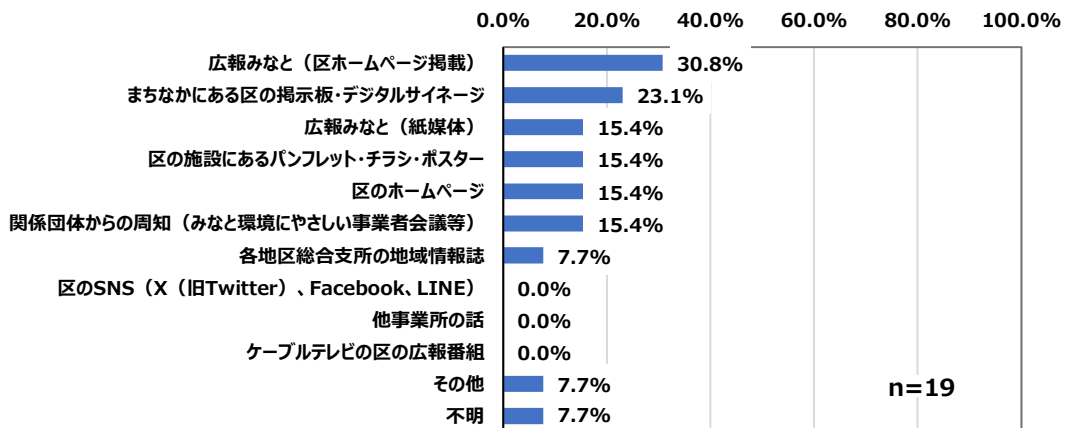
1~4人(n=33)

- 「広報みなと（紙媒体）」（42.3%）が最も多く、次いで「まちなかにある区の掲示板・デジタルサイネージ」（38.5%）、「区の施設にあるパンフレット・チラシ・ポスター」と「区のホームページ」（23.1%）が同率で多くなっています。



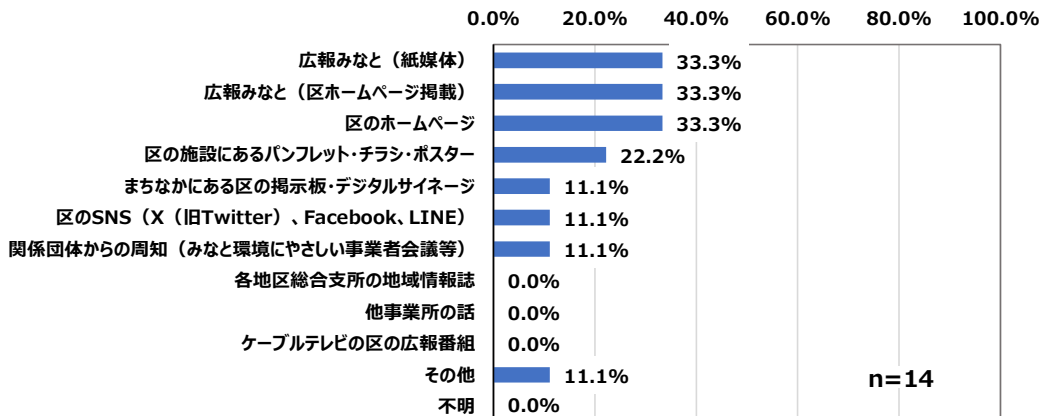
5~9人(n=19)

- 「広報みなと（区ホームページ掲載）」（30.8%）が最も多く、次いで「まちなかにある区の掲示板・デジタルサイネージ」（23.1%）の順に続いています。



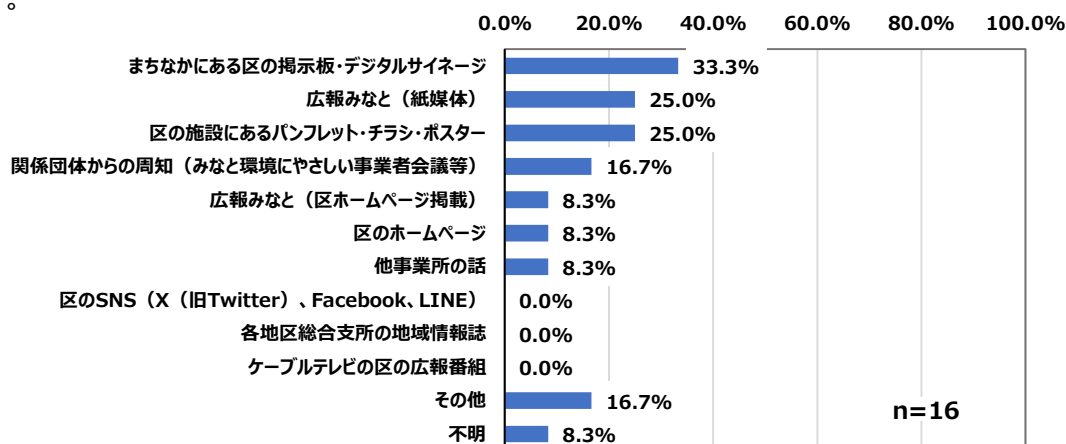
10~19人(n=14)

- 「広報みなと（紙媒体）」、「広報みなと（区ホームページ掲載）」、「区のホームページ」（33.3%）が同率で多くなっています。



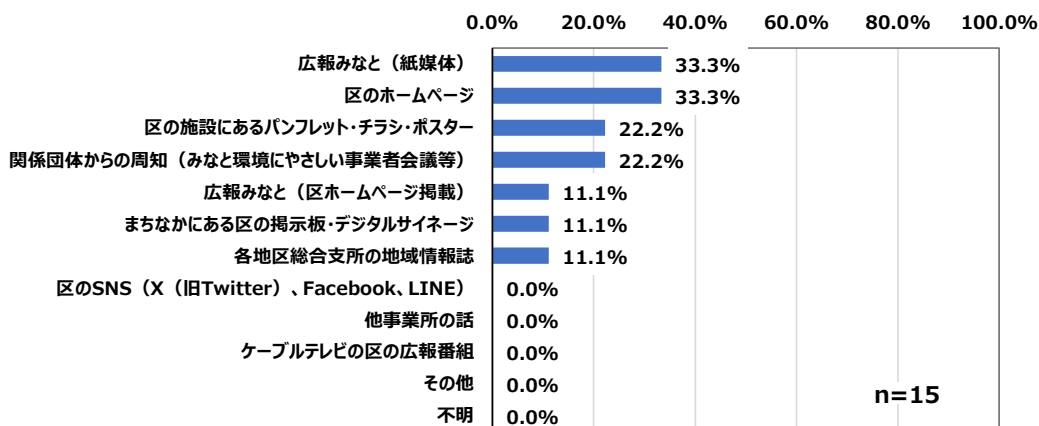
20~49人(n=16)

- 「まちなかにある区の掲示板・デジタルサイネージ」(33.3%) が最も多く、次いで「広報みなと(紙媒体)」と「区の施設にあるパンフレット・チラシ・ポスター」(25.0%) が同率で多くなっています。



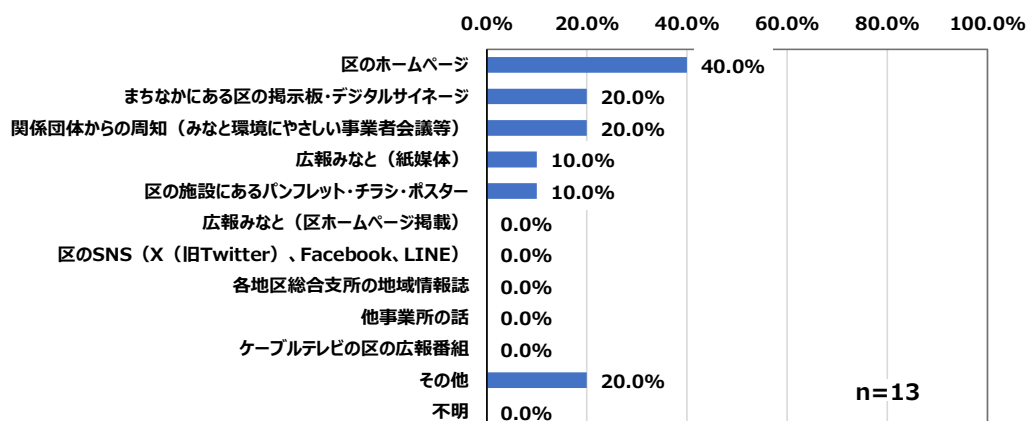
50~99人(n=15)

- 「広報みなと(紙媒体)」と「区のホームページ」(33.3%) が最も多く、次いで「区の施設にあるパンフレット・チラシ・ポスター」と「関係団体からの周知(みなと環境にやさしい事業者会議等)」(22.2%) が同率で多くなっています。



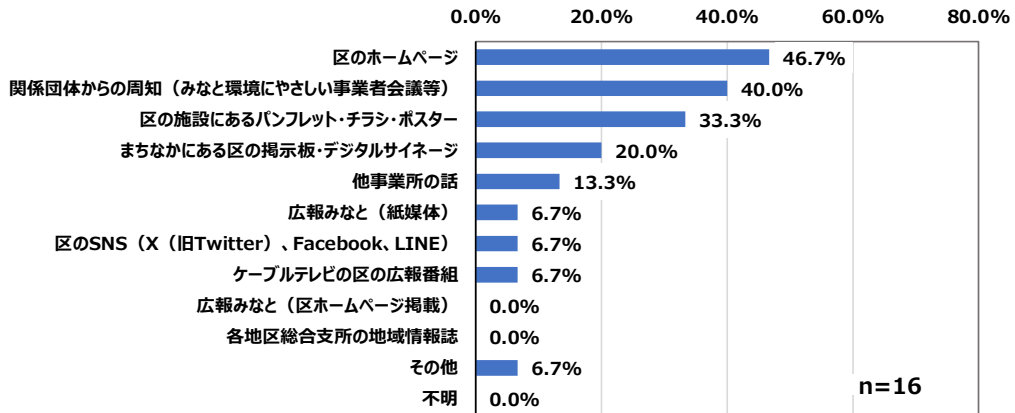
100~299人(n=13)

- 「区のホームページ」(40.0%) が最も多く、次いで「まちなかにある区の掲示板・デジタルサイネージ」と「関係団体からの周知(みなと環境にやさしい事業者会議等)」(20.0%) が同率で多くなっています。



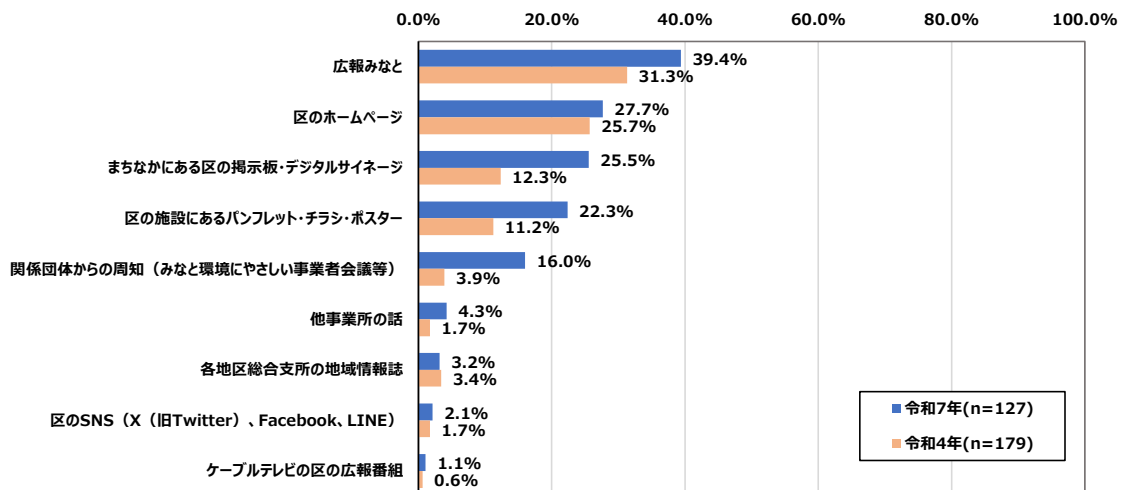
300人以上(n=16)

- 「区のホームページ」(46.7%) が最も多く、次いで「関係団体からの周知(みなと環境にやさしい事業者会議等)」(40.0%)、「区の施設にあるパンフレット・チラシ・ポスター」(33.3%) の順に続いています。



【前回調査との比較】

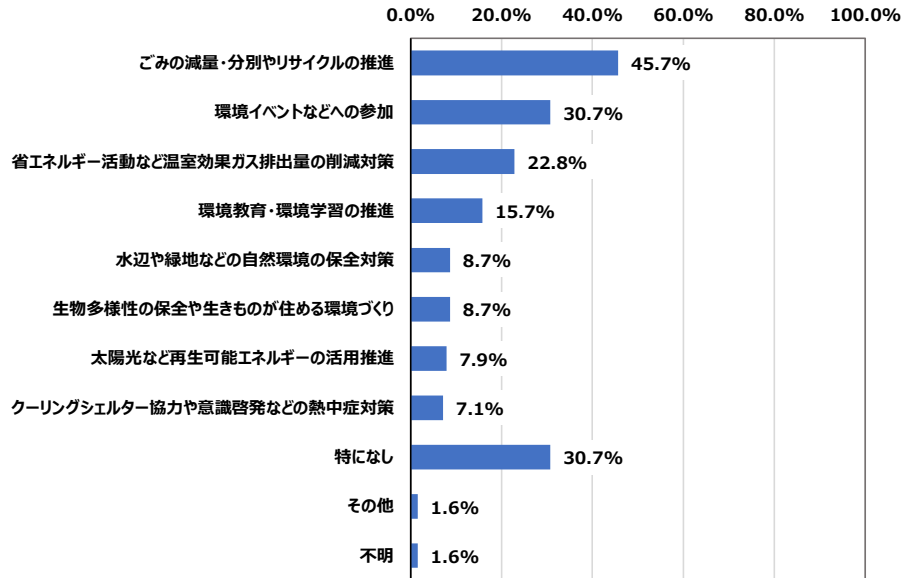
- 「各地区総合支所の地域情報誌」以外すべての項目で割合の増加がみられました。「まちなかにある区の掲示板・デジタルサイネージ」、「区の施設にあるパンフレット・チラシ・ポスター」、「関係団体からの周知(みなと環境にやさしい事業者会議等)」では、10ポイント以上の上昇がみられました。



(4)環境に関する地域貢献活動について

問 12 貴事業所が、環境に関する地域貢献活動において、区に協力、支援できる活動分野はありますか。

- 協力、支援できる活動分野については、「ごみの減量・分別やリサイクルの推進」(45.7%)が最も多く、次いで「環境イベントなどへの参加」(30.7%)、「省エネルギー活動など温室効果ガス排出量の削減対策」(22.8%)の順に続いています。

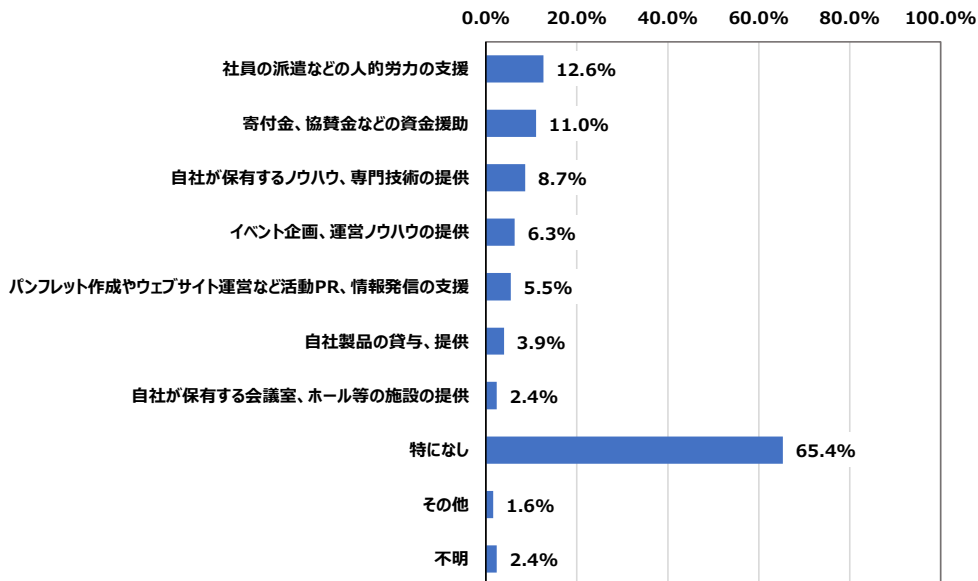


◆その他の回答(要約)

- 事業所として取り組んでいることはあるが、当組織として独自に強力・支援できる活動はない。
- できる事なら。

問 13 貴事業所が、上記において、区に協力、支援できる取組はありますか。

- 協力、支援できる取組については、「社員の派遣などの人的労力の支援」(12.6%)が最も多く、次いで「寄付金、協賛金などの資金援助」(11.0%)、「自社が保有するノウハウ、専門技術の提供」(8.7%)が多くなっています。



◆その他の回答(要約)

- 事業所として取り組んでいることはあるが、当組織として独自に強力・支援できる活動はない。
- できる事なら。

問 14 問 12、問 13 の回答で、区に協力、支援できる具体的な内容がありましたらご記入ください。

- 9 事業者から回答がありました。

【主な回答(要約)】

- ごみの減量、分別なリサイクルの推進。環境教育・環境学習の推進。
- ボランティアスタッフ等のご紹介や環境部署等で正社員として働く方のご紹介。
- 様々な言語の翻訳（ベトナム語、中国語、英語、ネパール語、カンボジア語、ラオス語 etc.）。
- 省エネ性能の高い空調機、省資源化につながるハンドドライヤーの普及・提案。
- 自然・生物多様性の保全活動への参加。
- グループ会社に専門の企業がある。
- 当社が定めるマテリアリティや社会貢献の優先領域に合致した活動であれば参画できる。
- 駐輪場に設置しているサイネージによる情報発信の支援。
- 社員へのごみの減量の呼びかけや、ごみの分別がわかりやすい表示の工夫など。
- 安全衛生委員会で熱中症対策の教育。
- 区内の事業者やイベント向けのリユース容器の提供、回収、洗浄を通じたリユース推進。

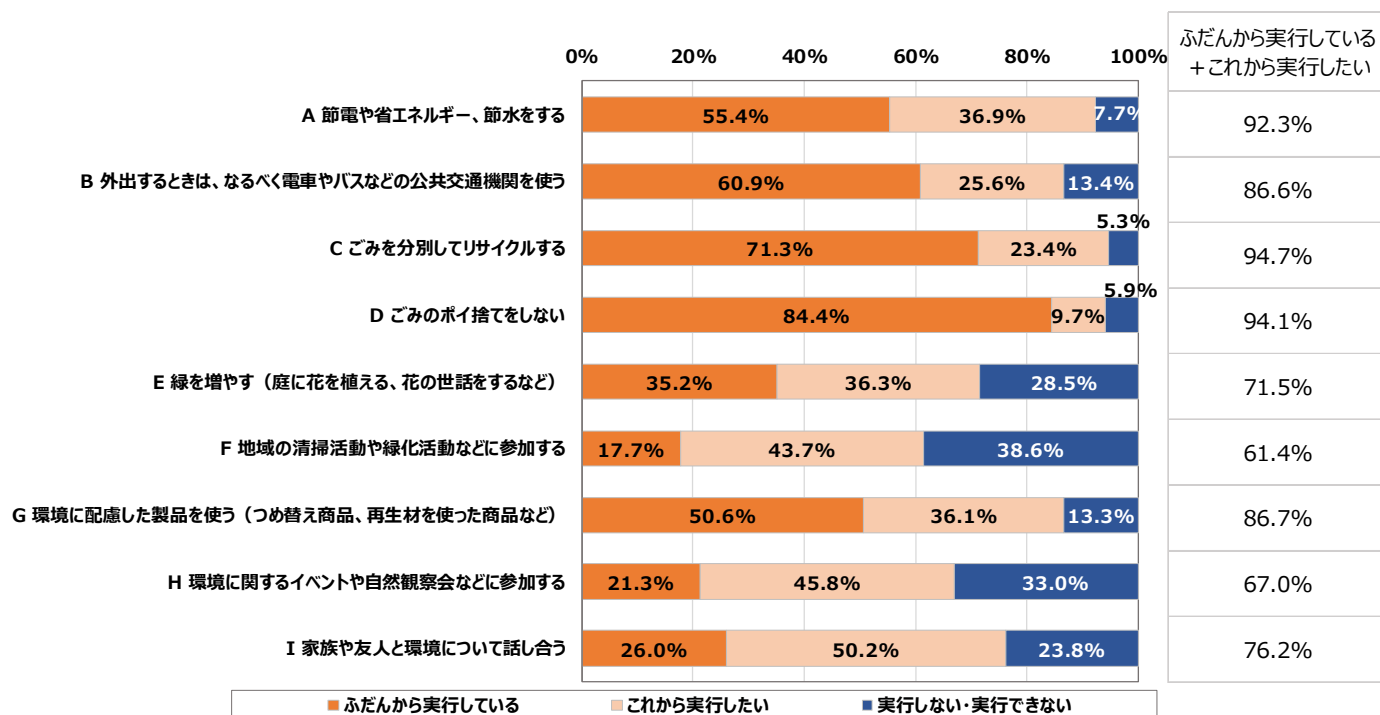
4 学校アンケート調査の結果【児童・生徒】

4-1 環境をよくするために実行していること

(1) 環境をよくするための行動の実行状況

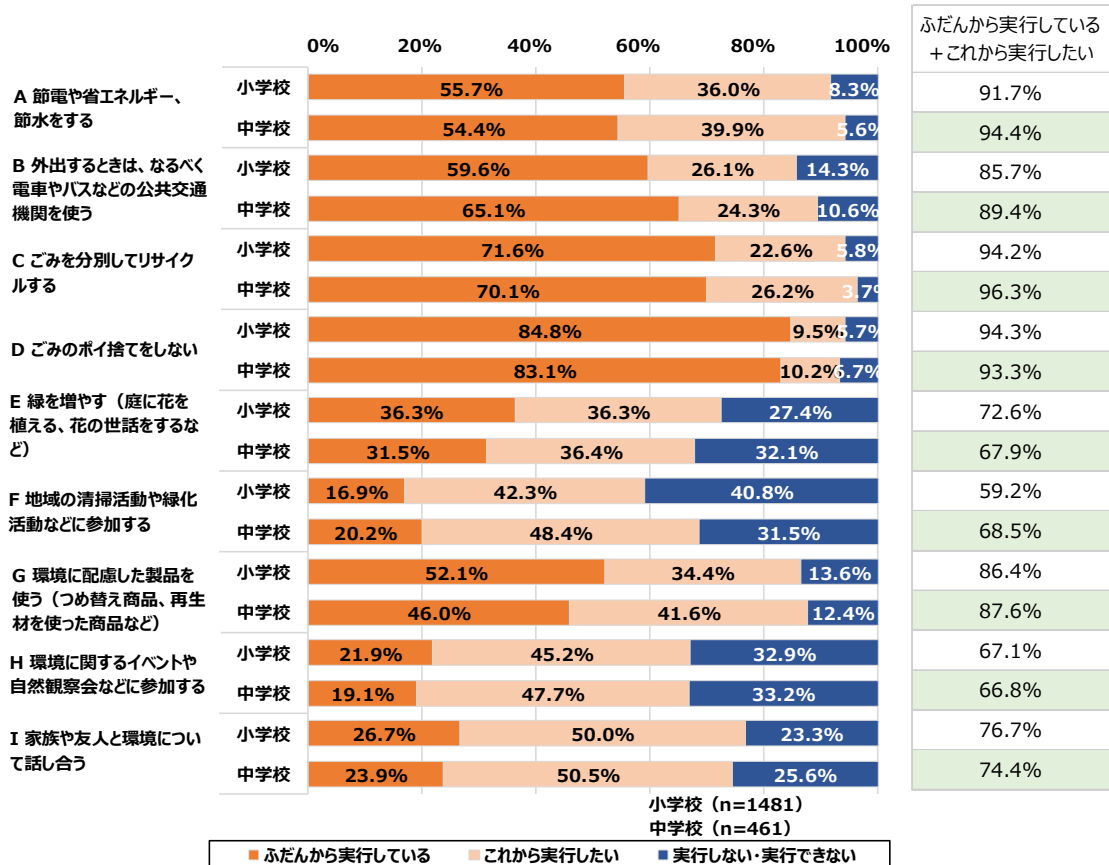
質問 1 環境をよくするために、あなたが学校や家でふだんから実行していることはありますか？

- 「ふだんから実行している」と「これから実行したい」の合計の割合が高かったのは、「C ごみを分別してリサイクルする」(94.7%)、「D ごみのポイ捨てをしない」(94.1%)、「A 節電や省エネルギー、節水をする」(92.3%) で 9 割以上の回答となりました。



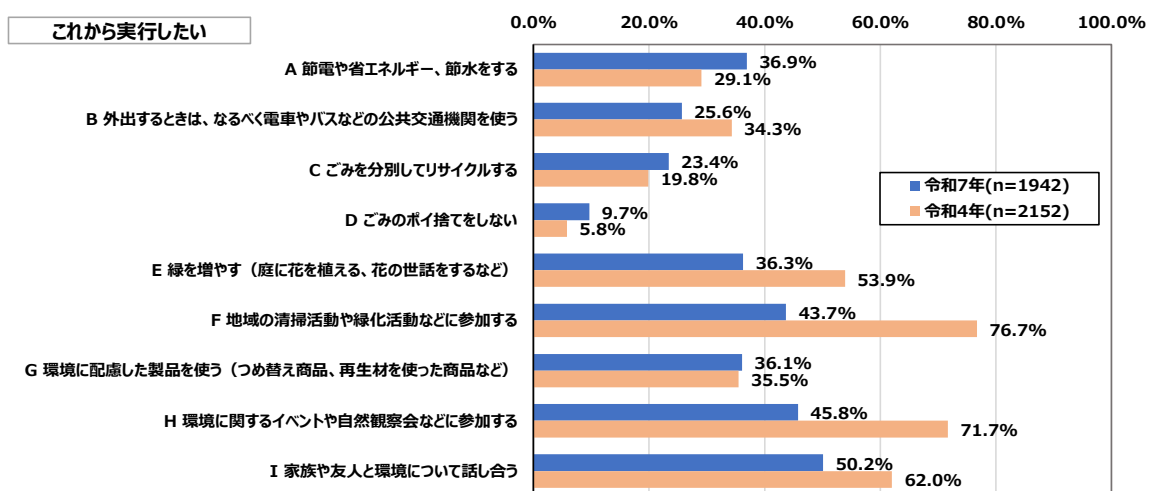
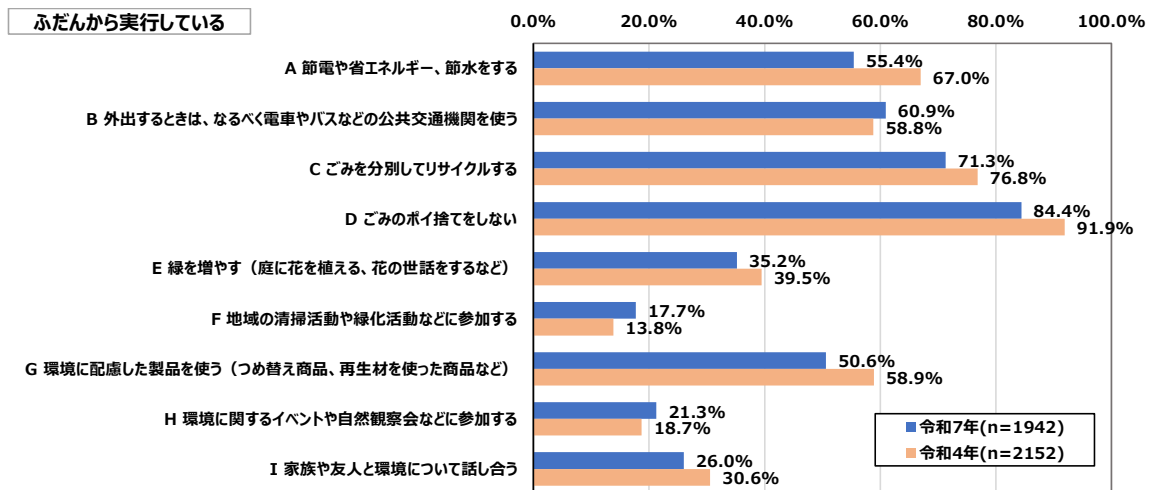
【小中学生区分】

- 「ふだんから実行している」は、「B 外出するときは、なるべく電車やバスなどの公共交通機関を使う」と「F 地域の清掃活動や緑化活動などに参加する」は中学生の方が実施率が高く、これら以外では小学生の方が高くなっています。
- 「これから実行したい」の合計の割合でみると、「D ごみのポイ捨てをしない」、「E 緑を増やす（庭に花を植える、花の世話をするなど）」、「I 家族や友人と環境について話し合う」では小学生の方が割合が高く、これら以外では中学生の方が高くなっています。



【前回調査との比較】

- 「ふだんから実行している」では、「B 外出するときは、なるべく電車やバスなどの公共交通機関を使う」、「F 地域の清掃活動や緑化活動などに参加する」、「H 環境に関するイベントや自然観察会などに参加する」以外のすべての項目で実施率の低下がみられ、「A 節電や省エネルギー、節水をする」では10ポイント以上の低下がみられました。
- 「これから実行したい」では、「A 節電や省エネルギー、節水をする」、「C ごみを分別してリサイクルする」、「D ごみのポイ捨てをしない」で3ポイント以上の上昇がみられました。一方、「ふだんから実行している」で実施率が上昇していた「F 地域の清掃活動や緑化活動などに参加する」と「H 環境に関するイベントや自然観察会などに参加する」では33ポイントと25.9ポイントで大幅に回答率が低下しています。
- また、「E 緑を増やす（庭に花を植える、花の世話をするなど）」と「I 家族や友人と環境について話し合う」は「ふだんから実行している」と「これから実行したい」ともに回答率が低下しています。

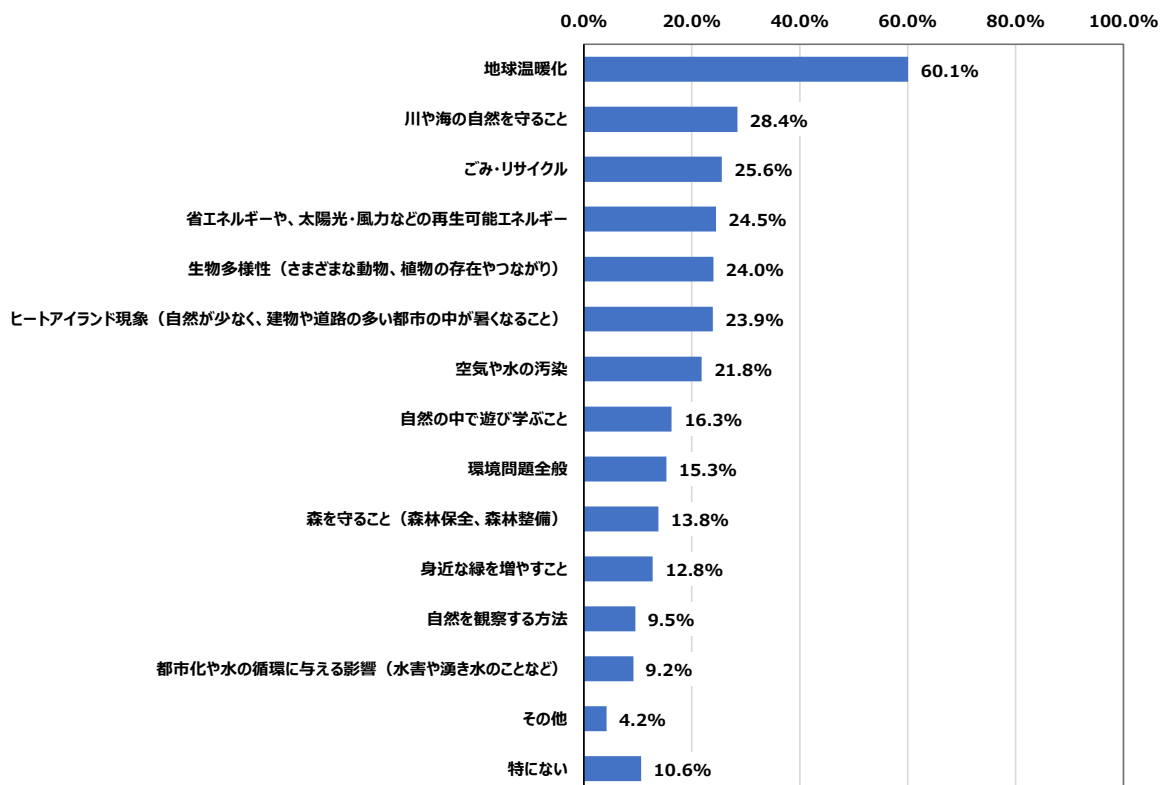


4-2 学校で特に教えてほしい環境問題

(1)特に教えてほしい環境問題

質問 2 あなたが、学校などで特に教えてほしい環境問題は何か？次の中から3つ選んでください。

- 学校などで特に教えてほしい環境問題については、「地球温暖化」(60.1%)が最も多く、次いで「川や海の自然を守ること」(28.4%)、「ごみ・リサイクル」(25.6%)の順が続いています。

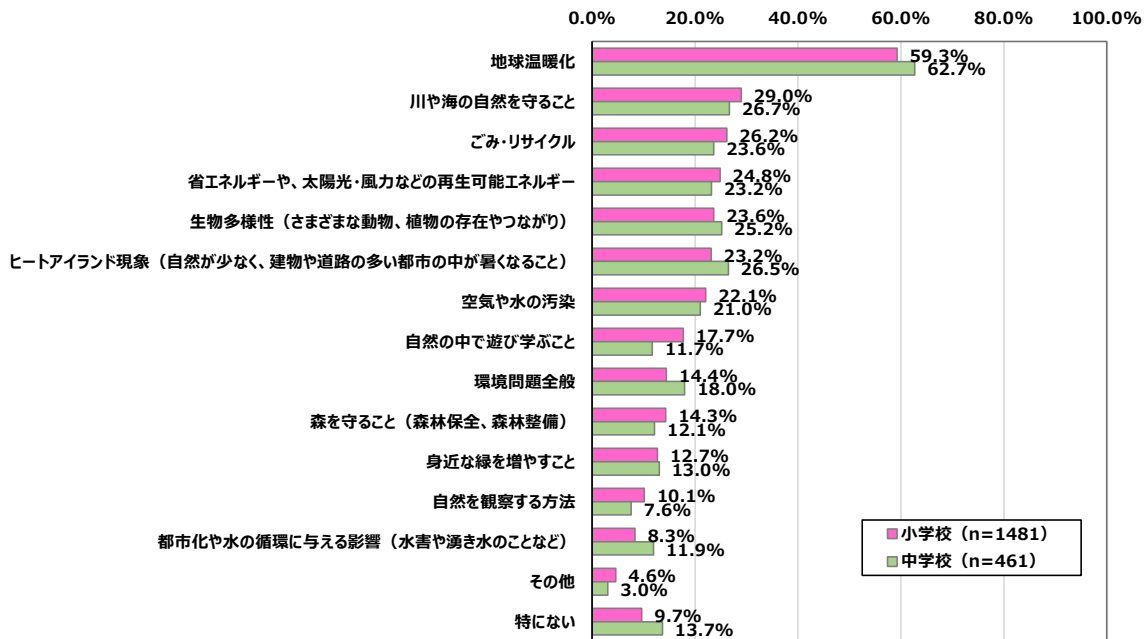


◆その他の回答(要約)

- SDGs での自分でもできる取組。身近で起こっている SDGs が必要な環境の例。SDGs の到達状況。
- 海の汚れなどの汚染についての問題。プラスチックゴミ。
- バイオマス発電。
- 公害問題の解決策。公害病。
- 地球温暖化でどのようなことに影響がでたり、今の現状や、環境破壊をどのように止めようとしているのか。
- 自然環境。緑がなくなる原因。自然の中にみどりをふやす。生態系について経済、貿易。外来種と在来種の問題。
- 日本の昔ながらの自然 (もので言う伝統工芸品的な)。
- ごみリサイクル。ゴミの分別。
- 食品ロス。
- 鉄道などの交通での環境のこと。
- オゾン層破壊。太陽フレア。
- 戦争などによる環境破壊。
- 世界で起こっている環境問題 (砂漠化など)。
- 水素自動車など、再生可能エネルギーを使って今日本でやっている取り組み。
- どうやれば解決できるか。すべて学校で習ったからもっと発展的な事。全ての内容をある程度繋げて教えて欲しい。
- みんなでどんなことができるか調べて実行してみたい。自分で調べる環境を作って欲しい。自分で調べたい。
- コンピュータを使って環境問題を解決する方法。遊びながら学ぶ。
- 教えてもらわなくても大丈夫。特にない。わからない

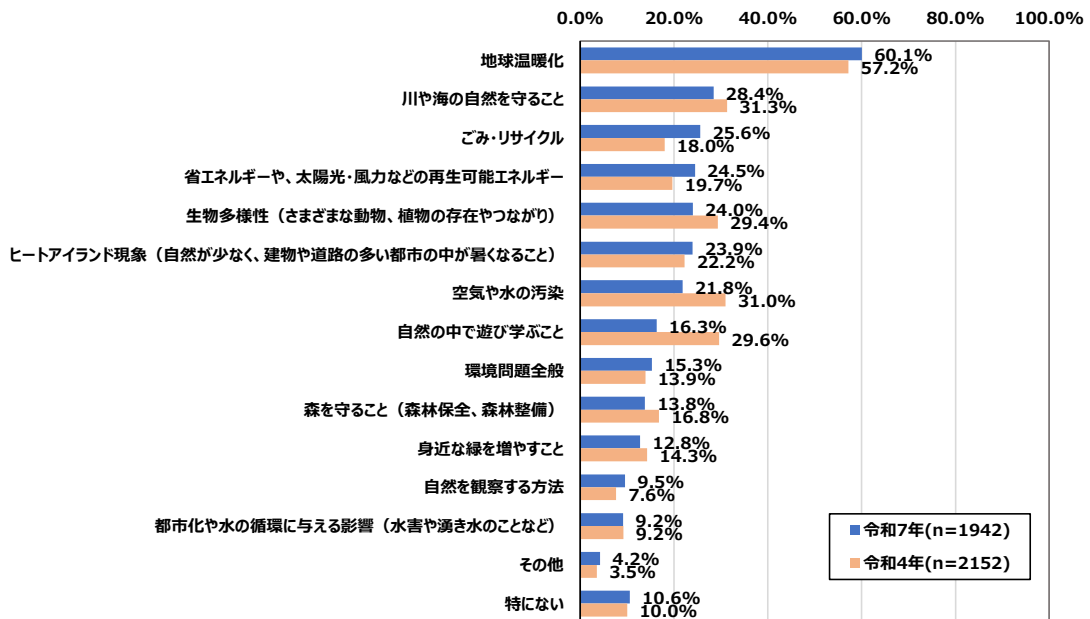
【小中学生区分】

- 小学生は、全体結果と同じ順位となっています。中学生では、「ヒートアイランド現象（自然が少なく、建物や道路の多い都市の中が暑くなること）」と「都市化や水の循環に与える影響（水害や湧き水のことなど）」が全体結果より上位の回答、一方で「自然の中で遊び学ぶこと」は下位の回答となっています。



【前回調査との比較】

- 「ごみ・リサイクル」と「省エネルギーや、太陽光・風力などの再生可能エネルギー」が約5ポイント以上上昇しています。「自然の中で遊び学ぶこと」では13.3ポイント、「空気や水の汚染」では9.2ポイントの低下がみられました。

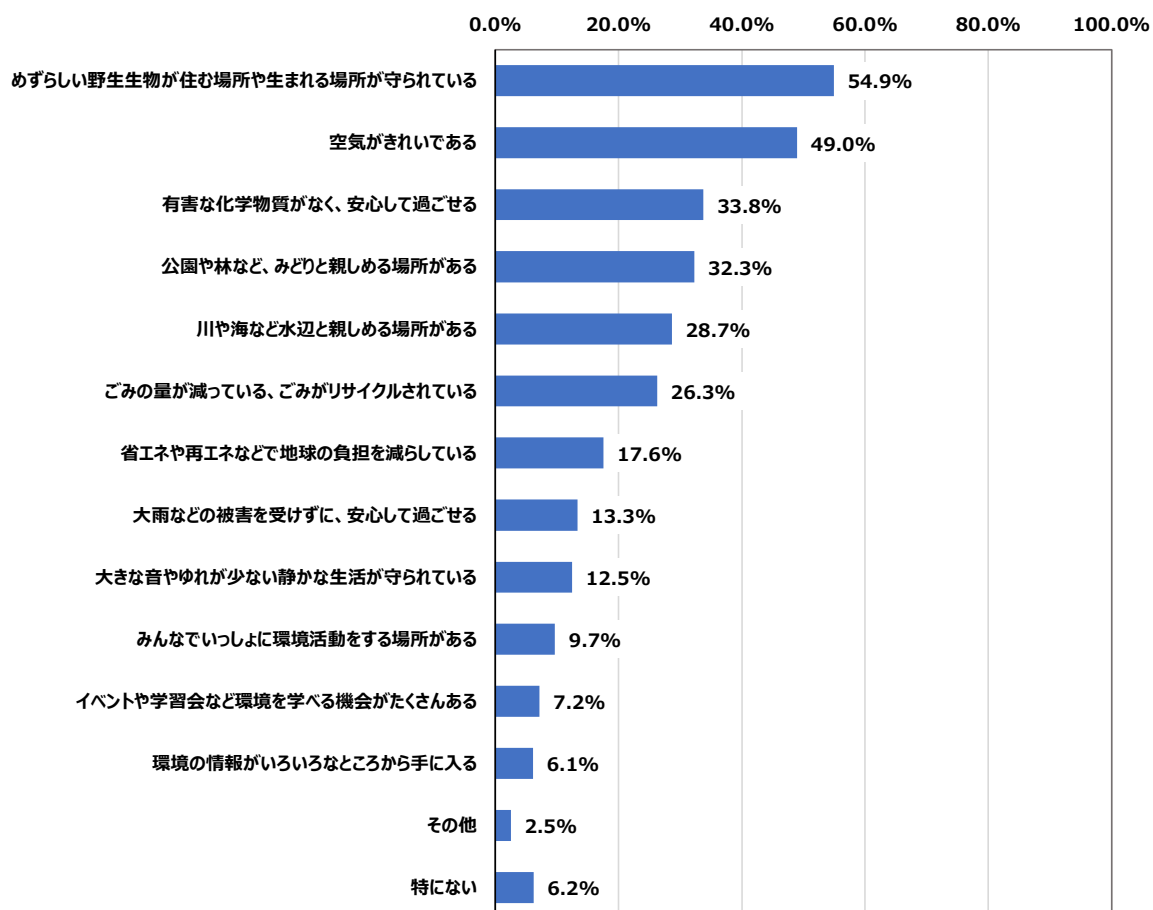


4-3 よい環境であるために大切だと思うこと

(1)環境のために大切なこと

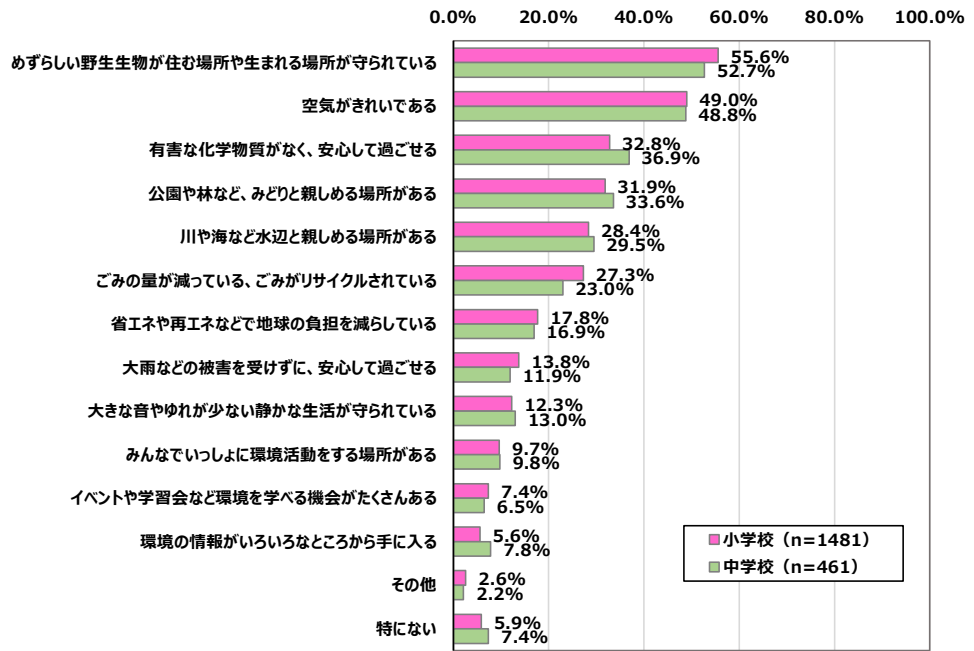
質問 3 よい環境であるためには、何が大切だと思いますか？次の中から3つ選んでください。

- よい環境であるために大切だと思うことについては、「めずらしい野生生物が住む場所や生まれる場所が守られている」(54.9%) が最も多く、次いで「空気がきれいである」(49.0%)、「有害な化学物質がなく、安心して過ごせる」(33.8%) の順で続いています。



【小中学生区分】

- 小学生は、全体結果と同じ順位となっています。中学生においても順位に大きな差はありませんでした。



4-4 将来の港区の環境の姿について

質問 4 将来、港区の環境がどのようになっているとよいですか？また、そのためにあなたが
できることはありますか？以下に自由に書いてください。

- わからない等不明回答を除き、1,202人（61.9%）から回答があり、一人で複数の分野の意見を記入している場合はそれぞれ1件として数え、延べ件数は2,248件となりました。記入内容を分類し、以下の表にまとめました。

分類	件数
総計	2,248
①緑・自然・公園	645
②ゴミ・ポイ捨て・清掃	491
③空気がきれい（大気汚染・臭いが無い）	221
④生物多様性・動物と共存	168
⑤リサイクル・分別・3R/5R	143
⑥治安・平和・安心安全	118
⑦温暖化・暑さ/涼しさ・ヒートアイランド	98
⑧水辺（川・海・運河）・水質	75
⑨ボランティア・参加	66
⑩再生可能エネルギー・省エネ	50
⑪都市開発（ビル、マンション）・自然減少への懸念	37
⑫将来悲観/悪化・滅亡	35
⑬教育・学び・意識	28
⑭交通・脱炭素移動	21
⑮遊べる場所・子ども	15
⑯技術・AI・スマートシティ	14
⑰防災・気象災害	12
⑱ルール・マナー・喫煙	11

【主な意見(要約)】

① 緑・自然・公園

【要約】

- 緑や自然を増やし、都会でも自然を感じられる港区になってほしい。
- 公園や木々、花が多く、生活の中で自然と触れ合える環境がよい。
- 自分たちも草花を育てたい。

【代表的な記述】

- 私は、将来、港区の環境が、"緑が豊かな、自然で人々を笑顔にできるような環境"だと良いなと思いました。そんな環境にするために、身近な緑や自然を増やし、人々がより自然と触れ合えるよう、近くの公園や広場に、植物を植えたり水やりをするなどして、"緑が豊かな、自然で人々を笑顔にできるような環境"をつくってほしいと思いました。
- 水がキラキラ光るような池があって、公園の道がきちんと整備されている公園がある。雑木林のような木がたくさんある。道にも、視界に一個は木があるような街。みんなにその考えを広げる（身近な人）。
- 港区が、木や植物などをたくさん植えて、今よりずっと緑が多く空気が綺麗になっているといいと思う。そのために、今ある公園を大切にしながら新たに木を植えたりすると思う。
- 将来の港区が、自然もある森ビルのようになっていたらいいと思います。
- 花屋とか木花が買える所で買い、自分で育てるといいと思います。
- 公園がたくさんあって、木などがいっぱいある。少し小さい林もあって、そこに囲まれたカフェみたいな落ち着けるところがあるようなピカピカして鋭く銀の近代都市みたいなのは、当たり前のような虫や日本馴染みの植物に失礼だと思う。
- 将来は高い建物が増えてどんどん緑が減ったり、公園などの場所が減ってしまうと思うから、もっと木などを積極的に生やして欲しいです。そのためには自分に家でも植物を生やそうかなと思いました。
- 緑が多く自然がたくさんあるように、庭にたくさん花や緑を増やしたり身近にあるものやすぐできるものからやる。
- 自然と触れ合う場所（公園など）があること。普段から公園で自然を親しむ。
- 都市が進化していき森林も増える。「緑の自然」。
- 公園や住宅街にも自然があって、二酸化炭素を使うような商品を減らし、森林伐採などのことをなるべくなくし、二酸化炭素などの発生などを、減らすようにして、地球温暖化が止まった将来。

② ゴミ・ポイ捨て・清掃

【要約】

- ポイ捨てがなく、ゴミをゴミ箱に捨てて道にゴミが落ちていない街になってほしい。
- 落ちているゴミを拾う・清掃イベントに参加するなど、自分たちも行動したい。

【代表的な記述】

- 道端にタバコのゴミや、缶のゴミ、お菓子のゴミなどがよく落ちていたので将来は「ゴミがあまり落ちていない港区になると良いなと思いました。そのためにゴミ拾いイベントなどをもっと行うと良いなと思いました。
- ポイ捨てされている物は拾う、ポイ捨て禁止と呼びかける。
- 今、ゴミが港区には多すぎたり、緑の自然が少ないため代表委員会でやっているように（代表委員会では青しそを育てている）家でも食物を育てたり、ポイ捨てされているゴミをゴミ拾いして、港区のゴミを減らしていきたい。
- ゴミのポイ捨てが少ない。ゴミを減らすための取り組みや家庭でのゴミの分別などをして、地球温暖化減らす。そのために家で燃えるゴミや燃えないゴミなどの分別をする。
- 街にゴミがない環境にしたいから、もちろんポイ捨てはせずちゃんとゴミは分別して捨てて、もしできたらゴミ拾いなどをする。
- ゴミが落ちてなく、二酸化炭素と排気ガスで大気汚染されていない港区。
- 綺麗でみんなが安心して住める港区。

③ 空気がきれい(大気汚染・臭いがいい)

【要約】

- 排気ガスが少なく、空気が澄んだ環境になってほしい。
- 臭いがなく、安全で清潔な空気で過ごしたい。
- 公共交通機関を使うことで空気をきれいになりたい。

【代表的な記述】

- 車で 1 時間かかる郊外並みに空気が綺麗だと良いなと思います。

- 公害がなくなり、綺麗な空気を吸い、暑すぎず寒すぎずみんなが快適に暮らせる街。
- 大気が汚染されていて匂いもひどくなっていると思います。資源をムダにしない。
- 排気ガスなどがなく空気が澄んでいて緑がいっぱいあるところ。
- 空気などが汚染されていると思います。なのでそれを改善するために日頃からエアコンなどを控えたりなど環境にやさしい配慮をしていきたいです。
- 自然が増え、空気がきれいになっていると良い。そのために、バスなどの交通機関を使うことで排気ガスを少しでも減らしたい。
- そもそも港区って環境悪いんですか？とりえず空気が綺麗な区であって欲しいと思います。
- 空気が良くて、外に洗濯物が干せれるくらい配慮されている環境、そのために、なるべく地球に優しい行動をする。
- ポイ捨てとか臭いとか大きな音がなくなっていると良い。ゴミを出さないようにする。

④ 生物多様性・動物と共存

【要約】

- 動物や生き物が自然に暮らせる、優しい環境を守りたい。
- 在来種を大切に、外来種の問題にも気をつけたい。
- 動植物と共生できる街にしたい。

【代表的な記述】

- 最近近隣の鳥たちが減って、猛禽類などの希少価値がある鳥たちが増えている傾向です。なので、マンションやビルに緑のカーテンや、植物を多く置いたり、草木をどんどん増やして、いろんな生物が共同で生きられるような環境がいいと思います。
- 私の将来は、動物を殺す人がこの世から消されて、みんな幸せな気持ちになっていくという事です。そのために私は、これからも動物を大切にしていきたいです。
- 多くの生き物が共存し、誰もが快適な暮らしができる。
- 色々な動物と触れ合えるところを増やしたりしたい。
- いろんな生き物が水族館や動物園だけじゃなくどんな場所でも自然が感じられるといいと思う。
- 公園に大型動物と、小型動物両方いる港区がいいです。
- 緑がいっぱいで野生の動物が過ごしている。
- 緑豊かで、在来種が多く、安心して暮らせるようなところ
- 外来種がいなくて、環境の悪さで生活が不自由にならない街。
- 絶滅しそうな生き物など暮らしやすい場所を作る→学校のビオトープを直す。

⑤ リサイクル・分別・3R/5R

【要約】

- ゴミの分別やリサイクルを徹底し、ゴミを減らしたい。
- エコバッグやマイボトルなど、身近な行動から環境負荷を減らしたい。

【代表的な記述】

- 地球温暖化が進まないようになってほしいな。そのためにも、省エネ、3R をする。具体的にはリサイクルできるものなど分別をしてリサイクルできるようにする。
- 港区の環境が、よくなっているといい。そのために、私は、環境に良い製品を買ったり（詰め替え製品）、5R を大切にしたり、ものを大切にしたりします"
- リサイクルが進むと思う。私もリサイクル ♻️ を心がける。
- 糞もリサイクルできて物が無駄なくリサイクルできる将来。
- 牛乳パックの分別や服のリユース。
- みんなが生きやすい場所になってほしいです。そのためには、ゴミの分別やリサイクルが出来る様になりたい!!
- ゴミの分別がされず、ポイ捨てされていることが多いから、ゴミを分別してリサイクルすること。
- ごみの分別やリサイクル、節電、節水、マイバッグやマイボトルの持参、食べ残しを減らすこと。

⑥ 治安・平和・安心安全

【要約】

- 治安が良く、誰もが安心して過ごせる場所であってほしい。
- 騒音やトラブルが少なく、静かで落ち着いた環境が理想。

【代表的な記述】

- 安心安全で暮らせる場所
- 緑が豊かで、人や虫などが安心安全に暮らすことができる町になってほしい。そのために、道端に落ちているゴミなどを拾ったりする活動をもっと多くやりたいと思う。
- 誰もが安心して生活でき、戦争も災害もない平和な環境になってほしい。そのために、省エネや HTT をし、SDGs を達成することを頑張る。
- みんなが安心して平和に過ごせて、みどり豊かな港区になるといいなと思います。そのために植物を育てたりしたいです。
- 有害な物質に悩まされず、安全に過ごしたい。また、そのために、有害な化学物質が身体に及ぼす害を知りたい。
- 街の人々が安心して楽しく暮らせるようにしたい。
- 野生動物が安心して暮らせるようにしたい。
- 壁に落書きがない・騒音が少ない・ゴミが街に少ない。
- 自然豊かで植物が揺れる音などだけの静かで落ち着ける港区。

⑦ 温暖化・暑さ/涼しさ・ヒートアイランド

【要約】

- 温暖化を防ぎ、夏でも涼しく過ごせる街であってほしい。
- 緑の増加や省エネでヒートアイランドを改善したい。

【代表的な記述】

- 地球温暖化が進み、暑すぎて、日本の人工の 3 分の 1 の人が熱中症で倒れるから、それも防ぐ。
- 地球沸騰化がいやです。熱すぎます。(暑すぎます)
- 将来は地球温暖化などがなくなり、夏もそれなりに涼しいといいです。そのためには、エアコンをつけるのを控えたり地球に負担がかからないようにしたいです
- 地球が涼しくなっていてほしい。私ができることは、電気を使いすぎないようにすること。
- 緑豊かでヒートアイランド現象が起こらず涼しい街。
- 地球温暖化がなく、みんなが過ごしやすい港区になる。そのために僕は普段から草などを埋めて育てるなど、将来自分で二酸化炭素を酸素にする機械を作ってみたい
- 気温がヒートアイランド現象によって約最高気温が 40℃近くまたはそれ以上になると思う。
- 外が暑くない環境が良い。そのために、暑くならないようなことを取り組みたい。

⑧ 水辺(川・海・運河)・水質

【要約】

- 川や海がきれいで、魚や生き物が安心して暮らせる水辺にしたい。
- 水質悪化を防ぐため、ゴミを捨てないようにしたり、油をあまり下水に流さないようにする。

【代表的な記述】

- 運河や海が綺麗で深くにいる魚も見えるようになるほど綺麗になって欲しい。
- 海の水が綺麗でいろんな人たちが泳げる。
- 運河がもっとキレイになる事。
- 川などが綺麗で川に住む生き物たちが害を受けずに生活できる。
- 川や海が綺麗に保たれていること。だから、ゴミの分別をしっかりやる。
- 緑が多く川の水がきれいで生き物が沢山住んでいる。
- たくさんの池があり植物がある、池に生き物がいる。
- 油をあまり下水に流さないようにすること。

⑨ ボランティア・参加

【要約】

- イベントなどで環境のことを広める。
- ゴミ拾いやクリーン作戦、植林活動のボランティアに参加したい。

【代表的な記述】

- 環境のためのイベントを開催してそのイベントの事を広める
- 緑が少なくなっていると思う。そのためにはボランティアなどに参加したりと地球全体を良い環境にするために心掛けていきたいです。

- 緑が今よりも多く過ごしやすい環境だといと思います。ボランティアなどに参加したいです。
- 自然と建物、人間が共存している環境。積極的に環境について調べたり、イベントなどに参加する。
- 道端に落ちているゴミなどをなくすために時間があればクリーン作戦に参加する。
- もっと緑が増えていくとよい。そのために植林活動のボランティアに参加する。
- ポイ捨てがなく綺麗な環境。ゴミ拾いボランティアなどに参加。

⑩ 再生可能エネルギー・省エネ

【要約】

- 再生可能エネルギーを使い、無駄なエネルギー消費を減らしたい。
- 普段から節電・節水に気をつけて地球の負担を減らしたい。

【代表的な記述】

- 港区は将来、環境保全の最先端にいる都市になると思う。そのために日頃から節水、節電を心掛けていきたい。
- 節電や節水、省エネを心がける。
- 人と自然が共生できるような社会を作るために、節電や節水を心がけていきたい。
- グリーンな空気が漂い、少子化が進まずにエコなエネルギーを継続できる都市。
- 再生可能なエネルギーが使われている環境。
- 省エネ電器を使う。
- 未来の港区では、住んでいる人々が快適に過ごせるようなところになるといいと思いました。わたちができることは、リサイクルや節電、節約などが出来たら少しメモ理解的に過ごせると思いました。

⑪ 都市開発(ビル、マンション)・自然減少への懸念

【要約】

- ビルばかりでなく、自然もきちんと残す街にしてほしい。
- 都市開発の中でも緑を大切にしてほしい。

【代表的な記述】

- たくさんマンションやビルが建てられており、緑がかなり減って行くと思う。
- 高層ビルを世の中からなくしアスファルトを消し木造建築を大切にする。
- 港区がさまざまな会社のビルがあることは知っているものの、やっぱり都市開発とかお台場のプロジェクトマッピングとかより、植物保全に使った方がいいと思う。
- 無駄に高層ビルを作らない。公園を増やす。
- 港区では環境問題より都市開発の方が進んでるイメージがあるから、環境問題をもっと問題視すれば港区は(緑があふれると思う)←これがなったらイイと思う港区。
- 発展したビルと共に色鮮やかな自然がある美しさと環境を両立した港区になってほしい。
- ビルが少なくなって欲しい、人が少なくなって欲しい、空気が綺麗になって欲しい。
- ビルは、環境にやさしい建物とかでしっかり緑がたくさんある港区がいい！

⑫ 将来悲観/悪化・滅亡

【要約】

- 自然が破壊され、環境が悪化していると思う。
- ヒートアイランド現象など地球環境が悪化し、人類が滅亡していると思う。

【代表的な記述】

- みんながSDGsを守っていたらきれいな街になっていると思いますが、みんなが守ってなければ汚い町になると思います。
- 将来には多分住環境がもっと悪くなっていると思います。
- ヒートアイランド現象が悪化する。
- 環境が悪化していると思う。
- 滅亡している「人類」。
- 自然が破壊されていき、新しい建物が建てられて、子供達が楽しめる場所が奪われていき、子供達も外で遊ばなくなり、家の中で遊ぶようになっていきます。
- すごく悪くなっていると思う また今の自分ができないことはない
- 都市化がさらに進んで環境がひどいことになっていると思う。

⑬ 教育・学び・意識

【要約】

- 環境について学び、今できることを研究したい。
- 環境の大事な役割をみんなに知ってもらいたい。

【代表的な記述】

- 人も動物もみんなが自由に暮らせるとよい。そのためにできること→環境について学習して今の私たちにできることをしたり研究をしたりする。
- みんなが環境のすごいところを知ってもらいたいそのためには自分が環境のすごいところを調べる。
- 皆で環境を良くするための取り組みを意識する。
- たくさんの人と環境問題について学ぶ。
- 老若男女関係なく誰でも住みやすい町。そのために、普段からゴミなどに対する意識を持つ。
- もっと緑があることと学校でもっと環境について勉強したい。

⑭ 交通・脱炭素移動

【要約】

- 電気自動車や水素自動車などの ZEV（ゼロエミッションビークル）が普及。
- 公共交通が積極的に利用されている。

【代表的な記述】

- 電気自動車や水素自動車などの再生可能エネルギーの自動車が多く走っている。私の家は車を持っていないので、できるだけ徒歩やバス、電車を利用したいです。
- なるべくバスや電車を使って移動する。
- 電気自動車が普通になって CO2 排出削減ができる港区。
- 港区の空気がキレイになっていると良い。電気自動車などで排出ガスを減らす。
- 人口と自然が合体して全ての通る車が電気自動車か燃料電池車などの車。

⑮ 遊べる場所・子ども

【要約】

- 緑が多くて子どもが遊べる場所がある。
- 緑はなくても遊ぶところがあるまち。

【代表的な記述】

- 自然がありゲームセンターなど遊べるところが欲しい。
- 子供達が楽しめるパークがある港区。
- 緑は別になくていいから遊ぶ建物がいっぱいあるところがいい。
- 子供が遊べる楽しい環境があつて緑がある環境。
- サッカーのできる公園が多い街。
- 空気が綺麗で、暑すぎず外で安全に遊べるような昔の時のような気候だったり、自然の中で遊べるようなところになっていて欲しい。

⑯ 技術・AI・スマートシティ

【要約】

- 環境を良くする技術が発展している（空飛ぶ車など）。
- 緑と技術が混ざったような建物がよくある港区。

【代表的な記述】

- 空飛ぶ車やテレポートできる機械などを作る（マイクラでいう「エンダーパール」的な）。
- 環境を良くする技術が発達すると良い。
- 他国にも劣らない技術力を持ちながら、環境が豊かである理想の都市。
- 緑と技術が混ざったような建物がよくある港区。
- 技術は衰えることなく、今よりもっと自然と親しめるチャンスが増えているといいと思う。そのために、地域の環境活動などに時間があつたら積極的に参加したい。
- AI 企業や機械化などで AI などの会社が多くなってしまうため、生物の環境保護などが難しくなってしまう。

⑰ 防災・気象災害

【要約】

- 災害があまり起きず、災害が起きても安全なまちになってほしい。
- 台風や水害・災害が起きても、被害を受けずに安心できるまちになってほしい。

【代表的な記述】

- 塀で囲まれていてあまり揺れなく津波よりも強い鉄の家。
- 災害が起きても安全な街になってほしい。
- 災害があまり起きない将来。非常時の時のために対策をする。
- 空気が綺麗で、大雨などの被害が少ない静かなところ。
- 自然を楽しめる公園や空気が綺麗で、台風や水害・災害が起きても安心できる活動がしてある港区だといと思います。
- 自然豊かで、緑がたくさんある街。大雨の被害などを受けずに安心して過ごせる街。

⑱ ルール・マナー・喫煙

【要約】

- 路上喫煙やごみやタバコのポイ捨てなどがなくなっている。
- 外国人が日本の文化とルールを守っている。

【代表的な記述】

- 綺麗で外国人の人が日本の文化を守りルールも守っていて、あと道路にゴミがなく落書きもなく治安が良いことを願いたい。
- タバコを吸う人が逮捕される街。
- 路上喫煙をしている人がいなくなると良い。
- ゴミをポイ捨てしている人がいなくなると良い。さらに隠す様に捨てている人もいなくなると良い。
- タバコやバイクなどを使うおじさんたちがいなくなり、空気が綺麗で、治安をより良くして地球温暖化を削減できるような社会。
- 汚い空気がなくゴミやタバコが捨てられてない状態にしたい。そのためにはポスターを貼ったり、ゴミ拾いなどをする。

【未来の港区のイメージ(ワードクラウド)】

- 出現回数で重み付けしたキーワードを文字の大きさに示すワードクラウドでまとめました。

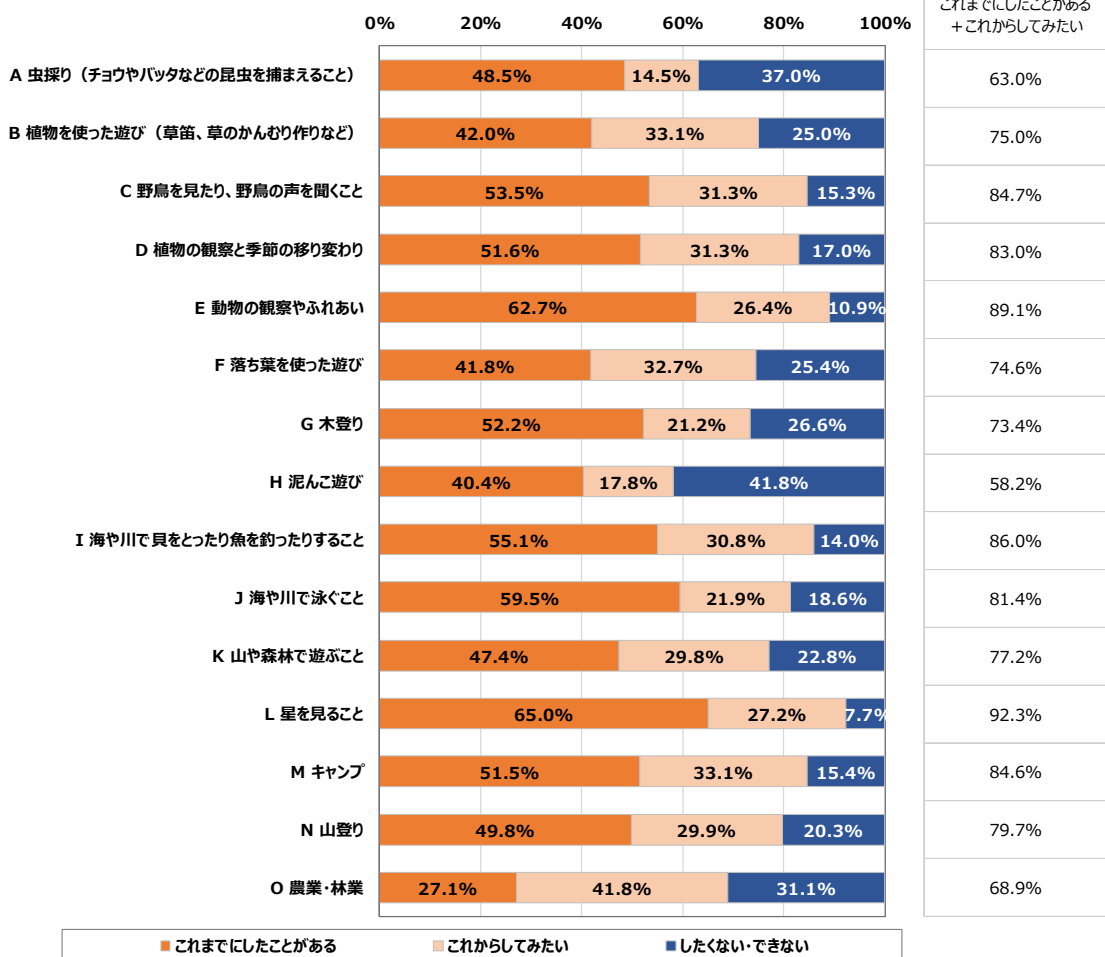


4-5 自然共生・生物多様性について

(1) 生物多様性の保全に関する取組の状況

質問 5 これまでにしたことがある、これからしてみたい外遊びや自然体験すべてを選んでください。港区以外での体験でも良いです。

- 「これまでにしたことがある」では、「L 星を見ること」(65.0%)、「E 動物の観察やふれあい」(62.7%)、「J 海や川で泳ぐこと」(59.5%) の順で多くなっています。
- 「これからしてみたい」では、「O 農業・林業」(41.8%)、「M キャンプ」と「B 植物を使った遊び(草笛、草のかんむり作りなど)」(33.1%) の順で多くなっています。
- 「これまでにしたことがある」と「これからしてみたい」の合計の割合で見ると、「L 星を見ること」(92.3%)、「E 動物の観察やふれあい」(89.1%)、「I 海や川で貝をとったり魚を釣ったりすること」(86.0%) の順で多くなっています。
- 「したくない・できない」では、「H 泥んこ遊び」(41.8%)、「A 虫採り(チョウやバッタなどの昆虫を捕まえること)」(37.0%)、「O 農業・林業」(31.1%) の順で多くなっています。



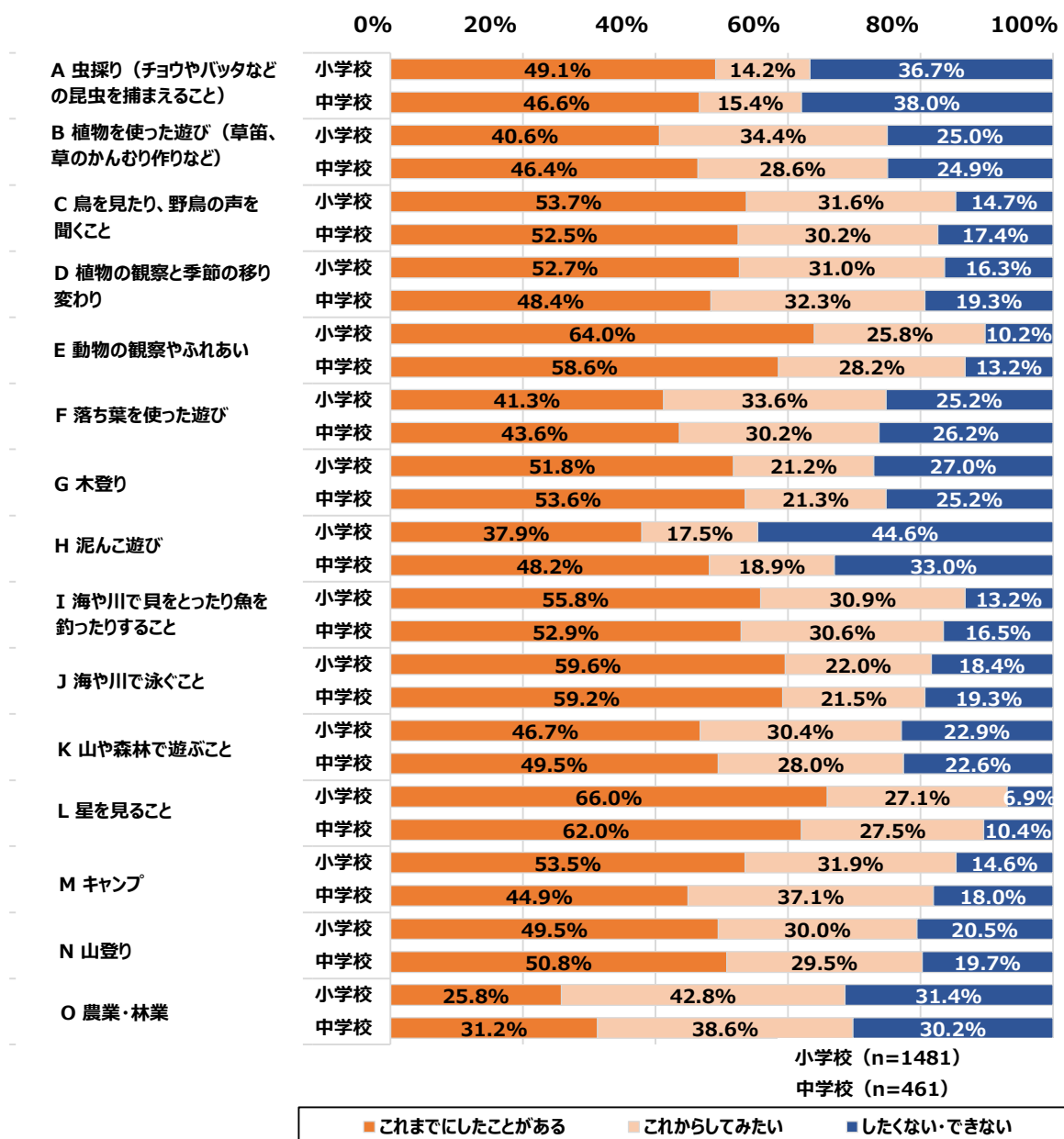
質問 5 その他 そのほかに、これからしてみたい外遊びや自然体験があれば自由に書いてください。

- 209 人から回答があり、一人で複数の意見を記入している場合はそれぞれ 1 件として数え、延べ件数は 244 件となりました。

分類	件数
総計	244
動物ふれあい・飼育・保護	29
キャンプ	25
観察・調査（生き物・植物）	18
アスレチック	17
天体・宇宙	17
水辺遊び（川・海・水）	16
釣り・漁業体験	15
登山・ハイキング	14
昆虫（虫取り・観察・繁殖）	12
身近な自然・公園・緑化	12
農業・林業・園芸	12
自然素材の工作・クラフト	12
自然観光・ツアー	10
スポーツ（自然の中）	6
環境・保全・清掃・学習	6
木登り	5
野外料理・食	4
冬の遊び（雪・スキー）	3
鬼ごっこ・かくれんぼ	3
船・乗り物	2
エクストリームスポーツ	2
温泉	2
地学・化石	2

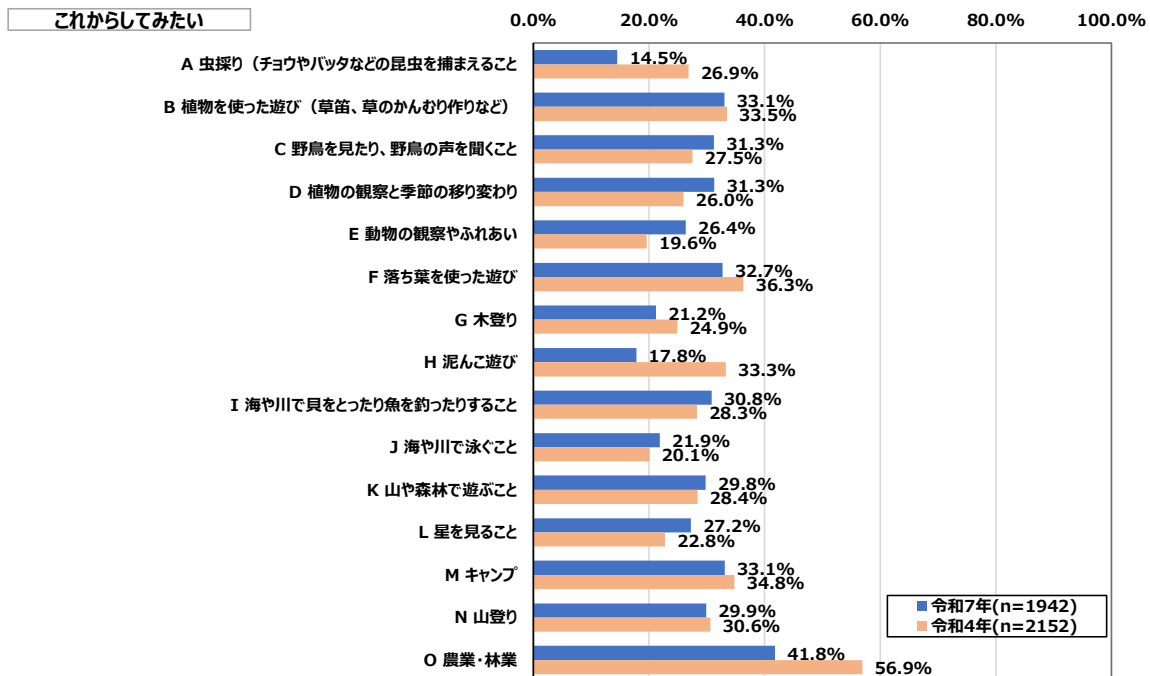
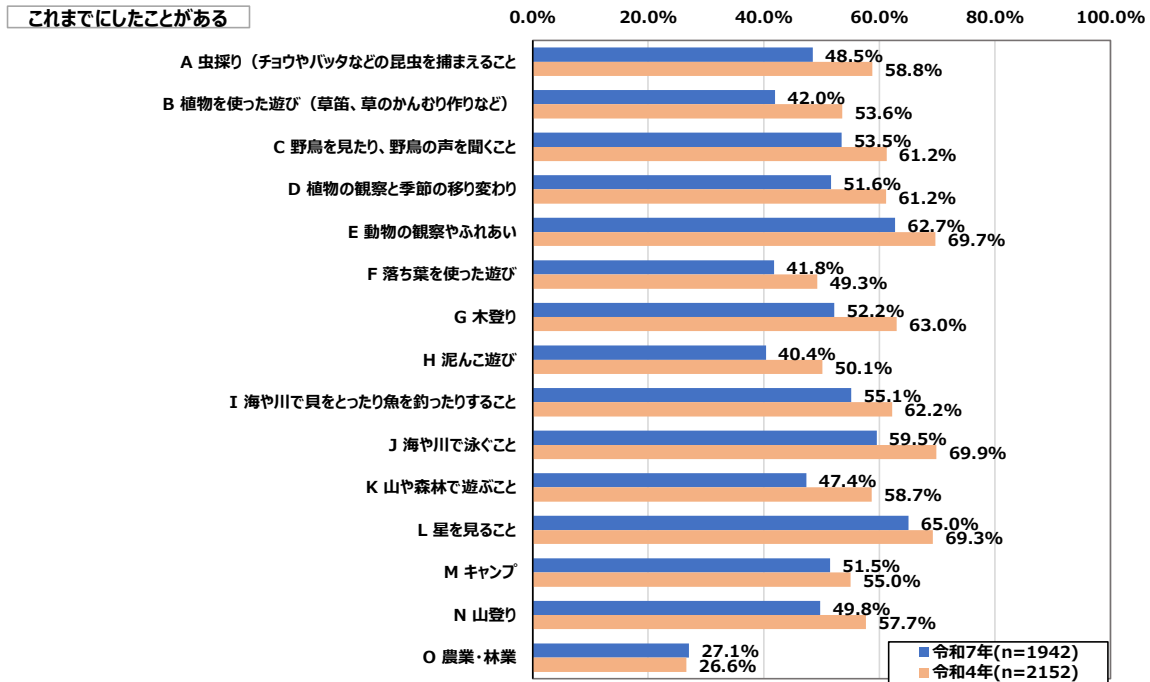
【小中学生区分】

- 「これまでにしたことがある」は、小学生では、「L 星を見ること」と「E 動物の観察やふれあい」が多く6割を超えています。一方、実施率が低いのは、「H 泥んこ遊び」が37.9%、「O 農業・林業」が25.8%でした。中学生では、「L 星を見ること」が6割を超えています。一方、実施率が4割未満であったのは、「O 農業・林業」で31.2%でした。特に中学生の方が実施率が高かったのは、「H 泥んこ遊び」と「植物を使った遊び（草笛、草のかんむり作りなど）」、「O 農業・林業」でした。
- 「これからしてみたい」は、小学生では「O 農業・林業」、「植物を使った遊び（草笛、草のかんむり作りなど）」、「F 落ち葉を使った遊び」の順で多く、中学生では「O 農業・林業」、「M キャンプ」、「D 植物の観察と季節の移り変わり」の順で多くなっています。



【前回調査との比較】

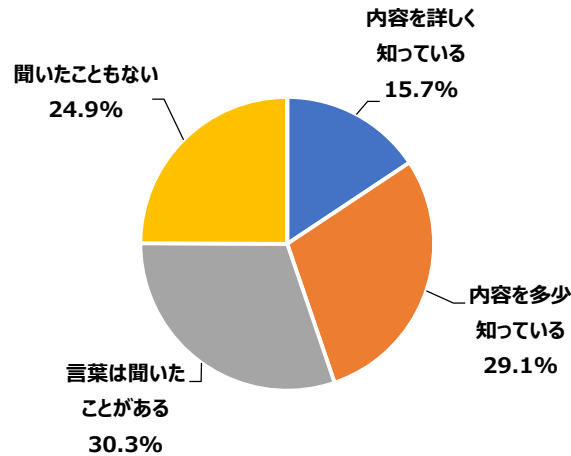
- 「これまでにしたことがある」では、「O 農業・林業」を除いたすべての項目で実施率が低下しています。背景としてコロナウイルス感染症の拡大が影響していると考えられます。
- 「これからしてみたい」では、「E 動物の観察やふれあい」と「D 植物の観察と季節の移り変わり」が5ポイント以上上昇しています。一方、「H 泥んこ遊び」、「O 農業・林業」、「A 虫採り（チョウやバッタなどの昆虫を捕まえること）」は10ポイント以上の低下がみられます。



(2)「生物多様性」の認知度

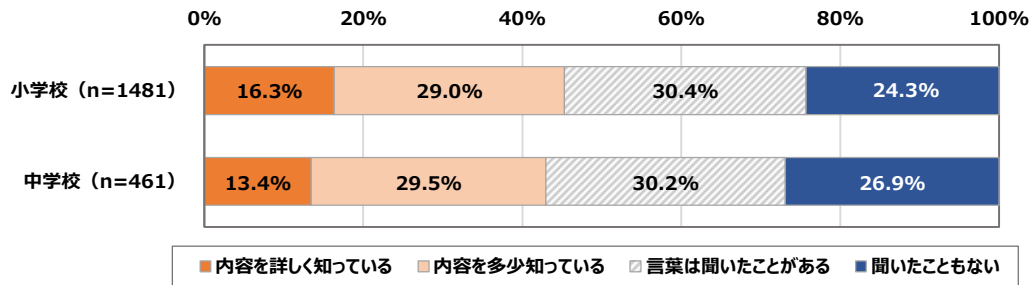
質問 6 あなたは、「生物多様性」について、どのくらい知っていますか？

- 「生物多様性」については、「内容を詳しく知っている」(15.7%)、「内容を多少知っている」(29.1%)、「言葉は聞いたことがある」(30.3%)、「聞いたこともない」(24.9%)の結果となりました。7割以上が少なくとも聞いたことはあるとの回答となっています。



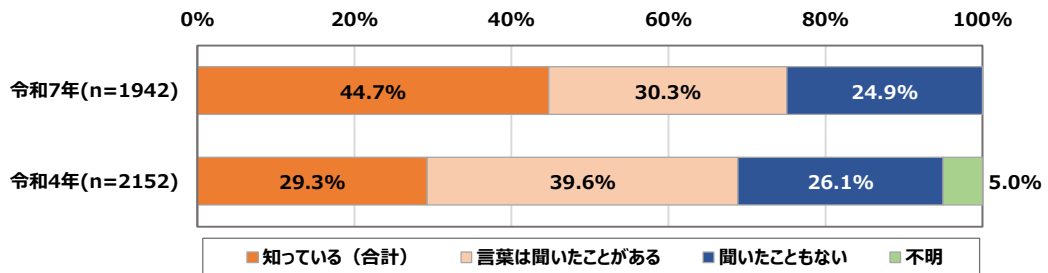
【小中学生区分】

- 少なくとも聞いたことはある割合は、小学生が75.7%、中学生が73.1%でした。



【前回調査との比較】

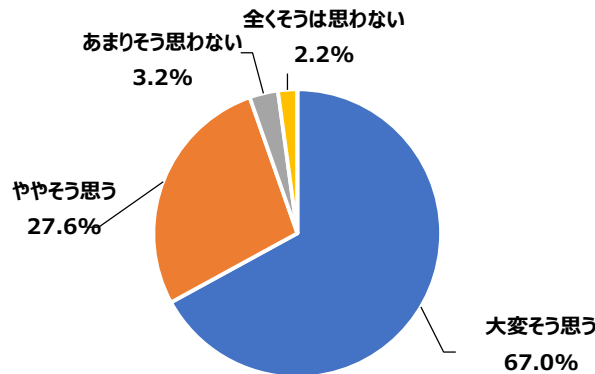
- 「知っている（合計）」は15.5ポイント上昇し、少なくとも聞いたことはある割合は6.2ポイント上昇しています。



(3) 「生物多様性」の大切さに対する考え方

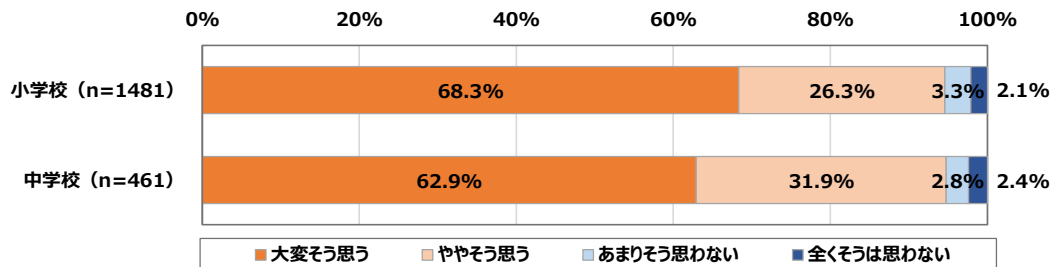
質問 7 いろいろな生きものが元気にさせるように、生物多様性を守ることは大切だと思いますか？

- 「生物多様性」の大切さについては、「大変そう思う」(67.0%)、「ややそう思う」(27.6%)、「あまりそう思わない」(3.2%)、「全くそう思わない」(2.2%)の結果となりました。「大変そう思う」と「そう思う」の合計で94.6%となっています。



【小中学生区分】

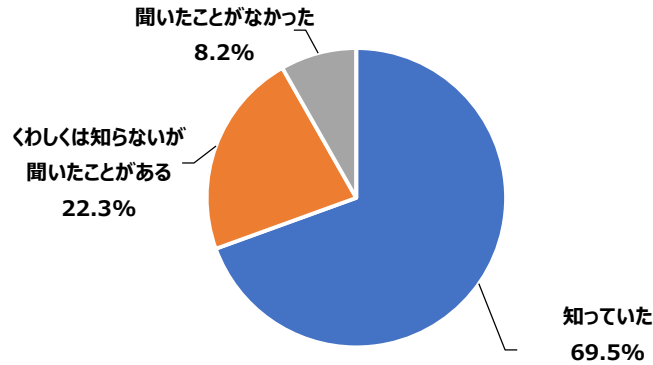
- 「大変そう思う」と「そう思う」の合計で見ると小中学生に大きな差はみられませんでした。



(4) 外来種について

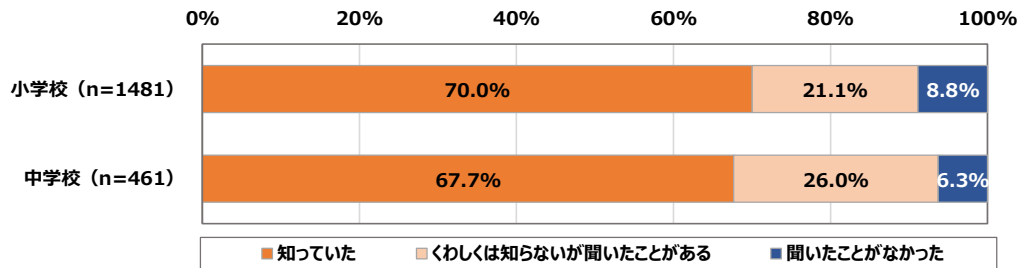
質問 8 「外来種」の問題を知っていましたか？

- 外来種の問題については、「知っていた」(69.5%)、「くわしくは知らないが聞いたことがある」(22.3%)、「聞いたことがなかった」(8.2%)の結果となりました。少なくとも聞いたことがあるの回答が9割以上となっています。



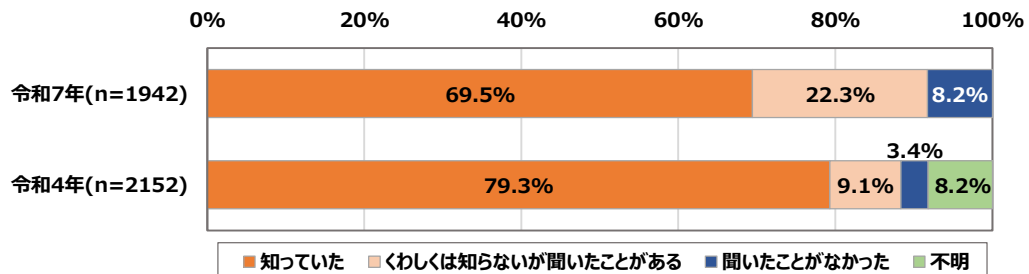
【小中学生区分】

- 少なくとも聞いたことはある割合は、小学生が91.2%、中学生が93.7%でした。



【前回調査との比較】

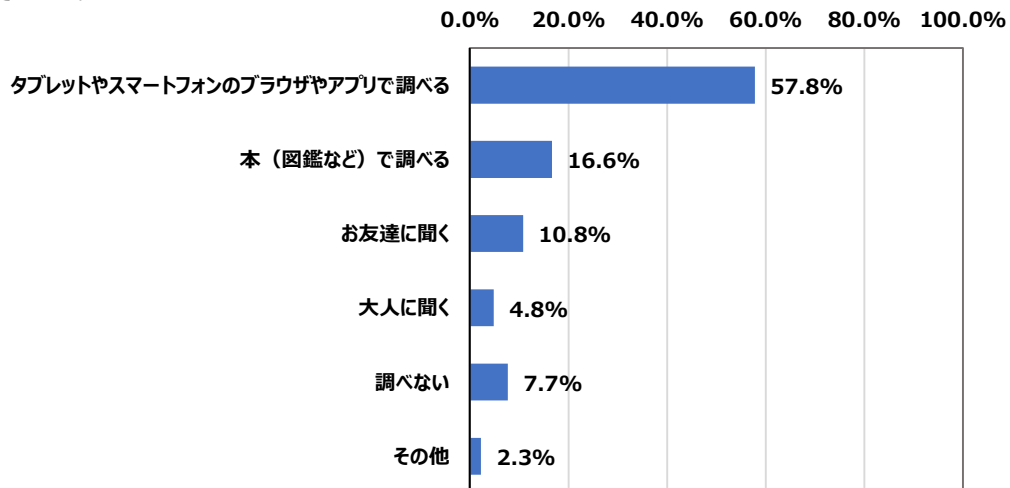
- 「知っていた」の回答率は低下しましたが、少なくとも聞いたことはある割合は3.4ポイント上昇しています。



(5) 生きものの調べ方について

質問 9 みなさんは、身近に見かけた生きものの名前やとくちょうを調べるとき、どのように調べていますか？

- 生きものの調べ方については、「タブレットやスマートフォンのブラウザやアプリで調べる」(57.8%)が最も多く、次いで「本(図鑑など)で調べる」(16.6%)、「お友達に聞く」(10.8%)の順で多くなっています。

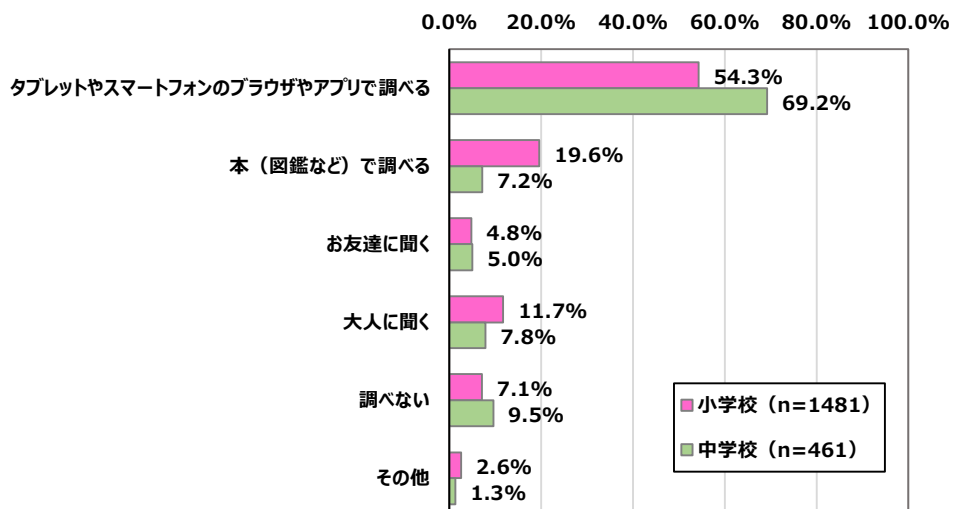


◆その他の回答(要約)

- おじいちゃんに教えてもらう。
- 塾で書く。
- Siriに聞く。
- AIに写真で聞いて、それを図鑑にまとめる。写真を撮ってGoogleで調べる。
- 飼っているうさぎがいるので実際に観察しています。
- それに似たものを集め自分で考える。
- 全て。
- まず本で調べ、疑問に思ったことや、わからない部分があったら、インターネットで調べる。
- 大人に聞いて、その大人が生き物を知らなかったら、タブレットで調べる。
- ほとんどすでに知っている。

【小中学生区分】

- 「タブレットやスマートフォンのブラウザやアプリで調べる」は中学生の方が多く、「本(図鑑など)で調べる」は小学生の方が多くなっています。



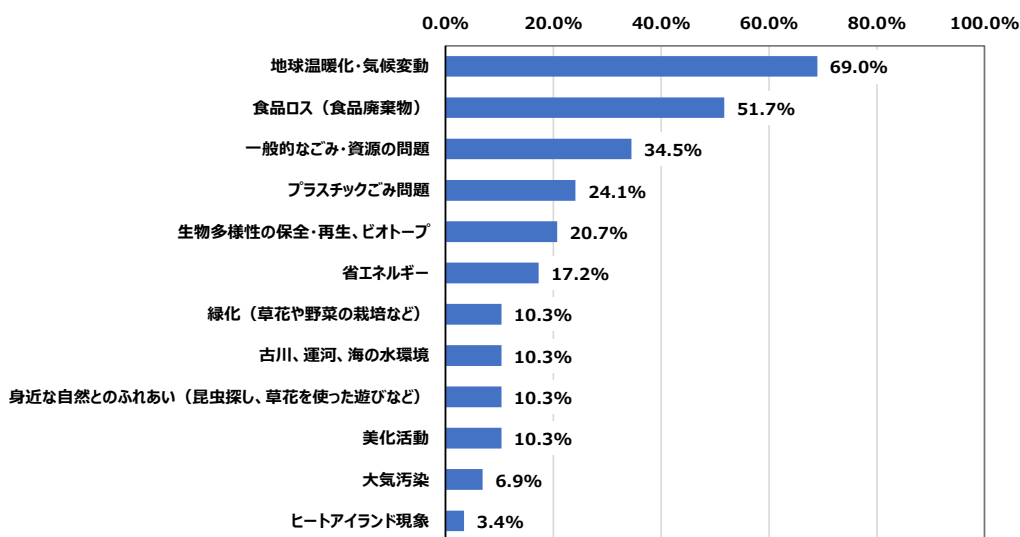
5 学校アンケート調査の結果【教員】

5-1 環境問題・話題に対する児童・生徒の関心・認知度

(1) 最近の児童・生徒が特に関心を持っている環境分野

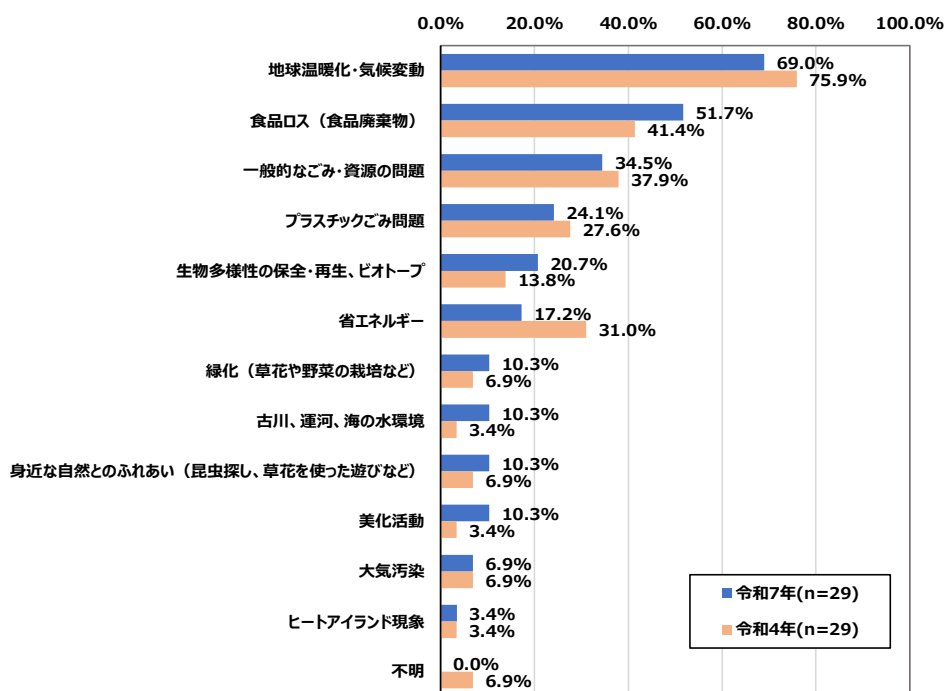
問 1 教科学習、総合的な学習の時間、みなと子どもエコアクションの活動などを通じて、最近の児童・生徒が特に関心を持っていると感じる環境分野は何ですか。

- 最近の児童・生徒が特に関心を持っていると感じる環境分野については、「地球温暖化・気候変動」(69.0%) が最も多く、次いで「食品ロス(食品廃棄物)」(51.7%)、「一般的なごみ・資源の問題」(34.5%) の順で続いています。



【前回調査との比較】

- 「食品ロス(食品廃棄物)」が約 10 ポイント以上上昇しています。一方、「省エネルギー」では 13.8 ポイントの低下がみられました。

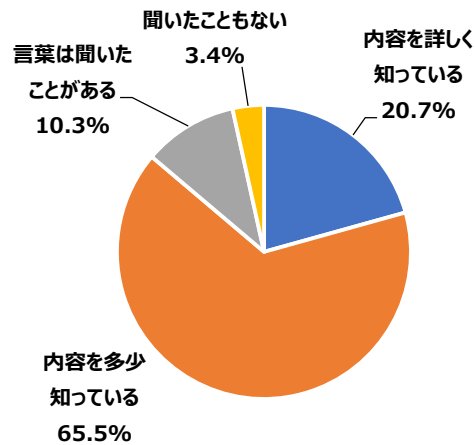


5-2 生物多様性について

(1)「生物多様性」の認知度

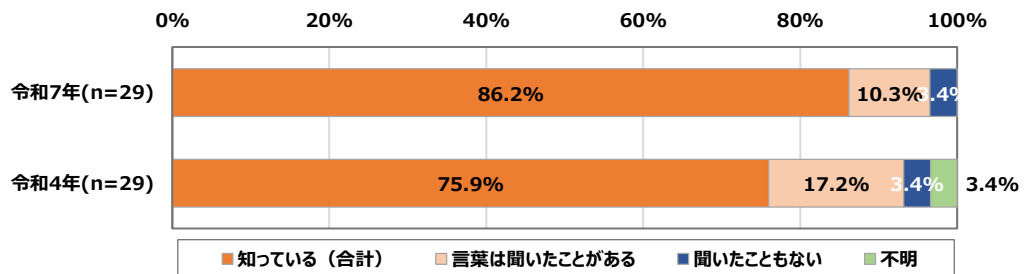
問2 あなたは、環境に関する「生物多様性」の話題をどのくらい知っていますか

- 「生物多様性」については、「内容を詳しく知っている」(20.7%)、「内容を多少知っている」(65.5%)、「言葉は聞いたことがある」(10.3%)、「聞いたこともない」(3.4%)の結果となりました。



【前回調査との比較】

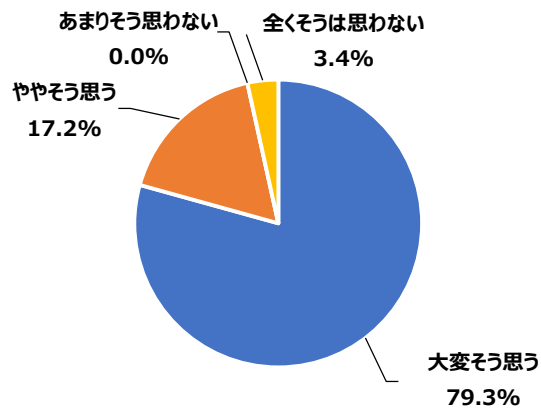
- 「知っている（合計）」は10.3ポイント上昇し、少なくとも聞いたことはある割合は3.5ポイント上昇しています。



(2) 「生物多様性」の大切さに対する考え方

問3 「生物多様性を守り、はぐくむことは大切である」という意見や考えについて、「大変そう思う」から「全くそうは思わない」までの4段階で、あなたの考えや意見に最も近いものを選んでください。

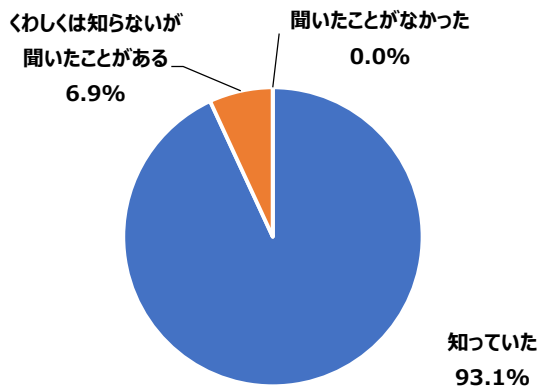
- 「生物多様性」の大切さについては、「大変そう思う」(79.3%)、「ややそう思う」(17.2%)、「あまりそう思わない」(0.0%)と「全くそう思わない」(3.4%)でした。



(3) 外来種について

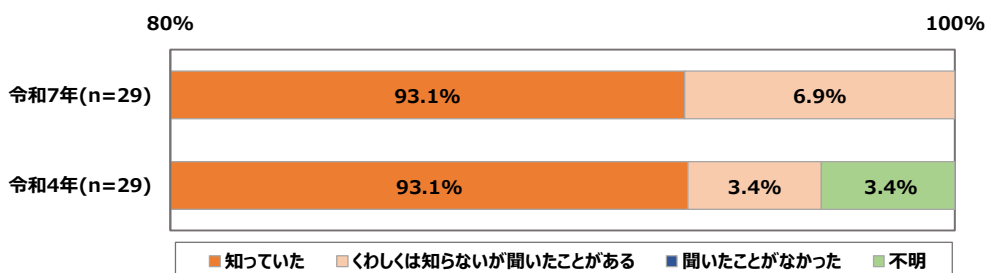
問4 「外来種」の問題を知っていましたか？

- 外来種の問題については、「知っていた」(93.1%)、「くわしくは知らないが聞いたことがある」(6.9%)、「聞いたことがなかった」(0.0%)の結果となりました。



【前回調査との比較】

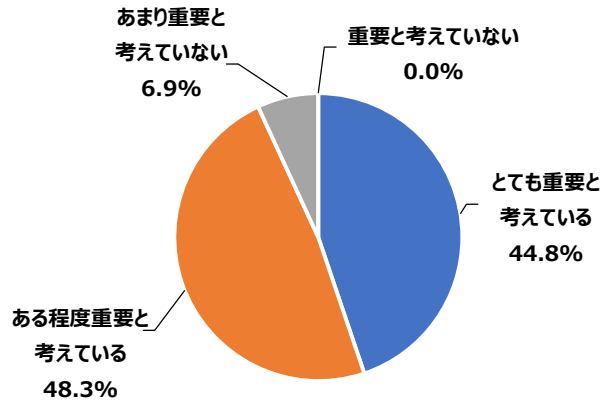
- 前は不明（無回答）があり、「知っていた」と「くわしくは知らないが聞いたことがある」の合計は96.5%でしたが、今回は100%となりました。



(4) 生物多様性教育の重要性について

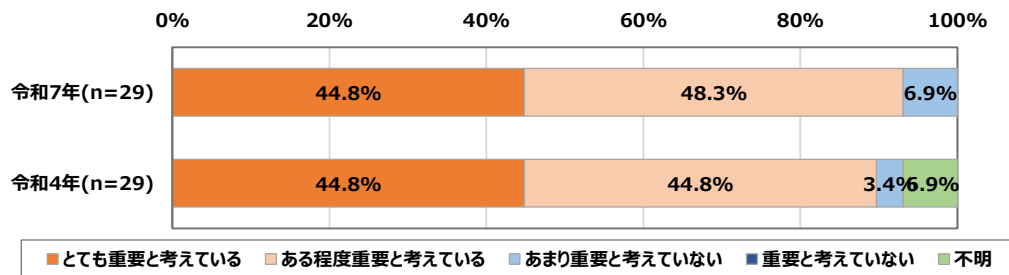
問 5 貴校（貴園）としては、生物多様性に関する教育をどの程度重要と考えていますか。また、その理由を教えてください。

- 生物多様性教育の重要性については、「とても重要と考えている」(44.8%)、「ある程度重要と考えている」(48.3%)、「あまり重要と考えていない」(6.9%)、「重要と考えていない」(0.0%)の結果となりました。



【前回調査との比較】

- 「とても重要と考えている」と「ある程度重要と考えている」の合計が、3.5ポイント上昇しています。



◆理由

とても重要と考えている(n=13)

- ビオトープに外来種をはなして生態系を崩すなど、生物に対して正しい知識を持たないと取り返しのつかないことになるから。
- 地球に暮らす人間一人一人が現状を知り、行動することが大切だと考えるから。
- 生物多様性のバランスが崩れると、生態系が崩れ、人間や他の動物にとっても暮らしにくい世界になってしまう。これからの未来を担う子どもたちが、人間本位の身勝手な行動をするのではなく、様々な生き物の命を当然のように尊重し、地球に生きる一員として自然を大切にすることを育んでいくことが重要だと思うから。
- 日本古来からの種の保存に害を及ぼすことがあり、これからの子どもたちに日本の良さ等を伝承していく大切さを感じているから。
- 本校のビオトープにおける生物多様性が、アメリカザリガニの繁殖によって失われたことについて、児童はすでに学び、理解を深めているため。
- 今後につながる大切な問題であるから。
- SDGsの研究校あり、いきものへの親しみをもつ児童が多くいるから。
- 固有種（在来種）に富んだ日本の生態系が変わってしまうと思ったから。
- 人類を含め、地球上の生物全体の大きな課題であると考えているから。
- 現代の環境問題で重要であるから。
- ビオトープの生き物を安定して育てる上で、在来種を大切にすることを必要とすることが大切だから。
- 生態系を破壊してしまうから。
- 地域の生態系を守る活動を通して、地域愛や郷土愛を育成できる。

ある程度重要と考えている(n=14)

- 区内や学校周辺の自然が少ないため、そもそも児童の自然環境や生物の多様性に対する意識が低い。だからこそ、学校教育で子どもたちに伝えていく必要があるから。
- 食物連鎖のバランスが崩れ、生態系が変わってしまう。また、人間への影響も否めないため。
- 個人の価値観以前の問題として、これからの時代を生きる人間が身につけるべき常識と考えているため。
- 知っていることで生き物を逃したりしないと思う。
- 言葉としては難しいので理解が難しいが、自分たちが生きていくことに関係があることなのでそのように答えた。
- 都心にある本校で、身近な自然にも多様化について知ることが、将来の環境に対しての意識を児童がもつことにつながるから。
- 地球規模の問題だから。
- 生態系を守ることが、地球環境を持続可能にしていくことにつながるから。
- 様々な生き物を大切にすることで、私たちの幸せがあるから。
- 外来種が増えると、日本の生き物が減るから。
- 地域にいる生物を守るため。
- 重要であるとは考えているが、それに関する教育までは実践できていないため。
- 都会のコンクリート建築等の住環境で育つ生徒が多い中、自然体験が課題である。
- 自分たちの将来に関わることだから。

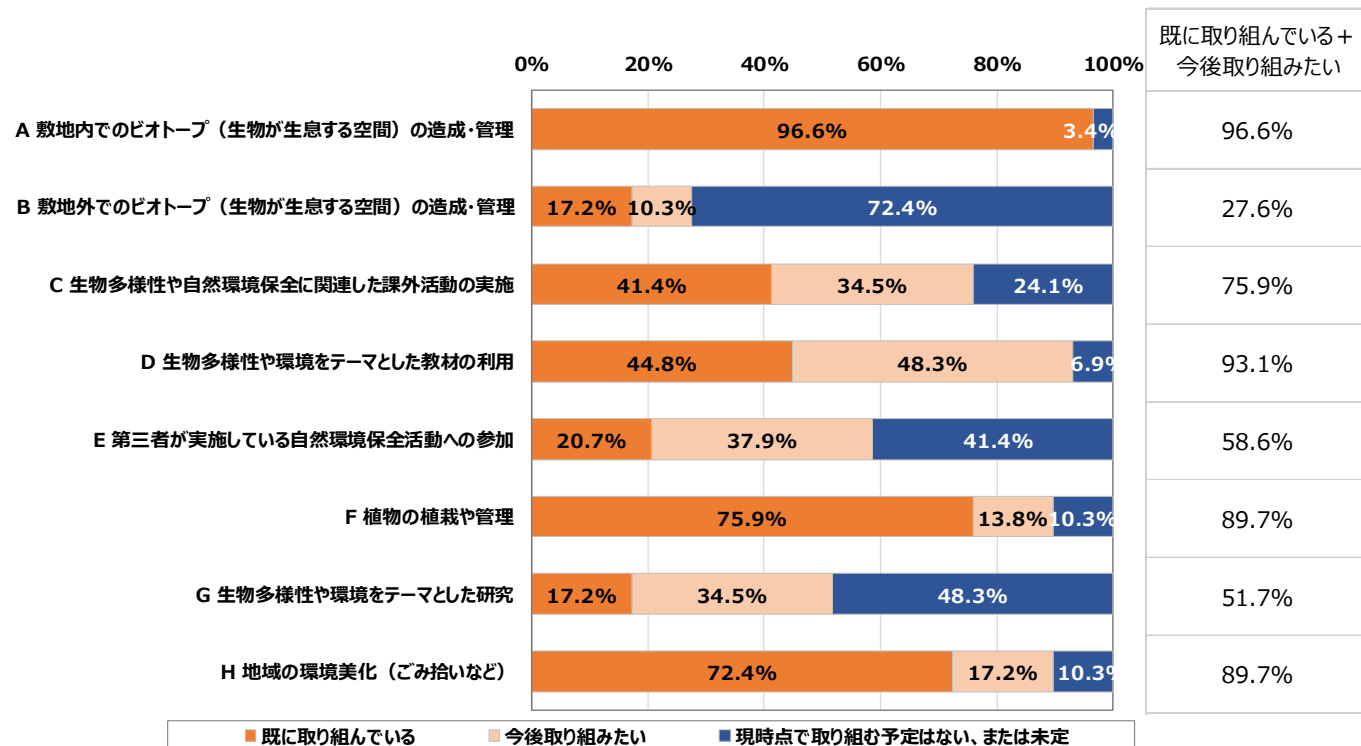
あまり重要と考えていない(n=2)

- ほかに重要と考えるテーマがあるため。
- 普段あまり耳にはしない。

(5)生物多様性の教育の取組状況について

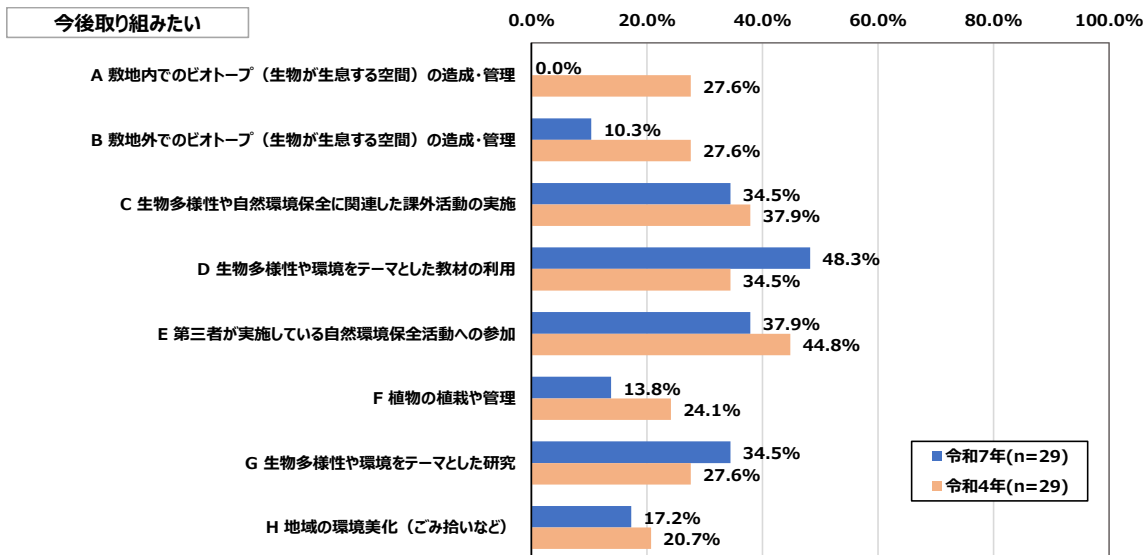
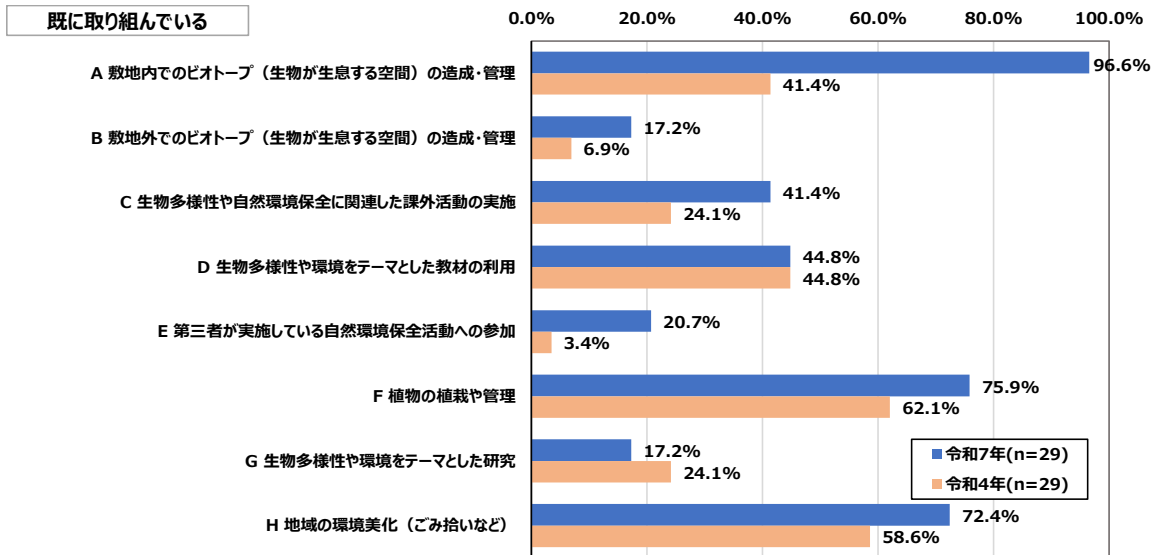
問 6 生物多様性に関する教育の内容について、貴校（貴園）の取組状況としてあてはまるものを選んでください。

- 「既に取り組んでいる」と「今後取り組みたい」の合計の割合で見ると、「A 敷地内でのビオトープ（生物が生息する空間）の造成・管理」（96.6%）、「D 生物多様性や環境をテーマとした教材の利用」（93.1%）が多くなっています。



【前回調査との比較】

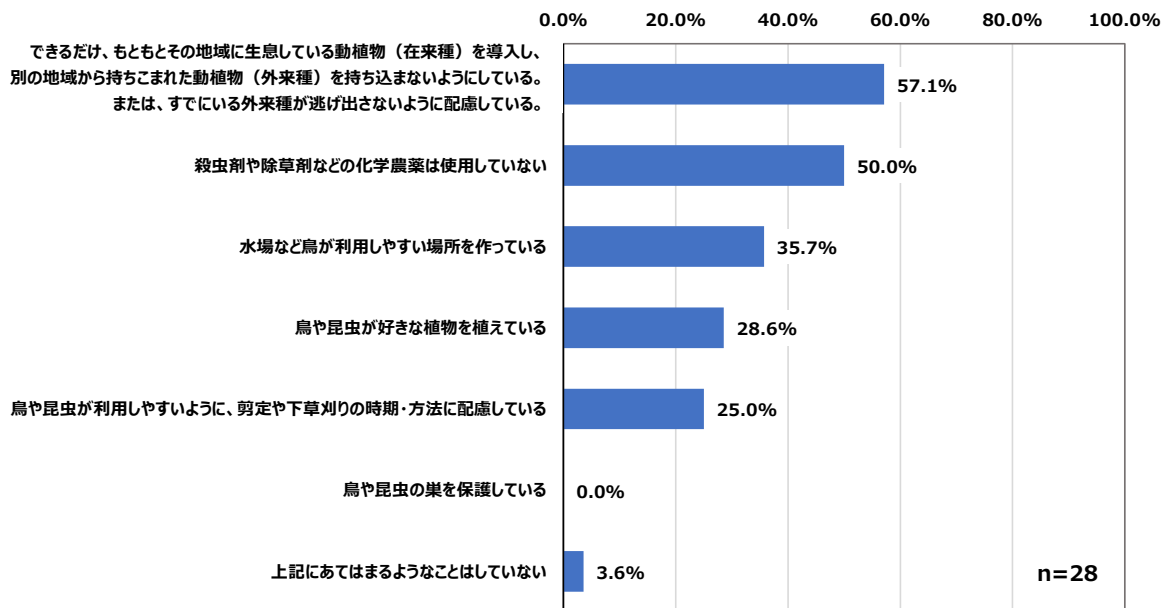
- 「既に取り組んでいる」では、「A 敷地内でのビオトープ（生物が生息する空間）の造成・管理」が50ポイント以上と大幅に上昇しています。「D 生物多様性や環境をテーマとした教材の利用」と「G 生物多様性や環境をテーマとした研究」を除き、すべての項目の実施率が上昇しています。
- 実施率の上昇に伴い、「今後取り組みたい」の回答割合は減少しています。実施率が上昇していない「D 生物多様性や環境をテーマとした教材の利用」と「G 生物多様性や環境をテーマとした研究」において回答率が増加しています。



(6)ビオトープについて

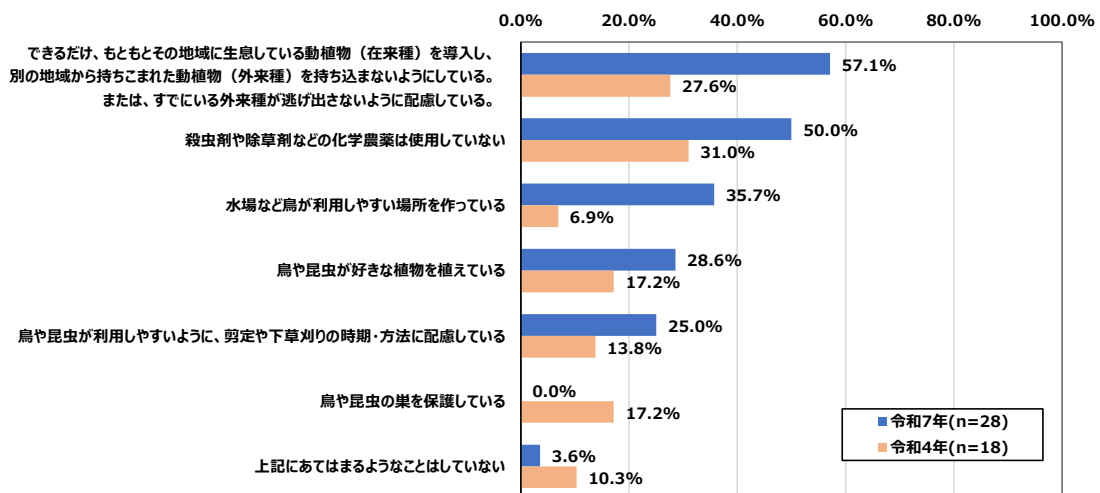
問7 問6の「A 敷地内でのビオトープ（生物が生息する空間）の造成・管理」「F. 植物の植栽や管理」について、「1. 既に取り組んでいる」を選択された学校に質問です。貴校（貴園）におけるビオトープ・植栽の管理方法についてあてはまるものすべてを選んでください。

- ビオトープ・植栽の管理方法については、「できるだけ、もともとその地域に生息している動植物（在来種）を導入し、別の地域から持ちこまれた動植物（外来種）を持ち込まないようにしている。または、すでにいる外来種が逃げ出さないように配慮している。」（57.1%）が最も多く、次いで「殺虫剤や除草剤などの化学農薬は使用していない」（50.0%）、「水場など鳥が利用しやすい場所を作っている」（35.7%）の順で続いています。



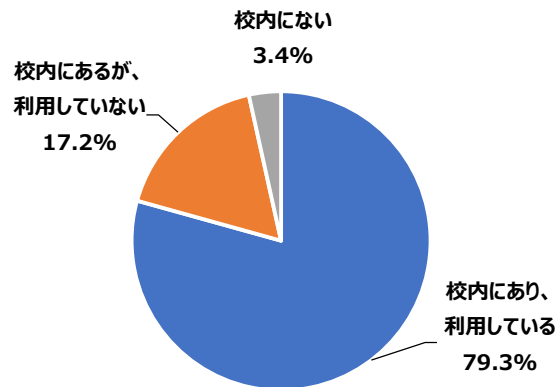
【前回調査との比較】

- 「できるだけ、もともとその地域に生息している動植物（在来種）を導入し、別の地域から持ちこまれた動植物（外来種）を持ち込まないようにしている。または、すでにいる外来種が逃げ出さないように配慮している。」と「水場など鳥が利用しやすい場所を作っている」が約 30 ポイント上昇しています。一方、「鳥や昆虫の巣を保護している」は今回調査では 0% となりました。



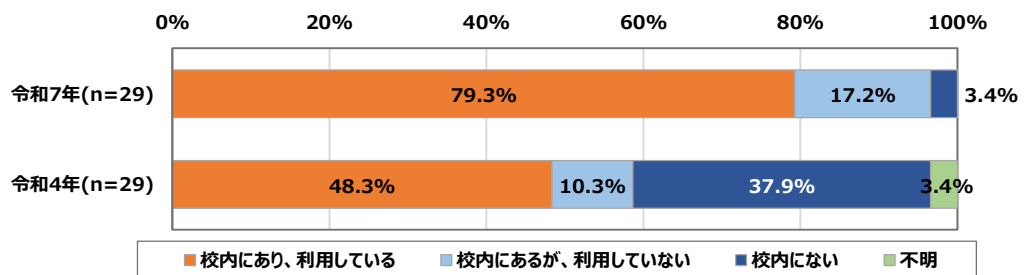
問 8 貴校（貴園）にビオトープ（生物が生息する空間）はありますか。また、授業や課外活動で利用していますか。

- ビオトープの有無については、「校内にあり、利用している」（79.3%）、「校内にあるが、利用していない」（17.2%）、「校内にない」（3.4%）の結果となりました。



【前回調査との比較】

- 「校内にあり、利用している」が、30ポイント以上上昇しています。「校内にない」の回答も大幅に減少しており、ビオトープの普及率が向上しています。

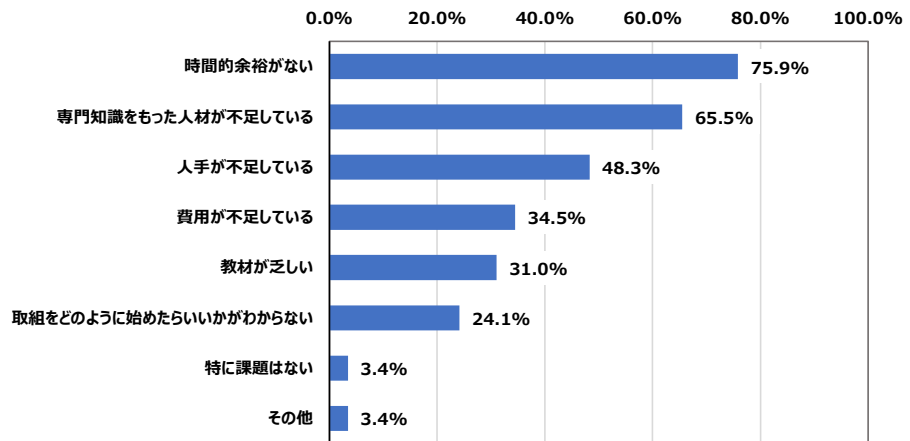


5-3 環境学習を進めるうえでの課題・必要な支援

(1)環境学習を進める上での課題

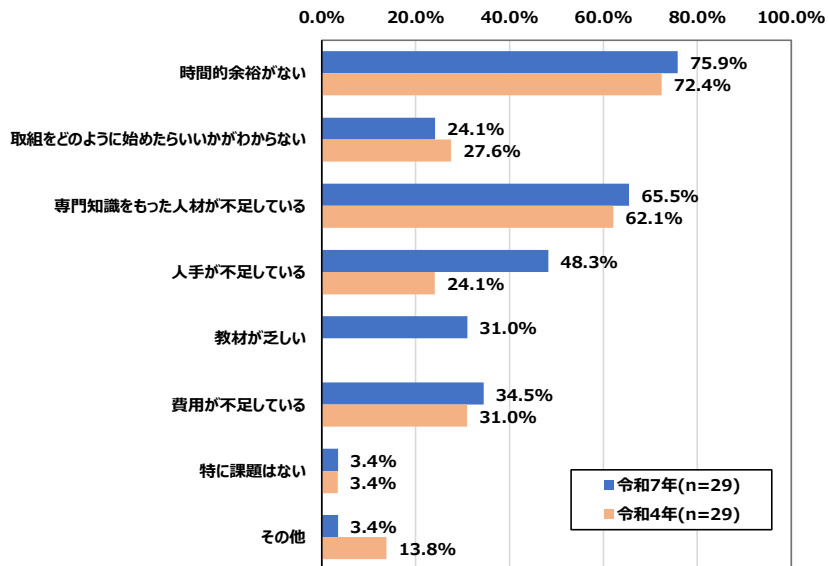
問 9 貴校（貴園）が環境学習（生物多様性を含む）を進める上で課題となっているのはどのようなことですか。

- 環境学習を進める上での課題については、「時間的余裕がない」（75.9%）が最も多く、次いで「専門知識をもった人材が不足している」（65.5%）、「人手が不足している」（48.3%）の順で多くなっています。



【前回調査との比較】

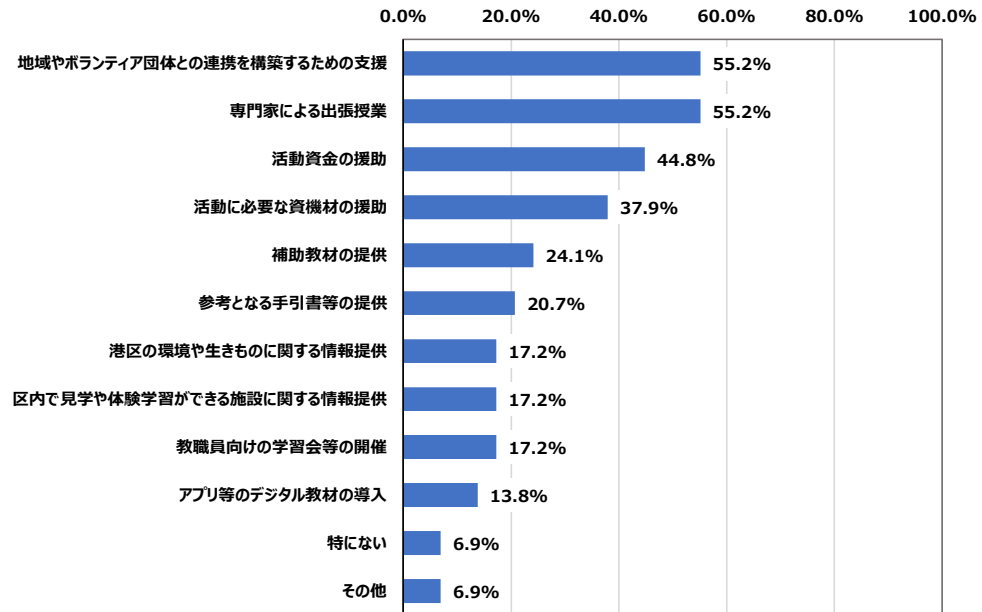
- 比較可能な項目においては、「人手が不足している」が24.2ポイントと大幅に上昇しています。一方、「取組をどのように始めたらいいかわからない」は前回調査より低下しました。



(2)必要と感じる支援策

問 10 児童・生徒の環境学習（生物多様性を含む）を効果的に推進するために、どのような支援が必要だと感じていますか。

- 必要と感じる支援については、「地域やボランティア団体との連携を構築するための支援」(55.2%)と「専門家による出張授業」(55.2%)が最も多くなっています。

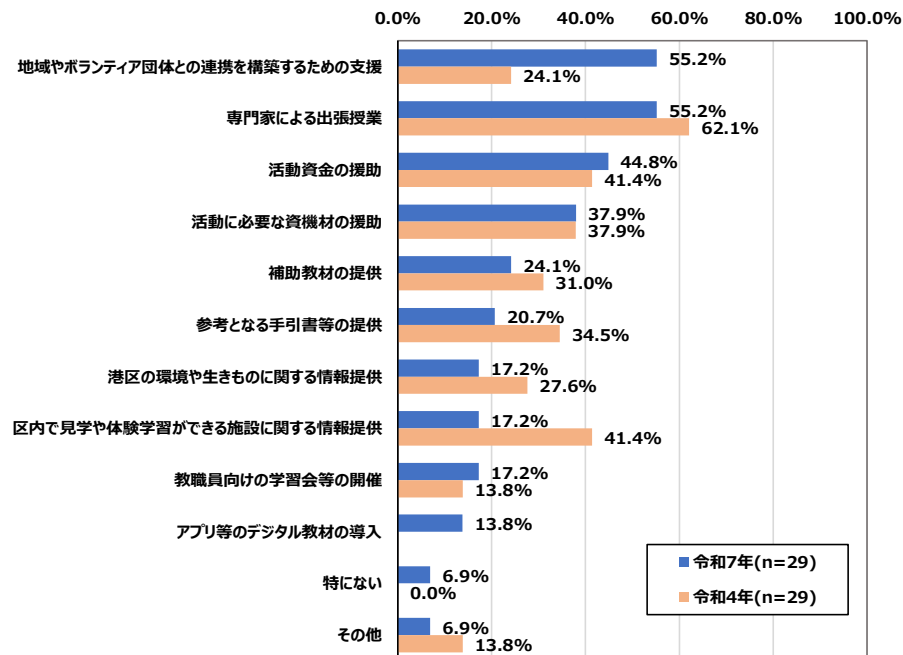


◆その他の回答

○現在学校は人手不足で余裕がありません。人を増やすことが最も重要かと思います。

【前回調査との比較】

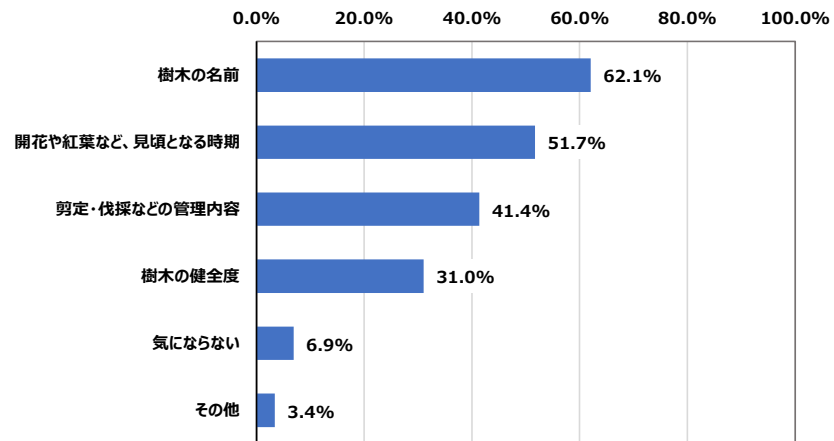
- 比較可能な項目においては、「地域やボランティア団体との連携を構築するための支援」が31.1ポイントと大幅に増加しています。このほか、「活動資金の援助」と「教職員向けの学習会等の開催」が増加しました。一方、「区内で見学や体験学習ができる施設に関する情報提供」は前回調査より24.2ポイント減少しています。



(3) 気になる樹木の情報

問 11 道路や公園に植えてある樹木について、どんな情報が気になりますか。

- 気になる樹木の情報については、「樹木の名前」(62.1%) が最も多く、次いで「開花や紅葉など、見ごろとなる時期」(51.7%)、「剪定・伐採などの管理内容」(41.4%)、「樹木の健全度」(31.0%)、の順に続いています。「気にならない」は6.9%でした。



◆その他の回答

○ゴミの投げ捨て。

6 まとめ

○区民アンケート調査

- 日常の環境に対する満足度では、「徒歩・自転車・公共交通で安全・快適に移動できる」、「資源・ごみ分別、リサイクルの徹底」、「緑が多い」で満足度が高くなっています。一方、「川や運河、海の水がきれい」は突出して満足度が低く、次いで「騒音が少ない」、「空気がきれい」で満足度が低い傾向がみられました。前回調査から比較すると、「空気がきれい」についてそう思わないとの回答が減少しており、満足度は改善しつつあることがうかがえます。
- 気候変動の影響への適応では、少なくとも聞いたことがある人が約 8 割でした。また、熱中症対策や風水害時の避難行動への備えに取り組んでいる又は取り組みたい人が 7 割から 8 割で、自らの命や住居等の安全を確保するための備えとなる必然的な取組として認識されていることがうかがえます。一方、実行したいが困難であるとの回答も一定程度あり、理由として方法がわからないからの回答が多くなっています。区が重点的に取り組むべき施策において、風水害への備えは最上位、熱中症対策は 5 位となっていることも含め、実施が困難な層を取り残さないよう、具体的な方法を継続的に発信するとともに、講習や見回りなど対面でのコミュニケーションを通じた支援なども検討していくことが考えられます。
- 温室効果ガス削減のための取組や設備機器の導入については、実行しない理由として住居形態と費用が多くあげられています。集合住宅や賃貸住宅が比較的多い港区においては、個々の住民への啓発より、管理会社や組合、住宅オーナー等への啓発や合意形成、費用面での支援が有効と考えられます。また、再生可能エネルギー電気については、利用中と予定を合わせても全体の 1/4 程度の割合であり、集合住宅の一括契約や情報不足などが利用の障壁としてあげられています。昨今の電力契約はメニューが多く、複雑で理解しにくいとの意見もあり、メニュー検討にあたってのポイントの提示や集合住宅一括契約を含めた区独自のプラン等の検討なども効果的と考えられます。
- 生物多様性については、認知率が前回調査より低下しています。自然環境の取組では、節水や庭やベランダの植栽などで実施率が低下していました。新築の住宅においては節水型機器が既に普及していたり、高層マンションではベランダの使用法の制限などもあることが、実施率低下の背景にあると推測されます。一方で、生物多様性に配慮された商品の購入や自然体験イベントへの参加の実施率や意欲は向上しており、住宅事情とは関係なく取り組めるものが求められていることがうかがえます。
- 身近な環境や環境保全活動については、生活騒音への配慮の実施率が高くなっています。一方で、地域の環境活動や環境学習への参加は年齢により実施率に差がみられました。実行しない理由は、特に理由はないが多くなっており、参加意欲を高めていくための動機付けやインセンティブなどが必要と考えられます。また、区的环境に関する事業の認知度も 5 割を超えていた項目は 14 項目中 2 項目であり、そもそも情報を知らないことも実施率が低い背景としてうかがえます。環境活動の情報の入手でも戦略的な情報発信が必要との意見もあり、Push 型、Pull 型、双方向のコミュニケーション型など事業に応じた情報の発信方法が必要と考えられます。
- 自由意見では、路上喫煙やポイ捨てなどのマナー、再開発・高層化による風や暑熱や景観悪化の懸念、騒音や悪臭の改善、日蔭の確保ややすらぎの場としての緑の増加、伝わりやすい情報発信方策への要望や情報の見える化などについて、多く意見があがっていました。

○事業者アンケート調査

- 環境配慮の位置づけは、「社会的責任の一つ」が多数であり、前回調査よりも上昇しています。また、次点で「法規制等を遵守するもの」が多くなっています。社会的な責任や法規制などにより必然的な取組として認知、定着してきていることがうかがえます。
- 環境に配慮した取組では、熱中症対策、省エネ、環境教育、廃棄物の減量化や有効利用などが高い実施率となりました。事業者の熱中症対策は、改正労働安全衛生規則により 2025 年 6 月 1 日から義務化され、検討中を含む実施率は 8 割以上となりました。省エネや廃棄物対策は、経費削減等事業運営の合理化にもつながり、実施率が高い傾向です。また、環境教育については、従業員教育の一環として定着していることがうかがえました。一方、事業形態の有無に関わらず実施可能な温室効果ガス排出量の把握・抑制については、検討中を含む実施率は 5 割程度であり、理由としてテナントとして入居しているためと不明が多くあがっています。国の GX 推進法に基づく排出量取引制度（GX-ETS）が 2026 年度から開始し、サプライチェーン全体での温室効果ガス排出量の把握の要請なども高まることから、テナント入居者に対する温室効果ガス排出量把握方法の提示やツール等の情報提供などを進めていくことが考えられます。
- 地球温暖化防止につながる設備機器については、事業形態や建物の所有状況の制約を受けにくい、LED 照明や省エネ型空調・PC などの導入率が高くなっています。導入しない理由は、テナントとして入居しているためが主であり、建物そのものの排出量低減に効果的な設備機器の導入をビルオーナー側に働きかけていくことが効果的と考えられます。
- 建物そのものの一次エネルギーの収支をゼロにする ZEB の実現状況は、今後実現するつもりであるを含めて 1 割強でした。前回調査より実現するつもりはない意向が上昇しており、費用負担の大きさが課題となっています。その有用性は認識しつつも昨今の建築費の高騰なども背景に難しい状況となっていることがうかがえます。また、約半数がわからないとの回答しており、ランニングコストにおける費用対効果など ZEB の有用性を広め、モデル物件などで可視化していくことも必要と考えられます。テナント側では、入居が困難又は入居しない理由として、情報の不足が最も多くあげられており、市場としてまだ情報が十分でない状況がうかがえます。
- 脱炭素経営については、検討中も含めて計画や方針の作成の実施率が高く、従業員規模 10 人以上の中小事業者で取組が広がっています。SBT など認定制度も比較的高いことから、戦略的に取り組むための基盤づくりが広がりつつあることがうかがえます。再エネ電力プランは、従業員規模に関わらず実施されていますが、取り組まない理由としてテナントとして入居しているの回答が 7 割近くありました。ビルオーナーの一括契約の場合は、テナント側による選択は困難であるため、好事例の共有など具体的なメリットをオーナー側に情報提供していくことが考えられます。
- 生物多様性については、従業員規模が 100 人以上において実施率が高い傾向がみられます。保全活動や寄付については社会貢献活動としての位置づけから取組が進められてきたことが考えられます。また、グローバル企業においては、EU 市場で流通する特定製品が森林破壊に関わっていないことの証明義務「欧州森林破壊防止規則（EUDR）」が 2026 年度内に適用開始見込みであるなど、材料・原料調達時の環境配慮が実質的に規制されつつある状況になっており、今後はサプライチェーン全体での生物多様性への取組が進むものと考えられます。
- 取組を進めるうえでの課題は、費用、人材、ノウハウ、情報の順で多く、従業員規模が 10 人未満では人材と情報不足が、中小企業ではノウハウが、100 人以内では費用が最も多くなっています。対する区の支援については、取組の方法や事例に関する情報発信の充実が従業員規模に関わらず上位であり、前回調査よりも割合が増加しています。気候変動、生物多様性、循環経済などの環境政策は急激な変化の時を迎えており、規制や取引の慣習などにも大きな影響を与えています。本社機能をもつ企業が多く立地する港区において、変化が目まぐるしい環境関連政策や規制等の情報をいち早く提供できる情報発信の仕組みが求められていると考えられます。

○学校【児童・生徒】アンケート調査

- 環境をよくするための行動の実施状況は、これから実行したいを含めるとごみ分別、ポイ捨てしない、省エネ・節水で9割以上と高くなっています。前回調査と比較すると、公共交通機関の利用、緑化活動への参加、環境イベントや自然観察会への参加で実施率が向上しています。前回調査時は新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限があったため、これらの行動が抑制されていたことが背景として考えられます。それ以外の項目では実施率が低下しており、また今後の実施意向も省エネ、ごみ分別、ポイ捨てしない、環境に配慮製品など日常的な取組以外について前回から低下しています。特に参加型の取組への関心が低下していることが懸念されます。
- 教えてほしい環境分野は、「地球温暖化」が突出して多くなっています。また、環境のために大切なことでは、生物多様性の保全が最も多く、生物多様性を守ることへの肯定意見は9割以上となっています。将来の望む港区の環境の姿でも、緑・自然・公園などが豊かであることが最も多くあげられ、このほか、ごみやポイ捨てなどがなくきれいなまちであることも多くあげられています。地球温暖化、生物多様性、循環社会など環境問題は相互に関係しあっていることから、地球温暖化への興味を軸に、身近な緑や自然、リサイクルなどを分野横断的に学習していくことも効果的であると考えられます。
- これまでしたことがある外遊びや自然体験については、総じて実施率が低下しており、低年齢期に新型コロナウイルス感染症による行動制限の期間が重なっていたことや衛生的な配慮への意識が高まったことも背景にあると考えられます。これからしてみたいにおいては、落ち葉や泥遊び、木登りなど身近な植物などと日常的に接触する遊びに対する興味は低下している一方、鳥の観察や動物とのふれあい、魚釣りなどへの興味は高まっており、自然と触れ合う機会がイベントや特別なものへと変化していることがうかがえます。

○学校【教員】アンケート調査

- 児童・生徒が関心を持っている環境分野は、「地球温暖化・気候変動」と「食品ロス」が多くなっており、特に食品ロスは前回より関心度が上昇しています。
- 生物多様性や外来種の認知度、教育の重要性は前回調査よりも向上し、総じて高い結果となっています。生物多様性教育の取組状況は、ビオトープの造成・管理の実施率が96.6%となりました。今後取り組みたい内容として、生物多様性や環境をテーマとした教材の利用や研究が前回調査より向上しています。ビオトープの管理にあっても、生物多様性への配慮を行っている学校が5割以上に上昇しました。生物多様性教育への重要性への認識が高まり、学校においてビオトープの活用や管理での生物多様性への配慮など基盤整備が進んでいることから、生物多様性教育の深化に向けたプログラムへの期待が高まっていることがうかがえます。
- 環境学習を進めるうえでの課題は、時間がない、専門人材や人手不足が多くあげられています。対する必要な支援として、時間・人・専門知識を補完することができる、地域やボランティア団体との連携や専門家による出張など、学校外の人材や団体との連携に関するものが上位となっています。意欲・基盤ともに整いつつあることから、地域・企業・大学などとの連携スキームや教材を含めた授業プログラムの整備などが求められていると考えられます。

巻末資料

アンケート調査票

